

高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和7年度—

令和8年3月

高槻市・関西大学総合情報学部

はじめに

本報告書は、高槻市と関西大学が共同で、高槻市民を対象に実施した令和7年度市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」の成果を取りまとめたものです。この調査は、関西大学総合情報学部で開講している「社会調査実習」(2025年度)の授業の一環として行われているもので、当授業の受講生が、調査票の設計からデータの入力作業まで、実施全体に大きく関わっています。たとえば、春学期には、受講生各自の関心から調査テーマを設定した上で調査票の設計を行います。そして、秋学期には、調査票のデータ入力と分析、最終報告書の執筆を行うことで、社会調査の実施に必要となる一連の過程を経験します。

このような背景から、例年、この調査では、大学生らしい自由な発想の調査テーマが選ばれる特長があります。今年度も、生活満足度、音楽聴取、地域のつながり、地域ブランド、歴史遺産、地元への愛着など、若者にとって身近なものから、地域や社会の問題に関わるものまで、多様で独創的なテーマが並びました。これらの調査結果は、単に一つの地域の市民調査という枠を超えて、学術的にもさまざまな知見を提供するものだとはいえるでしょう。

本調査は今回で15回目となり、回収率は53.2%でした。過去は回収率が60%前後を推移することが多かったものの、前回の56.5%に続いて、今回も回収率の低下傾向が確認されました。今後はその要因を検討し、再び6割前後の回収率を確保する方策を検討していく必要があります。とはいえ、それでも5割を超える回収率を達成できたのは、関係各位の皆さまのご協力があったからこそ、成しえたことです。まず、関西大学総合情報学部の松本渉先生には、調査の準備から報告書の取りまとめまでのすべての段階で、毎回、的確で丁寧なご助言をいただきました。本調査を無事終えることができたのは松本先生にご尽力いただいたおかげです。また、ティーチング・アシスタントの雷新雨さん、スチューデント・アシスタントの数岡美咲さんには、これまでの社会調査の経験やスキルを活かして、受講生に寄り添った立場から様々なサポートをしていただきました。

この「社会調査実習」の授業では、大規模な郵送調査を実施する都合上、時間的制約のなかで、社会調査の一連の過程を一つずつ進めていく必要があります。受講生の皆さんには、調査テーマの設定、データ入力作業、データ分析と報告書執筆などすべての段階で、熱心に粘り強く、調査や作業に取り組んでもらいました。今年度の受講者は6名と少人数でしたが、その分、雰囲気は良好で、毎回、活発なディスカッションが行われました。一方で、少人数によるデータ入力作業は時間を要し、1年間で調査を実施し、報告書を完成させることは大変だったと思います。この報告書は、こうした受講生一人ひとりの努力の積み重ねによって完成した成果ともいえます。

最後に、本調査の実施にあたり、高槻市市民生活環境部市民生活相談課の皆さま、関西大学総合情報学部オフィスの皆さまに多大なご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。そして何より、本調査にご協力いただきました高槻市民の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2026年3月

関西大学総合情報学部教授 阪口 祐介

目次

はじめに		i
第1章 調査の概要	阪口祐介・松本渉	1
第2章 調査結果の概要	雷 新雨	8
資料		127
予告はがき		129
調査票		131

第1章 調査の概要

阪口 祐介・松本 渉

1. 調査の概要とスケジュール

高槻市と関西大学による市民意識調査「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」は、2025(令和7)年8月から9月にかけて、高槻市と関西大学総合情報学部によって行われた。社会調査実習の一環として、春学期には調査票の作成が、夏休みには調査票発送作業が、秋学期にはデータ入力、データ作成、分析等が行われた(表1)。

表1 高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査スケジュール

	日付	授業内	授業外
春学期	4/10	「社会調査実習」前期授業開講	高槻市と関西大学の
	4/17~7/10	調査票の作成	打ち合わせ(随時)
夏休み	7/31		サンプリング
	7/15~7/31		調査票印刷
	8/5	調査票発送準備作業	
	8/25		予告はがき発送
	8/27		調査票発送
	9/12		返送締切日
秋学期	9/25	「社会調査実習」秋学期授業開講	
	9/25~11/13	データの入力・読み合わせ	
	11/14~12/5		データクリーニング
	11/20~12/4	分析方法の習得	
	12/11~1/15	中間レポートの提出・報告	速報版報告書執筆
	1/15	最終授業(最終レポートの提出)	報告書執筆
	1/15~2/28		報告書編集

2. サンプリング

調査対象者： 18 歳以上 85 歳未満の高槻市民(1940 年 8 月 1 日～2007 年 7 月 31 日出生)

抽出名簿： 住民基本台帳 (2025(令和 7)年 7 月 31 日現在)

標本抽出法：層化抽出法

(具体的な手順)

1. 2025(令和 7)年 6 月末現在の人口に基づいて、性別と年齢によって作成された 12 の層の人口を算出する。次に、その人口の比率に従って、計画標本 2,000 を各層に割り当てる(表 2)。

表 2 層化の基準日の人口構成と計画標本の割り当て

	令和 7 年 6 月末現在の人口			計画標本の割り当て		
	男	女	男女計	男	女	男女計
18・19 歳	3,398	3,208	6,606	25	23	48
20 代	16,462	16,983	33,445	119	124	243
30 代	17,232	17,418	34,650	125	127	252
40 代	21,854	22,433	44,287	159	162	321
50 代	27,165	27,853	55,018	197	202	399
60 代	17,881	19,441	37,322	130	141	271
70 代以上	27,399	36,806	64,205	199	267	466
合計	131,391	144,142	275,533	954	1,046	2,000

2. 各層で割り当てられた人数を系統的に無作為抽出する。

3. 調査実施上の工夫

この調査では、調査および回収を円滑に実施するために、過年度と同様の工夫を行っている。

予告はがきの送付

調査票が届き次第、スムーズに回答できるように調査票発送の 2 日前に予告はがきを送付した。このように事前に調査の実施を通知することで、調査対象者は心の準備をすることができ、また調査に対する期待感を高められると考えたからである。なお、見やすくシンプルな文面とするため、ご挨拶以外にはがきに掲載した情報は最低限(「近日中に大きな茶封筒(ボールペン入り)が届くこと」「対象者が無作為で選ばれたこと」の 2 点)にとどめた。今回は 8 月 25 日(月)に予告はがきを送付した。

調査票送付日

調査票の送付は、大学の窓口の盆休み終了後、最初の水曜日である 2025(令和 7)年 8 月 27 日(水)に行った。勤め人の夏休みを避けた上で、金曜日頃に調査票を受け取れるようにするためである。なお、2022 年度までは、調査票の送付は木曜日であったが、2023 年度から水曜日に変更している。2021 年 10 月より土曜日の郵便配達休止されたことで、以前は土曜日に届いていた配達が月曜日になったため、週末に調査票が届くように 1 日発送を早くした。

同封物

筆記具を探す必要がないようにという配慮から、箱入りボールペンを同封した。また、箱を同封することで封筒の形状を目立たせ、ほかの郵便物に紛れなくなるという効果もある。2025 年度は、これまでの無地箱が廃盤となったため、同じサイズの熨斗箱(関西大学と印刷)に変更した。なお事前にも事後にも金銭的な謝礼は一切行っていない。

調査票の用紙

目立つように、鶯色(なお前年は水色)の紙を使用した。また、やや重くなるが、裏面が透けて読みにくくならないように厚手の紙を利用した。

調査票における挨拶文

すぐに質問文が目に入るようにするため、挨拶文は 1 ページの上段のみにとどめた。その主な内容は、①調査目的以外に一切利用しないこと、②結果の公表を約束すること、③住所や名前を記入しないことをお願いすることの 3 点である。それぞれ、①安心感の付与、②社会還元の明示、③匿名性の担保を示している。

調査票の構成デザイン

二段組にすることによってスペースを有効に利用し、A4 サイズ 8 ページ(両面)の範囲に収まる調査票とした。文字フォントは、質問文を太字の MS ゴシック、選択肢を MS 明朝としてメリハリをつけた。

封筒

調査票送付用封筒については、A4 サイズの調査票を折り曲げずに済むように、角 2 サイズの糊付封筒を利用した。

一方、返信用の封筒については、ハイシール加工済みの角 2 サイズの封筒を利用した。調査対象者が、回答票を封入して返送しやすくするためである。

催促状(なし)

催促状の送付は行っていない。

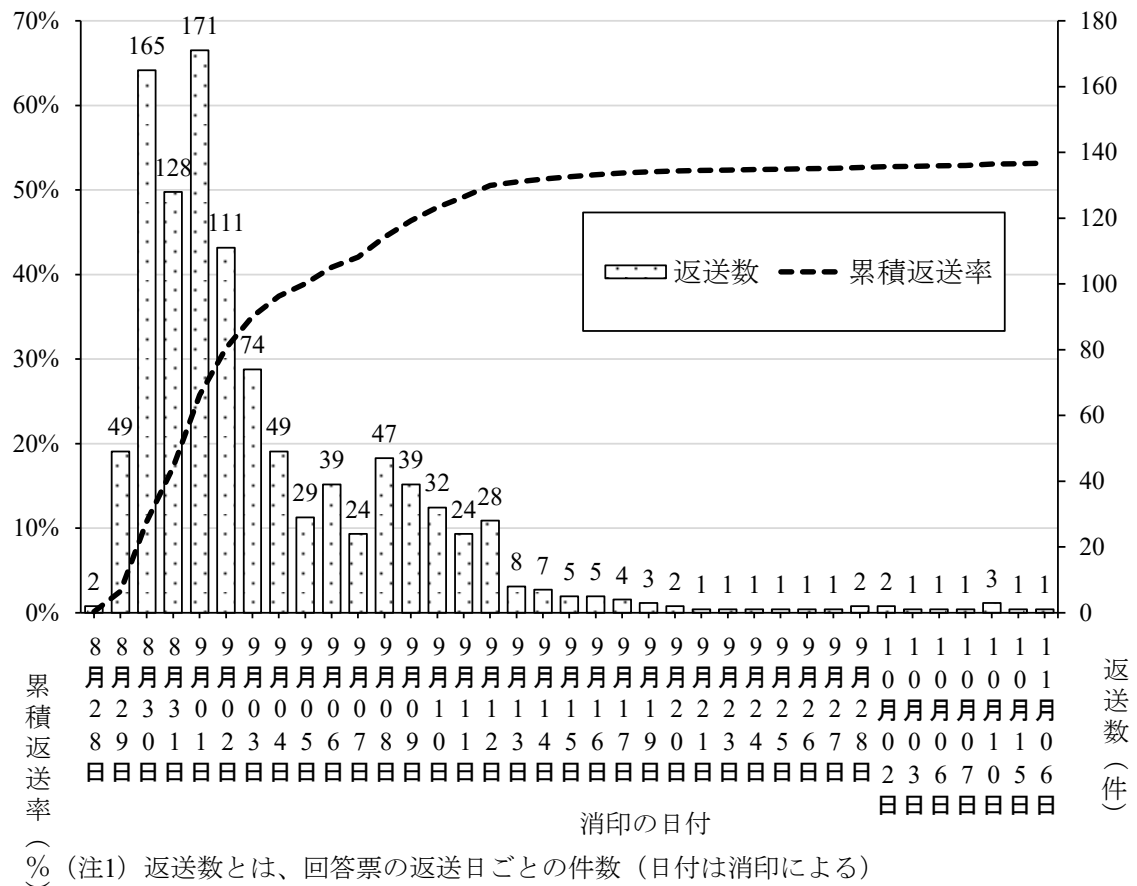
4. 調査票の回収状況

4.1. 返送状況

調査票の返送状況について述べる。図 1 は、消印の日付から調査票の返送状況の経過を示したものである。

最も早い消印は翌 8 月 28 日(金)である。返送日の山が二つみられる。第 1 の山は、返送数 165 となった 8 月 30 日(土)であり、調査票受取直後の記入・返送のピークといえる。第 2 の山は、最大の返送数 171 となった 9 月 1 日(月)である。調査票受領後におとずれた土日を利用した記入・返送のピークといえる。これに続く山は、返送数 39 であった 9 月 6 日(土)から返送数 39 であった 9 月 9 日(火)までの期間であり、調査票受取直後の時期に生じる 2 つのピークの後に、平坦な山が続く返送のパターンはおおむね例年の調査と同様といえる。

累積返送率については、調査票の返送受け取り期間の前半で返送率が 50%台に達している。累積返送率のグラフ(図 1)が示しているように、回収期間後半に入ってもなだらかに上昇を続け、受け取り締切日頃には返送率が 53%を推移する結果になった。



4.2. 回収率と調査不能の内訳

郵送調査の特質上、締切日の9月12日(金)以降も調査票の返送が続いた。そのためしばらくの間返送を受け付け、11月10日(月)で打ち切った。返送されてきた調査票総数は1,068件であり、無効調査票は5であった。最終的に有効な回答票数を1,063件、回収率を53.2%とした。調査不能の内訳も含めた調査の状況は表3の通りである。

表3 回収率と調査不能の内訳

		件数	(%)
1. 調査不能	尋ね当たらず等	5	(0.3%)
	未返送	927	(46.4%)
	無効調査票	5	(0.3%)
	計	937	(46.9%)
2. 有効回答票		1,063	(53.2%)
3. 計画標本サイズ(合計)		2,000	100.0%

4.3. 回収率の詳細

男女別の回収率については、男性44.1%、女性59.2%となり、女性の方が15%ほど高い(表4)。年齢層別の回収率では、70代以上で70.4%、60代で61.6%と高く、年齢が下がるにつれて回収率が低下し、20代で26.8%、18・19歳で25.0%まで低下する(表5)。社会調査において、男性よりも女性において、若年層よりも高年齢層において回収率が高くなることは一般的な傾向である。

表4 男女別の回収率

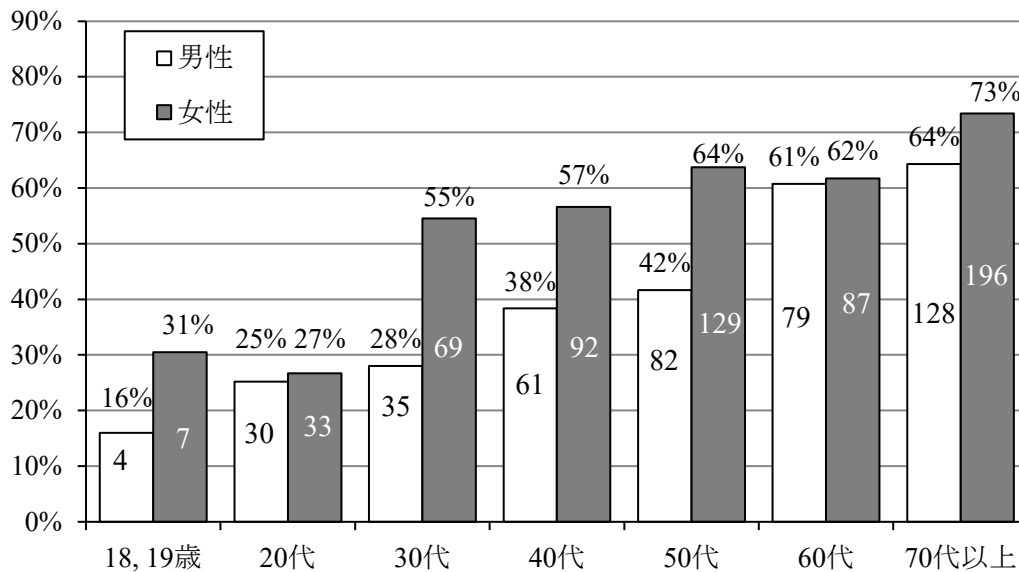
	男性	女性	不明	合計
回収標本	421	619	23	1,063
計画標本	954	1046	—	2,000
回収率 (%)	44.1%	59.2%	—	53.2%

(注) 男女別の回収率の計算には、不明分23が含まれていない。

表5 年齢層別の回収率

	18, 19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	合計
回収標本	12	65	105	153	212	167	328	21	1,063
計画標本	48	243	252	321	399	271	466	—	2,000
回収率 (%)	25.0%	26.8%	41.7%	47.6%	53.1%	61.6%	70.4%	—	53.2%

(注) 年齢別の回収率の計算には、不明分21が含まれていない。



(注1) 棒グラフの高さおよび上側の数字は、回収率をあらわしている。
(注2) 棒グラフの内側の数字は、各層における実際の回収数である。

図2 男女・年齢層別の回収率

5. 回収標本の特徴

前述した男女別・年齢層別の回収率の違いにより、回収標本が母集団からある程度ずれている可能性があるため、その確認を行った。

表6は、母集団における男女・年齢別の人口分布と回収標本における男女・年齢別の人口分布を比較したものである。適合度検定*から、男女・年齢別の人口分布について、回収標本が母集団と乖離していることが統計学的に示されている。とりわけ、20代から50代の男性といった回収率の低い層では母集団よりも過小な人口割合である一方で、70代以上の男性、30代以上の女性といった回収率の高い層では母集団より過大な人口割合である。

高槻市の統計では、世帯人数別の人口分布もわかるので、この点についても回収標本と母集団との間の人口分布の比較を行った(表7)。その結果、この比較においても適合度検定*から両者が乖離していることが統計学的に示された。一人暮らしの多い20代、30代の回収率の低さがここにも影響したと考えられる。

*適合度検定

観測したデータの分布が、理論上の分布にあてはまっているかどうかを調べる統計学的手法。表6と表7では、2025(令和7)年6月末時点での高槻市全体の人口の分布を理論上の分布としている。なお、表6と表7の注釈にある統計量 χ^2 は適合度基準と呼ばれる値で、この値が0の場合二つの分布は同一であり、値が大きいほど乖離していることを示している。 df は、自由度と呼ばれる値(表6と表7では、「性別と年齢」「世帯人員数」の各カテゴリ数から1を引いた数に相当)である。 p は、二つの分布が同一の分布である確率を表しており、統計量 χ^2 と自由度 df から計算されている。

表 6 男女・年齢別の人口分布の比較

性別	年齢	回収標本	%	R7年6月末 人口	%
男性	18, 19歳	4	0.4%	3,398	1.2%
男性	20代	30	2.9%	16,462	6.0%
男性	30代	35	3.4%	17,232	6.3%
男性	40代	61	5.9%	21,854	7.9%
男性	50代	82	7.9%	27,165	9.9%
男性	60代	79	7.7%	17,881	6.5%
男性	70～84歳	128	12.4%	27,399	9.9%
女性	18, 19歳	7	0.7%	3,208	1.2%
女性	20代	33	3.2%	16,983	6.2%
女性	30代	69	6.7%	17,418	6.3%
女性	40代	92	8.9%	22,433	8.1%
女性	50代	129	12.5%	27,853	10.1%
女性	60代	87	8.4%	19,441	7.1%
女性	70～84歳	196	19.0%	36,806	13.4%
合計		1,032	100.0%	275,533	100%

(注1) 表左側の回収標本には、性別または年齢の不明分31件が含まれていない。

(注2) 表右側のR7年6月末人口は、高槻市全体の人口である

(<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/soshiki/11/33243.html>) 参照

(適合度検定) $\chi^2=104.2629$, $df=13$, $p<0.0001$

表 7 世帯人員別世帯数分布の比較

世帯人員数	回収標本	%	R7年6月末 世帯人員数別人口	
			人口	%
1人	141	13.3%	70,173	20.4%
2人	361	34.0%	93,778	27.2%
3人	240	22.6%	74,460	21.6%
4人	182	17.1%	77,008	22.3%
5人	63	5.9%	23,940	6.9%
6人	16	1.5%	4,008	1.2%
7人	8	0.8%	1,022	0.3%
8人	1	0.1%	152	0.0%
9人	1	0.1%	90	0.0%
10人	0	0.0%	50	0.0%
11人以上	0	0.0%	22	0.0%
無回答	50	4.7%	—	—
合計	1,063	100.0%	344,703	100.0%

(注1) 表右側の世帯人数別人口は母集団の分布であり、高槻市の人口

(<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/soshiki/11/33243.html>) から算出した。ただし、回収標本が18～84歳で構成されているのに対し、表右側の世帯人数別人口には未成年および85歳以上も含まれている。

(適合度検定) $\chi^2=70.3536$, $df=10$, $p<0.0001$

第2章 調査結果の概要

雷 新雨

1. 調査対象者の属性

調査票の質問順とは異なるが、はじめに本調査における回答者の属性を確認する。ただし、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。回答者の性別は男性が421人で女性が619人であり女性の方が多（図1）。年齢は70代が約3割と多く、18歳、19歳と20代は1割未満と少ない（図2）。男女別に年齢を確認してもほぼ同様の傾向が見られる（図3）。

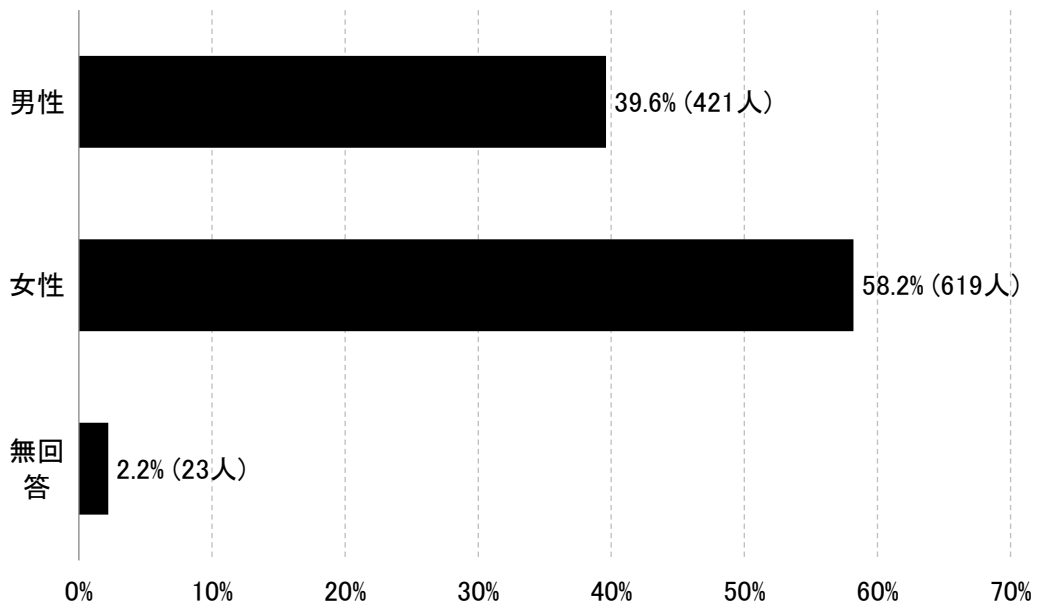


図1 Q47 性別

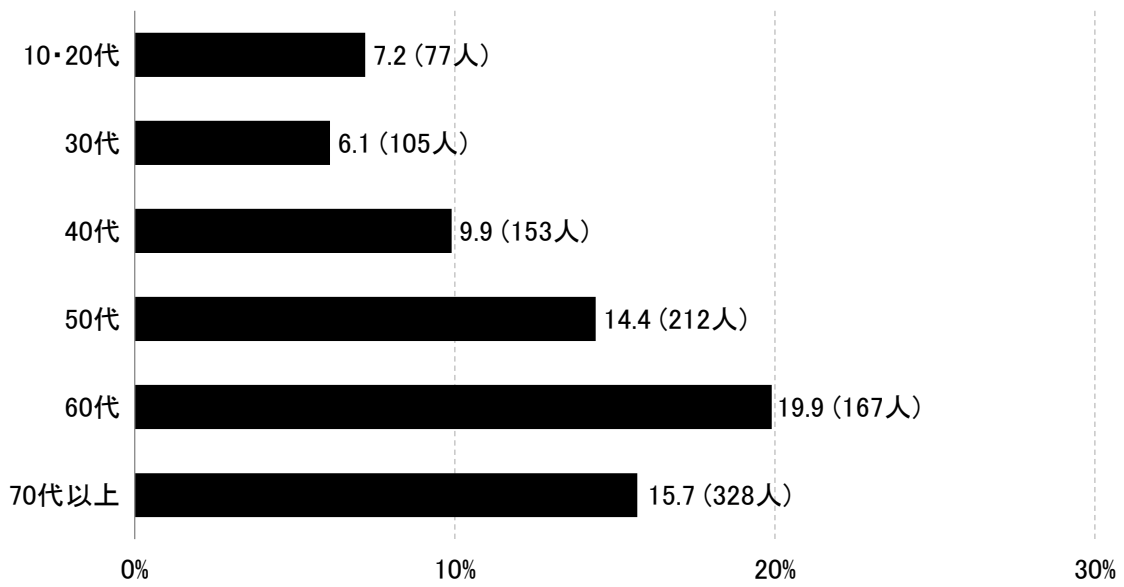


図 2 Q48 年齢

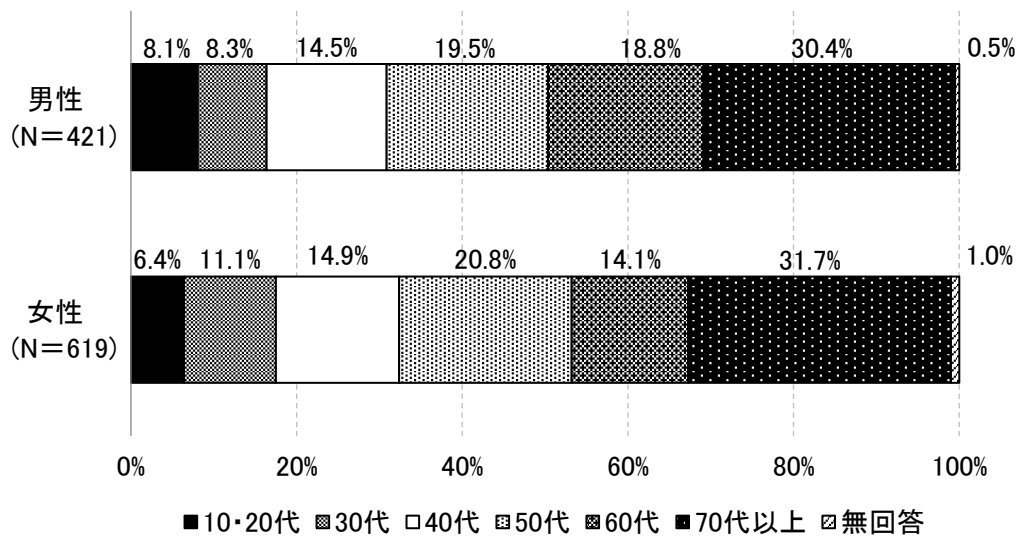


図 3 性別×年齢

以降、基本的にはすべての質問項目に関して性別・年齢とのクロス集計を提示する。ただし、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。なお、本調査の全回答者数は1,063人である。性別・年齢の内訳については図1と図2を参照のこと。また、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧については本章の最後を参照のこと。

職業は、合計を見ると常時雇用者が30.6%と最も多く、次いで無職が多い。男女別で見ると、男性は常時雇用者が43.9%と最も多く、女性は臨時雇用、パート、アルバイトが24.1%と最も多い。年代別で見ると、60代・70代以上で常時雇用者の割合が大きく減少し、無職が大きく増加している。臨時雇用、パート、アルバイトと回答した人は、50代から60代が2割以上となっている(表1)。

表1 Q49 職業

		(%)									
		常時雇用 の勤め人	臨時雇用、 パート、 アルバイト	自営業主	自営業の 家族従業 者	経営者、 役員	家事専業	学生	無職	その他	無回答
男女別	合計 (N=1063)	30.6	17.7	3.5	1.5	2.4	12.8	2.5	24.1	1.1	3.9
	男性 (N=421)	43.9	9.3	5.9	0.5	3.8	0.0	3.8	30.2	1.0	1.7
	女性 (N=619)	21.8	24.1	1.9	2.3	1.5	21.6	1.8	20.5	1.1	3.4
年代別	10・20代 (N=77)	42.9	7.8	0.0	0.0	0.0	2.6	33.8	9.1	1.3	2.6
	30代 (N=105)	55.2	15.2	3.8	2.9	2.9	14.3	1.0	1.9	1.9	1.0
	40代 (N=153)	57.5	19.6	2.6	0.7	2.0	9.2	0.0	3.3	2.0	3.3
	50代 (N=212)	44.3	29.7	3.3	1.4	3.8	9.4	0.0	5.2	0.9	1.9
	60代 (N=167)	22.8	27.5	4.8	2.4	4.2	13.2	0.0	22.2	1.2	1.8
	70代以上 (N=328)	2.4	7.6	4.3	1.5	1.2	19.2	0.0	59.1	0.6	4.0

最終学歴は、男女別で見ると、男性が「大学（旧高専）・大学院」が48.0%と最も多いのに対し、女性が25.5%と男性よりも少ない。女性で最も多いのは「高校（または旧制中学など）」であり、32.1%である。また、「短大・高専（5年制）」は男性が3.3%と最も少ないのに対して、女性が19.5%と「高校（または旧制中学など）」や「大学（旧高専）・大学院」に次いで3番目の多さである。年代別で見ると、10・20代が「大学（旧高専）・大学院」が59.7%であるが、年代が上がるごとに減少傾向にあり、70代以上が17.4%である。反対に、10・20代は「高校（または旧制中学など）」が16.9%であるが、年代が上がるごとに増加し、70代以上が51.5%となっている（図4）。

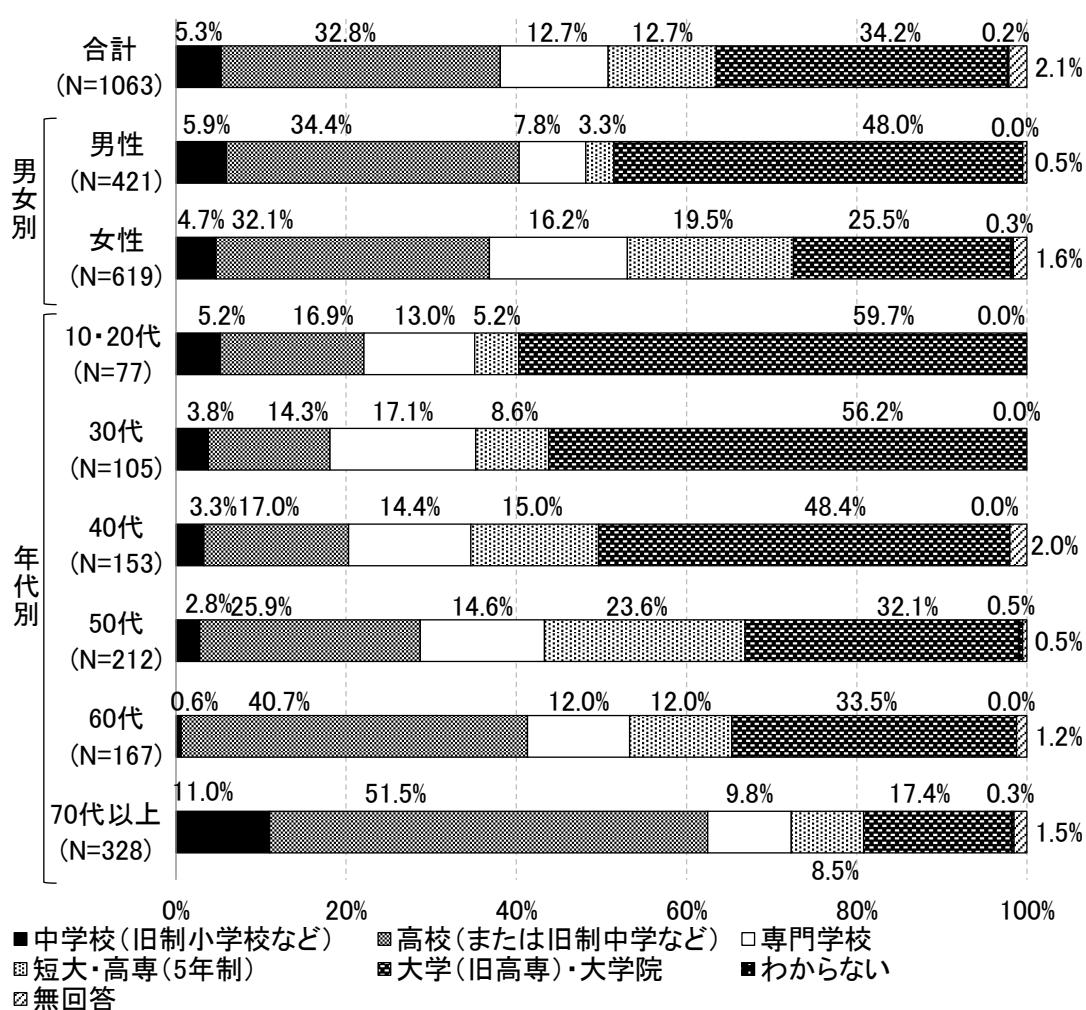


図4 Q50 最終学歴

居住地域については昨年のおり、単純集計のみを提示する。ここでの地区とは小学校の校区を参考としている。各地区と該当小学校区は、檜田地区（檜田小学校）、高槻北地区（芥川・真上・磐手・奥坂・清水・北清水・安岡寺・日吉台・北日吉台小学校）、高槻南地区（高槻・桃園・大冠・北大冠・松原・桜台・竹の内・西大冠・若松・南大冠・冠小学校）、五領地区（五領・上牧小学校）、高槻西地区（郡家・赤大路・阿武野・南平台・川西・土室・阿武山小学校）、如是・富田地区（芝生・丸橋・寿栄・富田・柳川・玉川・如是・津之江・五百住小学校）、三箇牧地区（三箇牧・柱本小学校）である（図 5）。

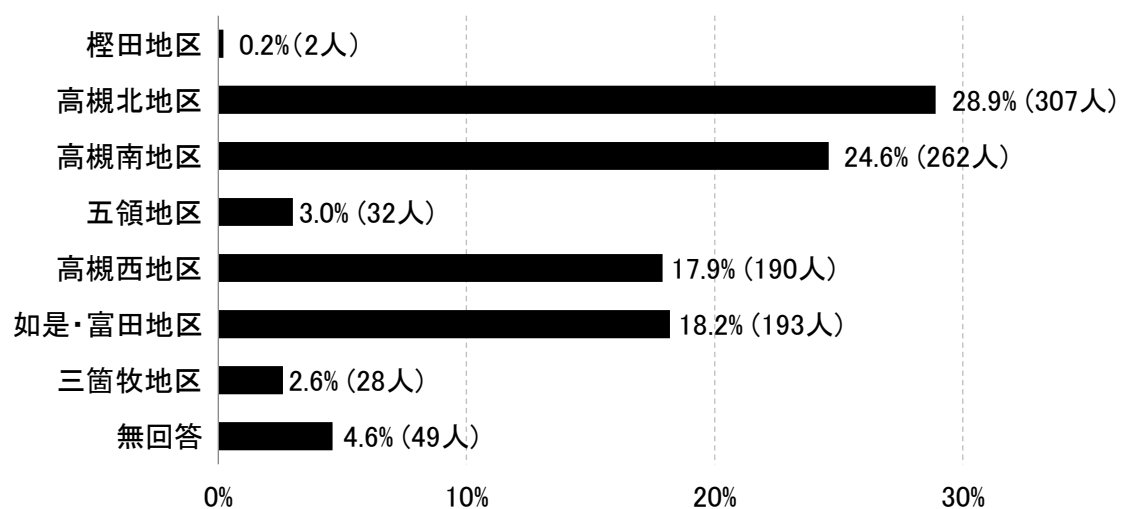


図 5 Q51 居住地域

高槻市内での居住年数に関して、全体の8割以上が10年以上市内に居住していることがわかる。年代別で見ると、10・20代が「20年以上30年未満」が53.2%と最も多く、子どもころから市内に居住していることがわかる。70代以上が「50年以上」が43.3%と最も多い。なお、大きな男女差は見られない(表2)。

表2 Q52 市内居住年数

		(%)									
		1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上 50年未満	50年以上	無回答
男女別	合計 (N=1063)	2.0	2.9	1.2	6.5	11.9	17.3	16.3	17.9	22.8	1.3
	男性 (N=421)	2.1	3.1	1.2	5.2	11.9	18.1	16.2	17.1	24.5	0.7
	女性 (N=619)	1.5	2.9	1.1	7.4	12.3	17.0	16.6	19.1	21.5	0.6
年代別	10・20代 (N=77)	5.2	10.4	2.6	6.5	19.5	53.2	0.0	0.0	2.6	0.0
	30代 (N=105)	5.7	9.5	4.8	28.6	10.5	16.2	23.8	0.0	0.0	1.0
	40代 (N=153)	2.0	2.0	2.6	10.5	26.1	11.8	11.8	32.0	0.0	1.3
	50代 (N=212)	1.4	2.8	0.0	4.2	15.1	26.9	13.7	9.9	25.9	0.0
	60代 (N=167)	1.8	1.2	0.0	2.4	7.2	12.6	31.1	18.0	25.1	0.6
	70代以上 (N=328)	0.6	0.6	0.3	1.5	4.6	7.6	14.3	27.1	43.3	0.0

市民の住居は、男女別・年代別のすべての層で「一戸建て」の方が「集合住宅（アパート・マンションなど）」よりも高い割合である。（図 6）。

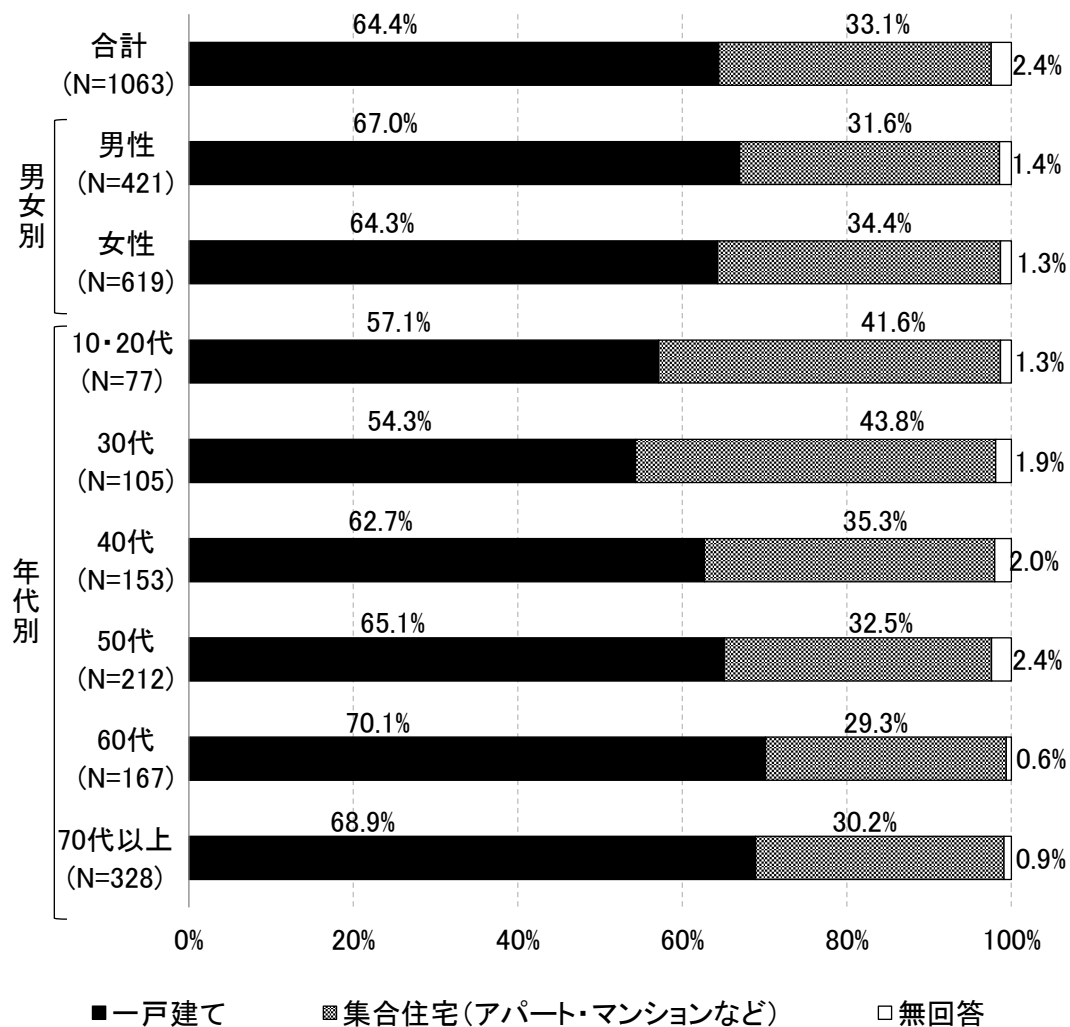


図 6 Q53 住居

居住形態は、男女別・年代別のすべての層で「持ち家」が6割以上と最も高い割合である。40代以上は7割以上が「持ち家」である。「民間の賃貸住宅」では、30代が29.5%と一定割合いるが、年代が上がるにつれて減少傾向にあり、70代以上で8.5%になる。「公社・公団等の公営の賃貸住宅」の割合は、70代以上が8.5%と最も高く、次いで50代の5.2%である（図7）。

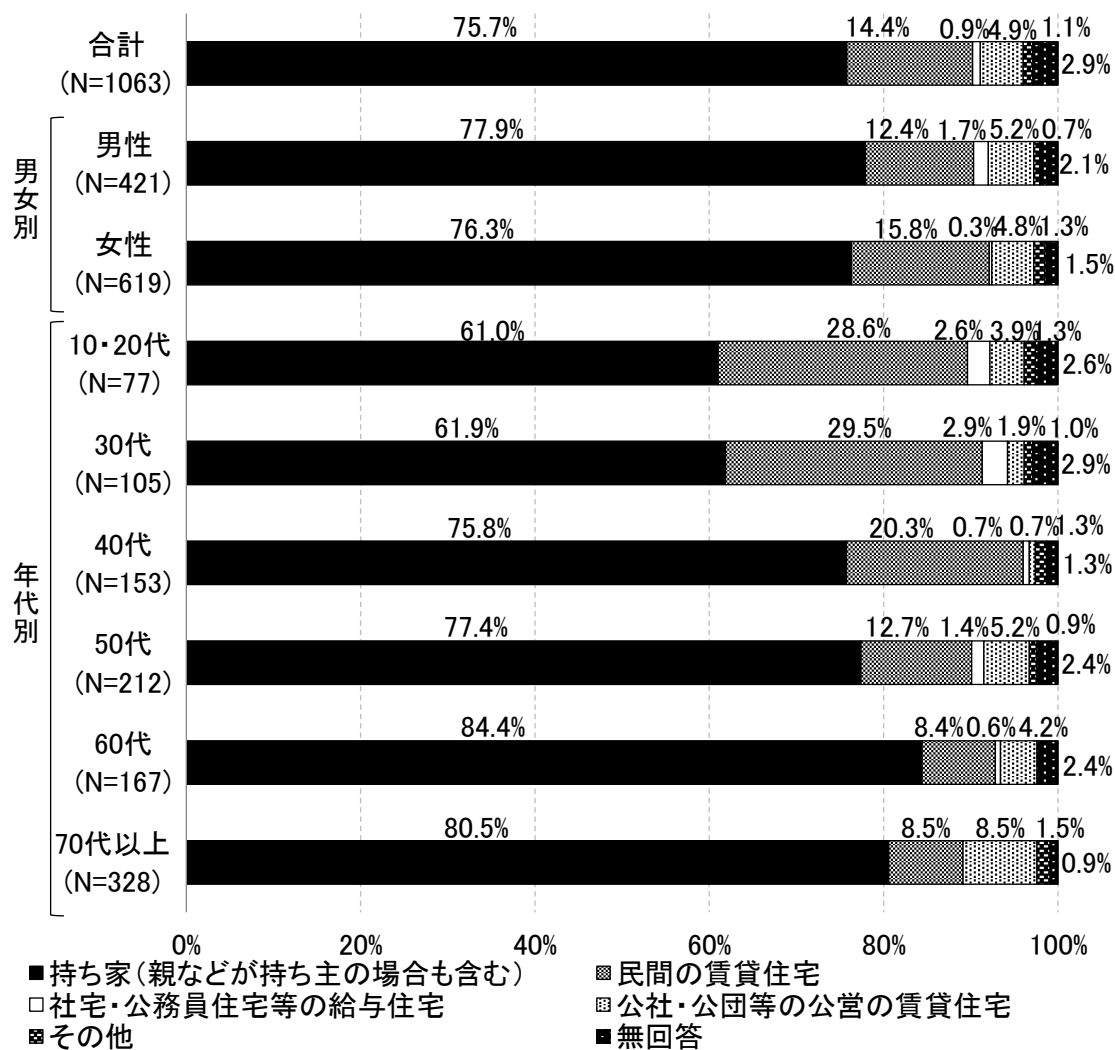


図7 Q54 居住形態

婚姻状況に関して、男女別・年代別の30代以上の層で、「既婚（配偶者あり）」が最も高い割合を占める。10・20代は「未婚」の割合が8割以上である。男女別で見ると、「既婚（離別・死別）」の割合は、男性で10.0%、女性で17.9%と、女性の方が7.9ポイント高い（図8）。

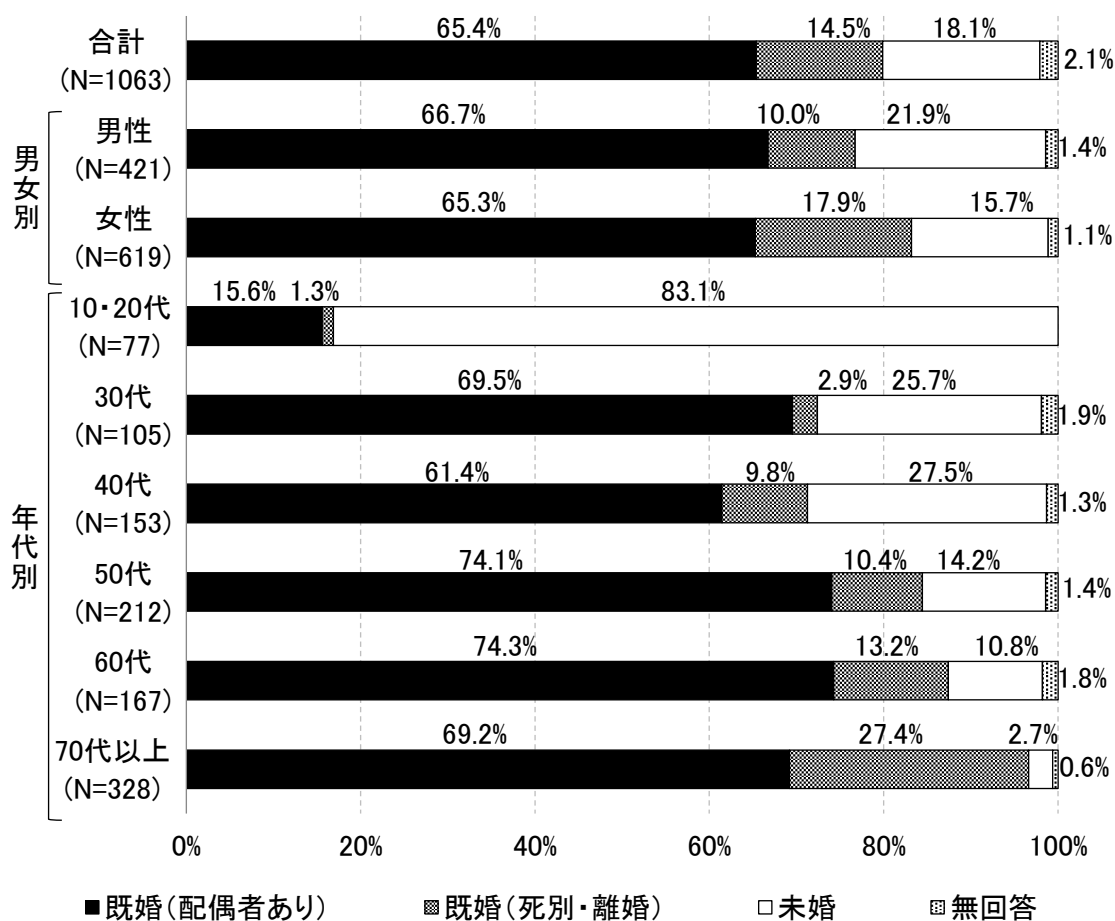


図8 Q55 婚姻状況

子どもの有無に関して、男女別の各層・年代別の30代以上の層で、「いる」と回答した人の割合が「いない」と回答した人の割合より高い。10・20代は「いない」割合が8割以上である。なお、「いる」と回答した人の割合は、女性の方が男性よりも7.3ポイント高い(図9)。

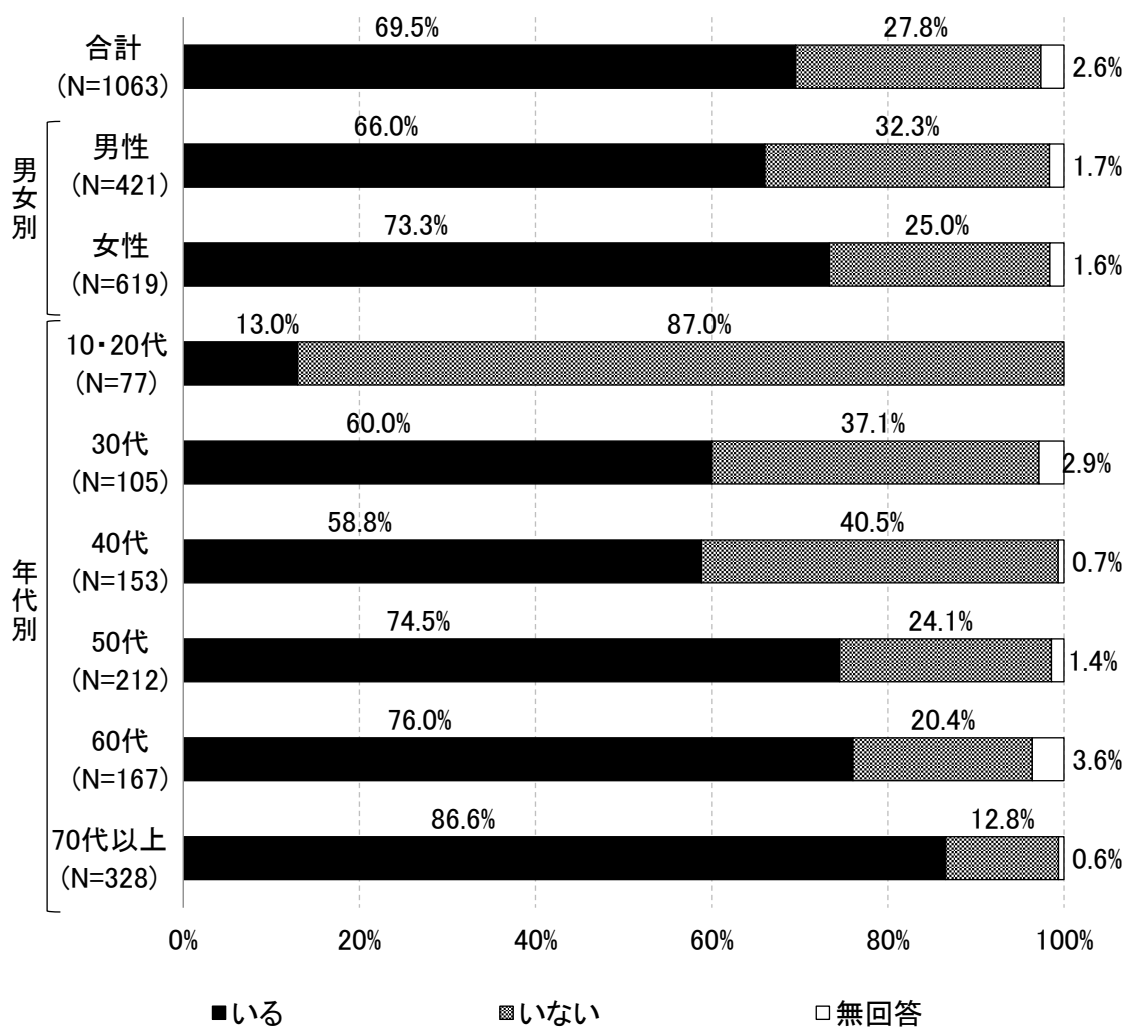


図9 Q56 子どもの有無

世帯人数に関して、2～3人世帯で5割以上を占める。年代別で見ると、10・20代、30代は3人世帯が最も多い。一方で40代と50代は4人世帯が最も多い。また、70代以上は2人世帯が5割以上を占めている（表3）。

表3 Q57 世帯人数

											(%)
		1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	無回答
男女別	合計 (N=1063)	13.3	34.0	22.6	17.1	5.9	1.5	0.8	0.1	0.1	4.7
	男性 (N=421)	15.4	34.9	22.1	18.3	4.5	1.4	0.5	0.0	0.0	2.9
	女性 (N=619)	12.1	33.6	23.6	16.5	7.1	1.6	0.8	0.2	0.2	4.4
年代別	10・20代 (N=77)	13.0	10.4	33.8	26.0	9.1	1.3	3.9	0.0	0.0	2.6
	30代 (N=105)	6.7	18.1	34.3	25.7	9.5	1.9	0.0	0.0	0.0	3.8
	40代 (N=153)	13.1	22.9	19.6	25.5	11.1	2.0	1.3	0.0	0.0	4.6
	50代 (N=212)	11.8	19.3	22.2	31.1	9.4	2.8	0.0	0.0	0.0	3.3
	60代 (N=167)	16.8	43.1	25.1	7.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	4.2
	70代以上 (N=328)	15.2	56.1	17.7	4.6	2.4	0.9	0.6	0.0	0.0	2.4

世帯年収は、合計および男性・女性が「200～400万円未満」が最も多い。年代別で見ると、「わからない」を除いて割合が最も高いのは、10・20代が「400万円～600万円未満」、30代～40代が「800万円～1000万円未満」と、年代が上がるごとに年収が高額になっている。ただし、60代と70代以上は「200万円～400万円未満」の割合が最も高い（表4）。

表4 Q58 世帯年収

										(%)	
		100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～400万円未満	400万円～600万円未満	600万円～800万円未満	800万円～1000万円未満	1000万円～1500万円未満	1500万円以上	わからない	無回答
男女別	合計 (N=1063)	5.3	8.9	22.2	11.8	11.2	10.5	6.8	3.9	8.6	10.9
	男性 (N=421)	5.0	6.7	27.6	10.5	12.4	14.3	8.6	3.1	6.2	5.9
	女性 (N=619)	5.3	10.7	19.2	13.1	10.7	8.4	5.8	4.5	10.2	12.1
年代別	10・20代 (N=77)	10.4	2.6	10.4	14.3	9.1	7.8	5.2	2.6	35.1	2.6
	30代 (N=105)	4.8	4.8	10.5	13.3	15.2	16.2	9.5	4.8	13.3	7.6
	40代 (N=153)	4.6	3.9	9.2	15.0	17.0	20.3	11.1	5.9	6.5	6.5
	50代 (N=212)	4.2	4.7	9.9	11.3	18.9	13.7	11.3	8.5	8.0	9.4
	60代 (N=167)	6.0	10.2	24.6	11.4	8.4	11.4	7.2	2.4	4.8	13.8
	70代以上 (N=328)	5.2	16.8	42.4	10.1	4.9	3.0	1.5	0.9	4.3	11.0

2. 各質問項目の結果

ここからは回答者個人の属性だけでなく、意識や行動などの項目についての結果の概要を示す。ここでも基本的には性別・年齢によるクロス集計を提示する。なお、一部の回答者のみに回答が求められている質問項目に関して、その項目に該当しない者を非該当者として分析から除外している。回答者の性別と年齢の分布については、図1と図2を参照のこと。

なお、グラフや表、本文中における百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示している。よって合計%は100.0%になるとは限らない。

Q1の生活満足度に関して、男女別・年代別のすべての層で6割以上が「満足」または「やや満足」と回答している。年代別で見ると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が80.5%と最も高く、50代が62.7%と最も低い(図10)。

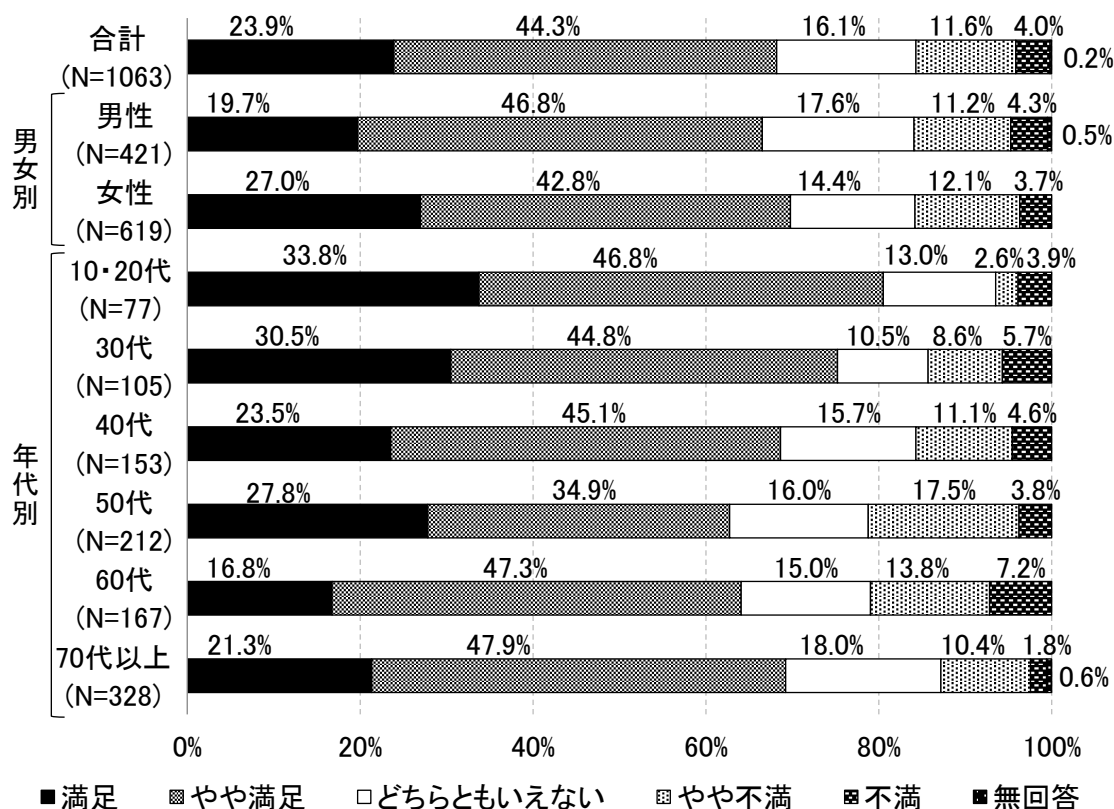


図10 Q1 生活満足度

Q2の幸福度に関して、男女別で見ると、男女ともに「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合は7割程度である。年代別で見ると、「幸せ」または「やや幸せ」と回答した人の割合はすべての層で7割を超えており、10・20代が80.5%と最も高い（図11）。

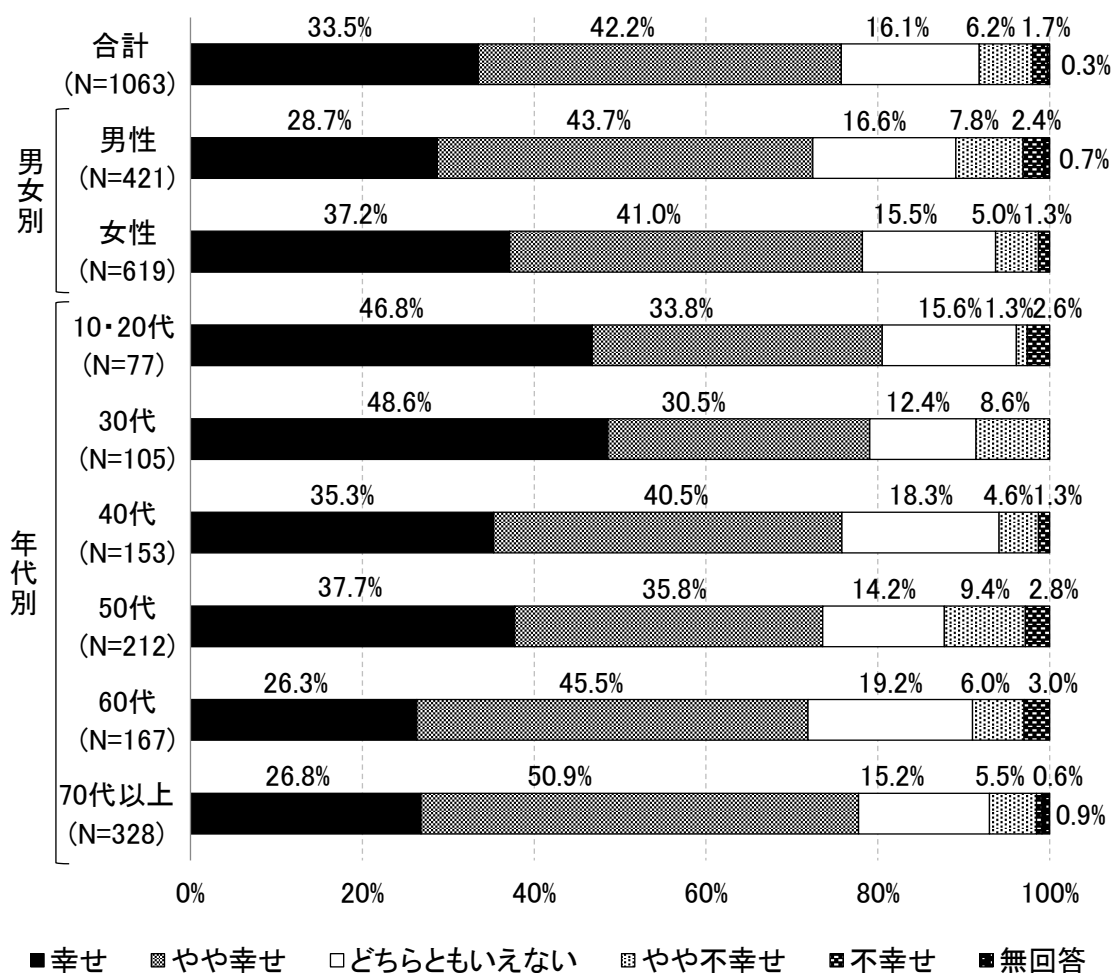


図11 Q2 幸福度

Q3 の高槻市に愛着を感じますかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は70代以上が86.6%と最も高い。反対に10・20代が77.9%と最も低い(図12)。

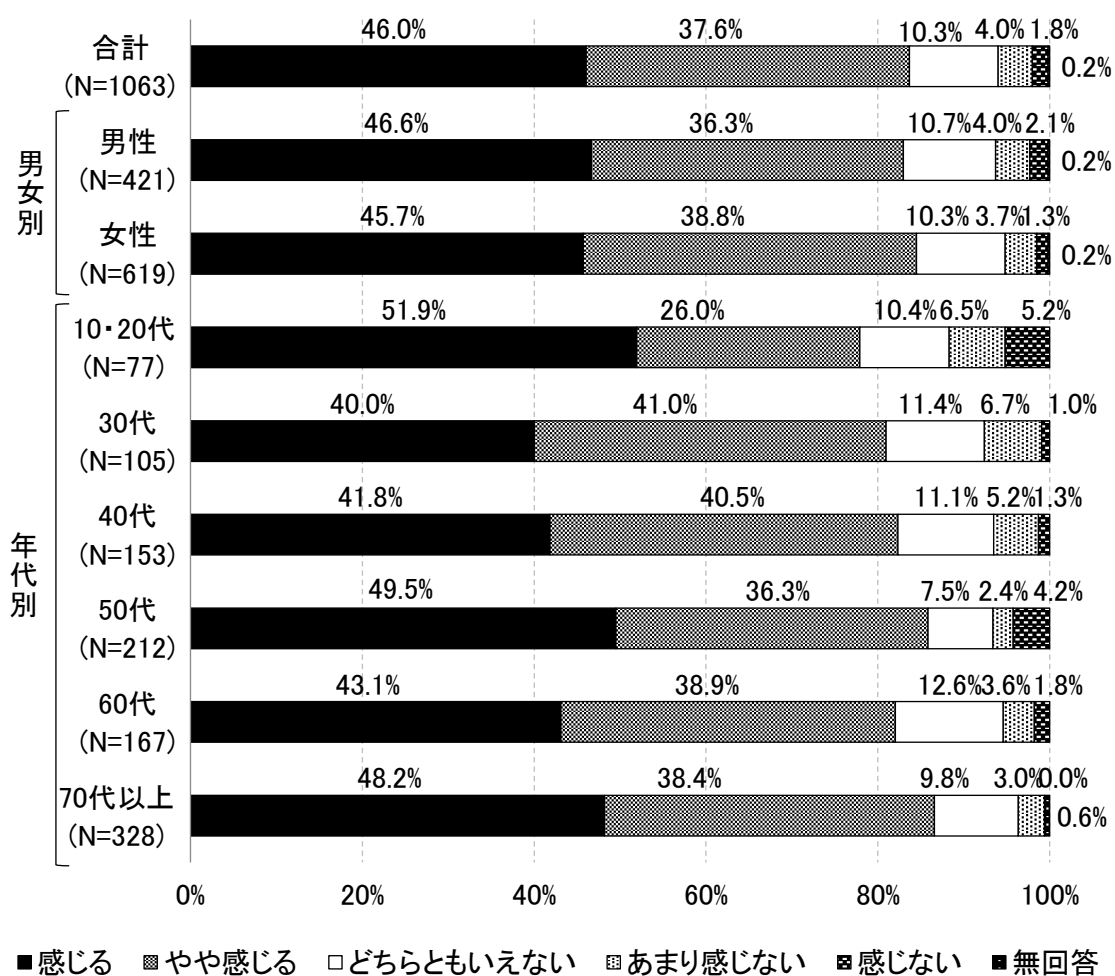
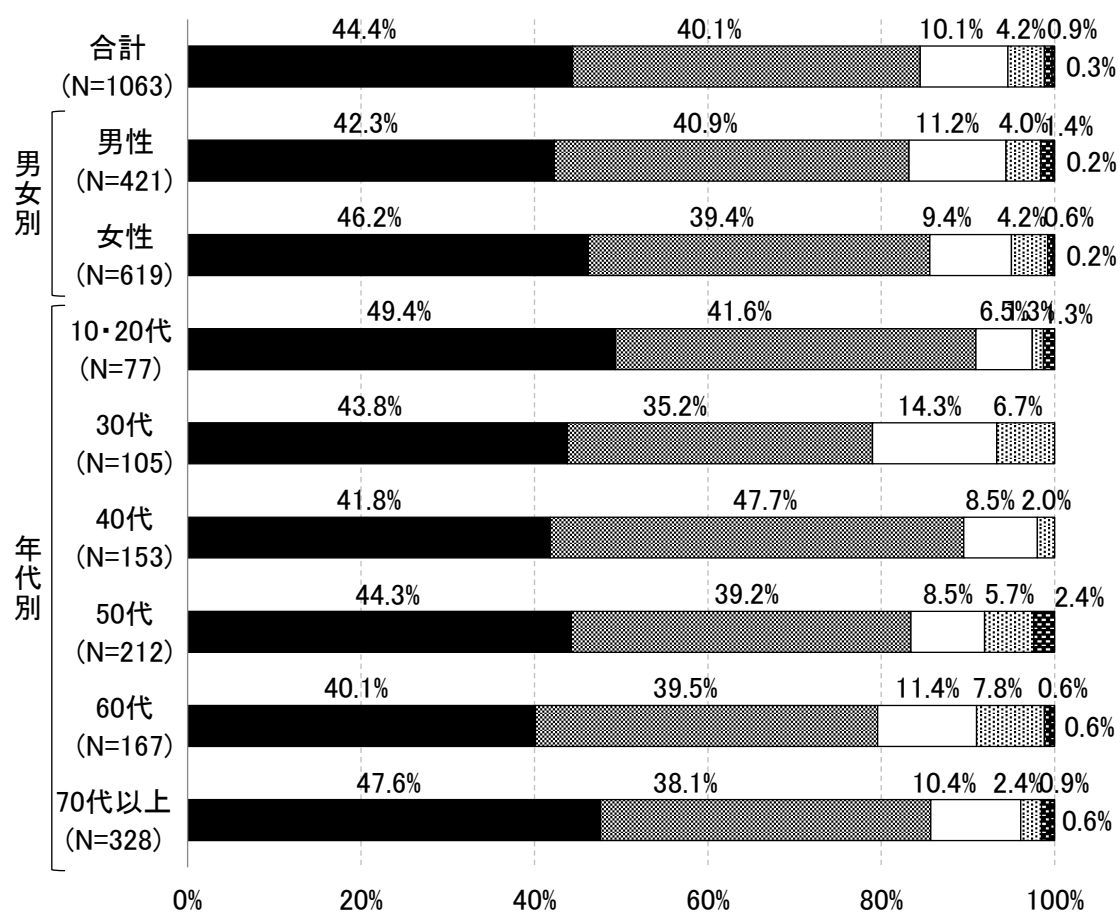


図12 Q3 高槻市に愛着を感じますか

Q4 の居住地は暮らしやすいかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が91.0%と最も高い。反対に30代が79.0%と最も低い（図13）。



■そう思う ■ややそう思う □どちらともいえない ■あまりそう思わない ■そう思わない ■無回答

図13 Q4 居住地は暮らしやすいか

Q5の地域に住み続けたいかに関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答している。年代別で見ると、「ずっと住み続けたい」または「住み続けたい」と回答した人の割合は70代以上が71.3%と最も高い。反対に、10・20代は57.2%と最も低い(図14)。

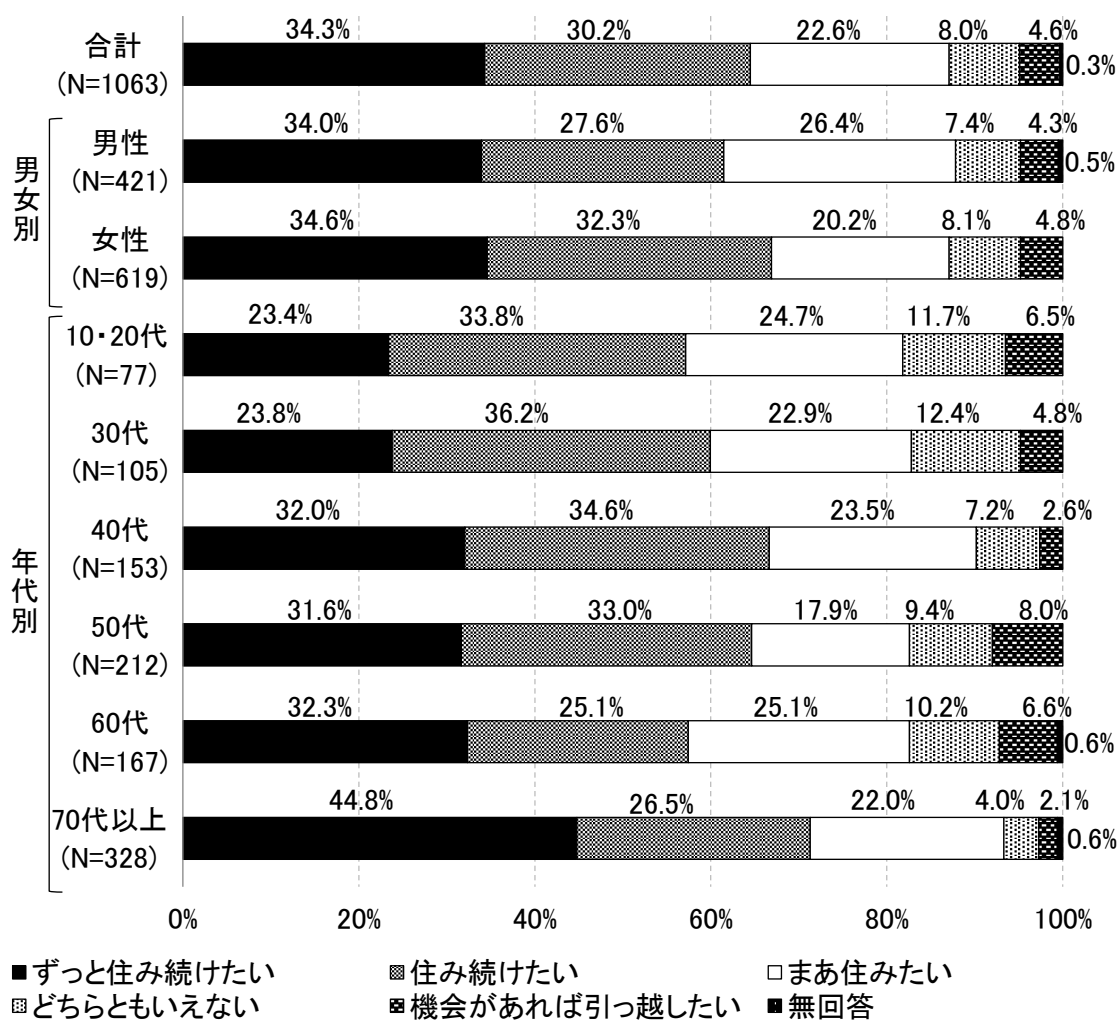


図14 Q5 地域に住み続けたいか

Q6の地域活動に参加する頻度に関して、男女別・年代別のすべての層で5割以上が「ほとんど参加していない」または「まったく参加していない」と回答している。年代別で見ると、「ほとんど参加していない」または「まったく参加していない」と回答した人の割合は10・20代が90.9%と最も高い。反対に、70代以上は54.6%と最も低い（図15）。

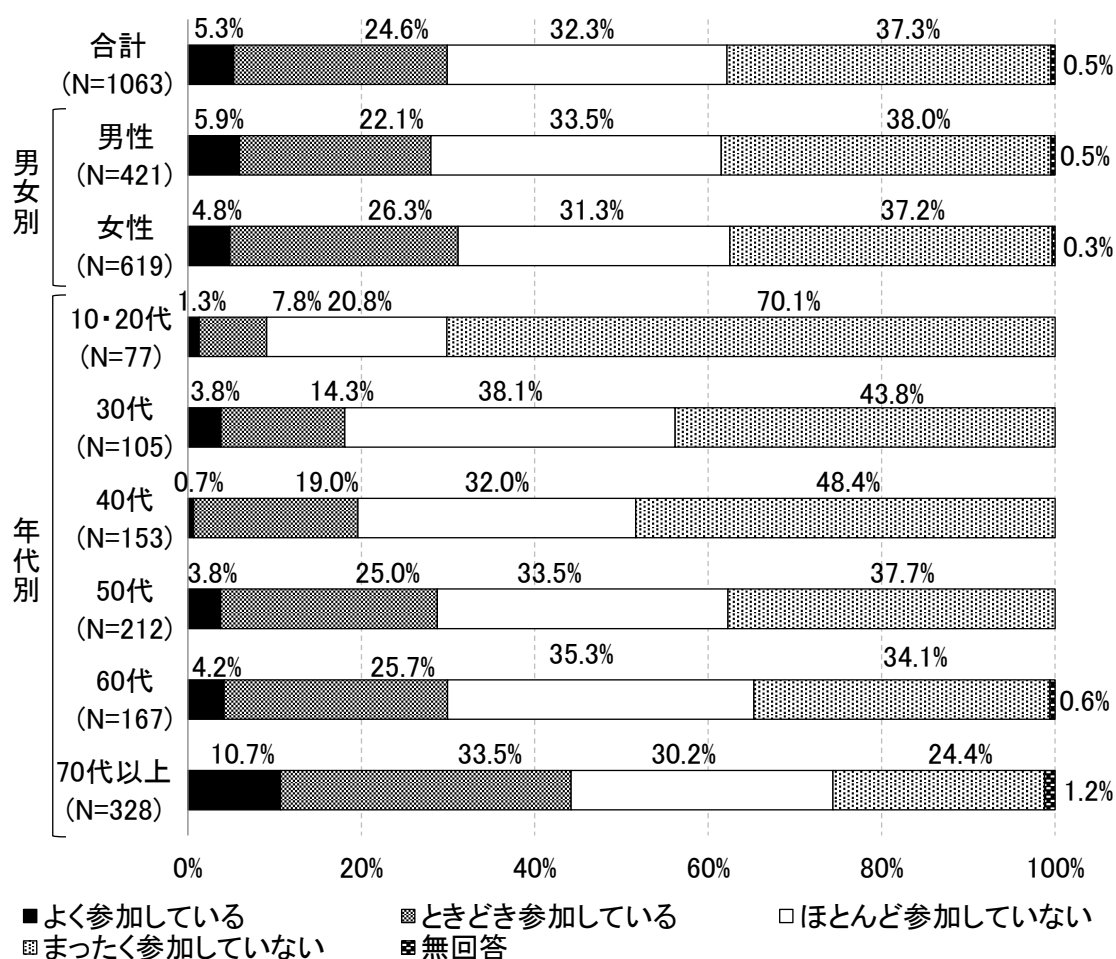


図15 Q6 地域活動に参加する頻度

Q7の近所の人と世間話をする頻度に関して、男女別で見ると、「月に1~2」または「まったく話さない」と回答した人の割合が男性で73.6%、女性が60.1%であり、男性の方が13.5ポイントほど高い。年代別で見ると、「月に1~2」または「まったく話さない」と回答した人の割合は10・20代が92.2%と最も高い。反対に70代以上は39.3%と最も低い（図16）。

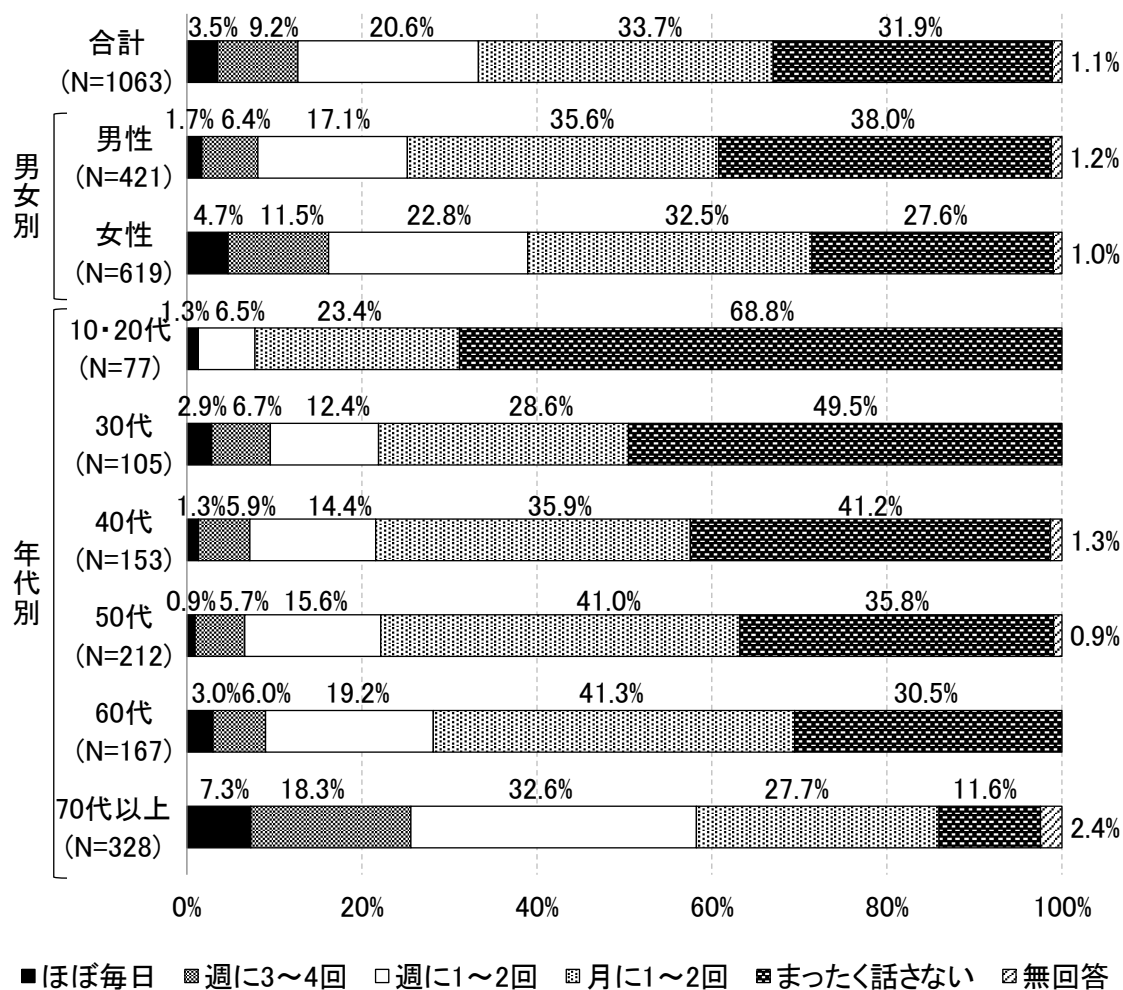


図 16 Q7 近所の人と世間話をする頻度

Q8の親しい付き合いをしているご近所の数に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「やや少ない」または「少ない」と回答した人の割合の方が「多い」または「やや多い」と回答した人の割合よりも高い。40代は「やや少ない」、「少ない」と回答した人の割合が90.8%と最も高い。反対に、70代以上が70.4%と最も低い（図17）。

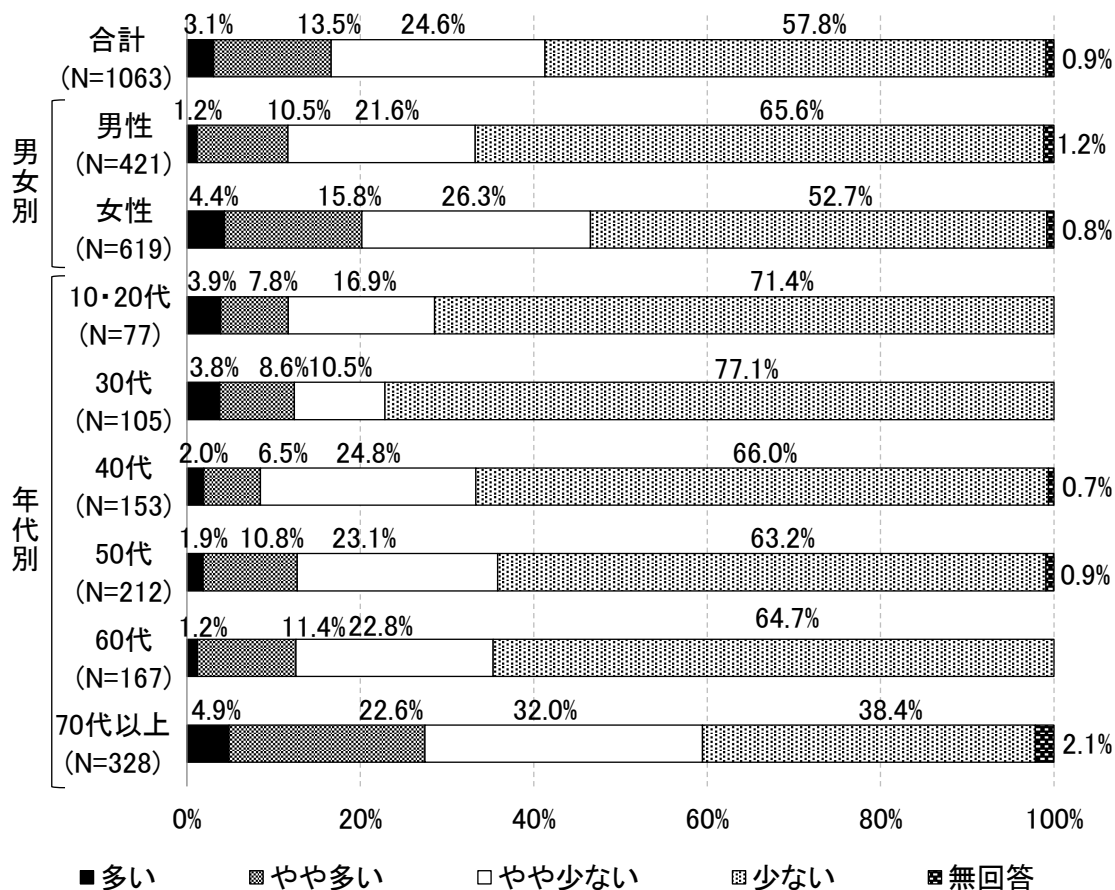


図17 Q8 親しい付き合いをしているご近所の数

Q9の困っているとき、近所の人たちは手助けしてくれると思うかに関して、年代別で見ると、70代以上を除くすべての年代で、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答した人の割合の方が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合よりも高い。10・20代が「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答した人の割合が46.8%と高い。反対に、70代以上が23.4%と最も低い（図18）。

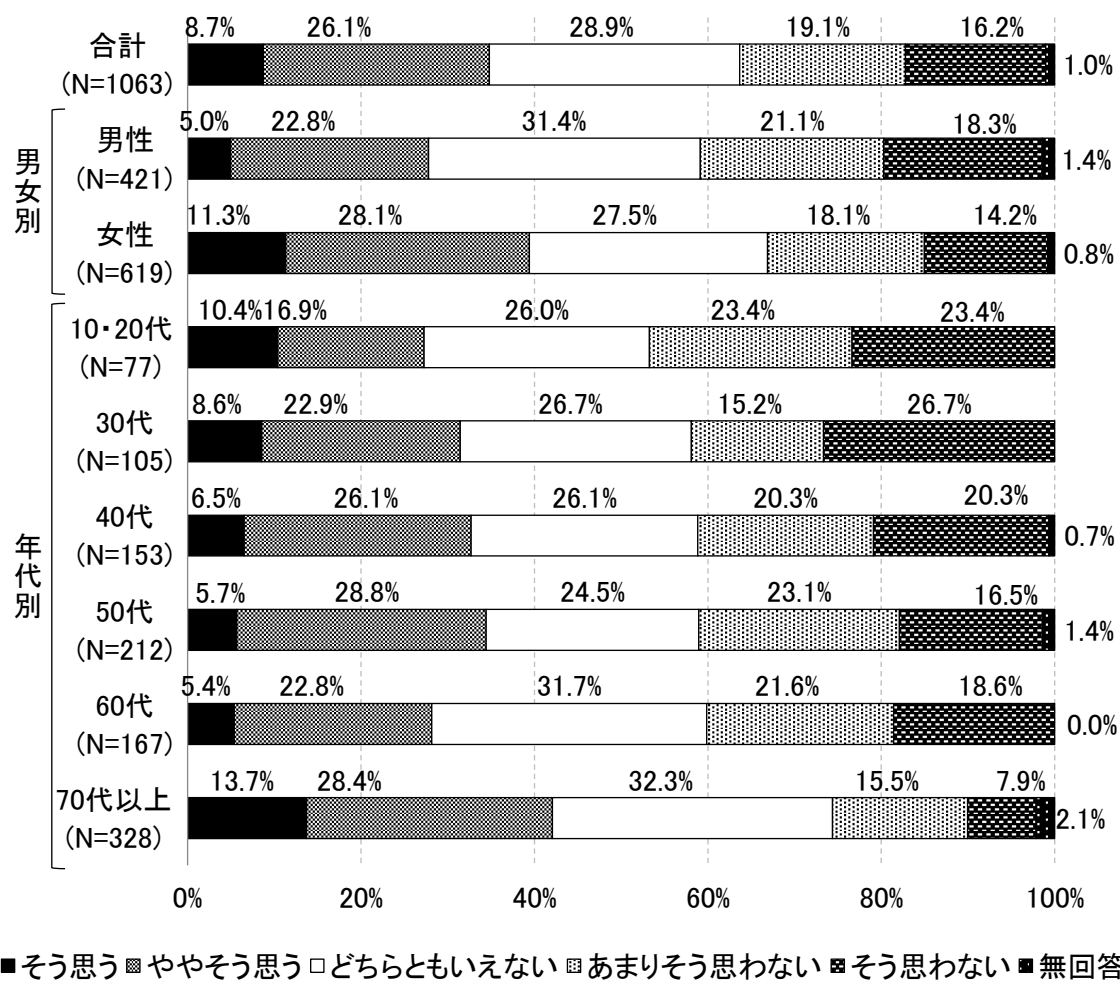


図18 Q9 困っているとき、近所の人たちは手助けしてくれると思うか

Q10 の近所の人たちが強いきずなで結ばれているに関して、男女別・年代別のすべての層で、「あまりそう思わない」または「そう思わない」と回答した人の割合の方が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合よりも高い。年代別で見ると、10・20代は「あまりそう思わない」、「そう思わない」と回答した人の割合が最も67.5%と高い。反対に、70代以上が39.9%と最も低い（図 19）。

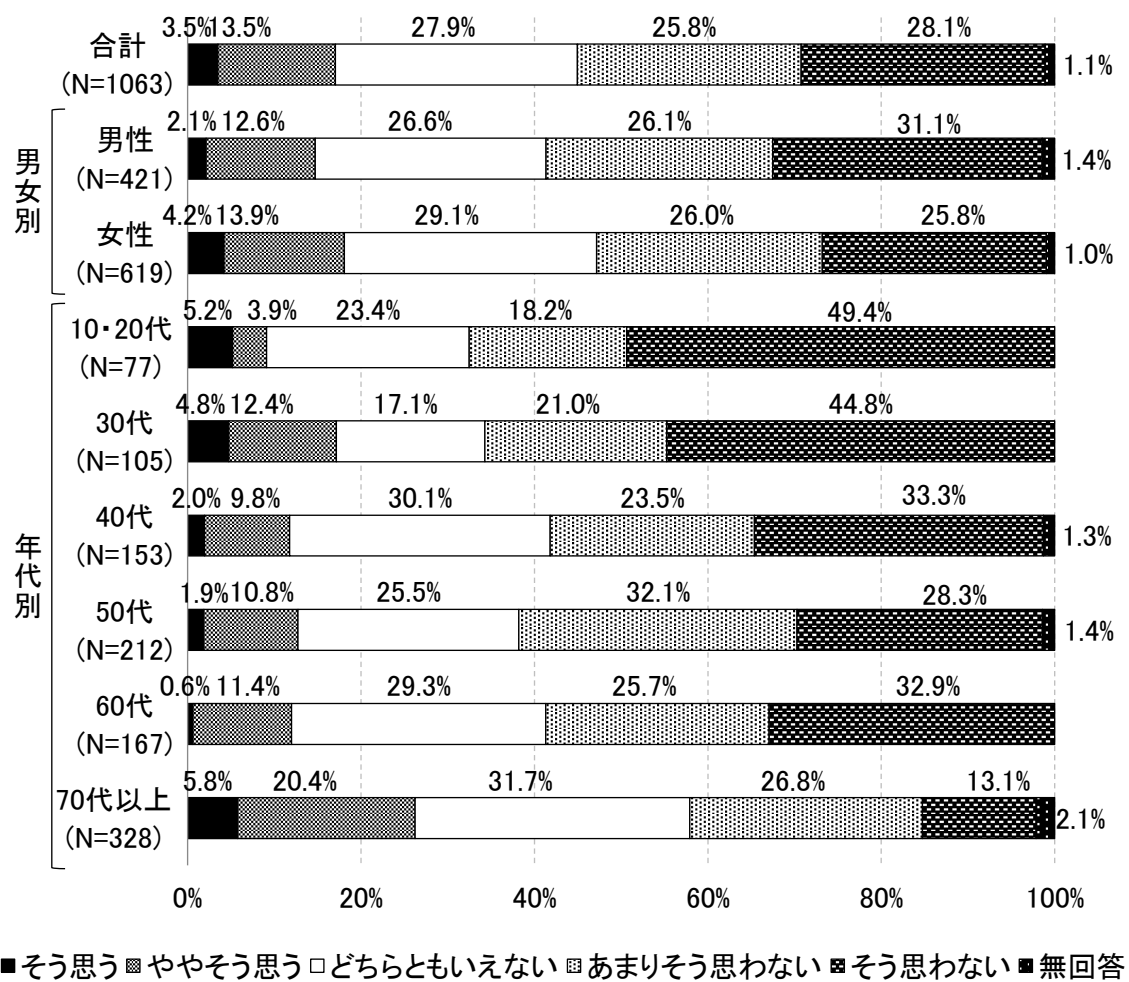


図 19 Q10 近所の人たちが強いきずなで結ばれている

Q11 の最寄りの商店街に行く頻度に関して、男女別で見ると、「ほぼ毎日」または「週に2～3日」と回答した人の割合が男性で33.5%、女性が40.2%であり、女性の方が6.7ポイントほど高い。年代別で見ると、「ほぼ毎日」または「週に2～3日」と回答した人の割合は70代以上が64.3%と最も高い。反対に、10・20代は11.7%と最も低い（図20）。

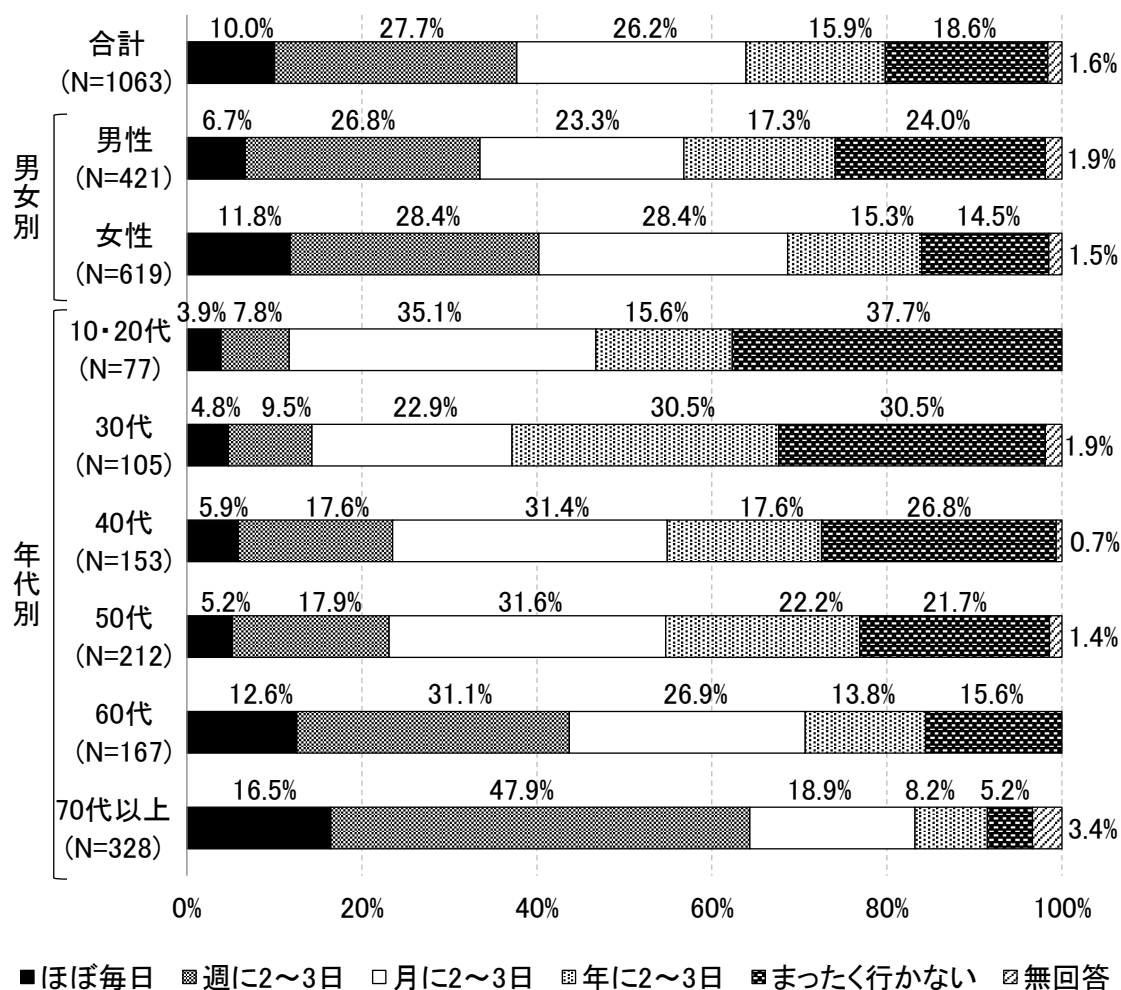
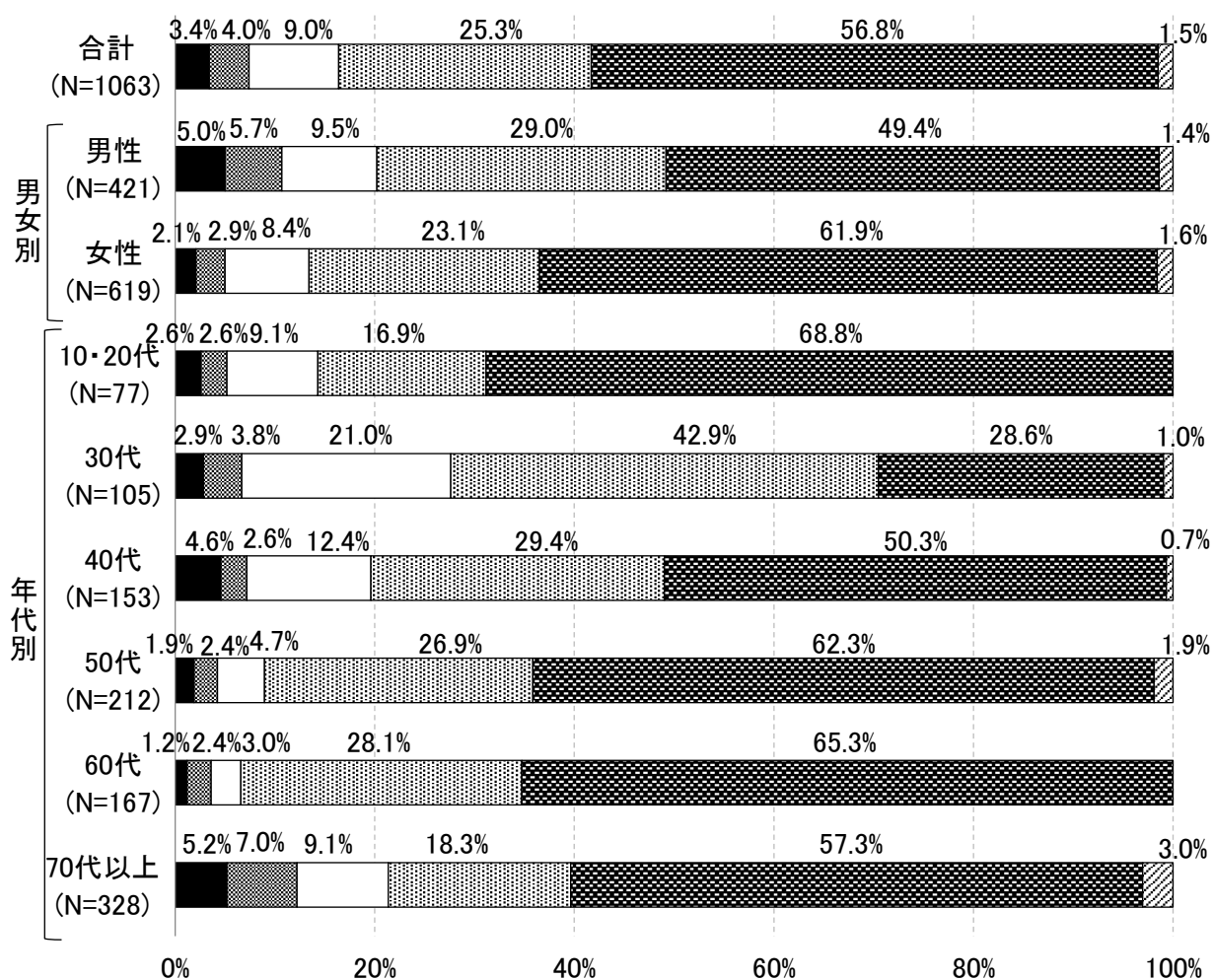


図20 Q11 最寄りの商店街に行く頻度

Q12 の市内公園に出かける頻度に関して、「公園にはいかない」と回答した人の割合が、男女別で見ると男性で 49.4%、女性が 61.9%であり、女性の方が 12.5 ポイント高い。年代別で見ると 10・20 代が 68.8%と最も高い。反対に、30 代は 28.6%と最も低い。

次いで割合の高い「月に 1～2 日」と回答した人の割合が、男女別で見ると男性で 29.0%、女性が 23.1%であり、男性の方が 5.9 ポイント高い。年代別で見ると 30 代が 42.9%と最も高い。反対に、10・20 代は 16.9%と最も低い（図 21）。



■ほぼ毎日 ■週に3～4日程度 □週に1～2日程度 ▨月に1～2日程度 ■公園には行かない ▨無回答

図 21 Q12 市内公園に出かける頻度

Q13 の一日の平均歩行時間に関して、男女別で見ると、「30分未満」（「10分未満」または「10分以上20分未満」または「20分以上30分未満」）と回答した人の割合は、男性では40.1%、女性では45.5%である。年代別で見ると、「30分未満」と回答した人の割合は30代が50.5%と最も高い。反対に60代が38.4%と最も低い（図22）。

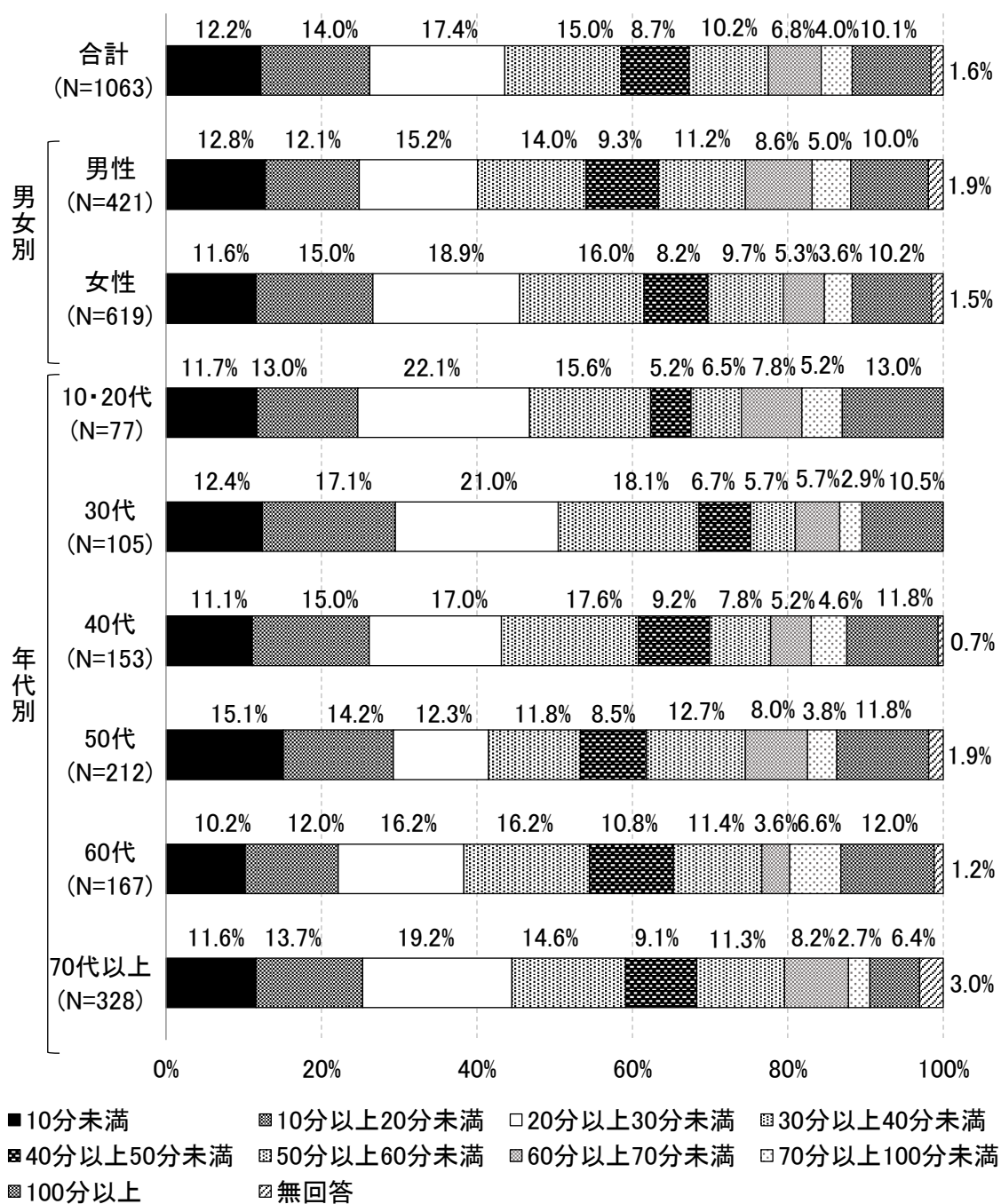


図 22 Q13 一日の平均歩行時間

Q14A～Q4Bが、普段一日にどのくらい音楽を聴いているかを質問している。

Q14Aの自宅内で音楽を聴く時間に関して、男女別で見ると、「30分未満」（「まったく聴かない」または「10分未満」または「10分以上30分未満」）と回答した人の割合は、男性では65.3%、女性では65.1%である。年代別で見ると、「30分未満」と回答した人の割合は60代が70.1%と最も高い。反対に10・20代が44.2%と最も低い（図23）。

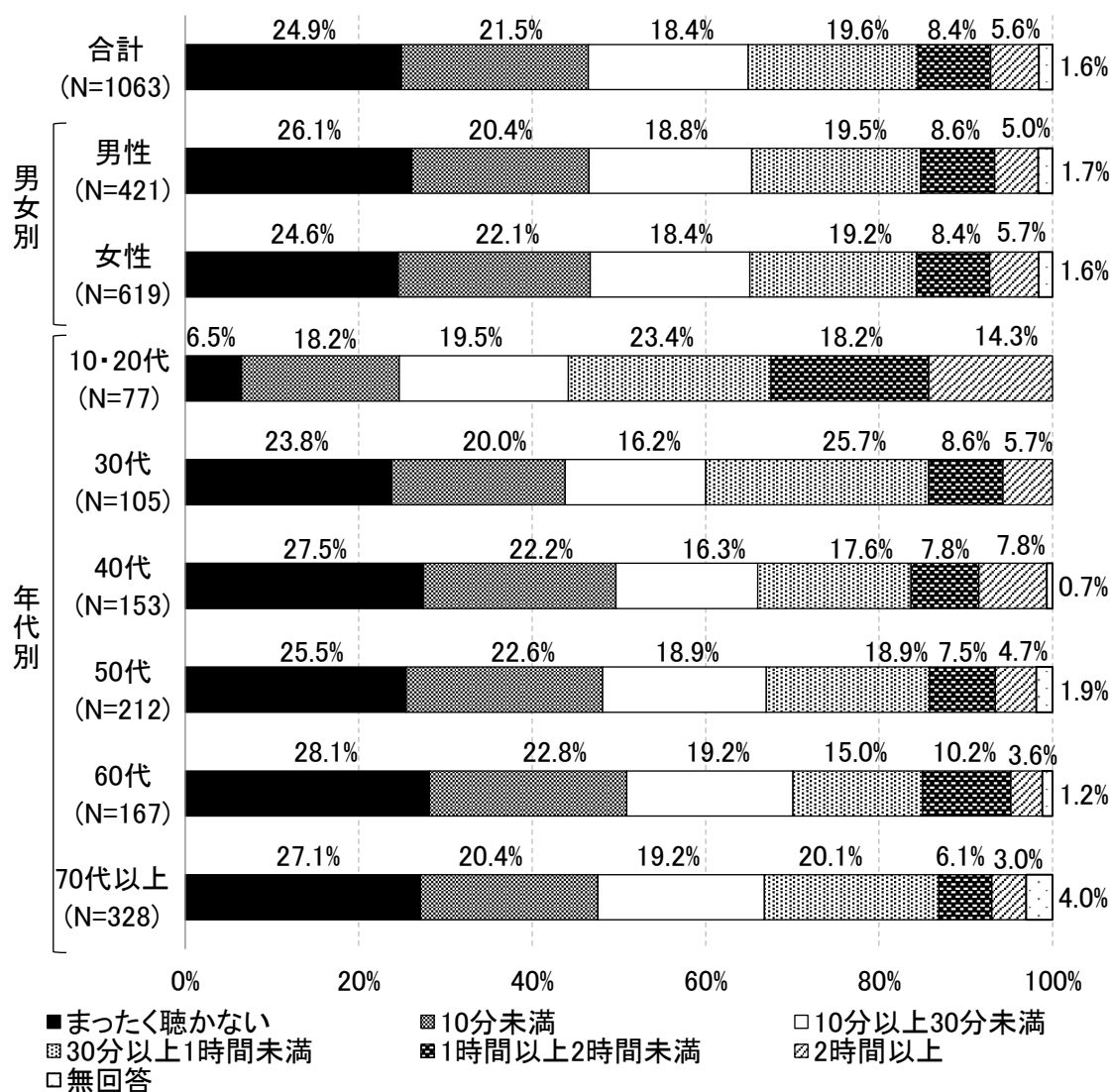


図 23 Q14A 自宅内で音楽を聴く時間

Q14B の自宅外で音楽を聴く時間に関して、男女別で見ると、「30分未満」（「まったく聴かない」または「10分未満」または「10分以上30分未満」）と回答した人の割合は、男性では68.4%、女性では76.6%である。年代別で見ると、「30分未満」と回答した人の割合は60代が84.4%と最も高い。反対に10・20代が44.2%と最も低い（図24）。

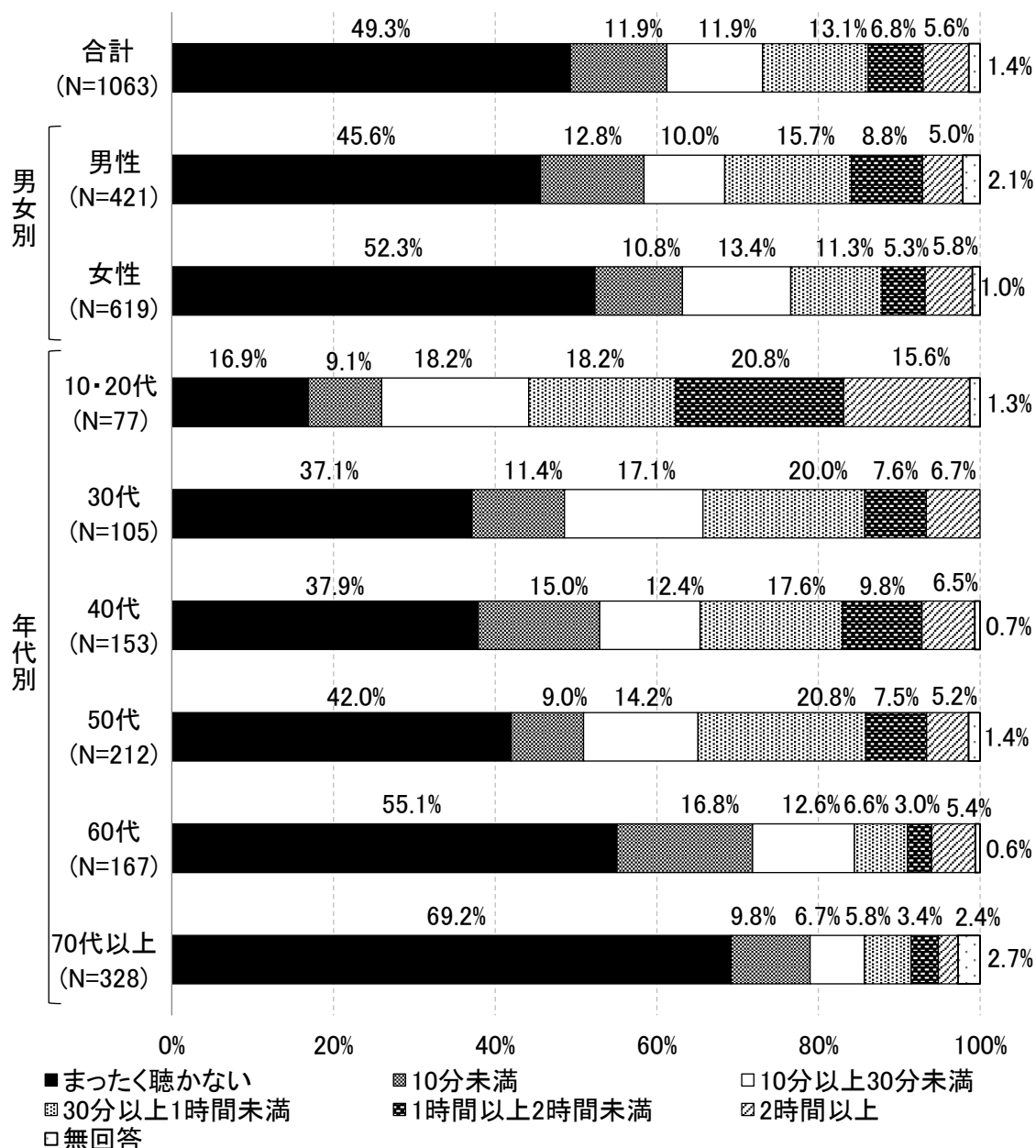


図 24 Q14B 自宅外で音楽を聴く時間

Q15 の JR 高槻駅の利用に関して、年代別で見ると、すべての年代で「利用する」と回答した人の割合が「利用しない」と回答した人の割合よりも高い。「利用」と回答した人の割合は 10・20 代以上が 67.5%と最も高い (図 25)。

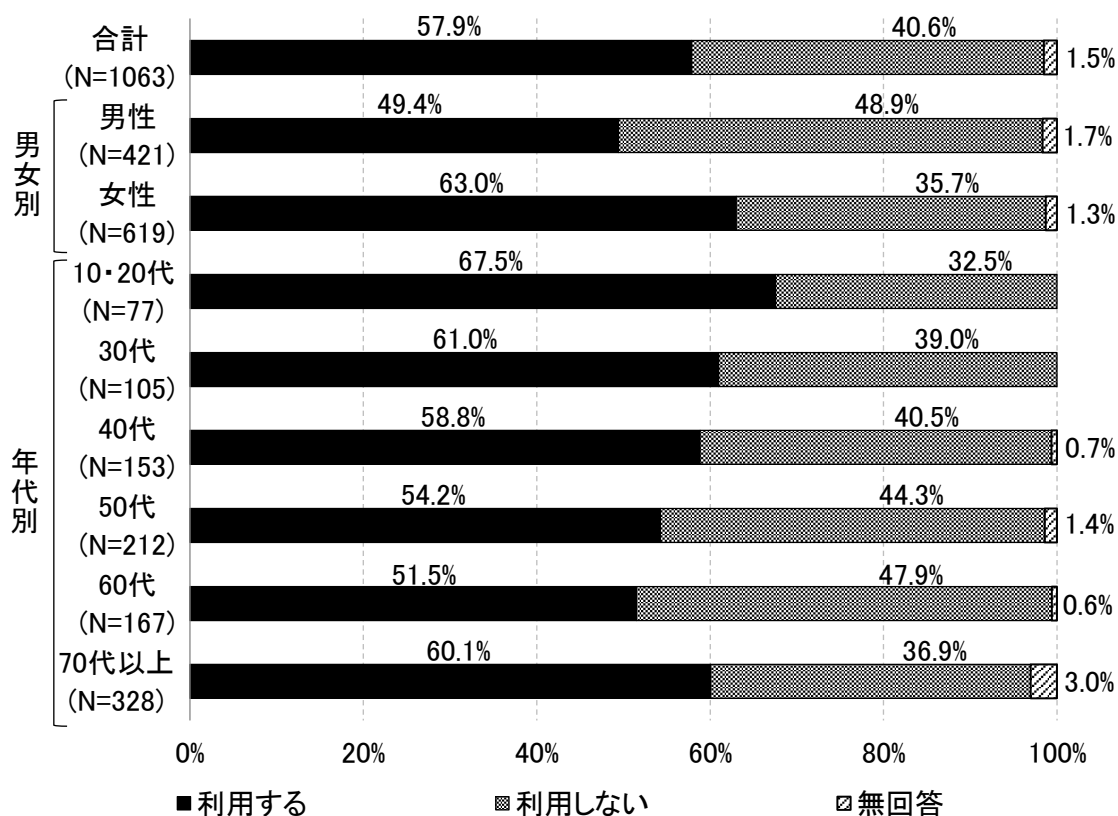


図 25 Q15 JR 高槻駅を利用するか

Q16 の JR 高槻駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるかに関して、年代別で見ると、すべての年代で「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合が「あまり感じない」または「感じない」と回答した人の割合よりも高い。「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合は 40 代が 66.7%と最も高い。反対に、60 代は 59.3%と最も低い（図 26）。

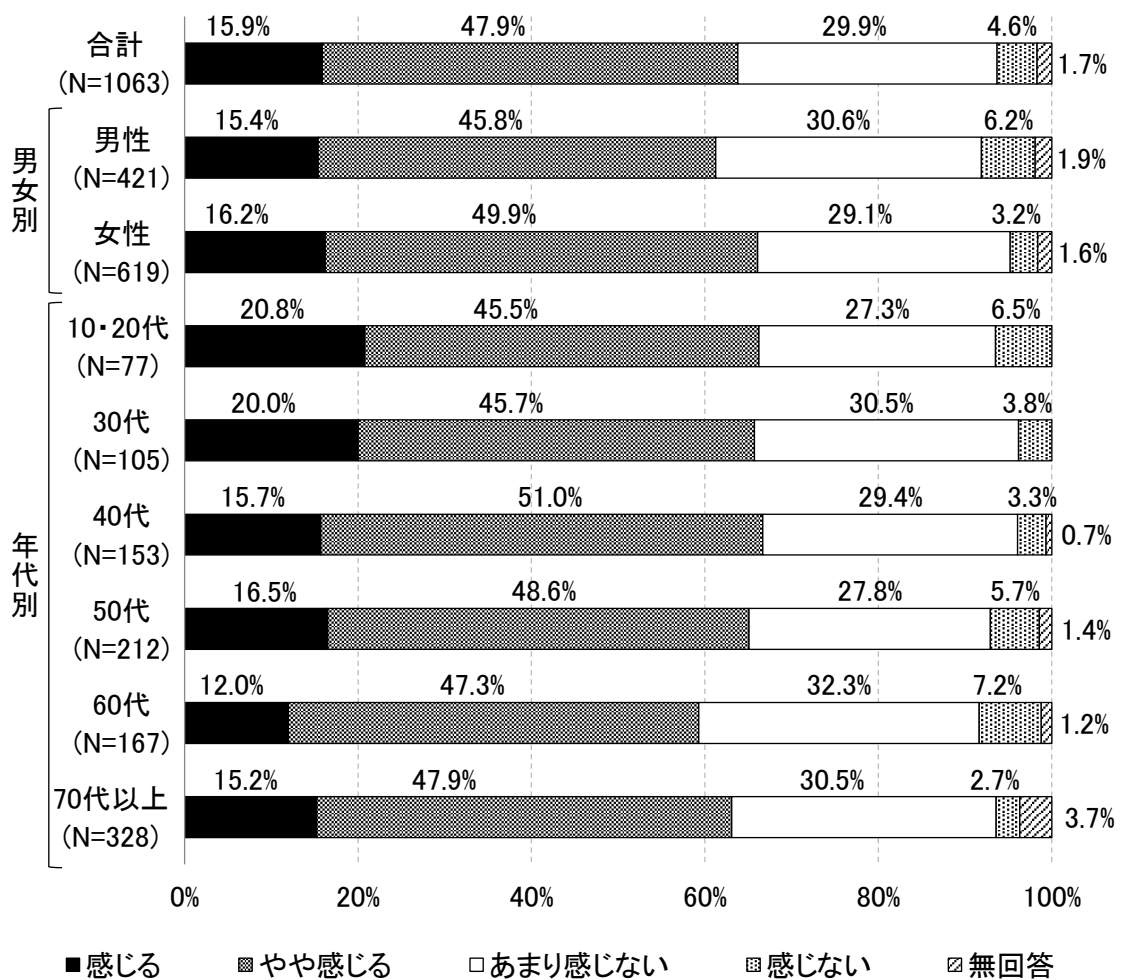


図 26 Q16 JR 高槻駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるか

Q17の阪急高槻市駅の利用に関して、年代別で見ると、10・20代と30代では、「利用する」と回答した人の割合が「利用しない」と回答した人の割合よりも高い。「利用」と回答した人の割合は10・20代以上が57.1%と最も高い（図27）。

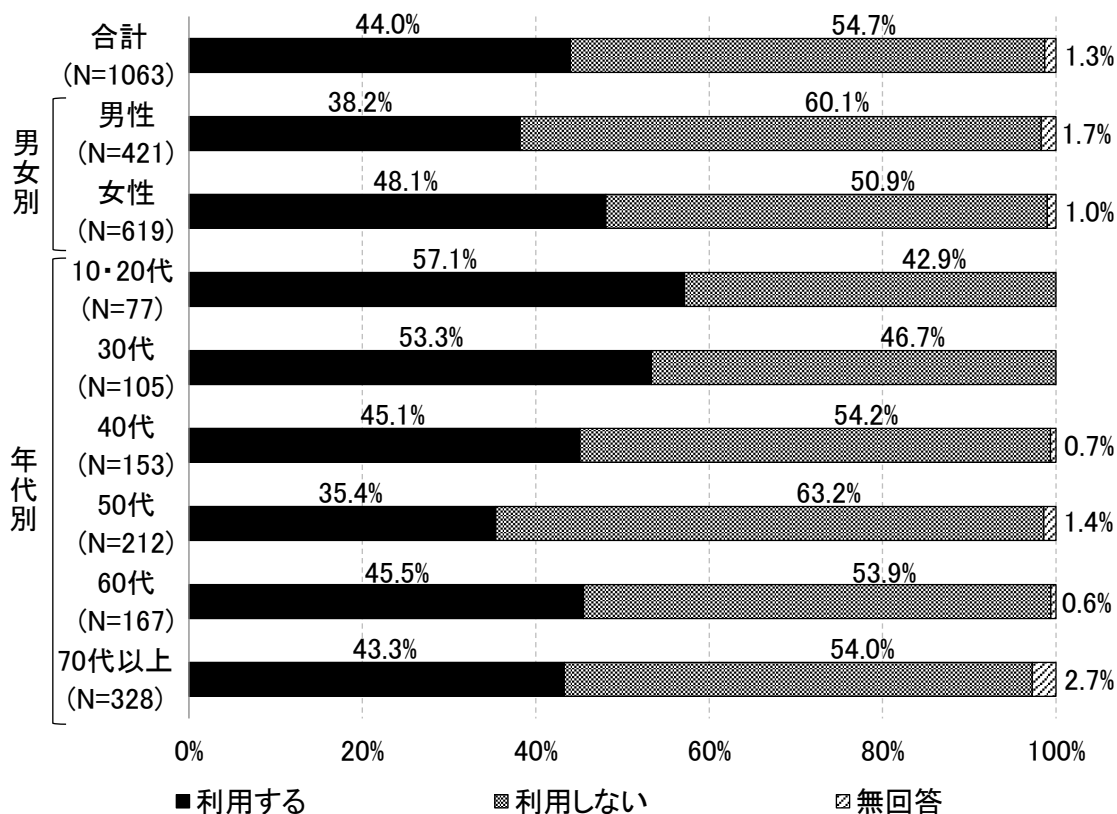


図 27 Q17 阪急高槻市駅を利用するか

Q18 の阪急高槻市駅が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるかに関して、年代別で見ると、10・20代では、「感じる」または「やや感じる」と回答した人の割合が「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合よりも高い。「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合は60代が65.9%と最も高い。反対に、10・20代は45.5%と最も低い（図28）。

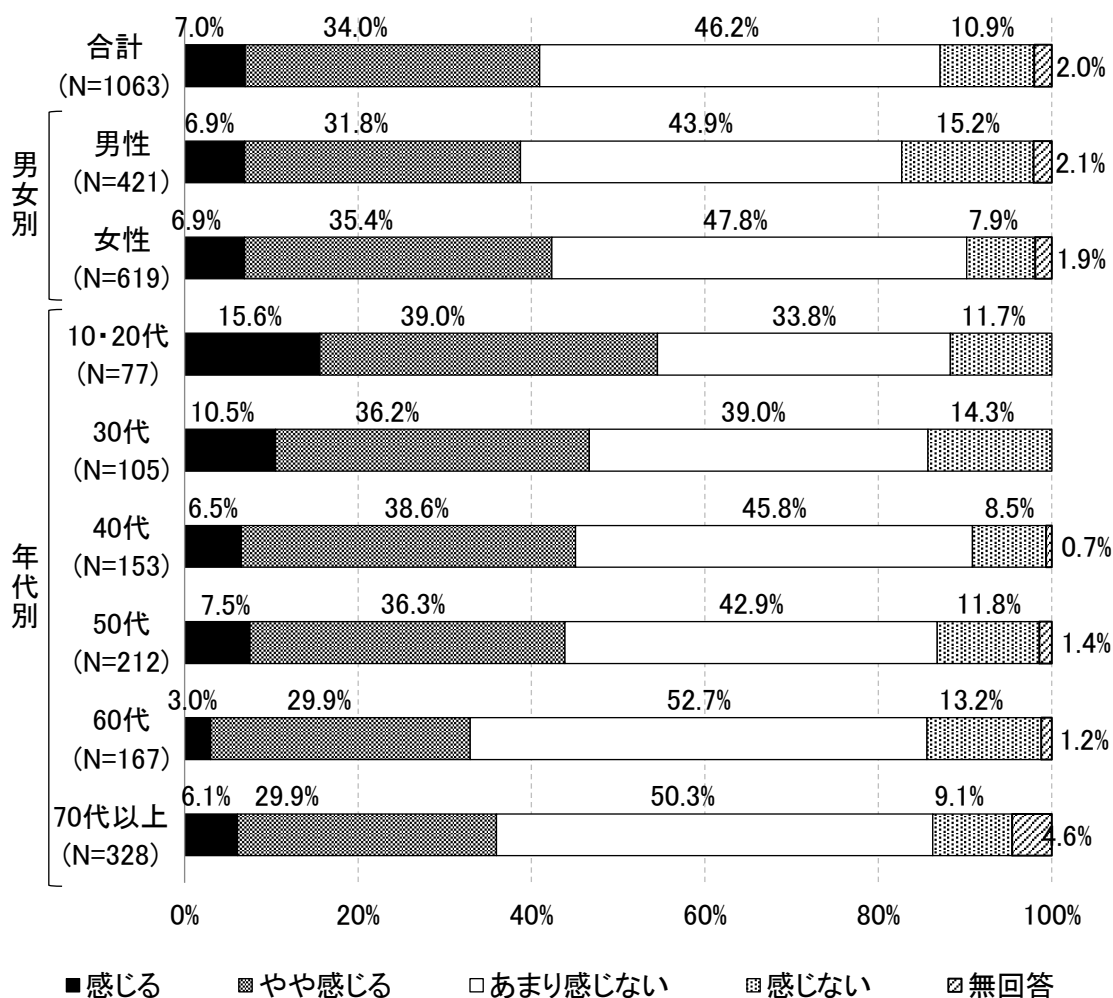


図28 Q18 阪急高槻市駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力ある都市空間だと感じるか

Q19A～Q19R が、高槻市の交通手段におけるそれぞれの現状について、あなたはどのくらい満足しているかを質問している。

Q19A の徒歩における歩道の整備の状況の満足度に関して、年代別で見ると、50代と60代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。それ以外の年代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は60代が41.3%と最も高い。反対に、10・20代は23.4%と最も低い（図29）。

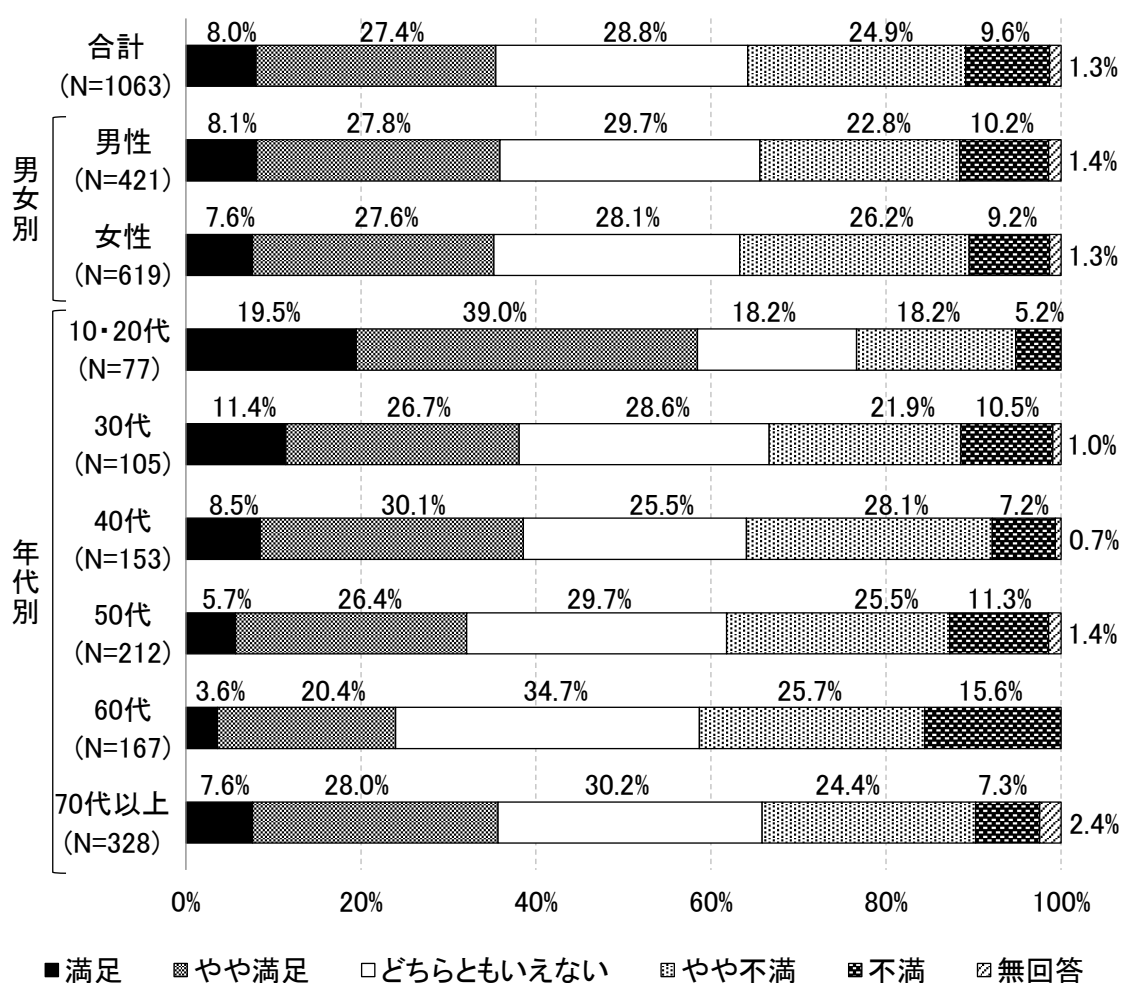


図29 Q19A 交通手段満足度（徒歩：歩道の整備の状況）

Q19Bの徒歩におけるバリアフリー化の満足度に関して、年代別で見ると、10・20代と30代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合より高い。それ以外の年代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が37.7%と最も高い(図30)。

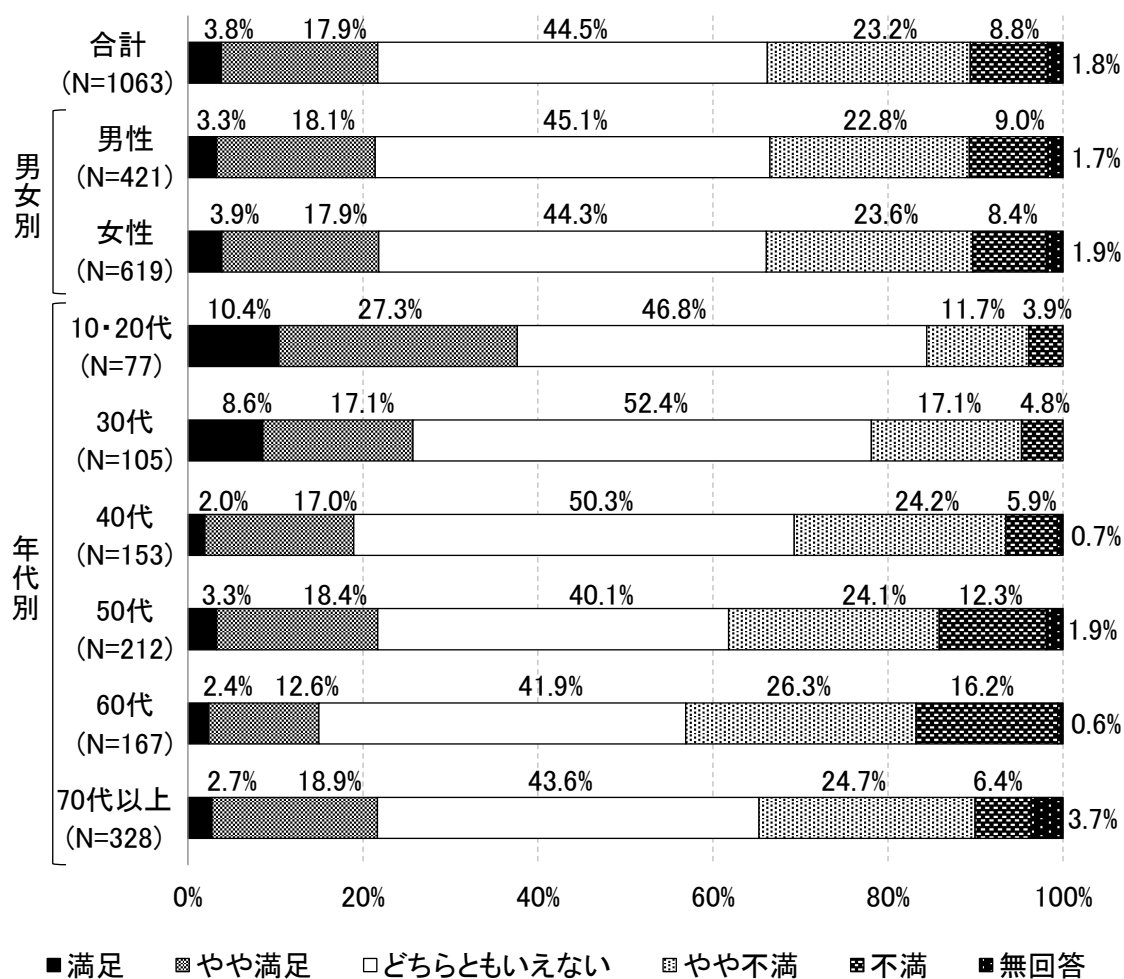


図30 Q19B 交通手段満足度 (徒歩: バリアフリー化)

Q19Cの自転車が通行するために必要なスペースの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は40代が60.1%と最も高い。反対に、70代以上は41.2%と最も低い（図31）。

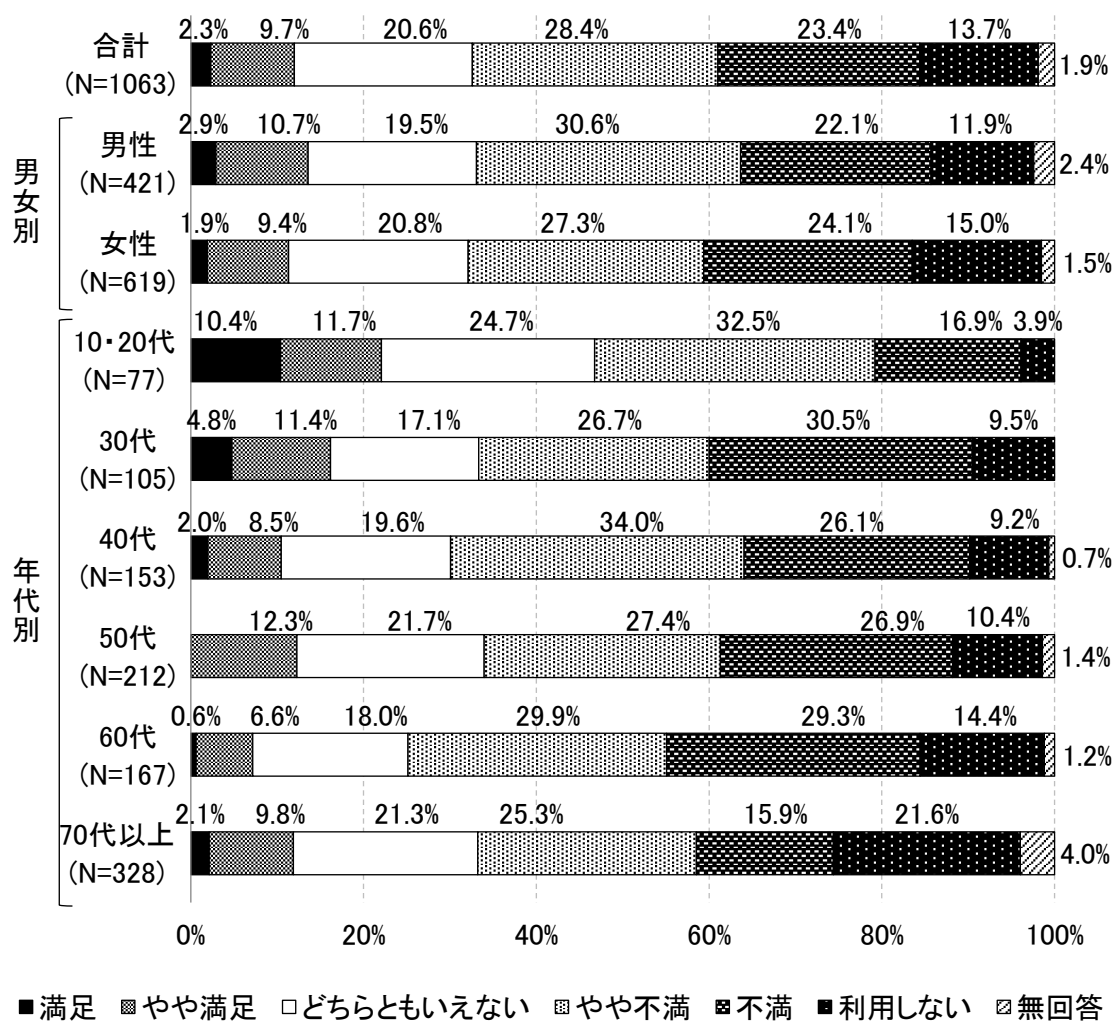


図31 Q19C 交通手段満足度（自転車：通行するために必要なスペース）

Q19Dの自転車の駐輪場の満足度に関して、年代別で見ると、10・20代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合より高い。それ以外の年代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が37.7%と最も高い。反対に、60代は14.4%と最も低い（図32）。

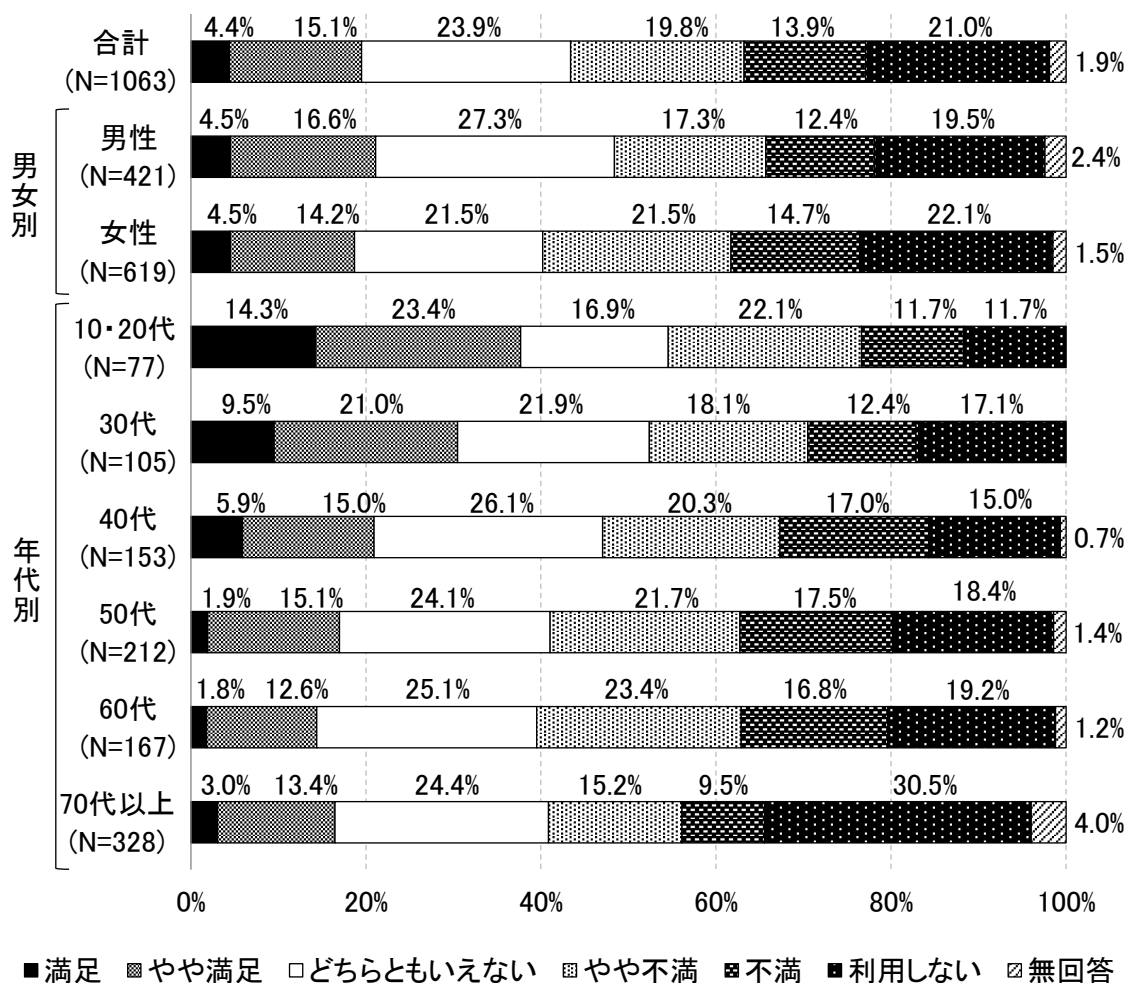


図 32 Q19D 交通手段満足度（自転車：駐輪場）

Q19Eの自転車に乗っている人々のマナーの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は60代が70.0%と最も高い。反対に10・20代が、33.8%と最も低い(図33)。

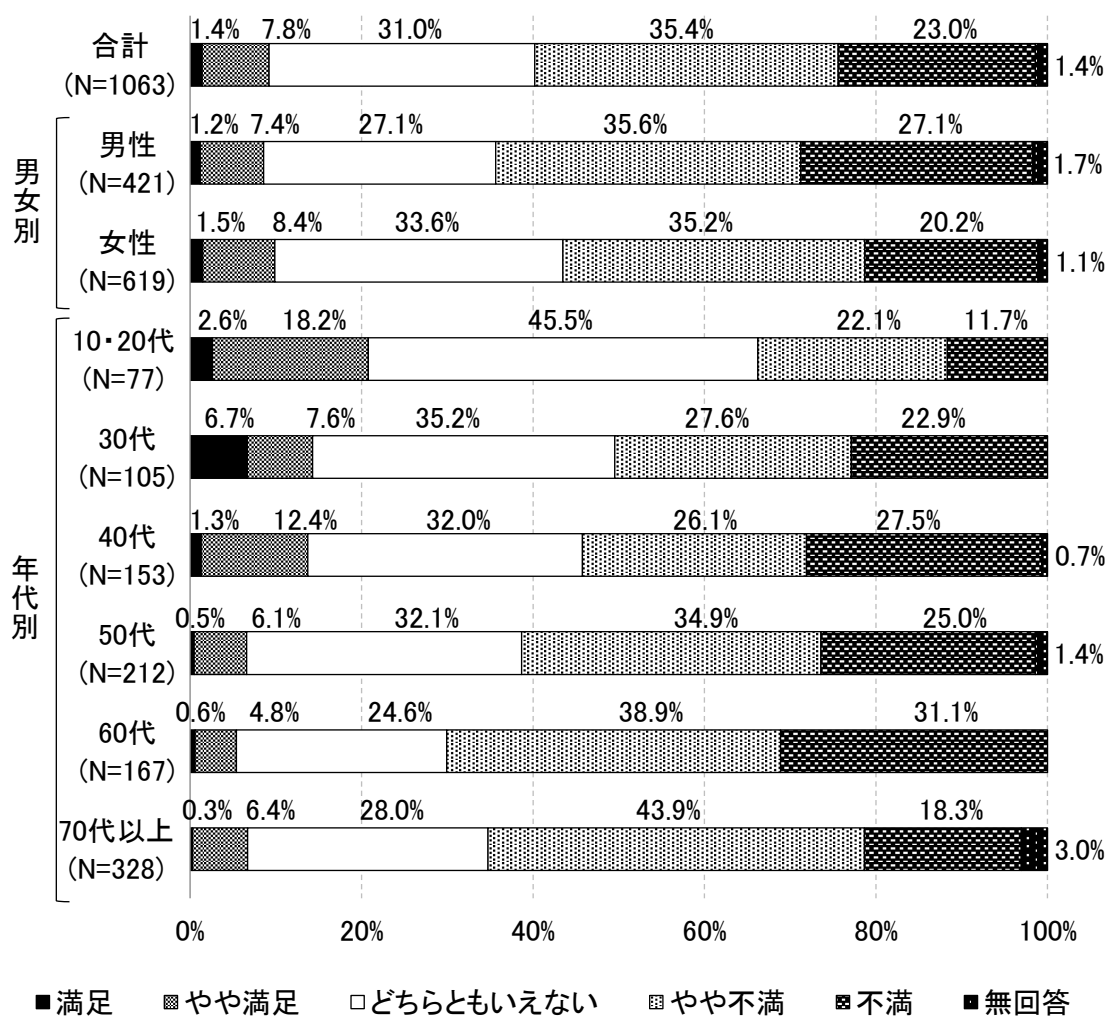


図33 Q19E 交通手段満足度 (自転車: 乗っている人々のマナー)

Q19Fのバイクが通行するために必要なスペースの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は30代が10.5%と最も高い。反対に60代が、3.0%と最も低い（図34）。

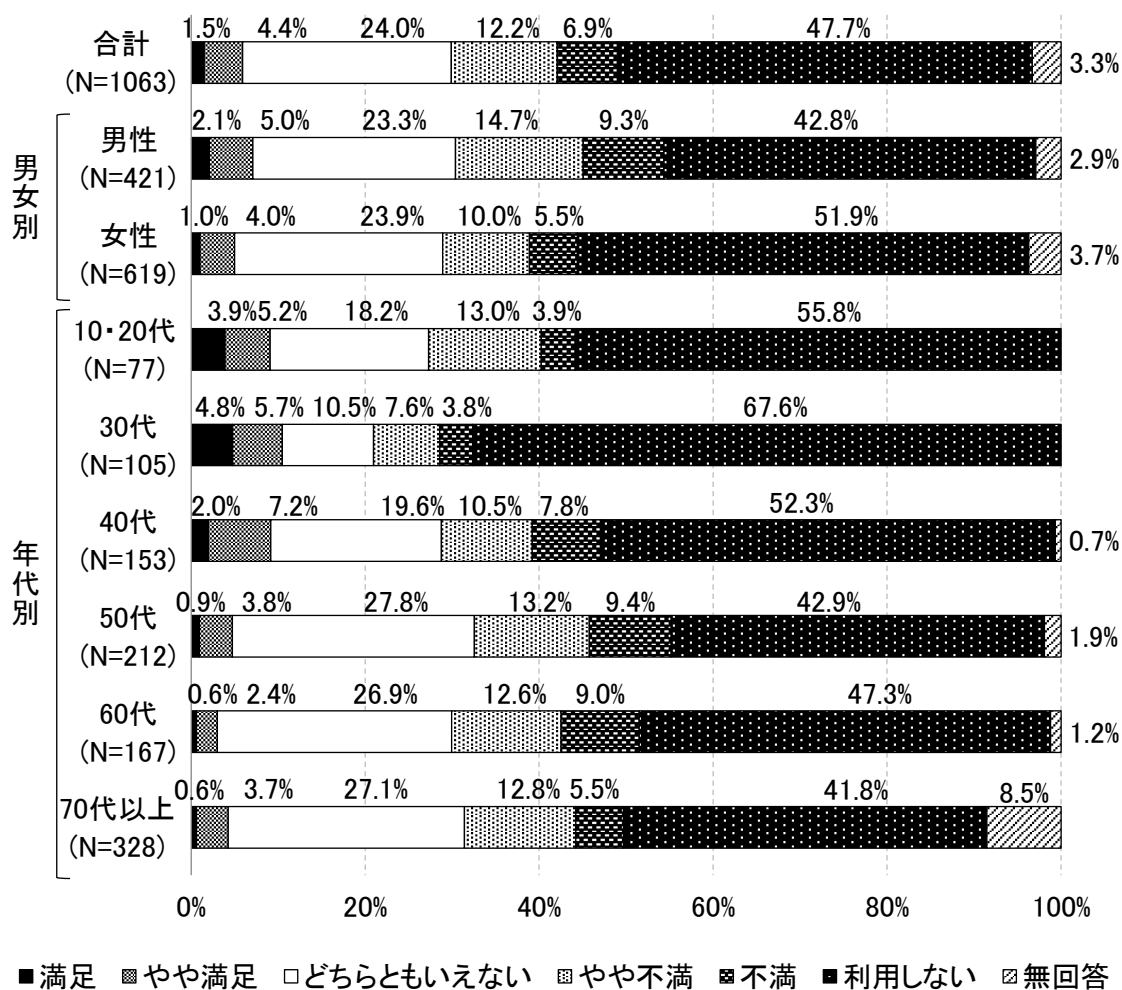


図34 Q19F 交通手段満足度（バイク：通行するために必要なスペース）

Q19Gのバイクの駐車場の満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は30代が5.7%と最も高い。反対に10・20代が、2.6%と最も低い(図35)。

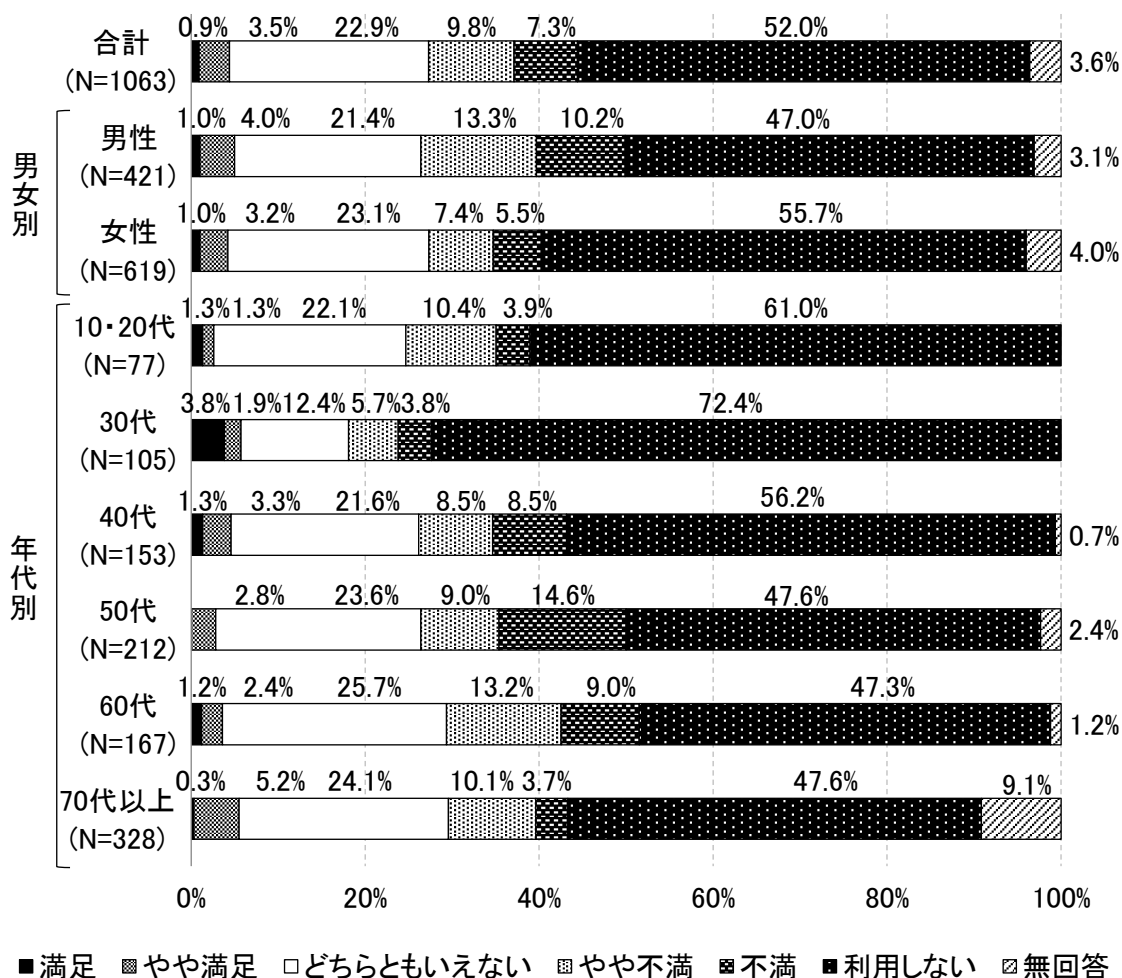


図35 Q19G 交通手段満足度 (バイク：駐車場)

Q19Hのバイクに乗っている人々のマナーの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が18.2%と最も高い。反対に60代が、4.8%と最も低い(図36)。

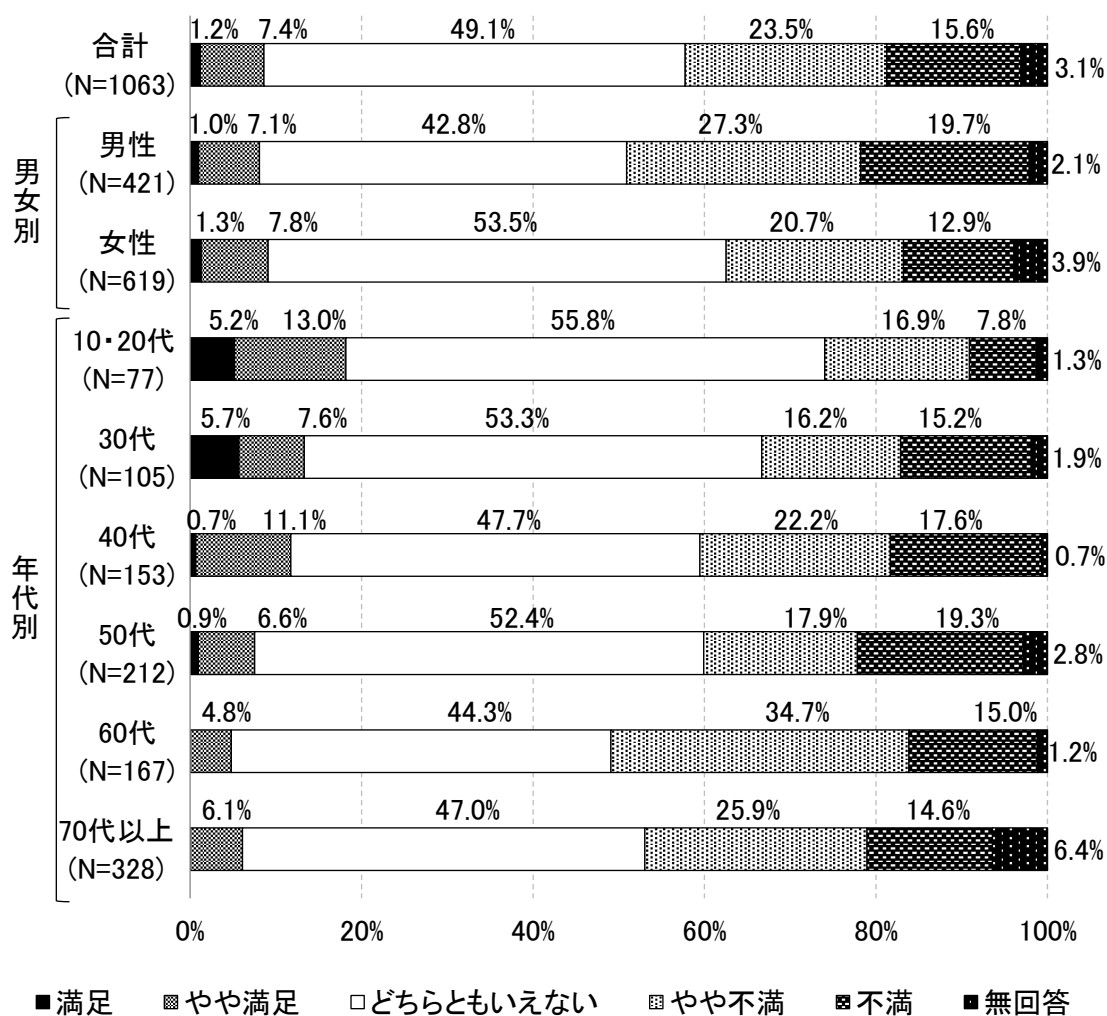


図 36 Q19H 交通手段満足度 (バイク : 乗っている人々のマナー)

Q19I のバスの路線・系統の満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上で49.7%と最も高い。反対に60代が25.8%と最も低い（図37）。

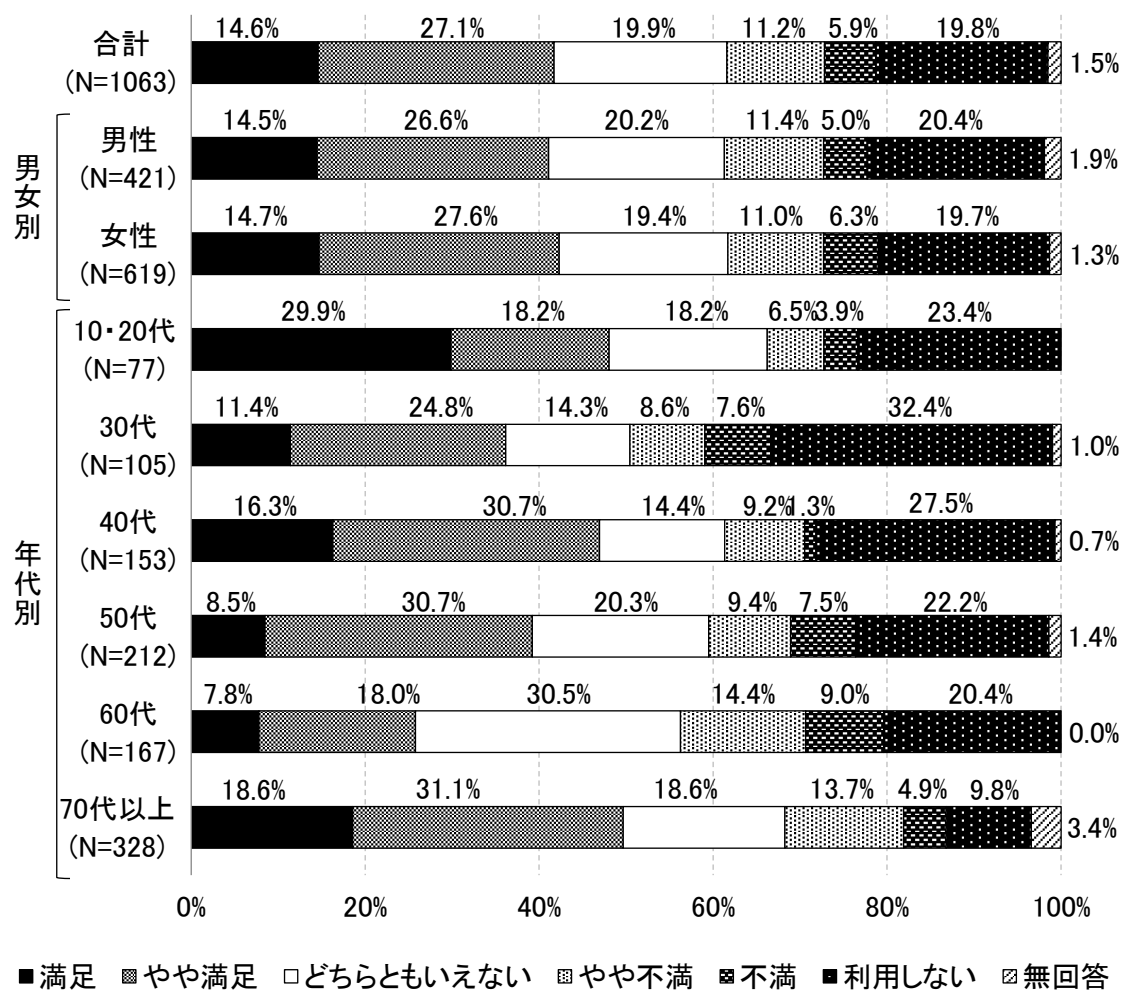


図37 Q19I 交通手段満足度（バス：路線・系統）

Q19Jのバスのダイヤの満足度に関して、年代別で見ると、60代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。それ以外の年代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上で43.0%と最も高い。反対に、60代が24.0%と最も低い(図38)。

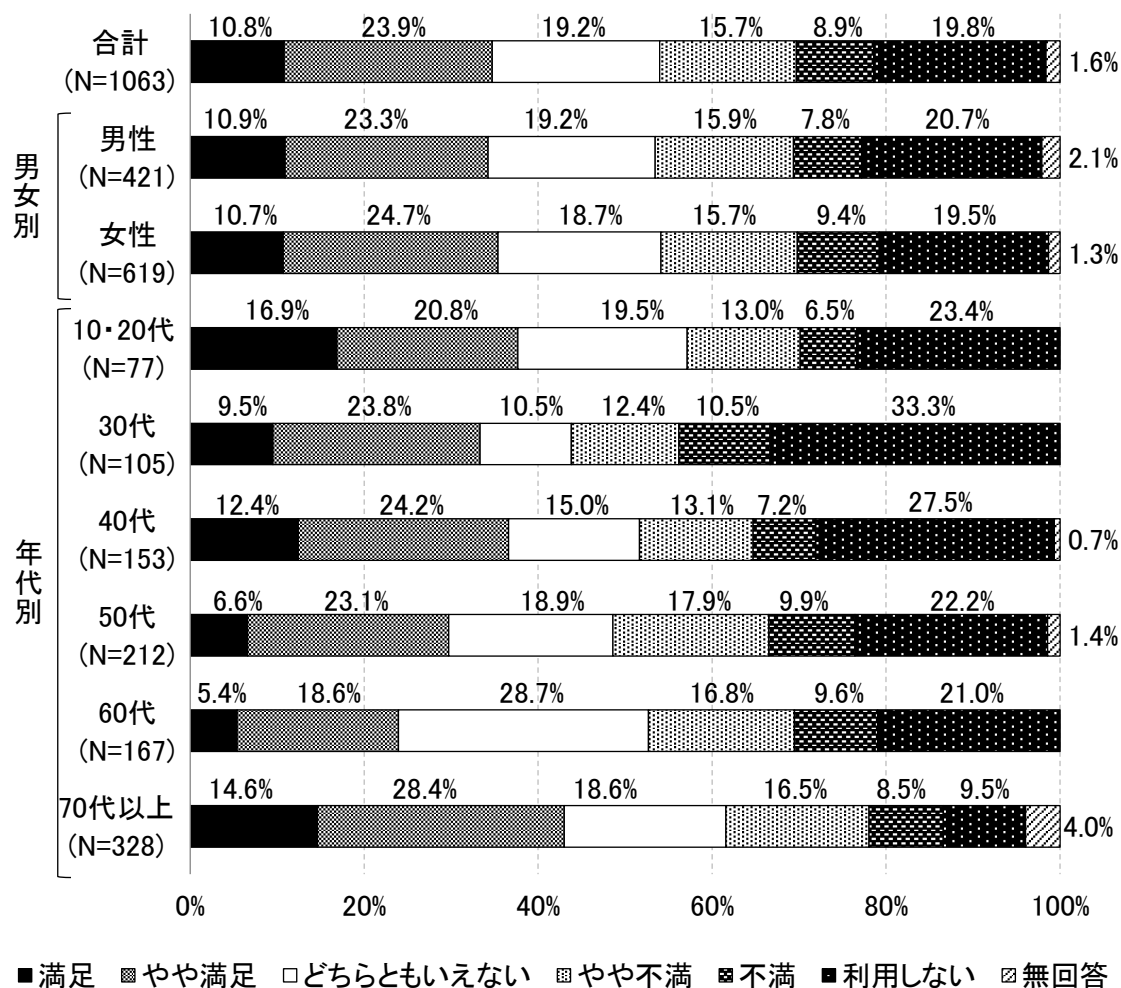


図 38 Q19J 交通手段満足度 (バス:ダイヤ)

Q19Kのバス停の満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上が51.2%と最も高い。反対に30代が33.3%と最も低い(図39)。

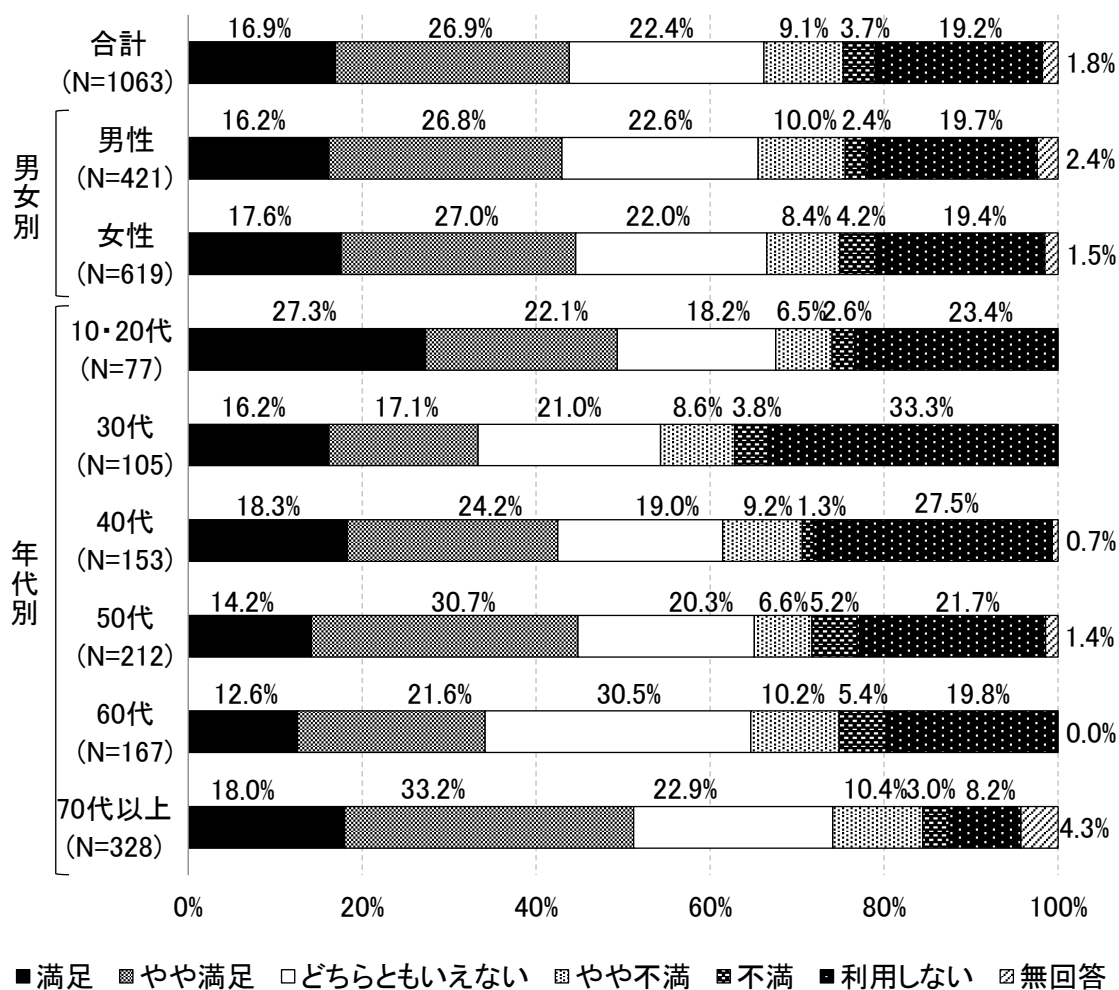


図 39 Q19K 交通手段満足度 (バス:バス停)

Q19Lのバスの乗り方の分かりやすさの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は70代以上で56.1%と最も高い。反対に、60代が33.0%と最も低い(図40)。

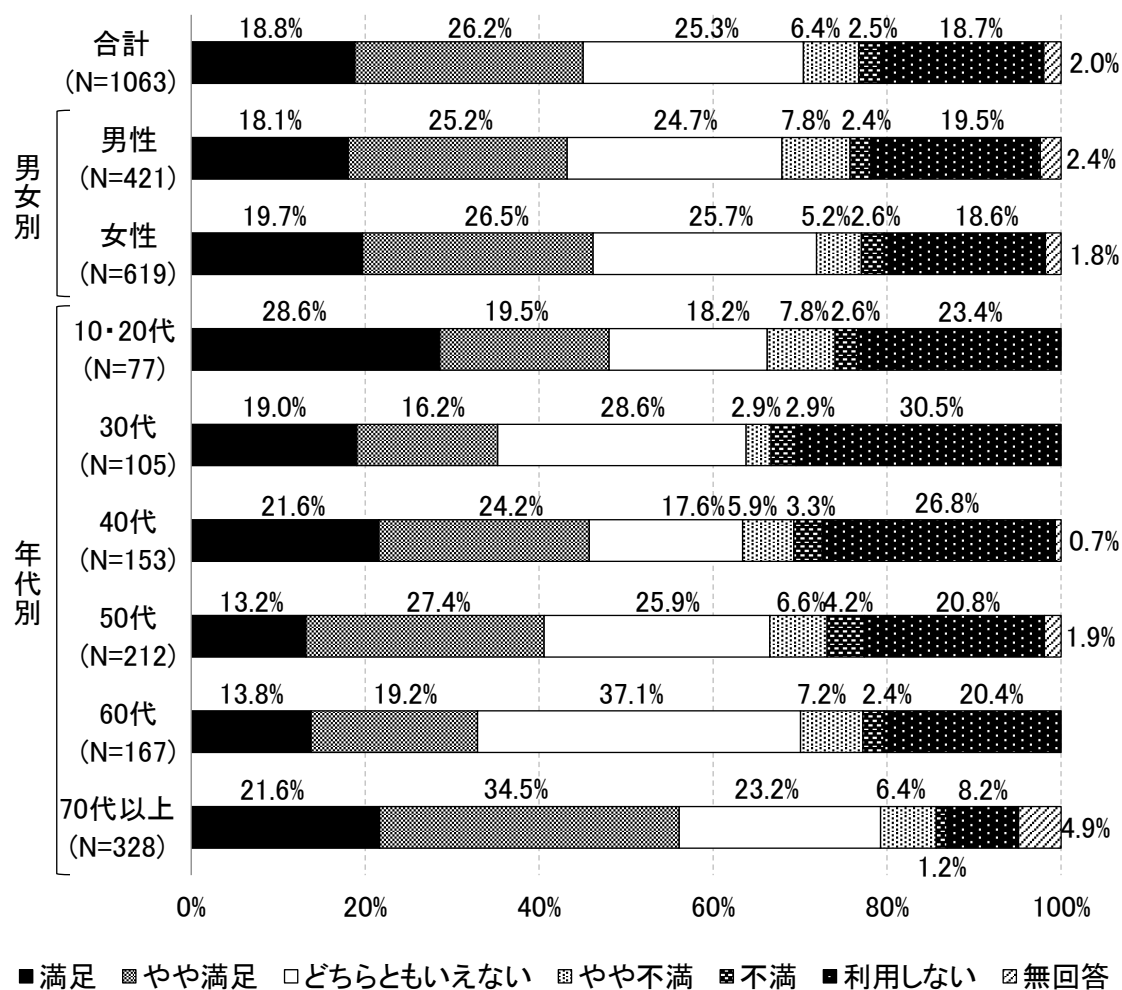


図40 Q19L 交通手段満足度 (バス：乗り方の分かりやすさ)

Q19M の鉄道の駅の使いやすさの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代が76.7%と最も高い。反対に60代が59.9%と最も低い(図41)。

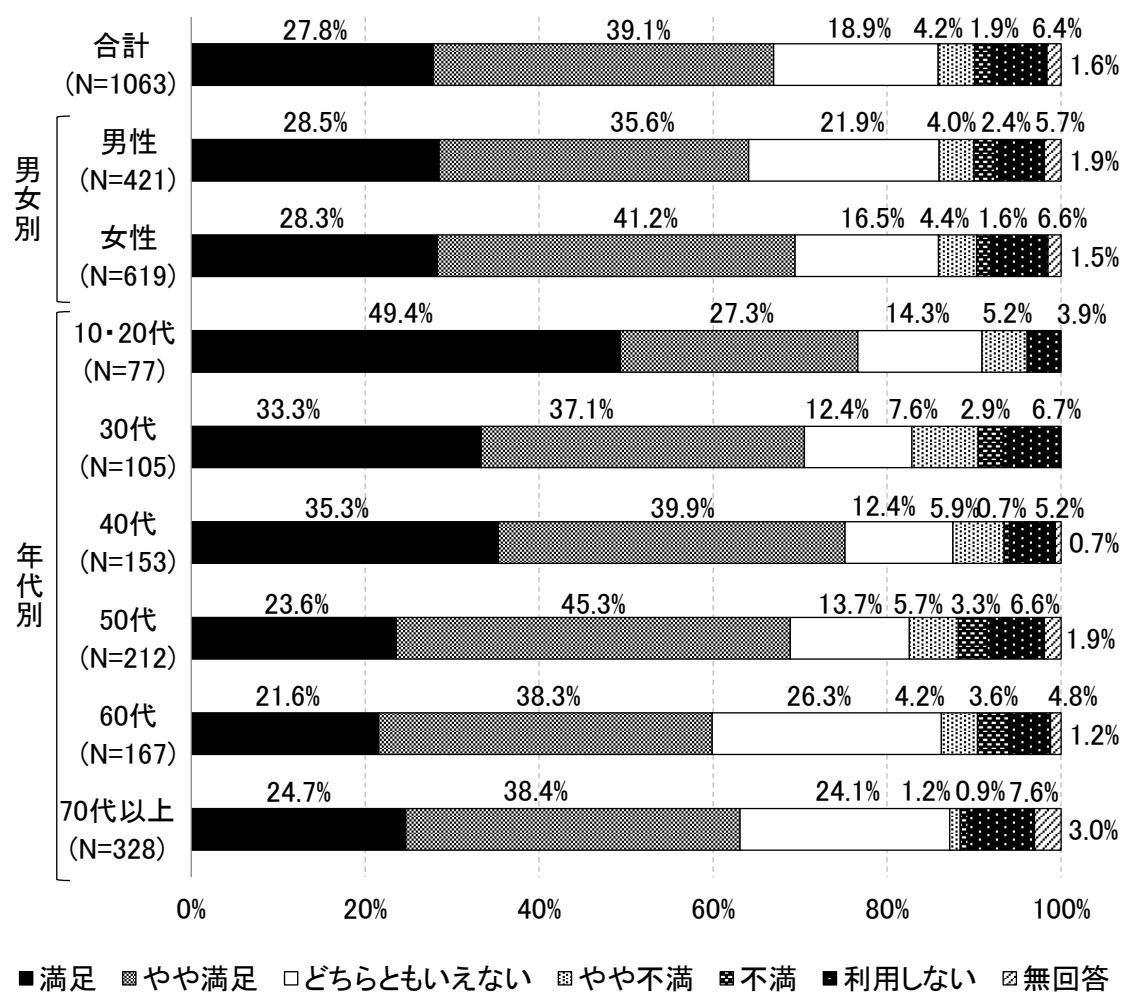


図41 Q19M 交通手段満足度 (鉄道：駅の使いやすさ)

Q19Nの鉄道の列車ダイヤの満足度に関して、年代別で見ると、すべての年代で、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は40代が76.4%と最も高い。反対に、70代以上が61.0%と最も低い(図42)。

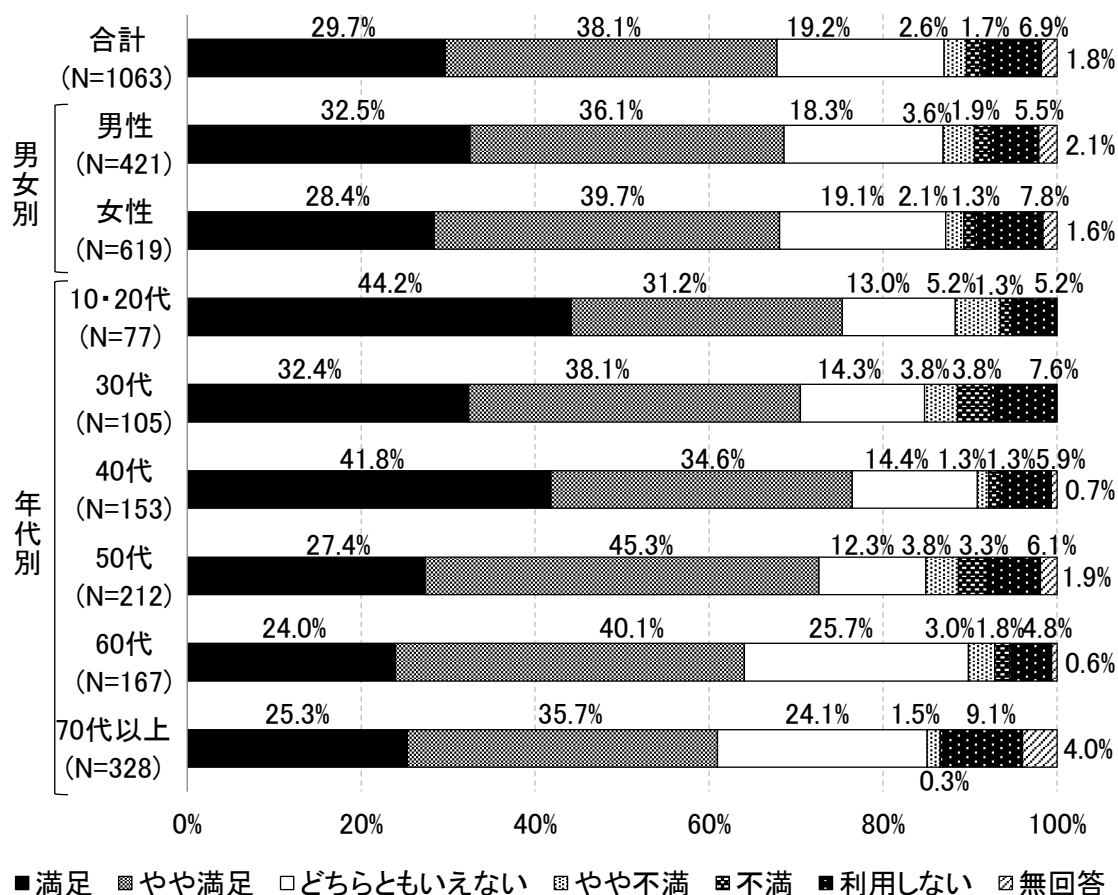


図 42 Q19N 交通手段満足度 (鉄道：列車ダイヤ)

Q190の自動車が通行する道路の整備状況の満足度に関して、年代別で見ると、60代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。それ以外の年代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合の方が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は40代が41.2%と最も高い。反対に、60代が18.6%と最も低い(図43)。

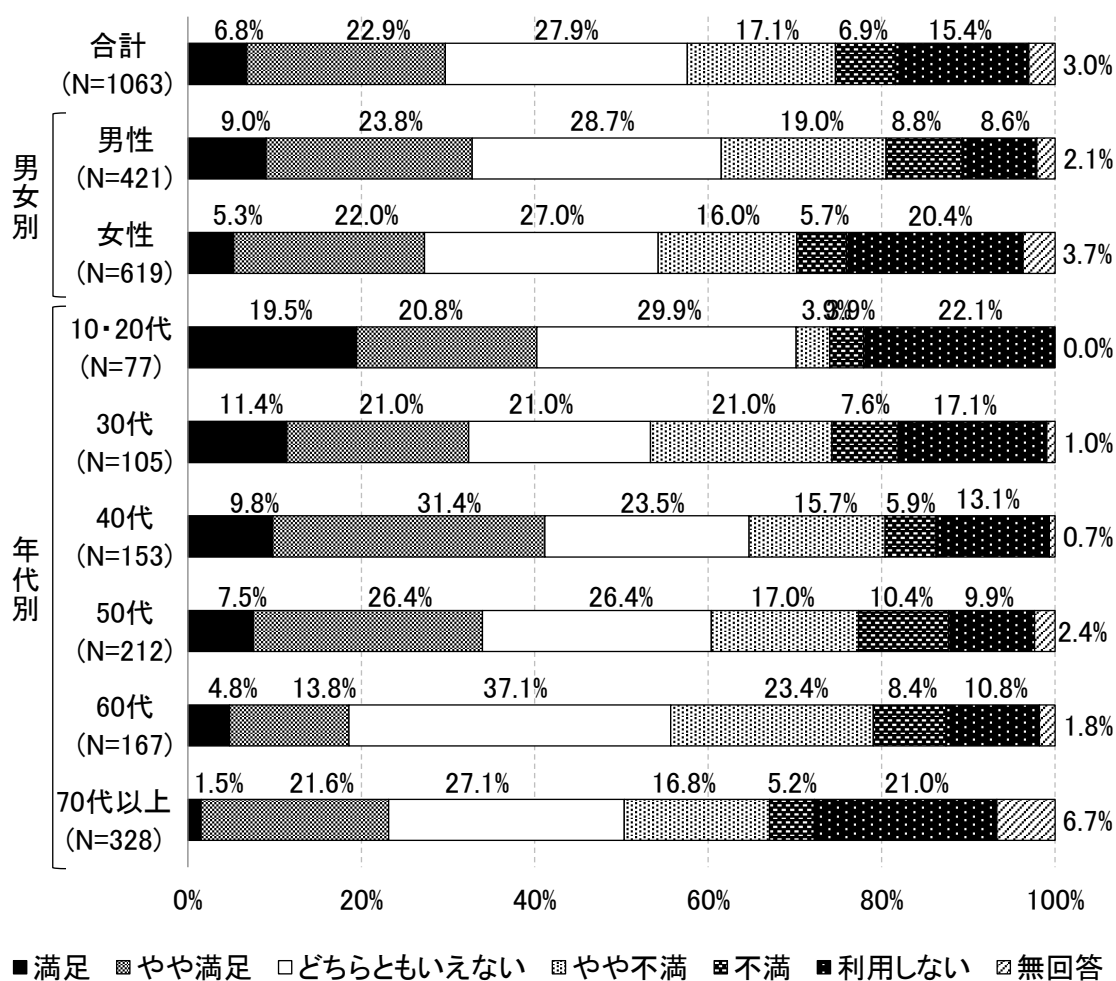


図43 Q190 交通手段満足度 (自動車：道路の整備の状況)

Q19Pの自動車の駐車場の満足度に関して、年代別で見ると、10・20代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合の方が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。それ以外の年代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は60代が32.4%と最も高い。反対に、10・20代が13.0%と最も低い(図44)。

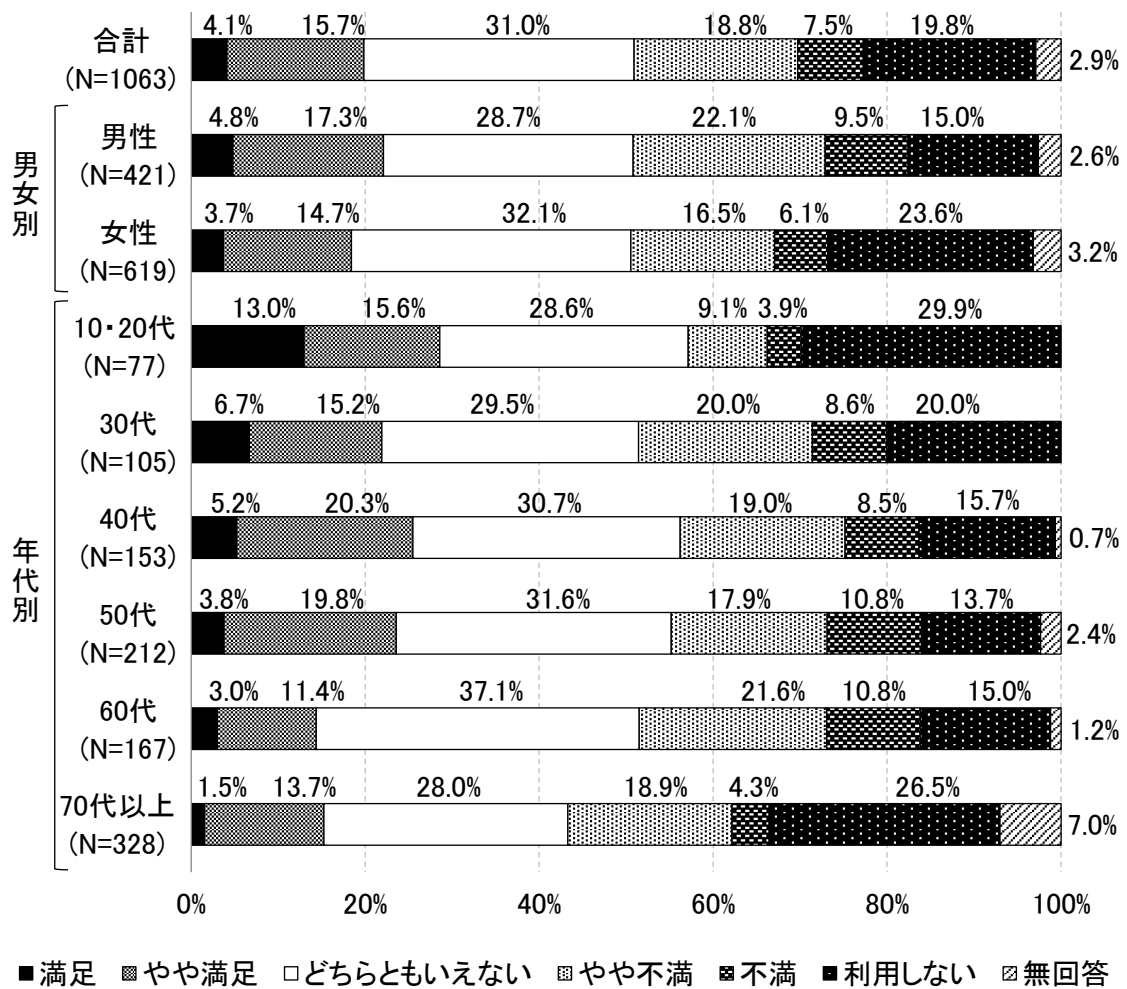


図44 Q19P 交通手段満足度 (自動車：駐車場)

Q19Qのタクシーの利用しやすさの満足度に関して、年代別で見ると、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合は10・20代で26.0%と最も高い。反対に60代が12.0%と最も低い(図45)。

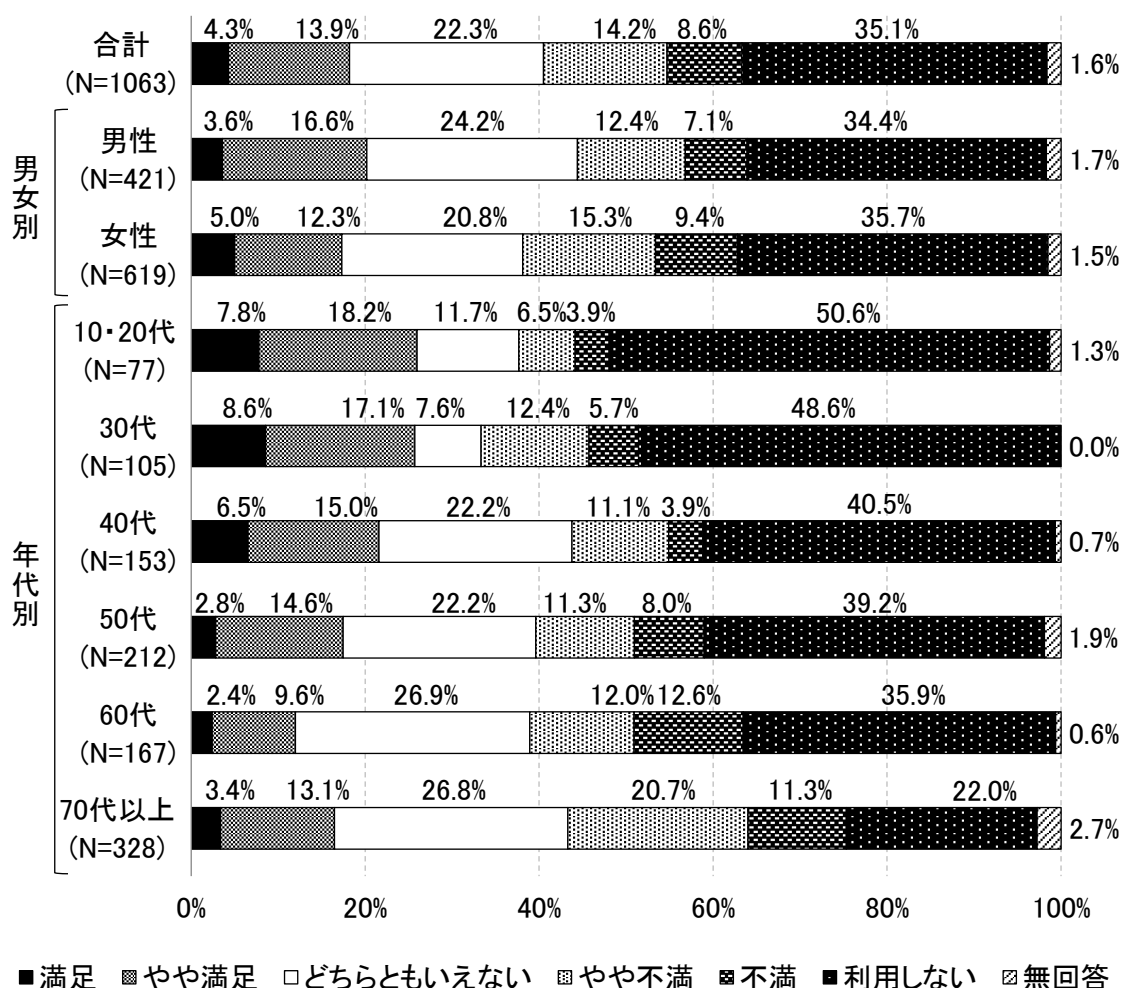


図45 Q19Q 交通手段満足度 (タクシー：利用しやすさ)

Q19Rの駅前広場の満足度に関して、年代別で見ると、60代では、「不満」または「やや不満」と回答した人の割合の方が「満足」または「やや満足」と回答した人の割合よりも高い。それ以外の年代では、「満足」または「やや満足」と回答した人の割合の方が「不満」または「やや不満」と回答した人の割合よりも高い。「不満」または「やや不満」と回答した人の割合は60代が24.6%と最も高い。反対に、10・20代が13.0%と最も低い(図46)。

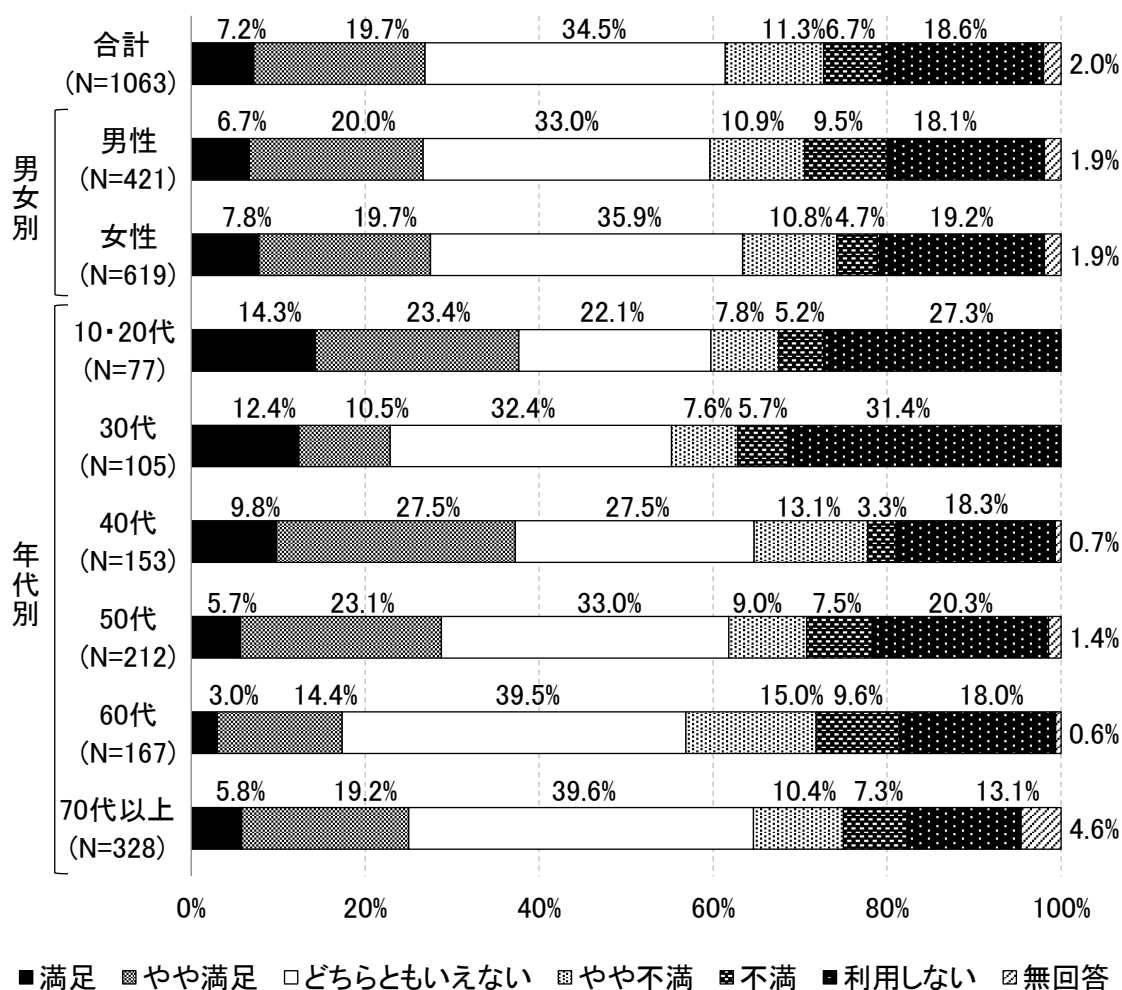


図 46 Q19R 交通手段満足度 (その他：駅前広場)

Q20 の「駅前広場」の満足度を回答した際に、どこかの「駅前」をイメージしたかに関して、「JR 高槻駅」が 69.4%で最も高く、「阪急高槻市駅」が 35.1%と続く（図 47）。

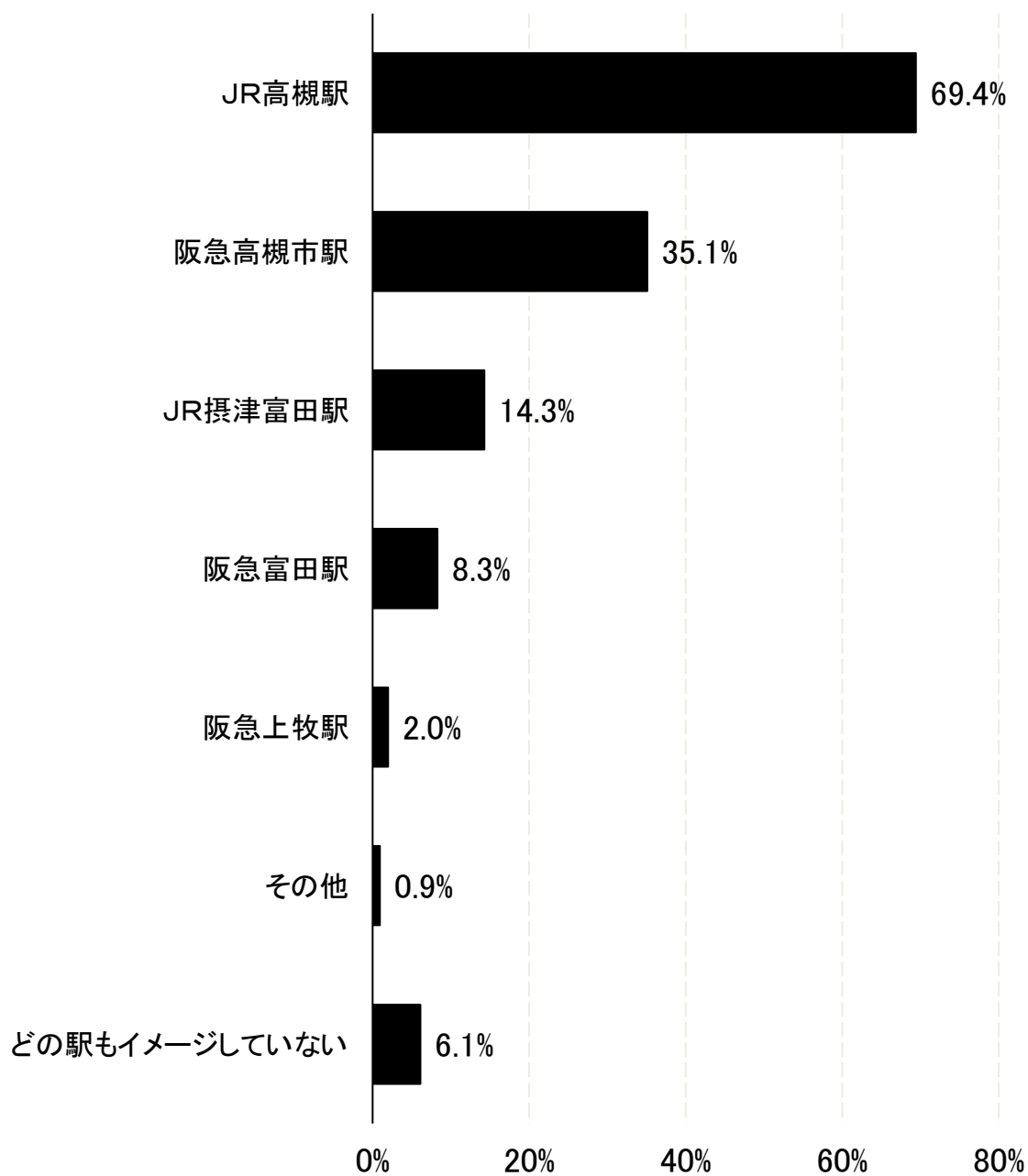


図 47 Q20 どこかの「駅前」をイメージしたか（複数回答・全体 N=1063）

Q20 のどこの「駅前」をイメージしたかに関して、男女別で見ると、「JR 高槻駅」は、男性よりも女性の方が 8.6 ポイント高い（図 48）。

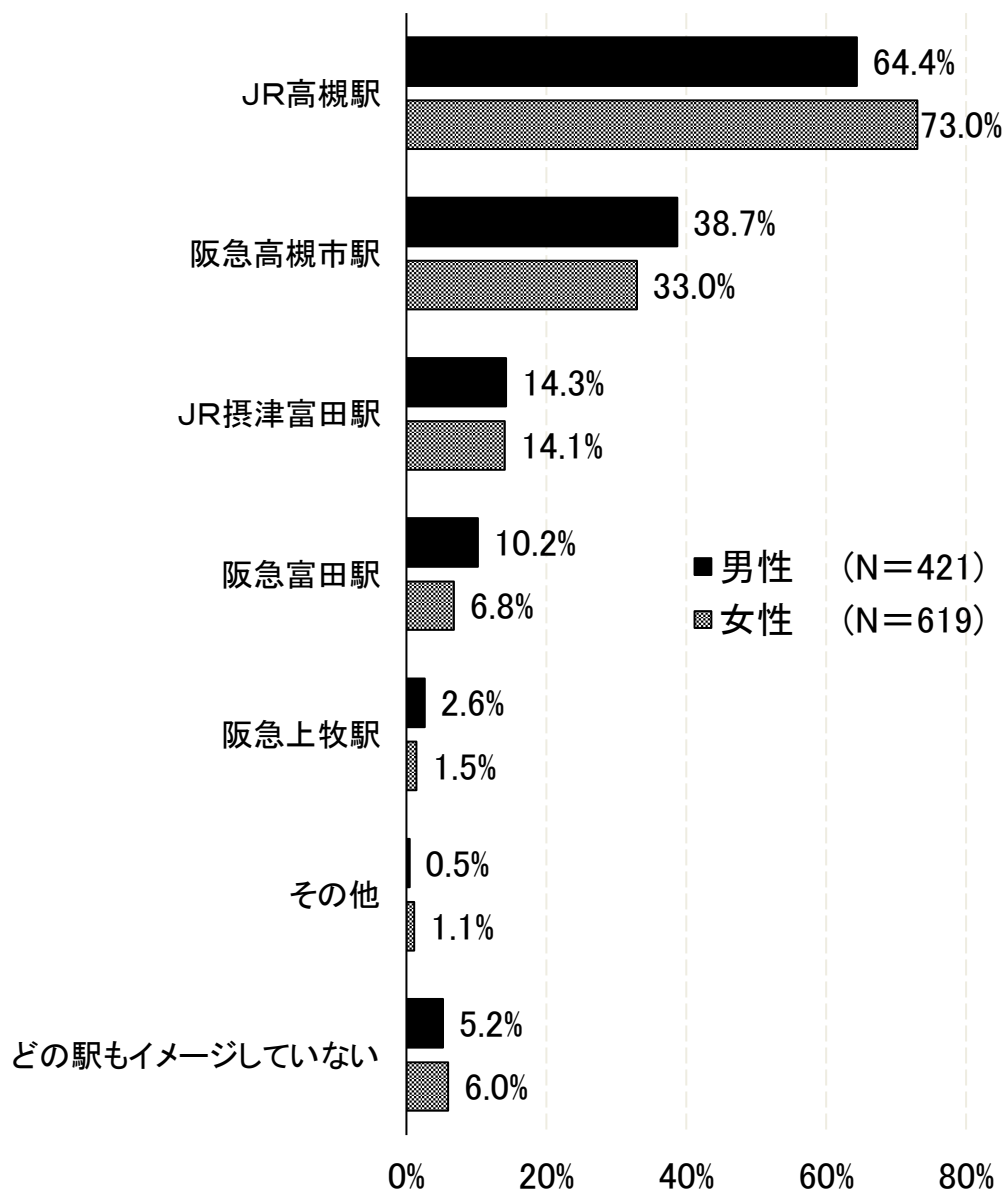


図 48 Q20 どの「駅前」をイメージしたか（複数回答・男女別）

Q20 のどこの「駅前」をイメージしたかに関して、年代別で見ると、「JR 高槻駅」は、40代が 75.2%と最も高く、反対に 30代は 65.7%と最も低い（図 49）。

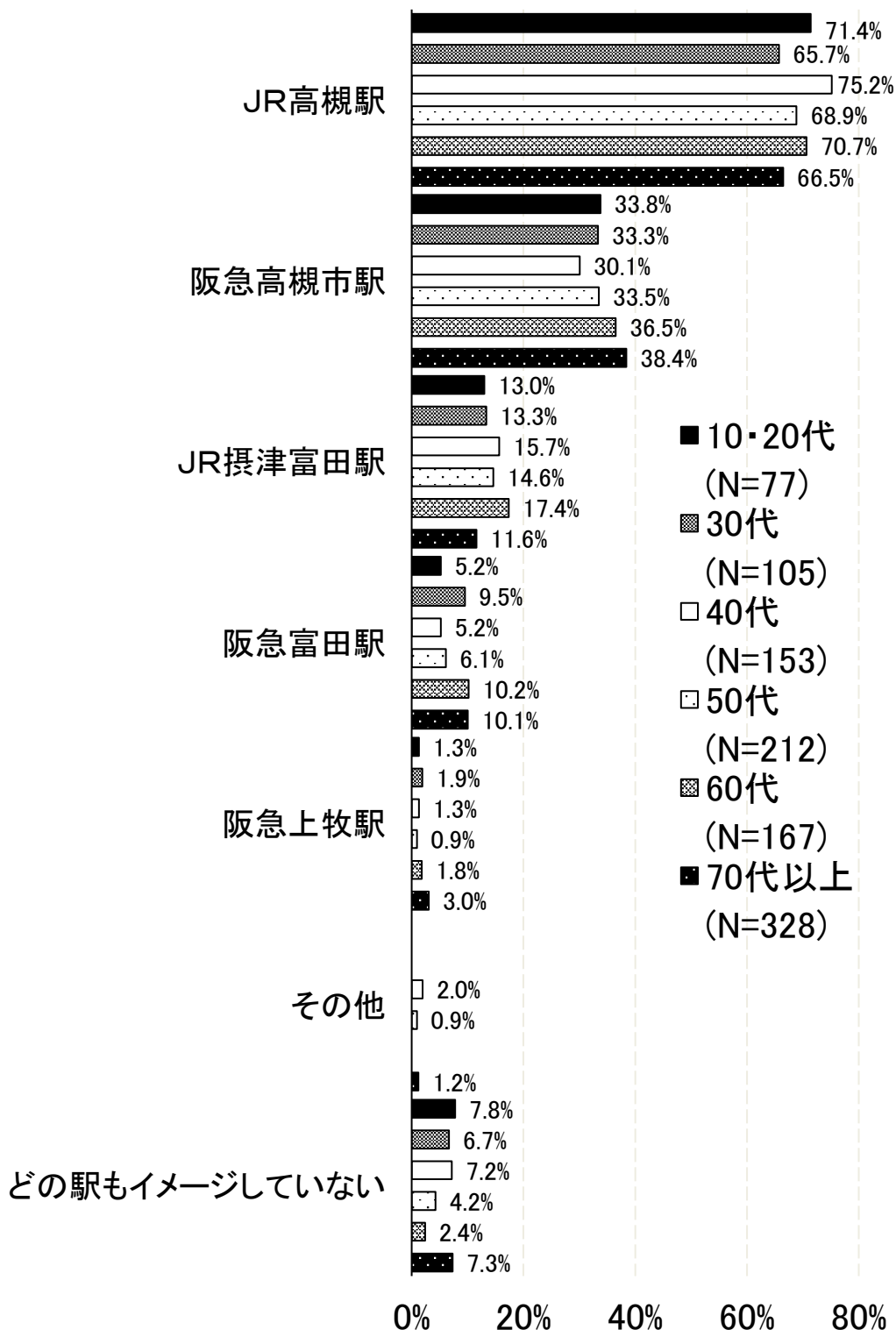


図 49 Q20 どの「駅前」をイメージしたか（複数回答・年代別）

Q21 の高槻市の歴史遺産や施設についてご存知かに関して、「安満遺跡（安満遺跡公園）」が 81.4%で最も高く、「高槻城跡（高槻城公園）」が 76.2%と続く（図 50）。

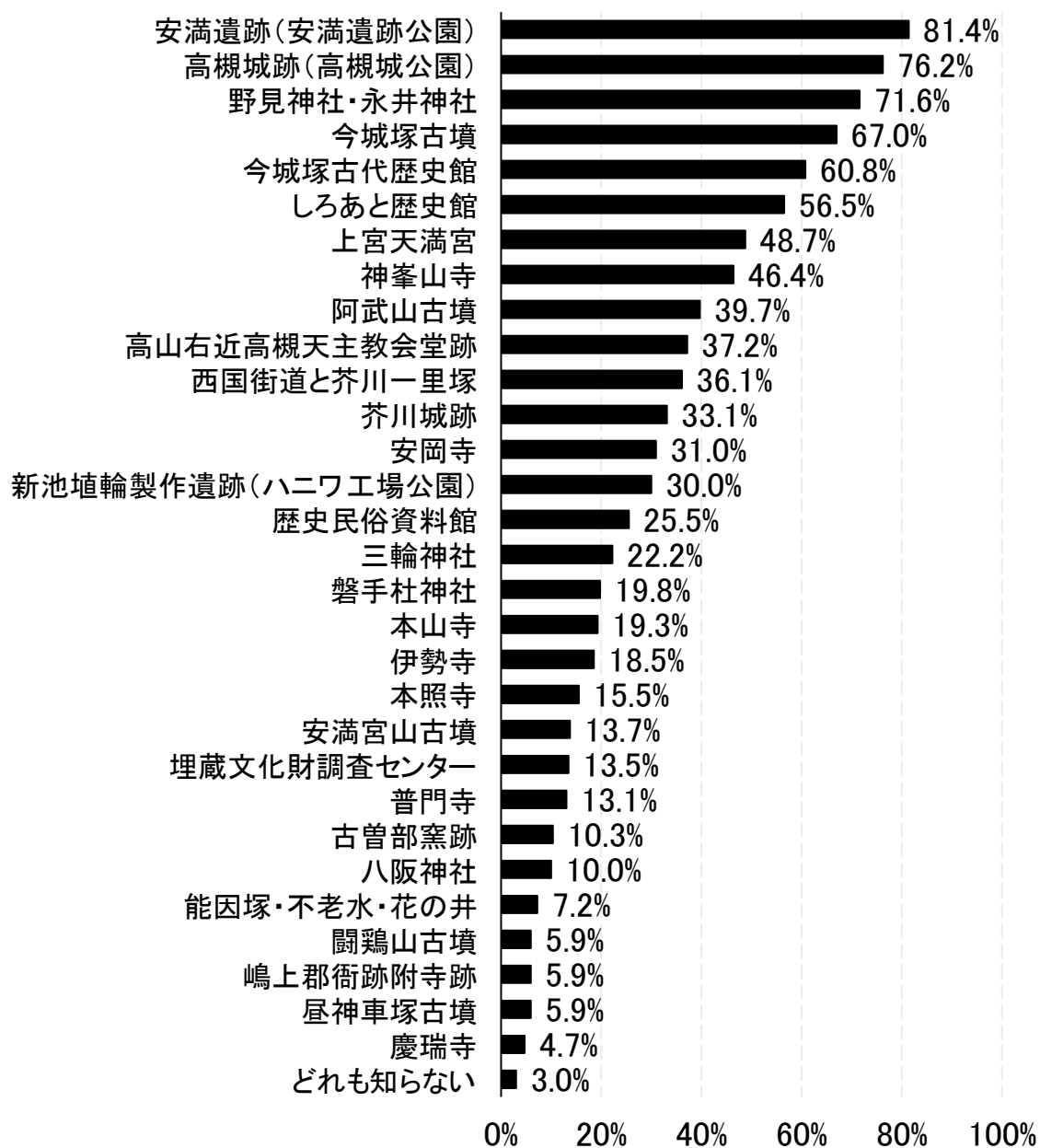


図 50 Q21 歴史遺産や施設についてご存知か（複数回答・全体 N=1063）

Q21 の高槻市の歴史遺産や施設についてご存知かに関して、男女別で見ると、「野見神社・永井神社」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 11.3 ポイント高い（図 51）。

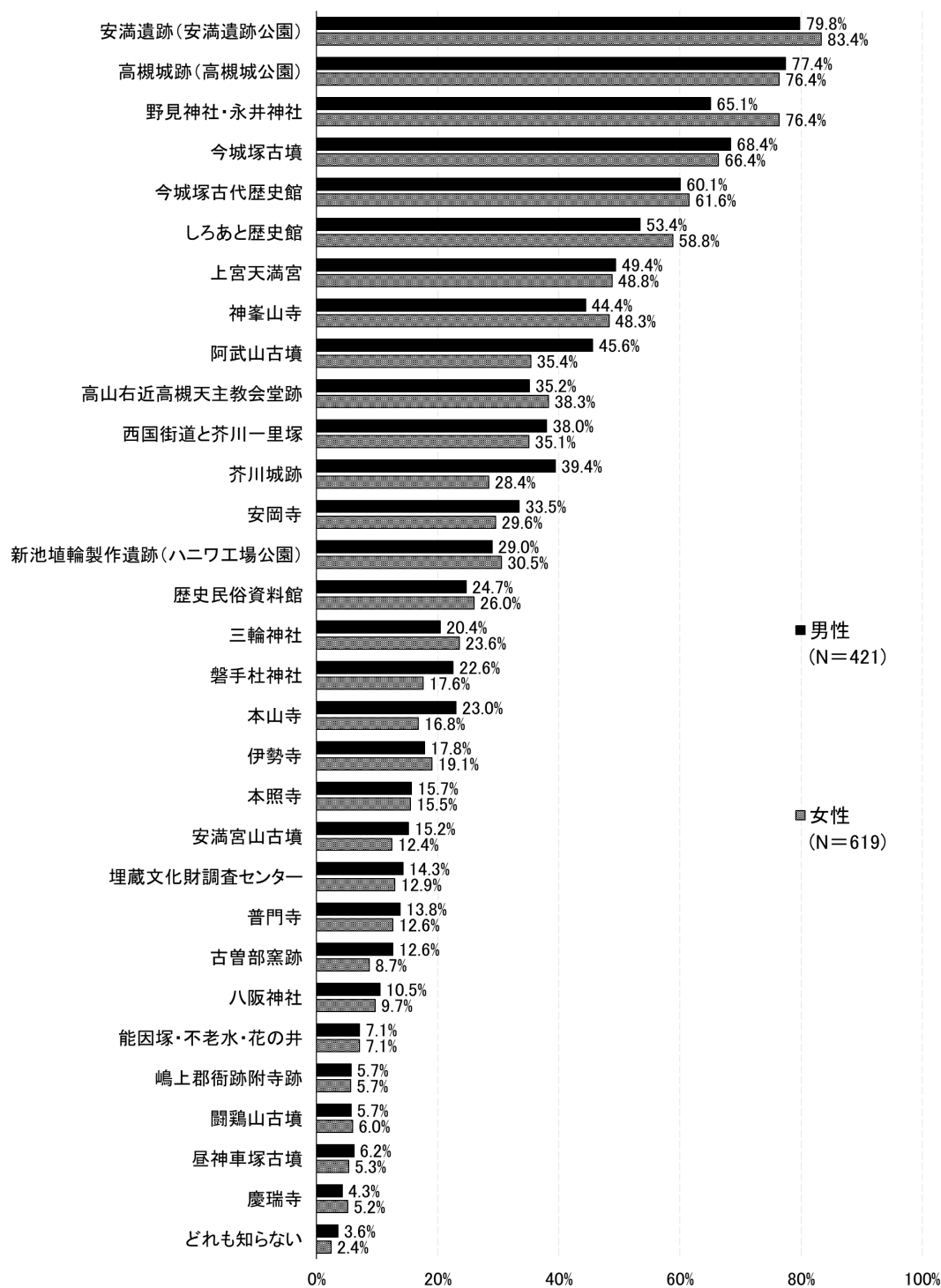


図 51 Q21 歴史遺産や施設についてご存知か（複数回答・男女別）

Q21 の高槻市の歴史遺産や施設についてご存知かに関して、年代別で見ると、「安満遺跡（安満遺跡公園）」は年代で差があり、30代が90.5%と最も高く、反対に70代以上は72.6%と最も低い（図 52）。

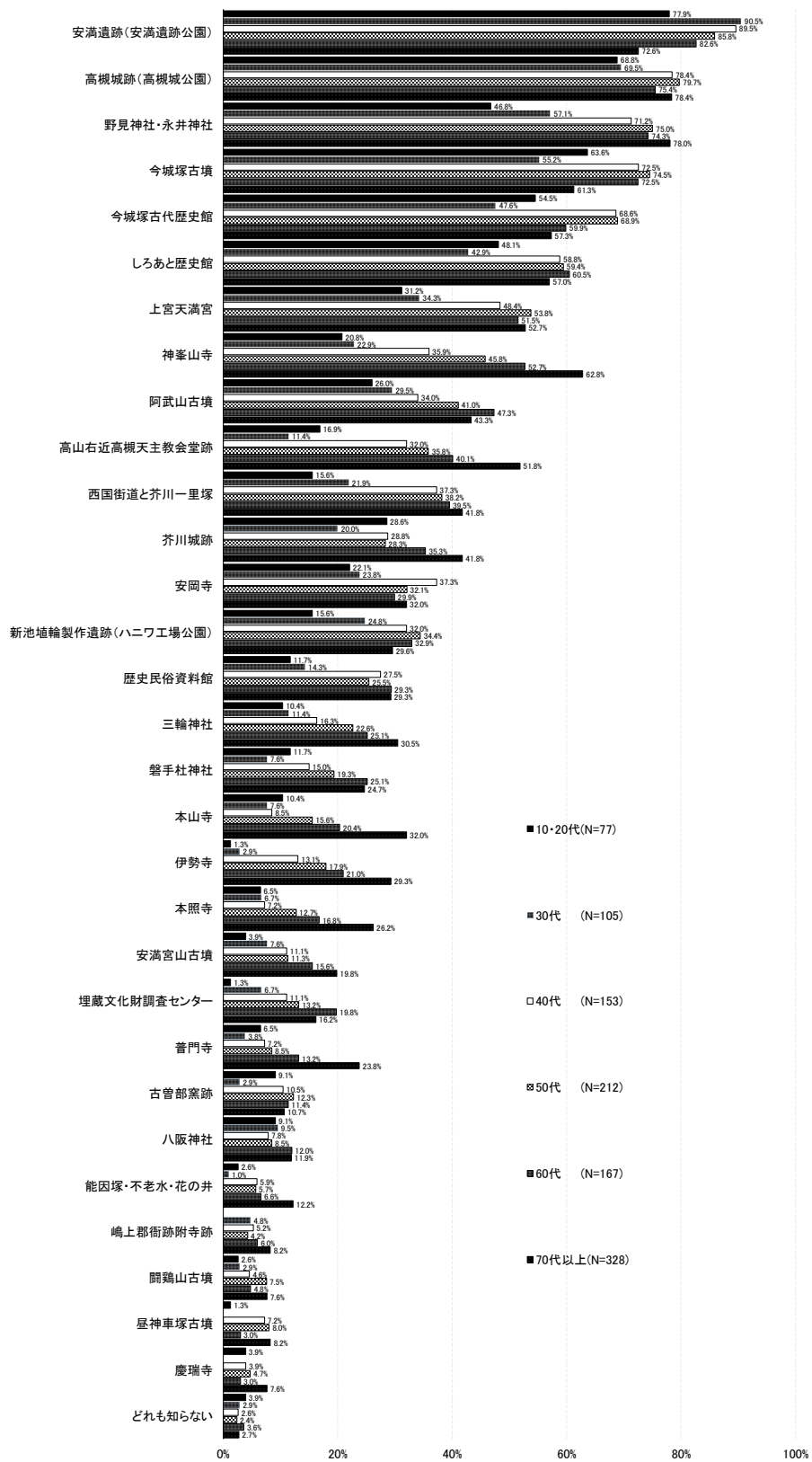


図 52 Q21 歴史遺産や施設についてご存知か（複数回答・年代別）

Q22 の最も身近な歴史遺産の訪問頻度に関して、男女別・年代別のすべての層で「年に数回」と回答した人が最も多い。年代別で見ると、60代の割合が52.7%と最も高く、反対に10・20代が32.5%と最も低い（図53）。

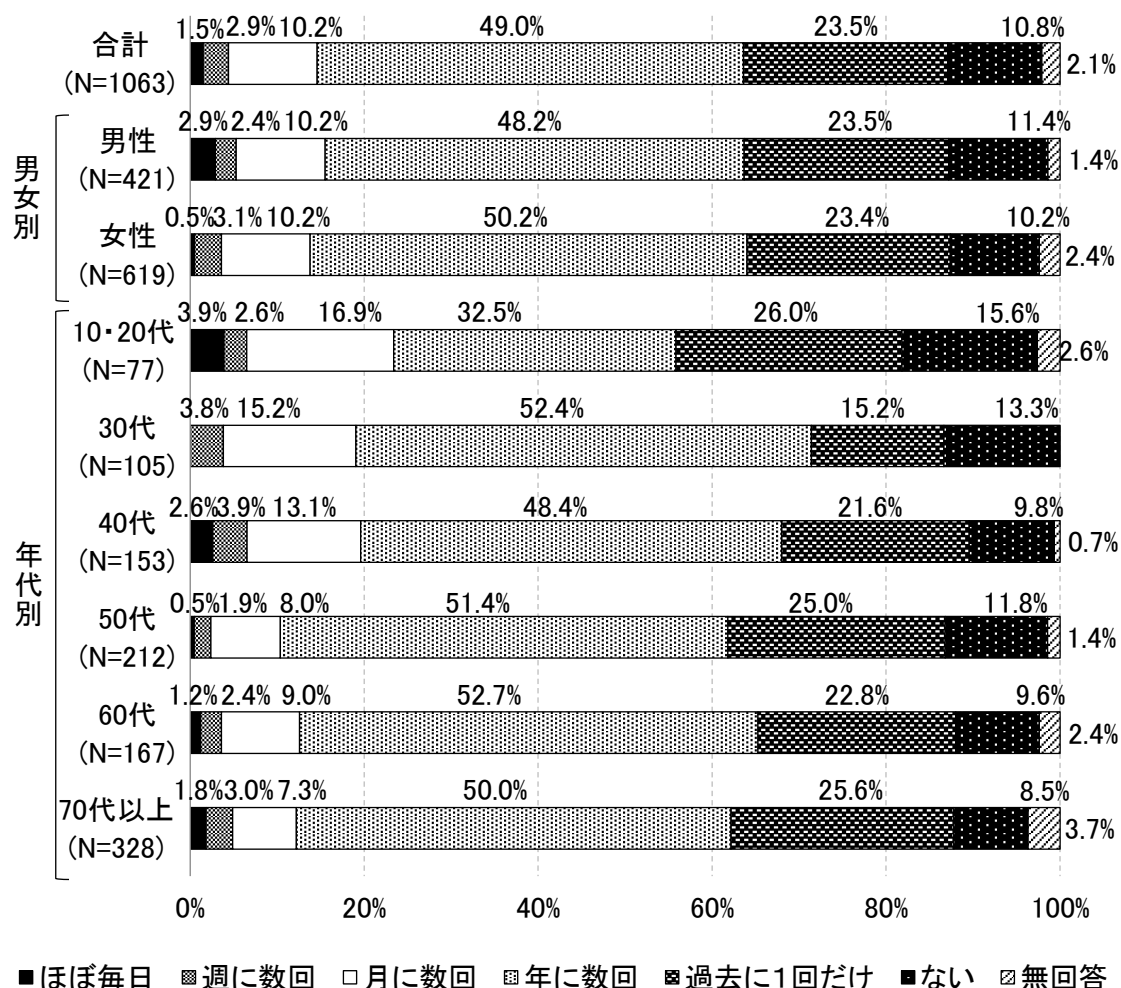


図53 Q22 最も身近な歴史遺産の訪問頻度

Q23 の歴史館・歴史資料館の訪問頻度に関して、年代別で見ると 30 代を除くすべての層で「過去に1回だけ」と回答した人の割合が最も高い。「年に数回」と回答した人の割合は 70 代以上が 33.5%と最も高く、反対に 10 代・20 代の 10.4%が最も低い（図 54）。

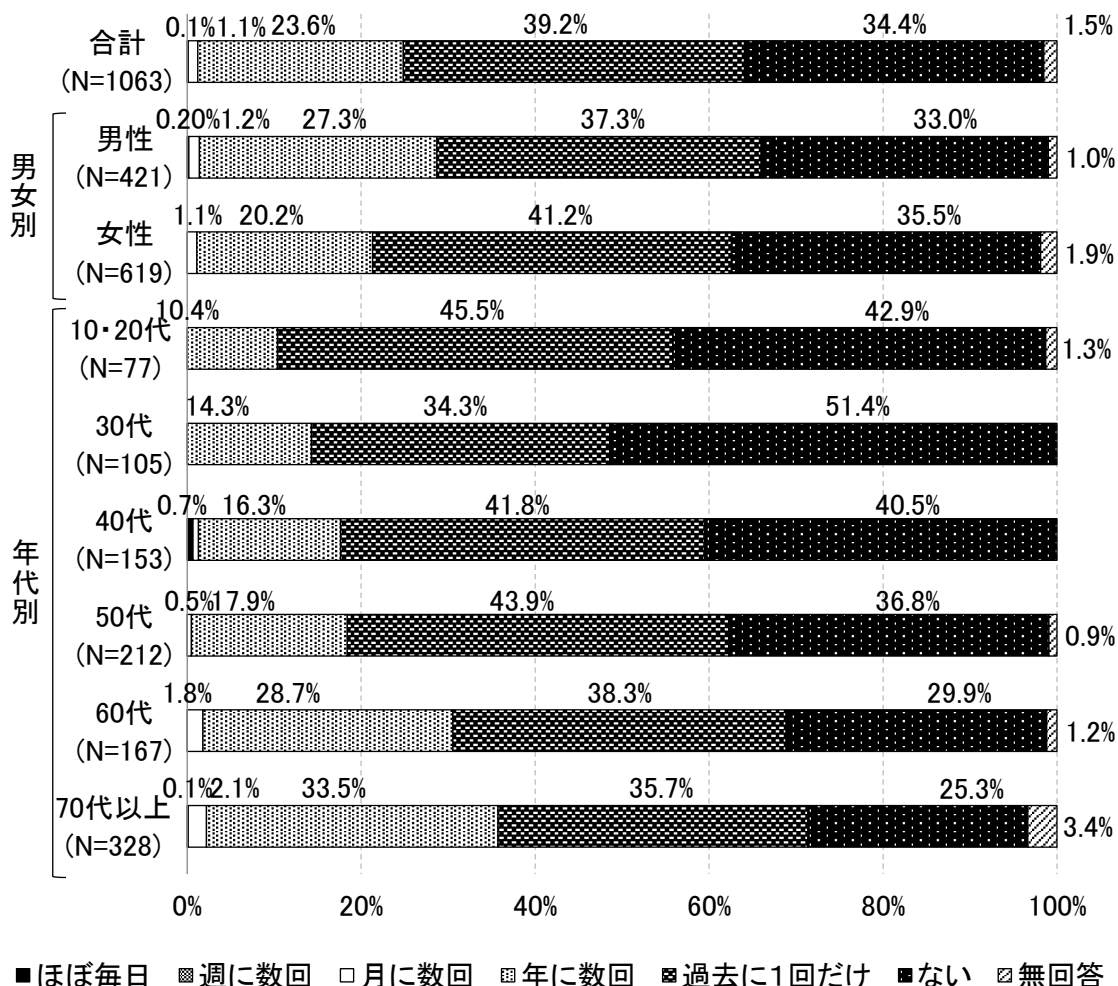
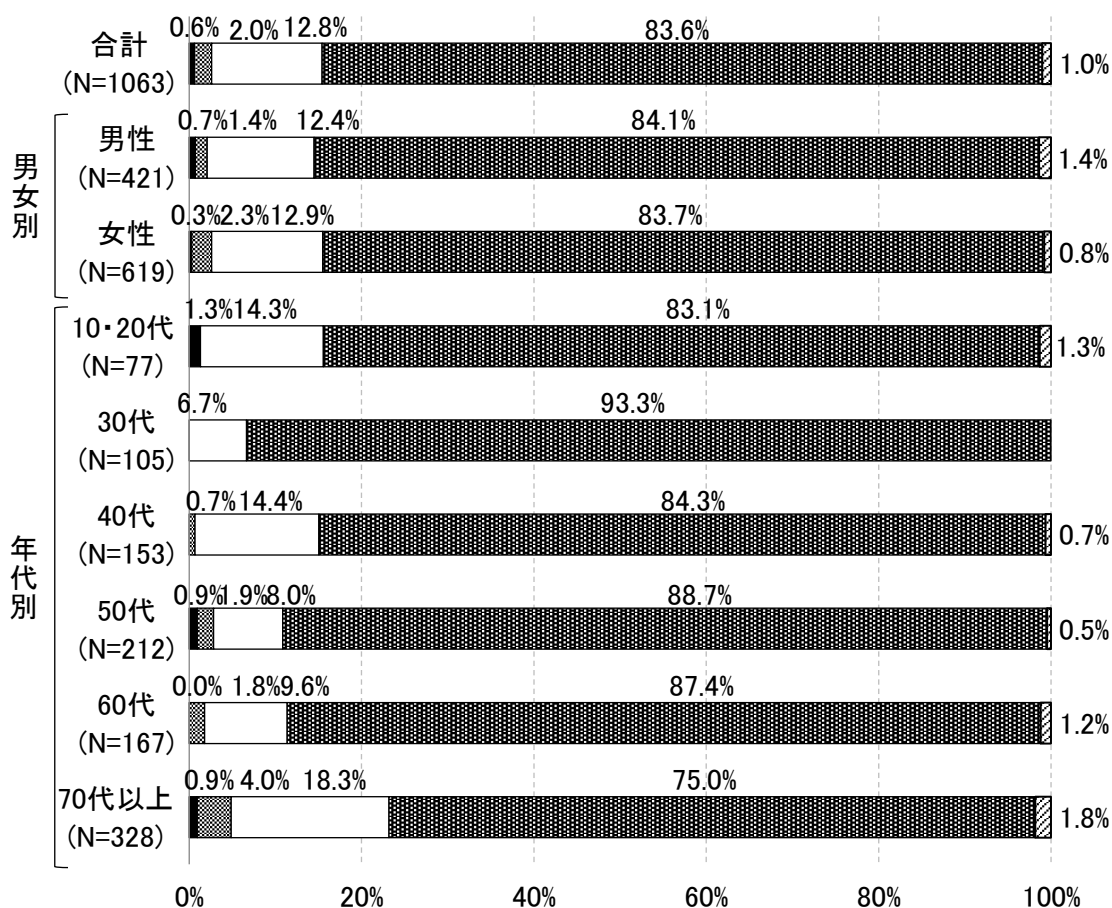


図 54 Q23 歴史館・歴史資料館の訪問頻度

Q24 の文化財の現地説明会・体験学習会の参加経験に関して、男女別・年代別のすべての層で「参加したことがない」と回答した人が 8 割以上である。年代別で見ると、「参加したことがある」と回答した人の割合は 70 代が 18.3%と最も高く、反対に 30 代が 6.7%と最も低い（図 55）。



■よく参加している ■たまに参加する □参加したことがある ■参加したことがない ▨無回答

図 55 Q24 文化財の現地説明会・体験学習会の参加経験

Q25 の高槻市の文化財や歴史資産についての情報を何から得ているかに関して、年代別で見ると、10・20代では、「家族や知人」と回答した人の割合の方が最も高い。それ以外の年代では、「市の広報誌」と回答した人が3割以上である。年代別で見ると、「市のホームページ」と回答した人の割合は60代が4.8%と最も高く、反対に40代が0.7%と最も低い(図56)。

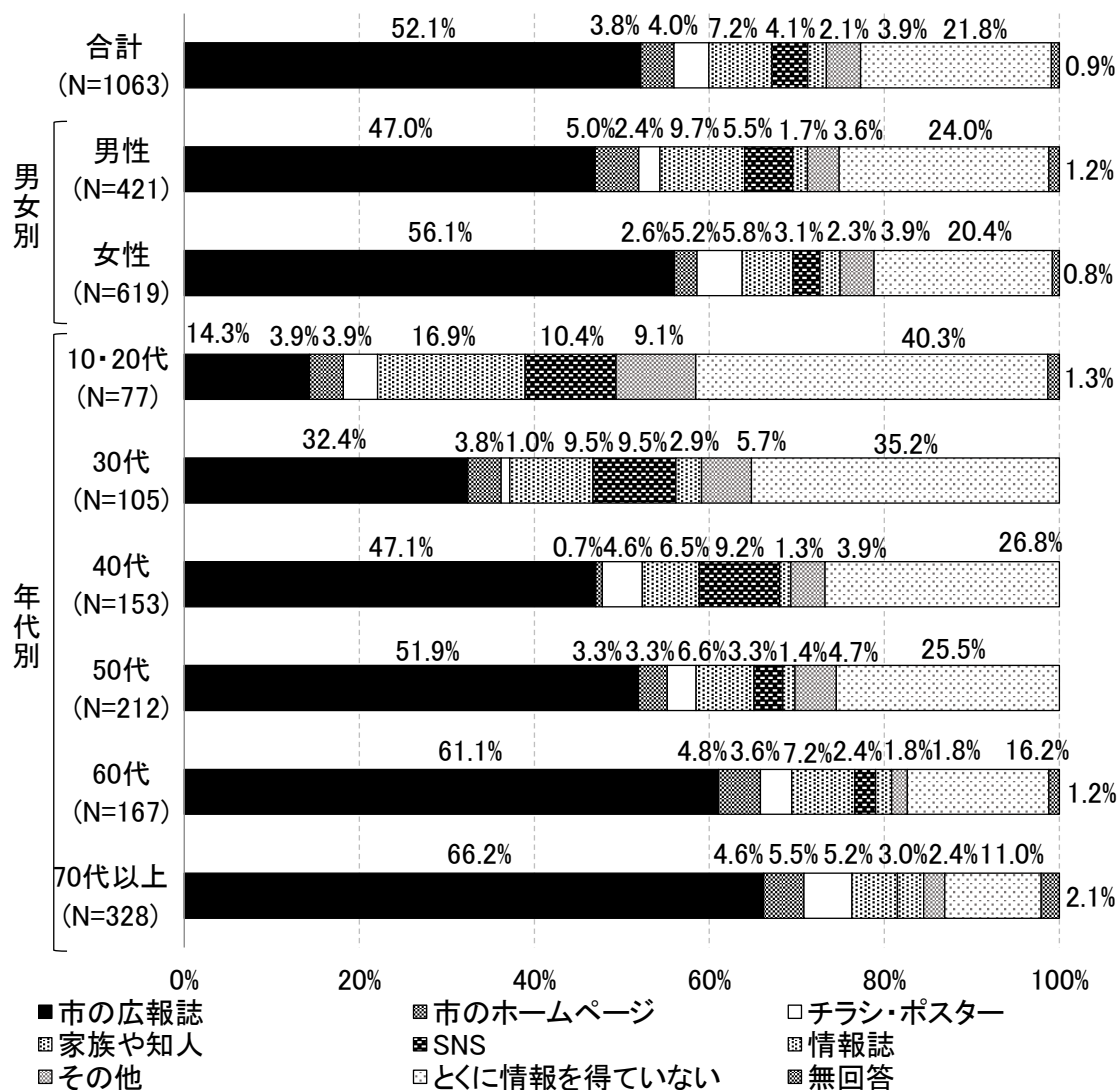


図 56 Q25 高槻市の文化財や歴史資産についての情報を何から得ている

Q26 摂津峡・三好山周辺を訪れた目的に関して、「花見(桜など)」が21.4%で最も高く、「ハイキング」が6.9%と続く(図57)。

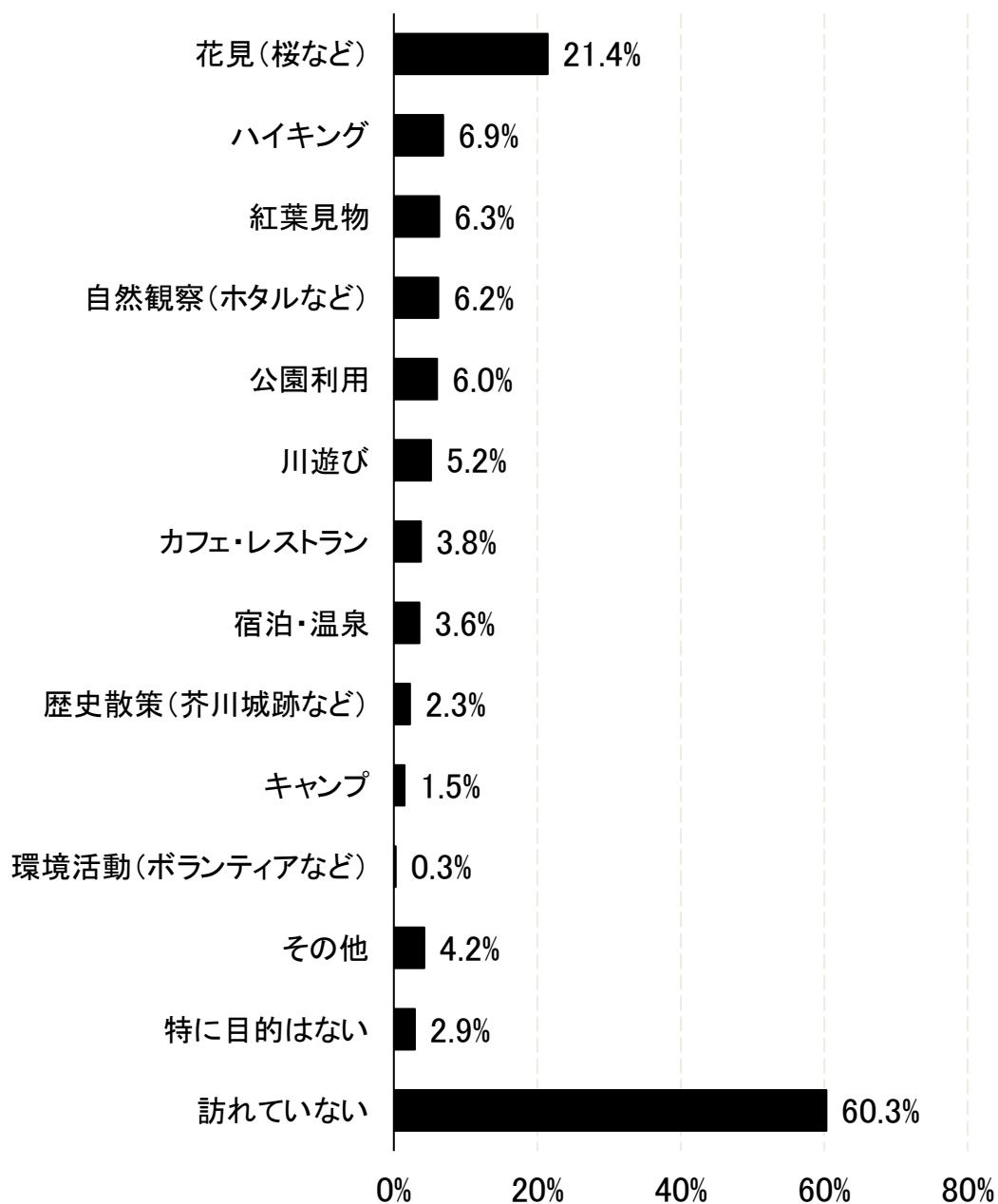


図57 Q26 摂津峡・三好山周辺を訪れた目的(複数回答・全体 N=1063)

Q26 の摂津峡・三好山周辺を訪れた目的に関して、男女差が大きい項目は「ハイキング」と「カフェ・レストラン」であり、「ハイキング」は男性の方が 3.8 ポイント高く、「カフェ・レストラン」は女性の方が 2.3 ポイント高い（図 58）。

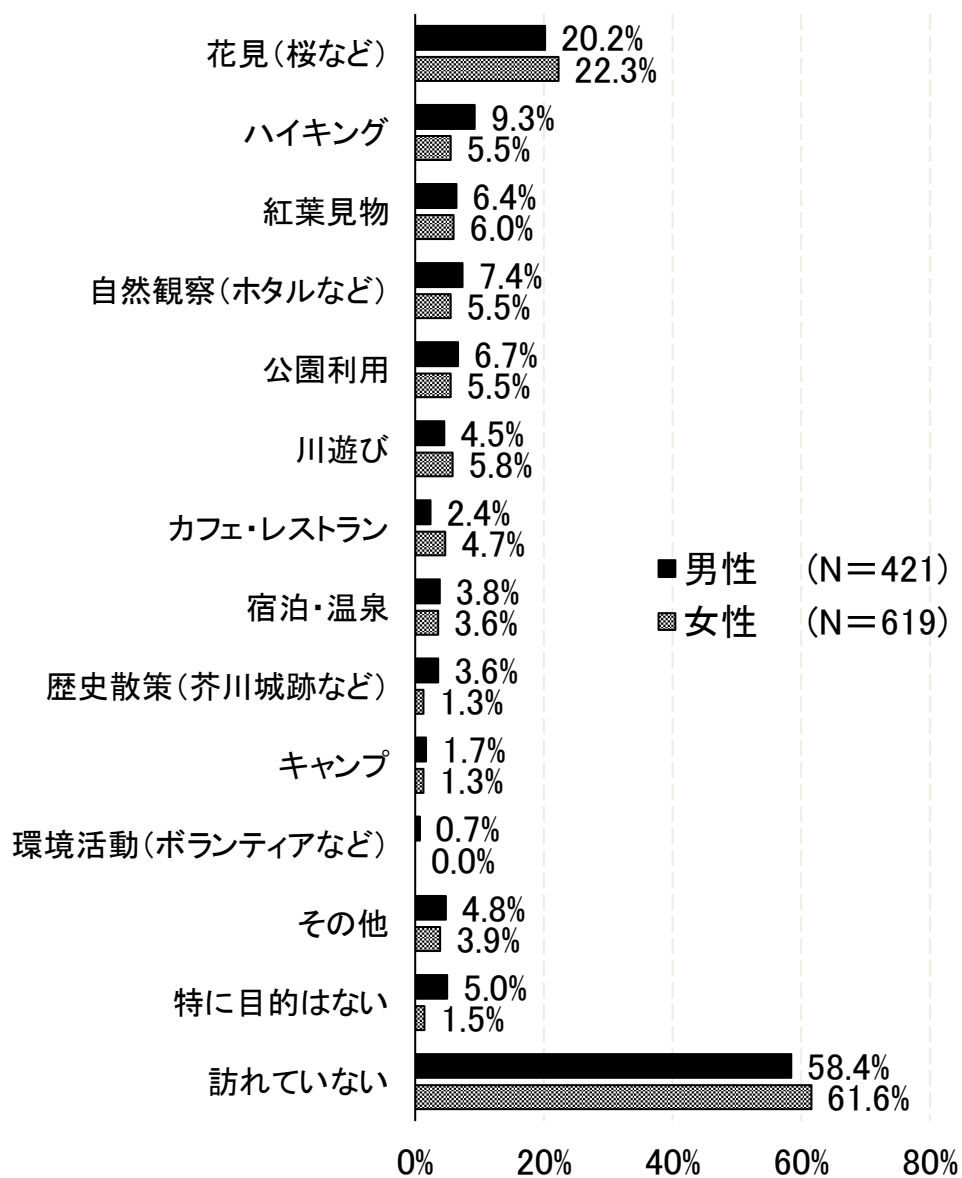


図 58 Q26 摂津峡・三好山周辺を訪れた目的（複数回答・男女別）

Q26 の摂津峡・三好山周辺を訪れた目的に関して、30代が最も高い項目が「自然観察(ホテルなど)」、「公園利用」、「川遊び」、「カフェ・レストラン」、「宿泊・温泉」の5項目となっている(図59)。

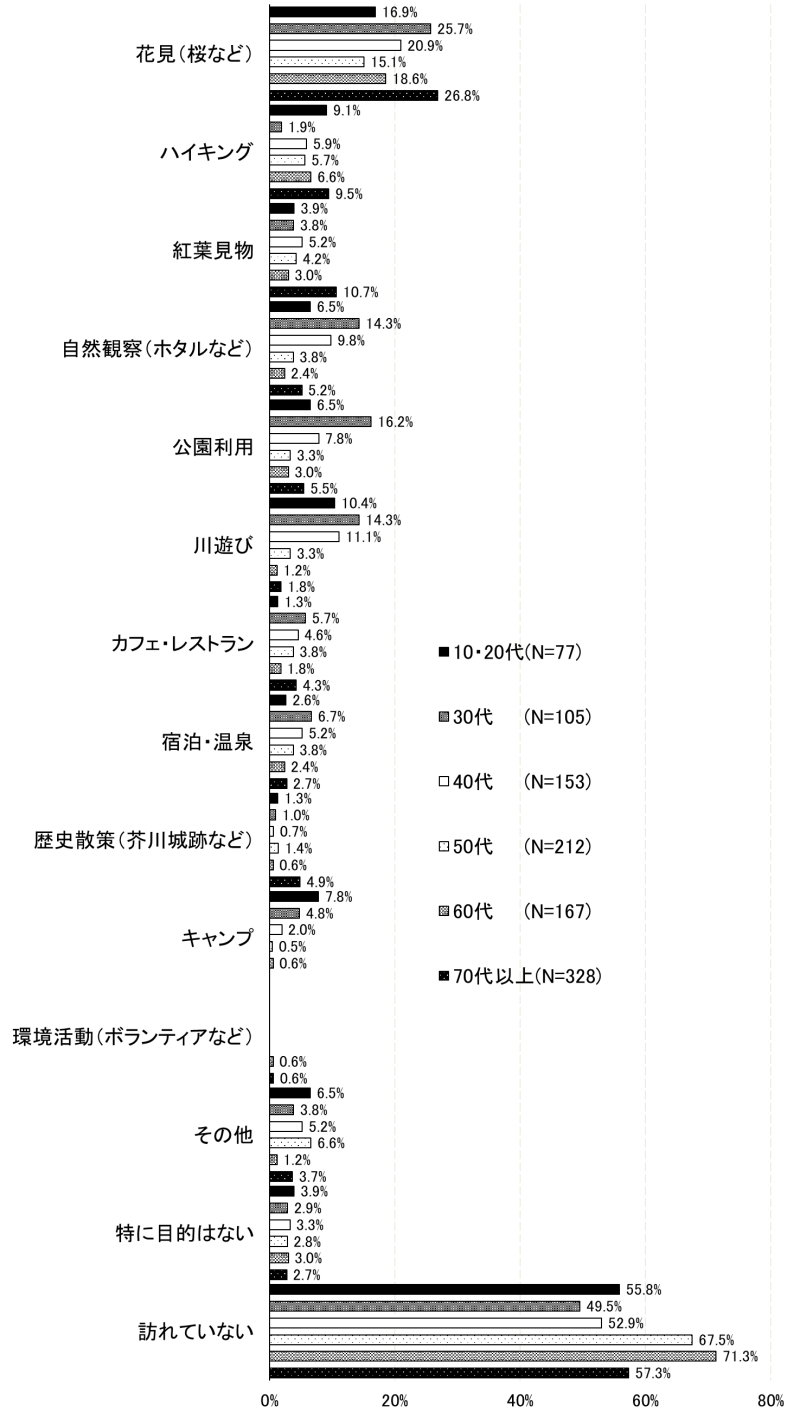
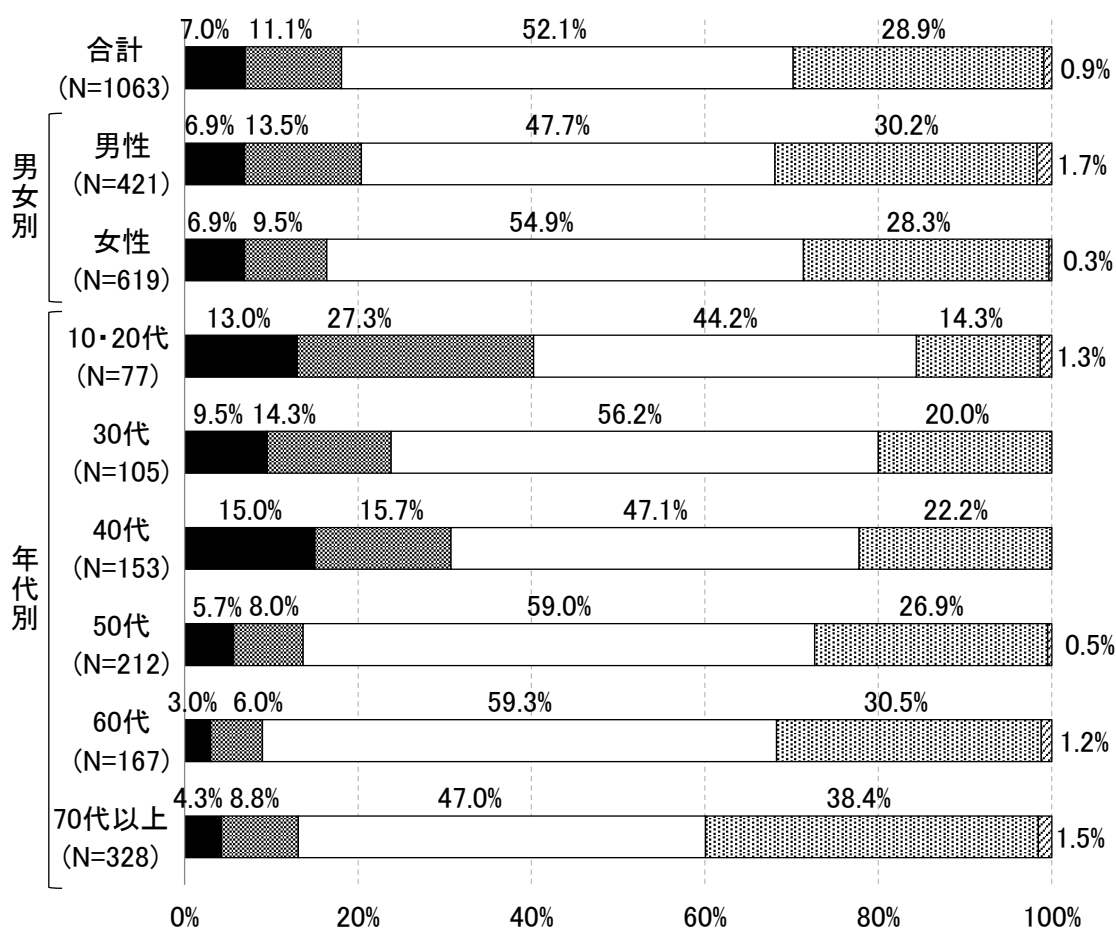


図 59 Q26 摂津峡・三好山周辺を訪れた目的(複数回答・年代別)

Q27A～Q27B が、高槻市内で行われているイベントにどのくらい参加したことあるかを質問している。

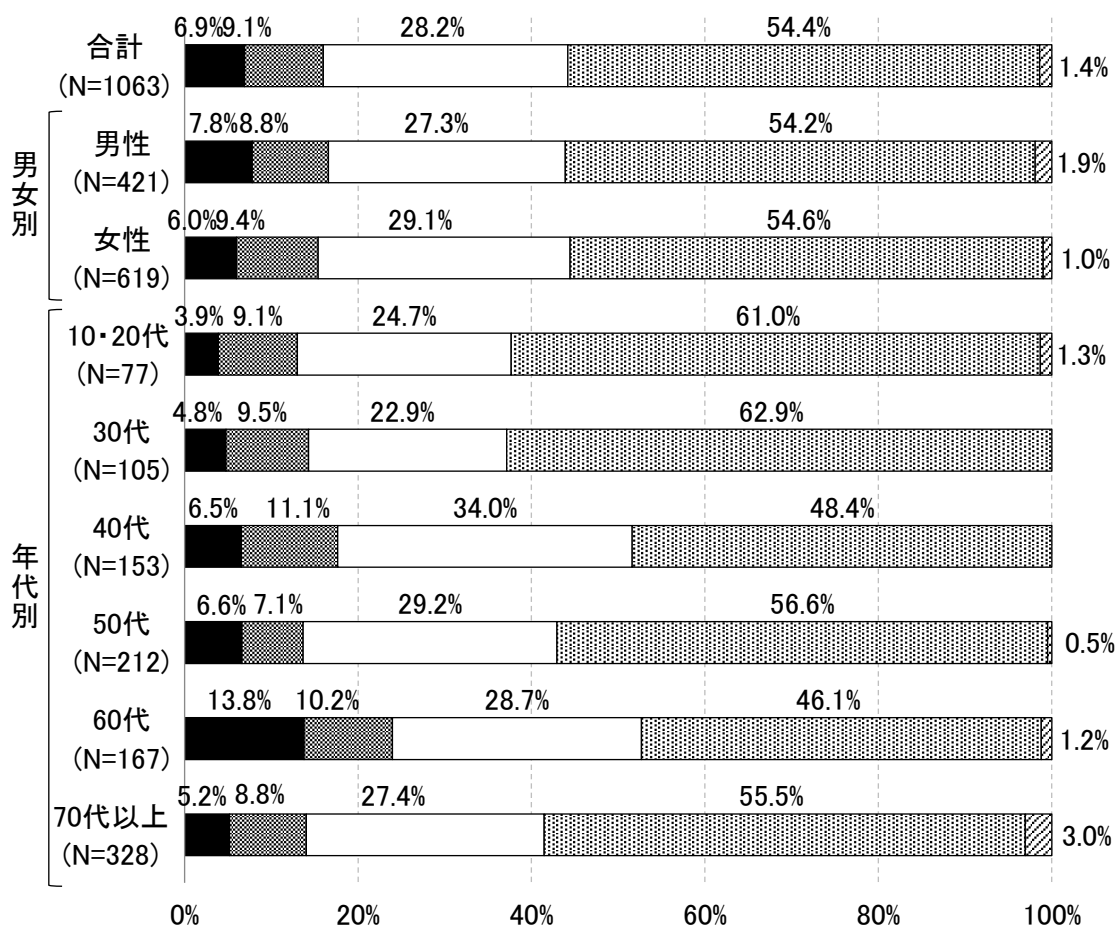
Q27A の高槻まつりの参加頻度に関して、男女別で見ると、「参加したことがある」と回答した人の割合は、男性では 47.7%、女性では 54.9%である。年代別で見ると、「よく参加している」と回答した人の割合は 40 代が 15.0%と最も高い。反対に 60 代が 3.0%と最も低い (図 60)。



■よく参加している ■たまに参加する □参加したことがある ▨参加したことがない ▩無回答

図 60 Q27A 高槻市内で行われているイベント：高槻まつり

Q27B の高槻ジャズストリートの参加頻度に関して、男女別で見ると、「参加したことがある」と回答した人の割合は、男性では 27.3%、女性では 29.1%である。年代別で見ると、「よく参加している」と回答した人の割合は 60 代が 13.8%と最も高い。反対に 10・20 代が 3.9%と最も低い（図 61）。



■よく参加している ■たまに参加する □参加したことがある ■参加したことがない ▨無回答

図 61 Q27B 高槻市内で行われているイベント：高槻ジャズストリート

Q28 の環境に関する問題への関心度に関して、「地球温暖化」が 61.0%で最も高く、「異常気象」が 57.6%と続く（図 62）。



図 62 Q28 環境に関する問題への関心度（複数回答・全体 N=1063）

Q28 の環境に関する問題への関心度に関して、男女別で見ると、「食品ロス」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 7.2 ポイント高い（図 63）。

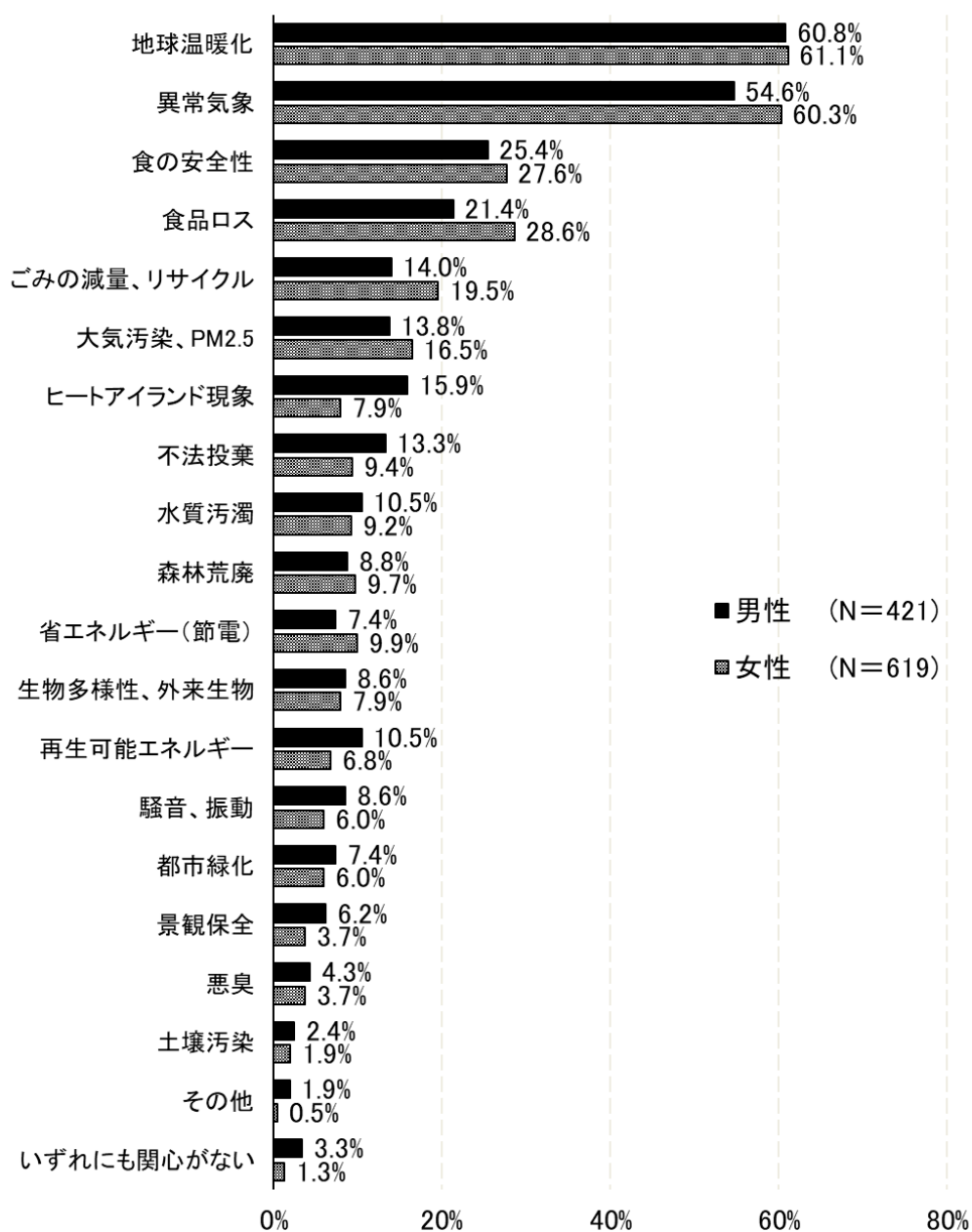


図 63 Q28 環境に関する問題への関心度（複数回答・男女別）

Q28 の環境に関する問題への関心度に関して、年代別で見ると、「食品ロス」は年代で差があり、30代が 34.3%と最も高く、反対に 60代が 18.6%と最も低い（図 64）。

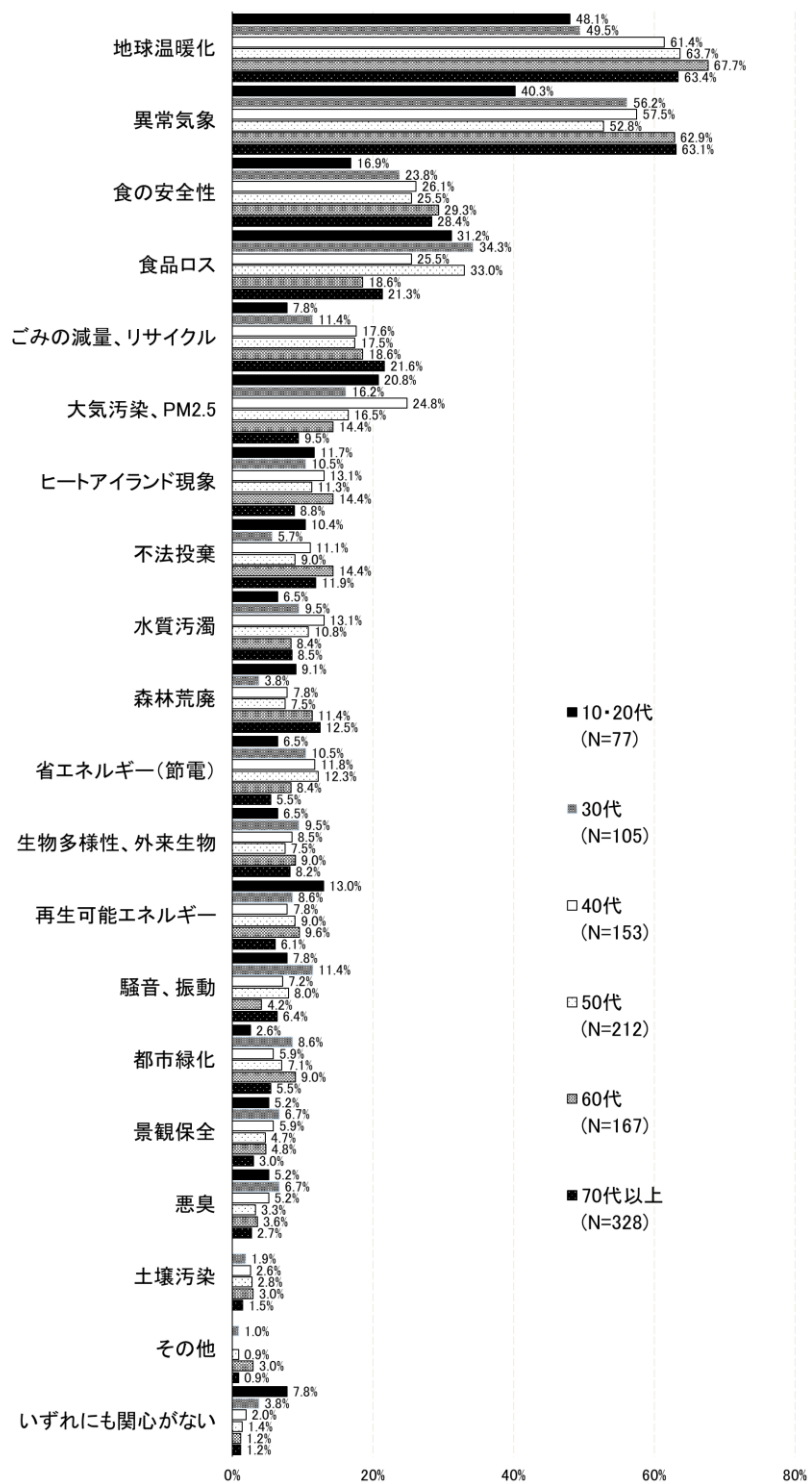


図 64 Q28 環境に関する問題への関心度（複数回答・年代別）

Q29A の高槻市には身近な自然環境とのふれあいがあるかに関して、男女別・年代別では 10・20 代を除いて、すべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が 7 割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は 50 代が 86.3%と最も高く、反対に 10・20 代が 68.9%と最も低い (図 65)。

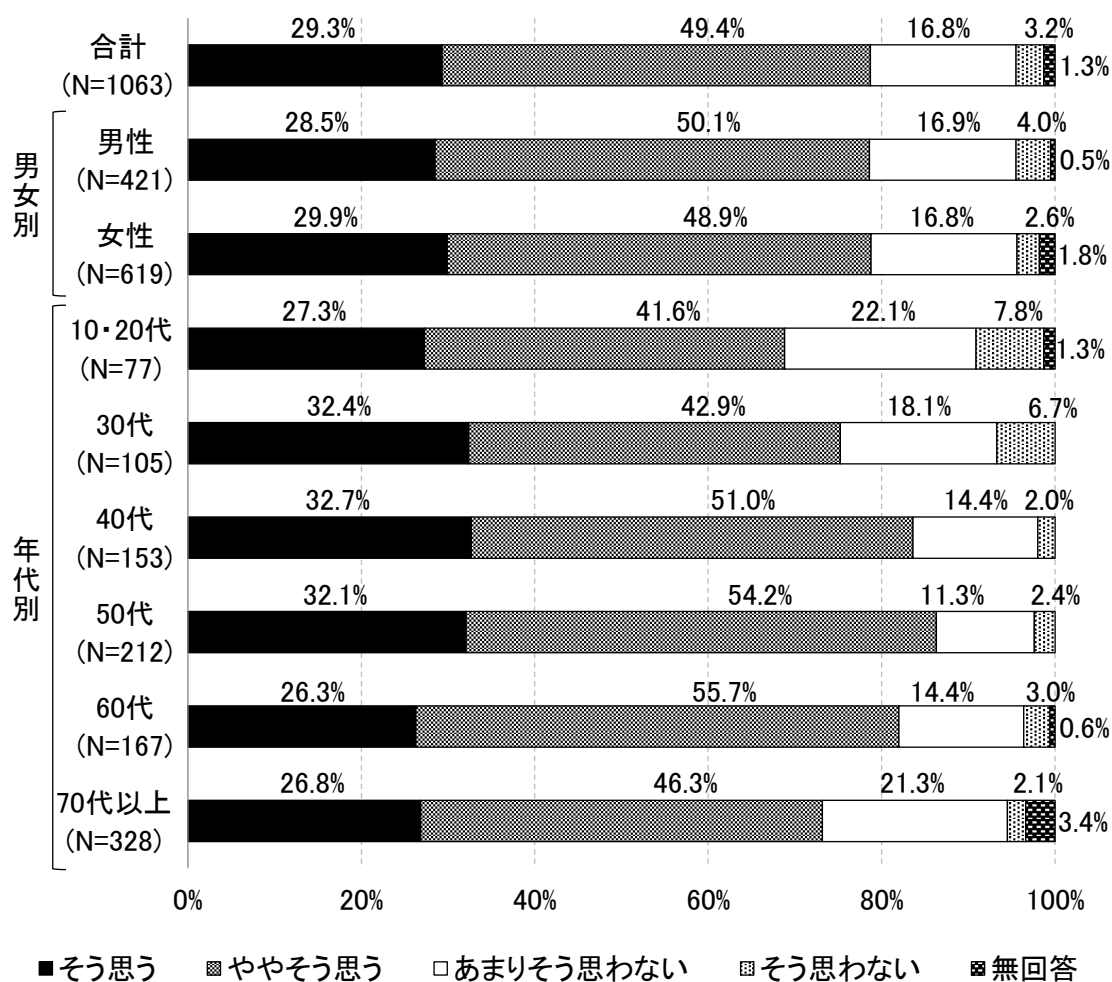


図 65 Q29A 高槻市の環境：身近な自然環境とのふれあいがあるか

Q29Bの高槻市は不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が5割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は50代および70代以上が63.7%と最も高く、反対に30代が59.1%と最も低い(図66)。

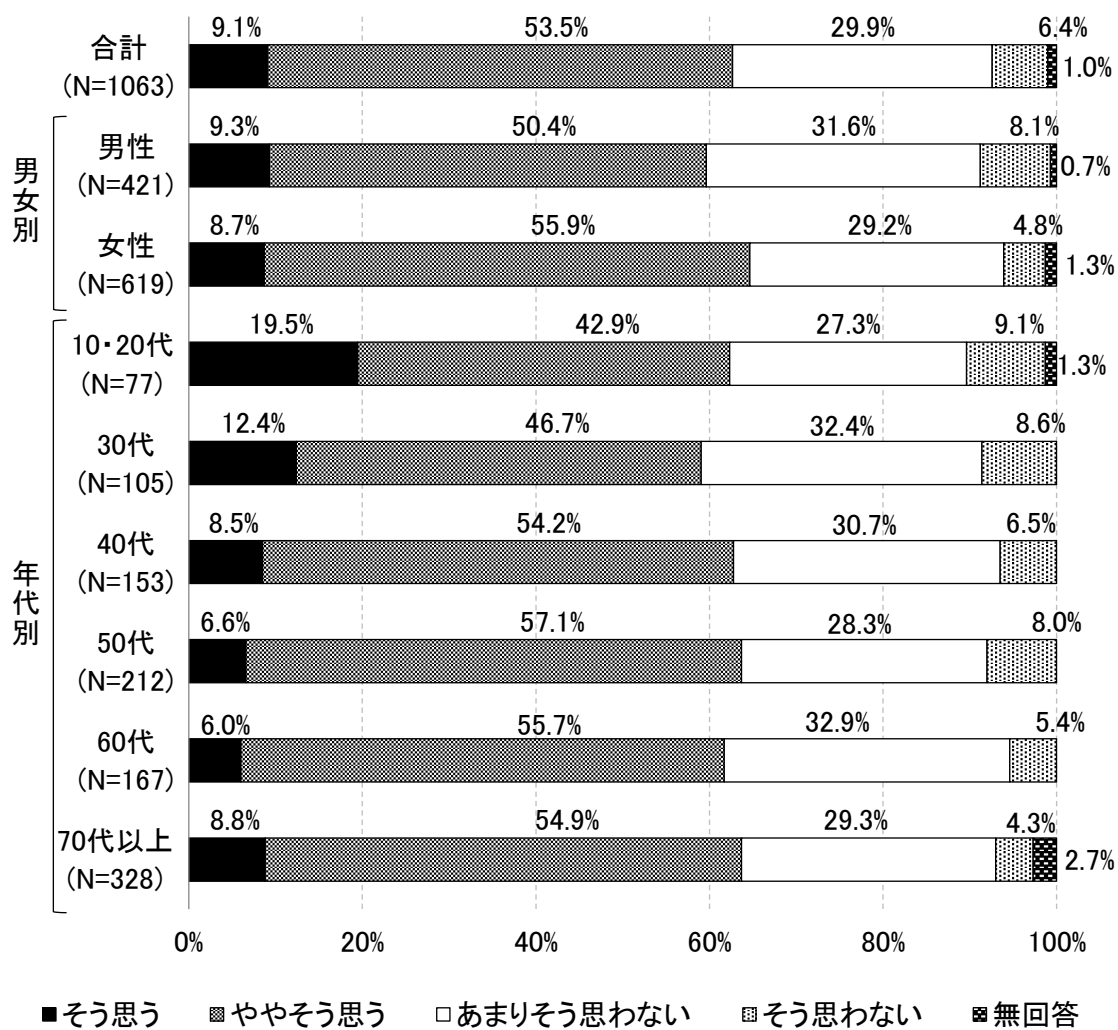


図 66 Q29B 高槻市の環境：不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちか

Q29C の高槻市は良好な環境づくりを目指した活動が豊富かに関して、年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は 50 代以上が 54.8%と最も高く、反対に 30 代が 40.0%と最も低い（図 67）。

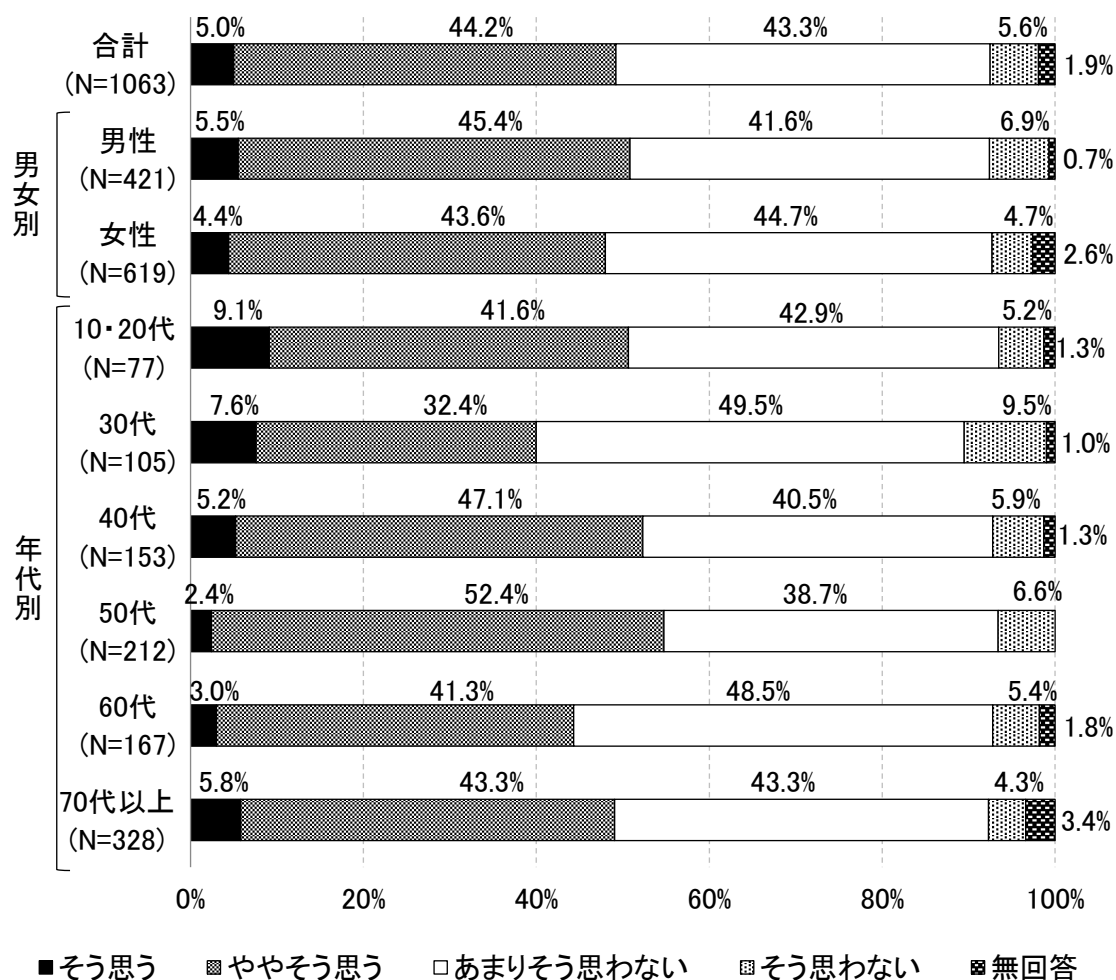


図 67 Q29C 高槻市の環境：良好な環境づくりを目指した活動が豊富か

Q29D の高槻市は環境活動に関する情報や呼びかけが十分かに関して、男女別・年代別では30代を除いて、すべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が3割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代以上が37.7%と最も高く、反対に30代が21.0%と最も低い（図 68）。

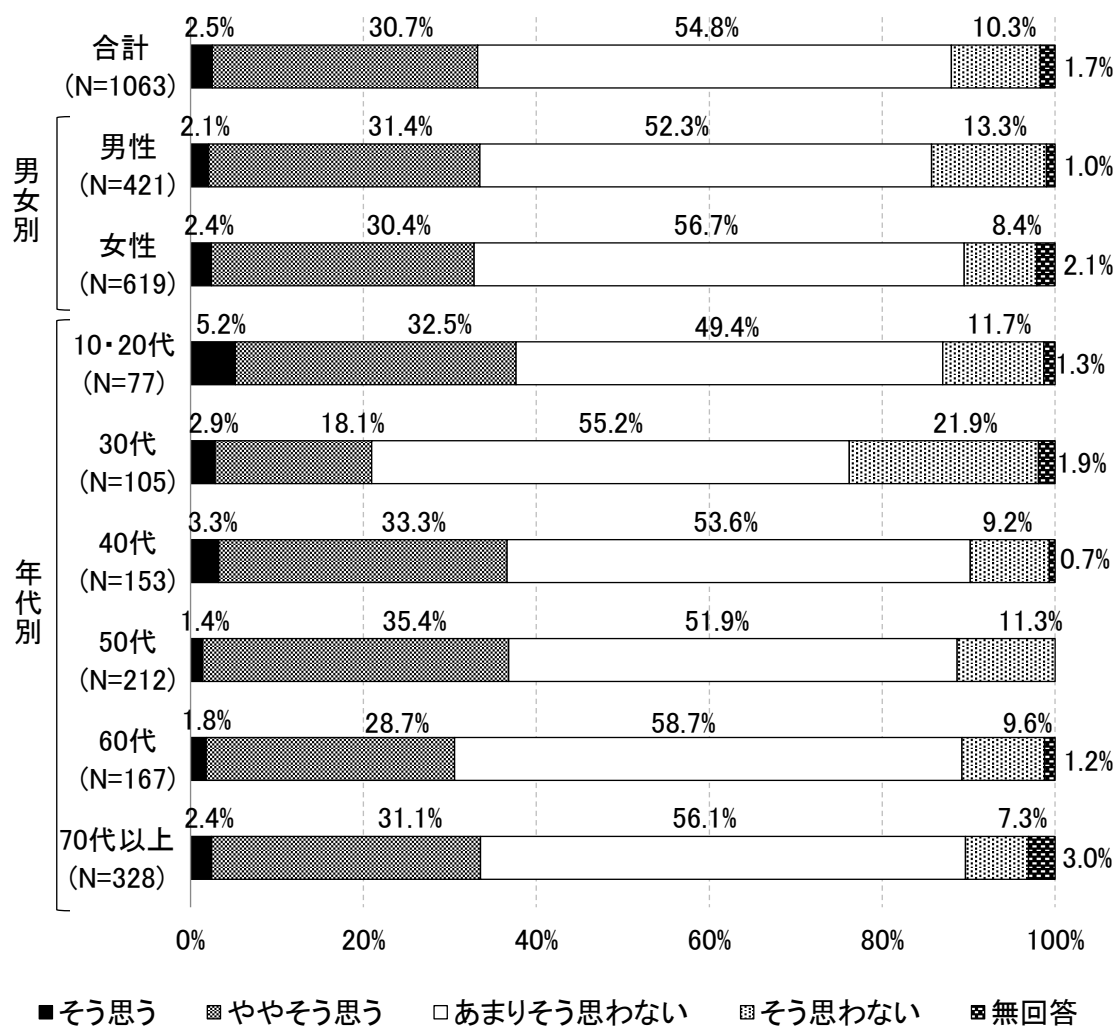


図 68 Q29D 高槻市の環境：環境活動に関する情報や呼びかけが十分か

Q30の自宅周辺（徒歩圏内）でみどりを感じる場所に関して、「公園・緑地」が65.5%で最も高く、「河川など水辺」が34.4%と続く（図69）。

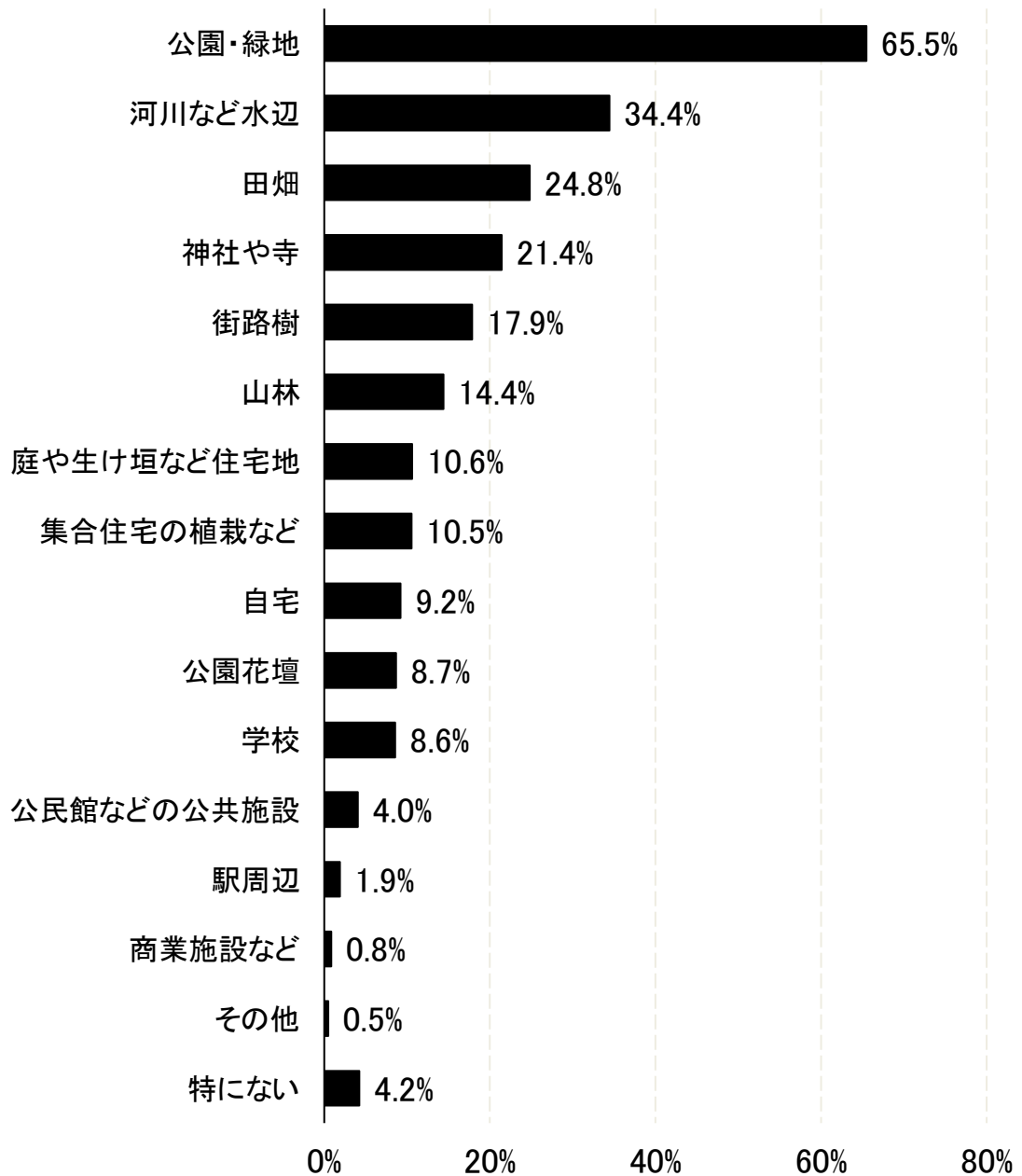


図 69 Q30 みどりを感じる場所（複数回答・全体 N=1063）

Q30 の自宅周辺（徒歩圏内）でみどりを感じる場所に関して、男女別で見ると、「山林」は男女差があり、女性よりも男性の方が 7.7 ポイント高い。続いて、「河川など水辺」は女性よりも男性の方が 5.7 ポイント高い（図 70）。

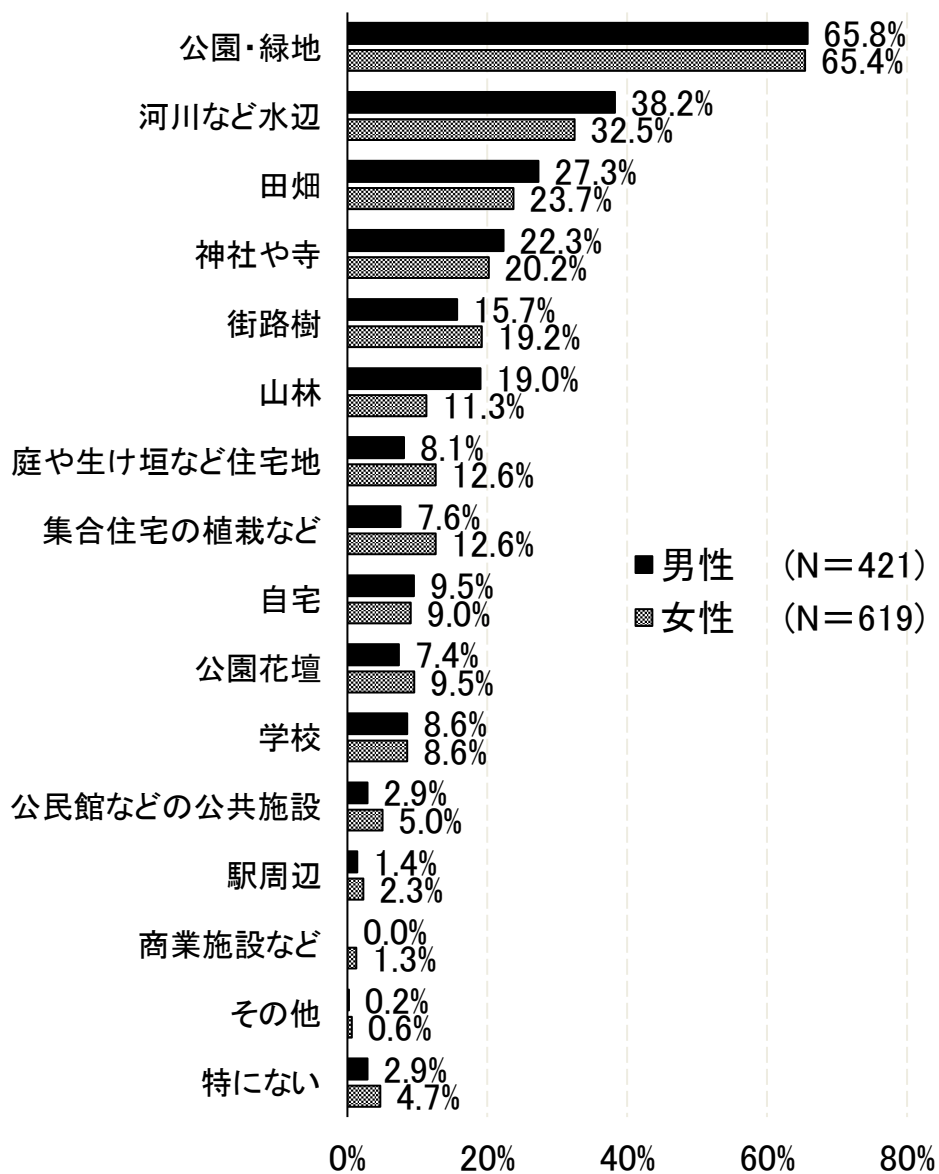


図 70 Q30 みどりを感じる場所（複数回答・男女別）

Q30の自宅周辺（徒歩圏内）でみどりを感じる場所に関して、年代別で見ると、「公園・緑地」は年代で差があり、30代が73.3%と最も高く、反対に10・20代は57.1%と最も低い（図71）。

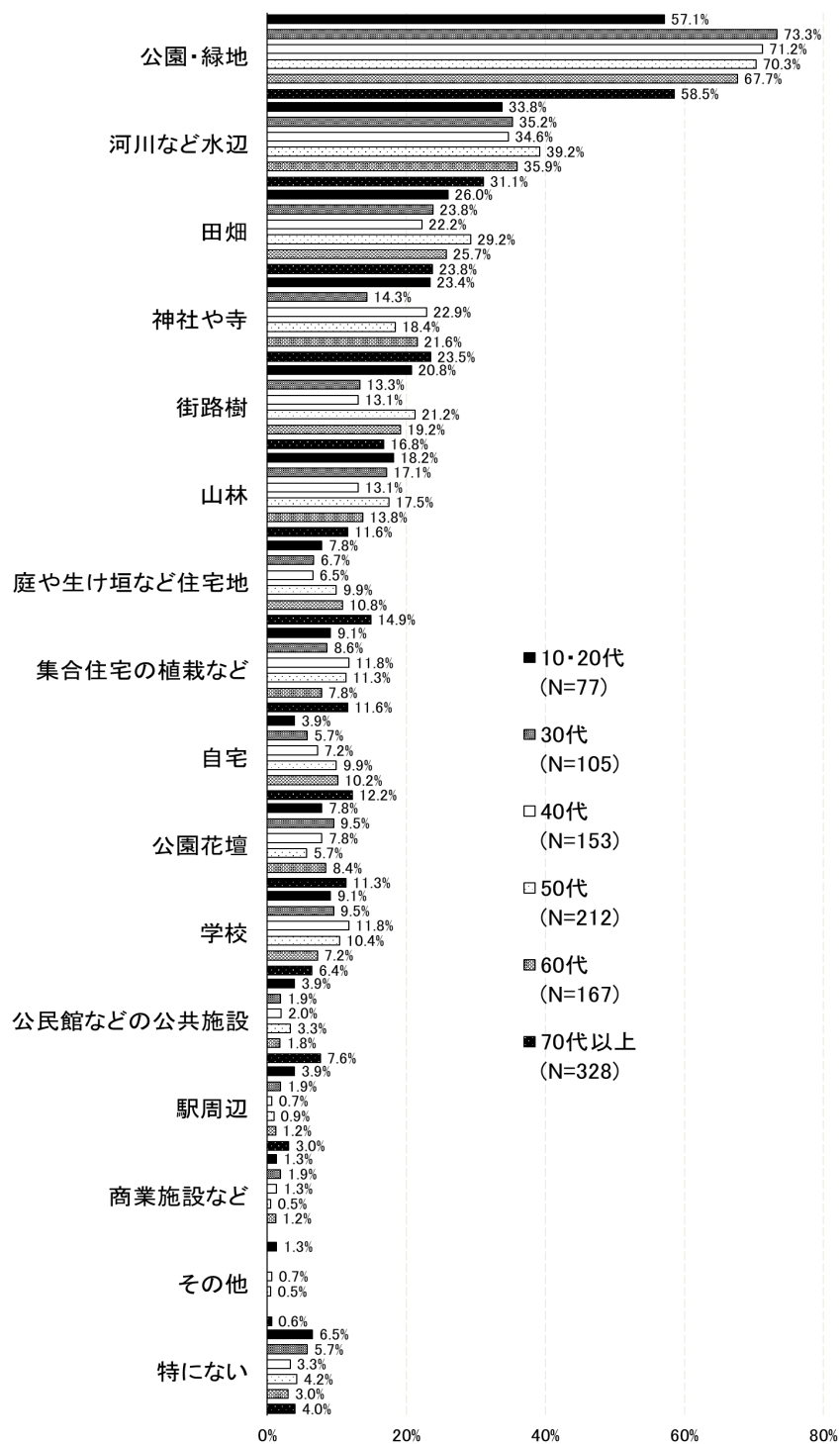
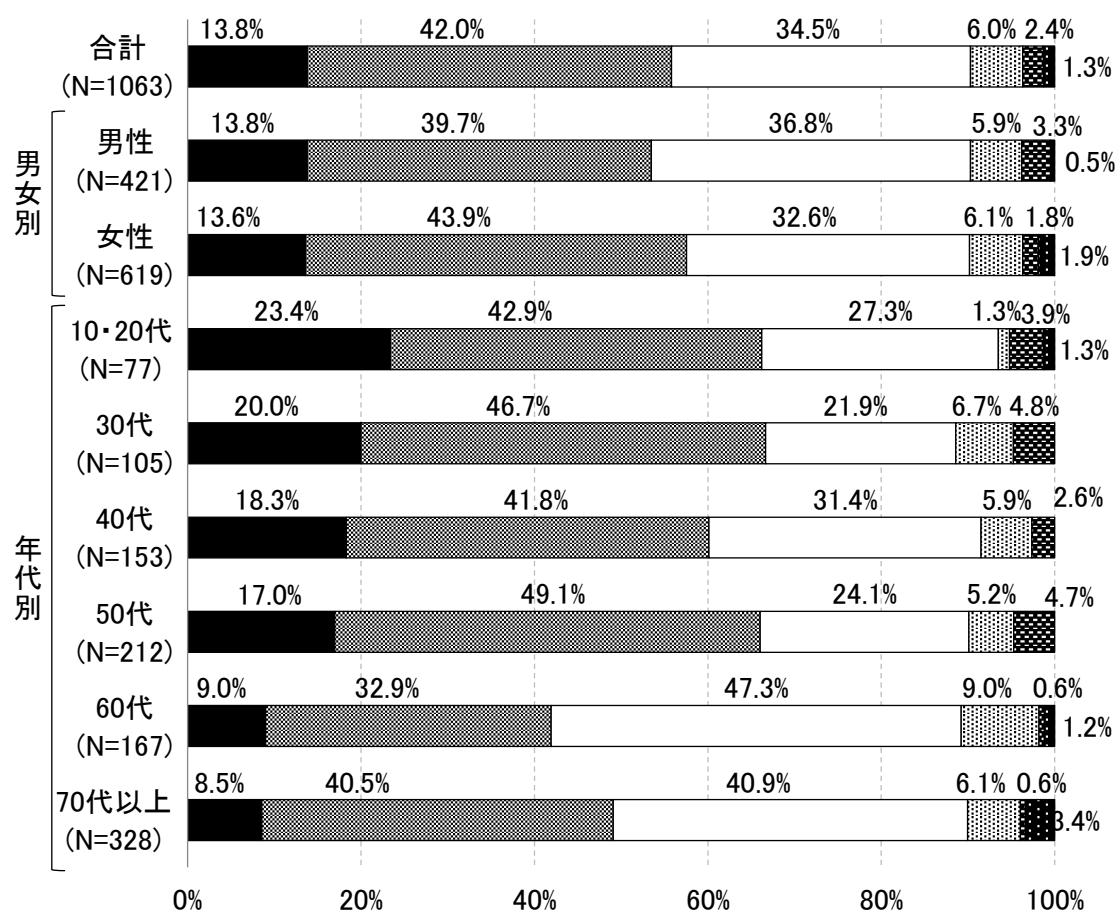


図71 Q30 みどりを感じる場所（複数回答・年代別）

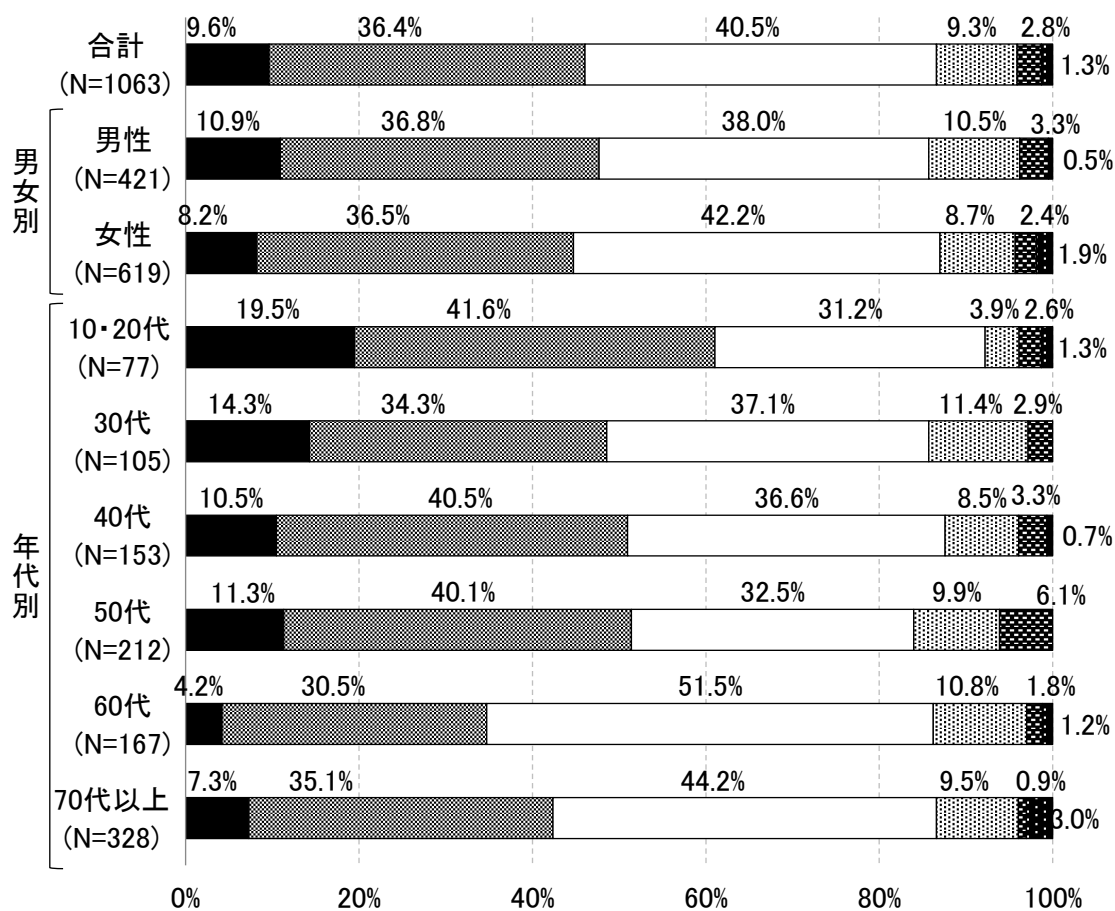
Q31 の高槻市は子育て環境が整っているまちだと思うかに関して、男女別・年代別のすべての層で「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人が4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は30代が66.7%と最も高く、反対に60代が41.9%と最も低い（図72）。



■ そう思う ▨ ややそう思う □ どちらともいえない ▩ あまりそう思わない ▤ そう思わない ■ 無回答

図72 Q31 高槻市は子育て環境が整っているまちだと思うか

Q32 の高槻市は教育環境が整っているまちだと思うかに関して、男女別で見ると、男女ともに「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は4割以上である。年代別で見ると、「そう思う」または「ややそう思う」と回答した人の割合は10・20代が61.1%と最も高く、反対に60代が34.7%と最も低い(図73)。



■そう思う ■ややそう思う □どちらともいえない ■あまりそう思わない ■そう思わない ■無回答

図73 Q32 高槻市は教育環境が整っているまちだと思うか

Q33 の高槻市に地域ブランドがあると思うかに関して、男女別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合が男性で 44.6%、女性が 37.3%であり、男性の方が 7.3 ポイントほど高い。年代別で見ると、「そう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した人の割合は 30 代が 43.1%と最も高い。反対に、50 代と 60 代は 37.7%と最も低い（図 74）。

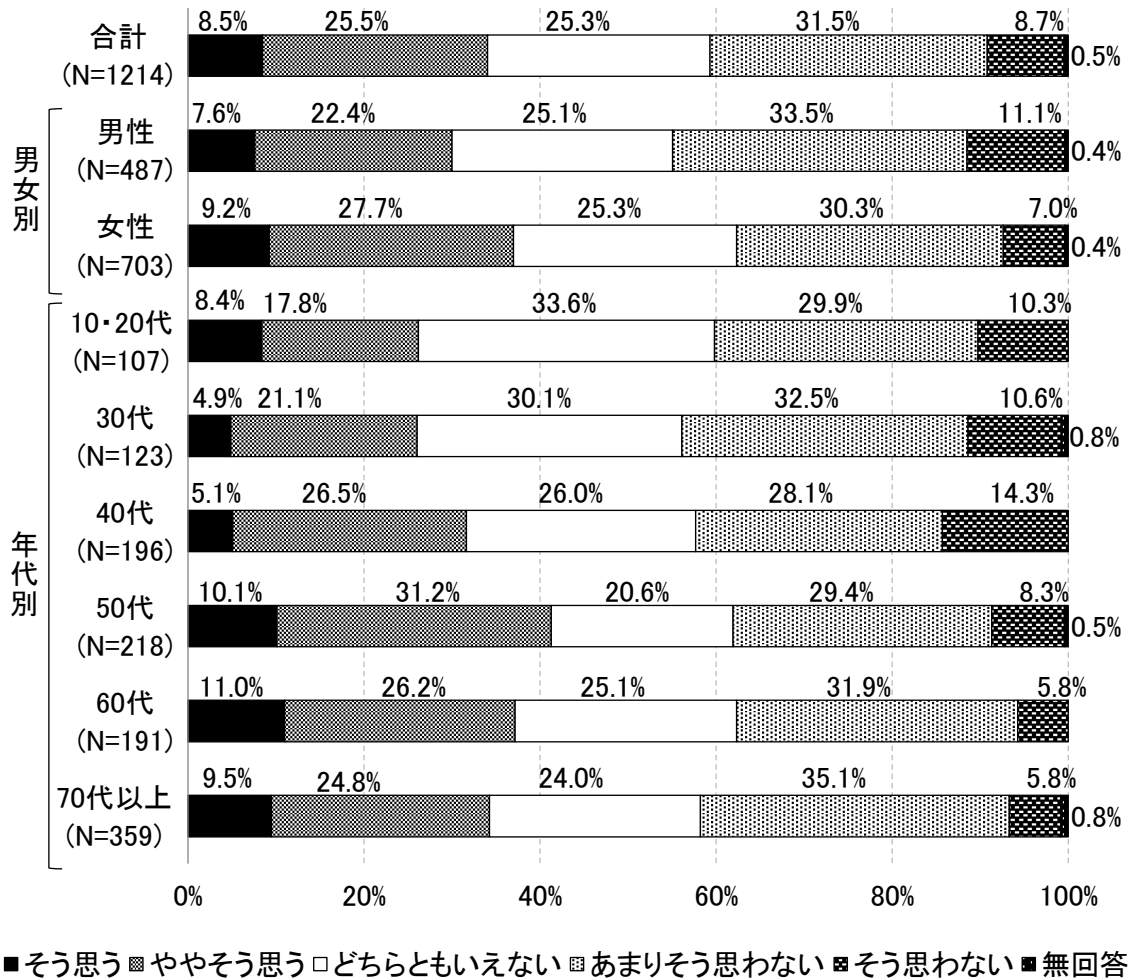
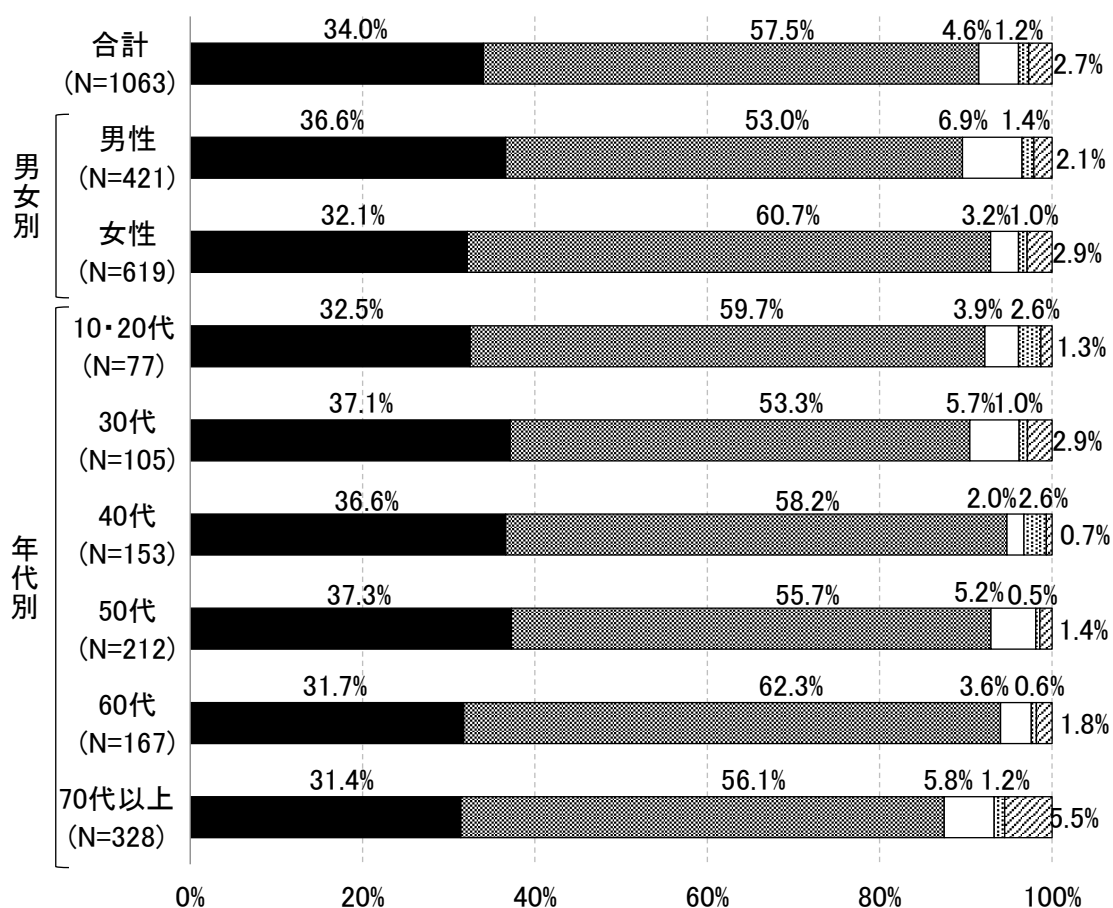


図 74 Q33 高槻市に地域ブランドがあると思うか

Q34の「食品ロス」が社会的に問題となっていることを知っているかに関して、男女別で見ると、「よく知っている」と回答した人の割合は、男性で36.6%、女性で32.1%と、女性よりも男性の方が4.5ポイント高い。年代別で見ると、「よく知っている」と回答した人の割合は50代が37.3%と最も高い。反対に、70代と60代は31.4%と最も低い（図75）。



■よく知っている ■ある程度知っている □あまり知らない ▨まったく知らない ▩無回答

図75 Q34 「食品ロス」が社会的に問題となっていることを知っているか

Q35の「食品ロス」を減らすために取り組んでいることにはあるかに関して、「残さずに食べる」が72.0%で最も高く、「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が65.1%と続く（図76）。

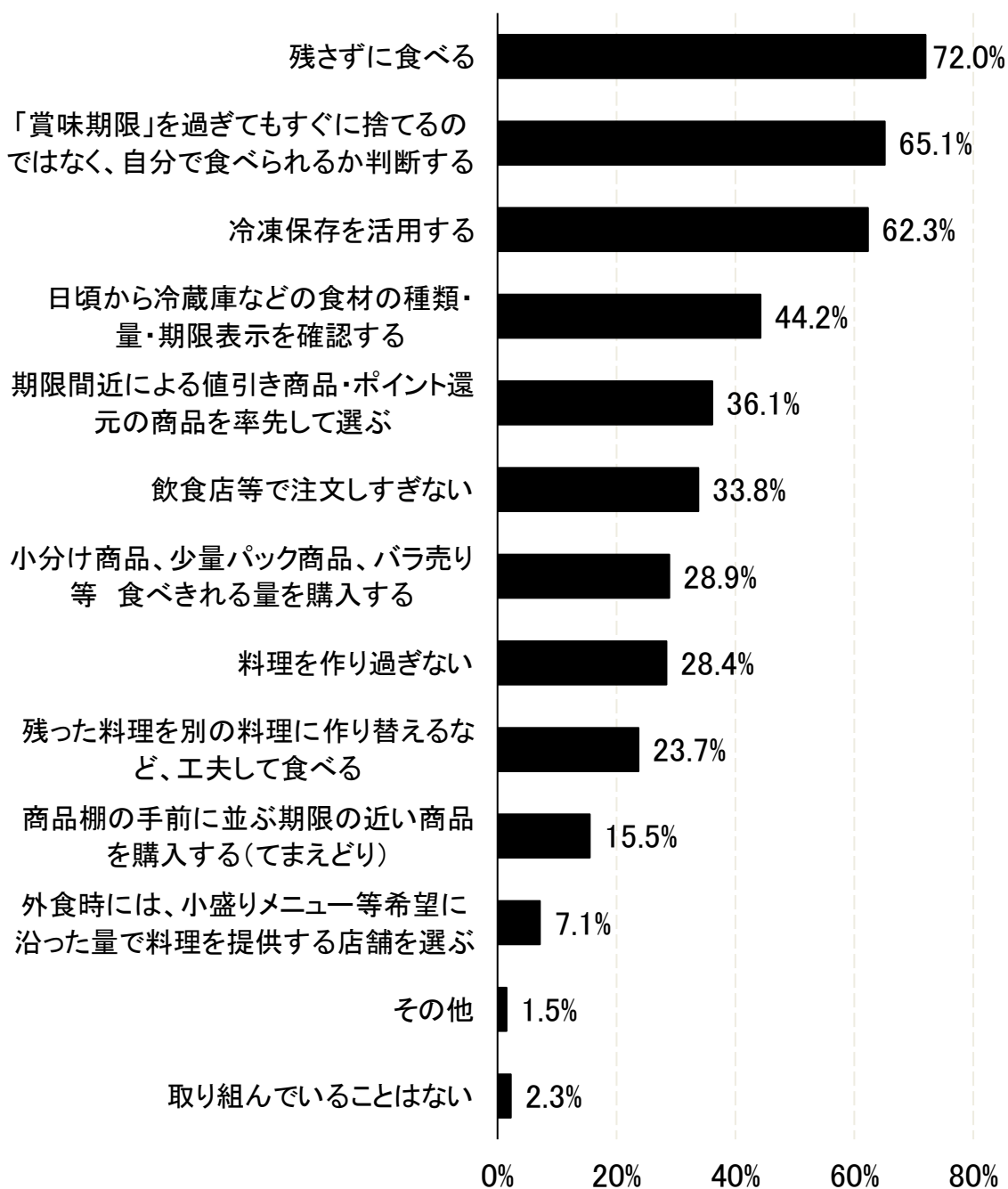


図 76 Q35 「食品ロス」を減らすために取り組んでいることにはあるか
(複数回答・全体 N=1063)

Q35の「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはあるかに関して、男女別で見ると、「冷凍保存を活用する」は男女で差があり、男性よりも女性の方が18.9ポイント高い(図77)。

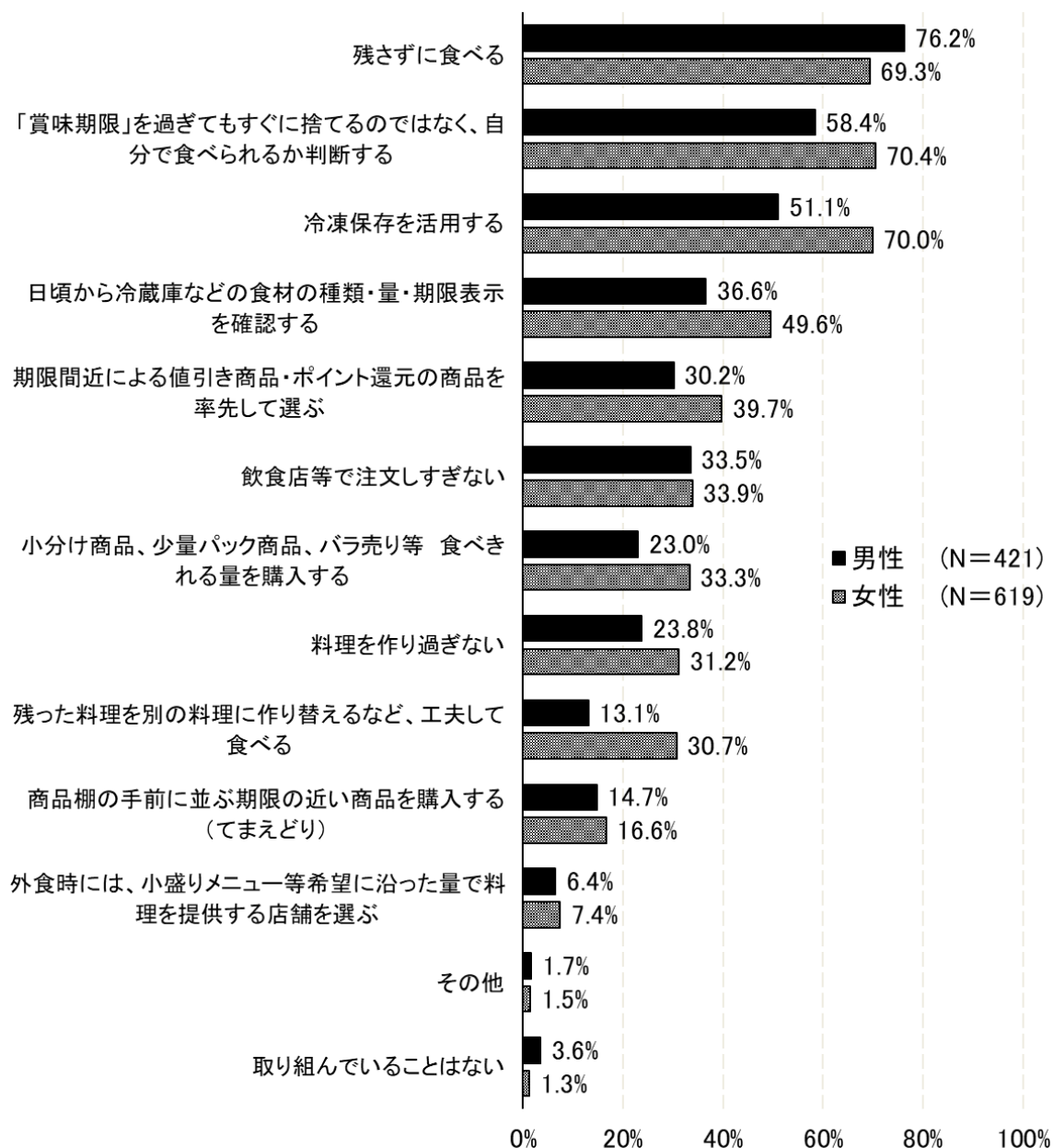


図77 Q35 「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはあるか (複数回答・男女別)

Q35の「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはあるかに関して、年代別で見ると、「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等 食べきれる量を購入する」は年代で差があり、70代以上が36.9%と最も高く、反対に50代は21.7%と最も低い(図78)。

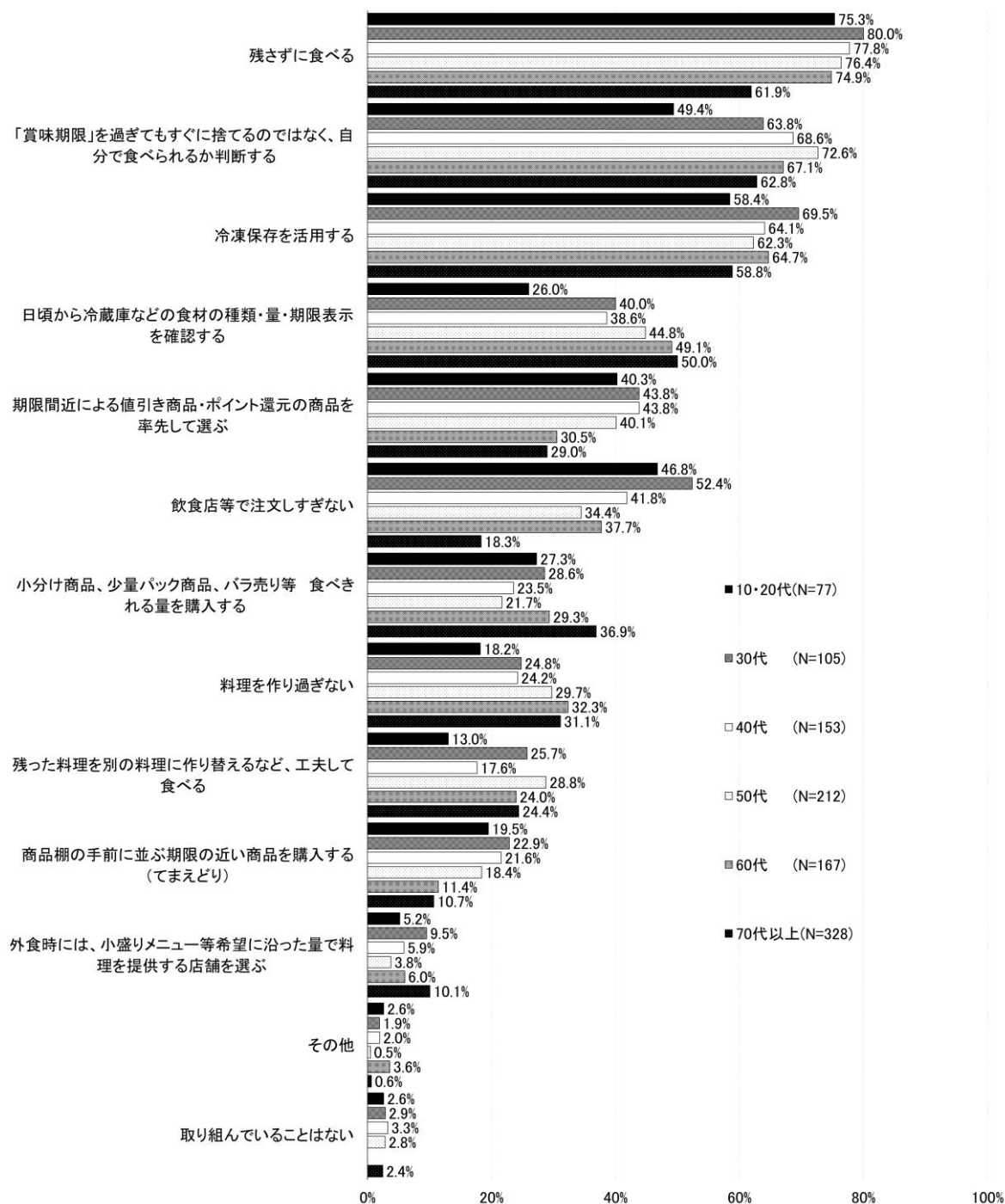


図78 Q35 「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはあるか (複数回答・年代別)

Q36の「生物多様性」という言葉とその意味を知っているかに関して、男女別・年代別のすべての層で「言葉も意味も知っている」または「言葉は知っているが意味は知らない」と回答した人が合わせて5割以上である。年代別で見ると、「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は30代が34.3%と最も高く、反対に70代以上が15.2%と最も低い(図79)。

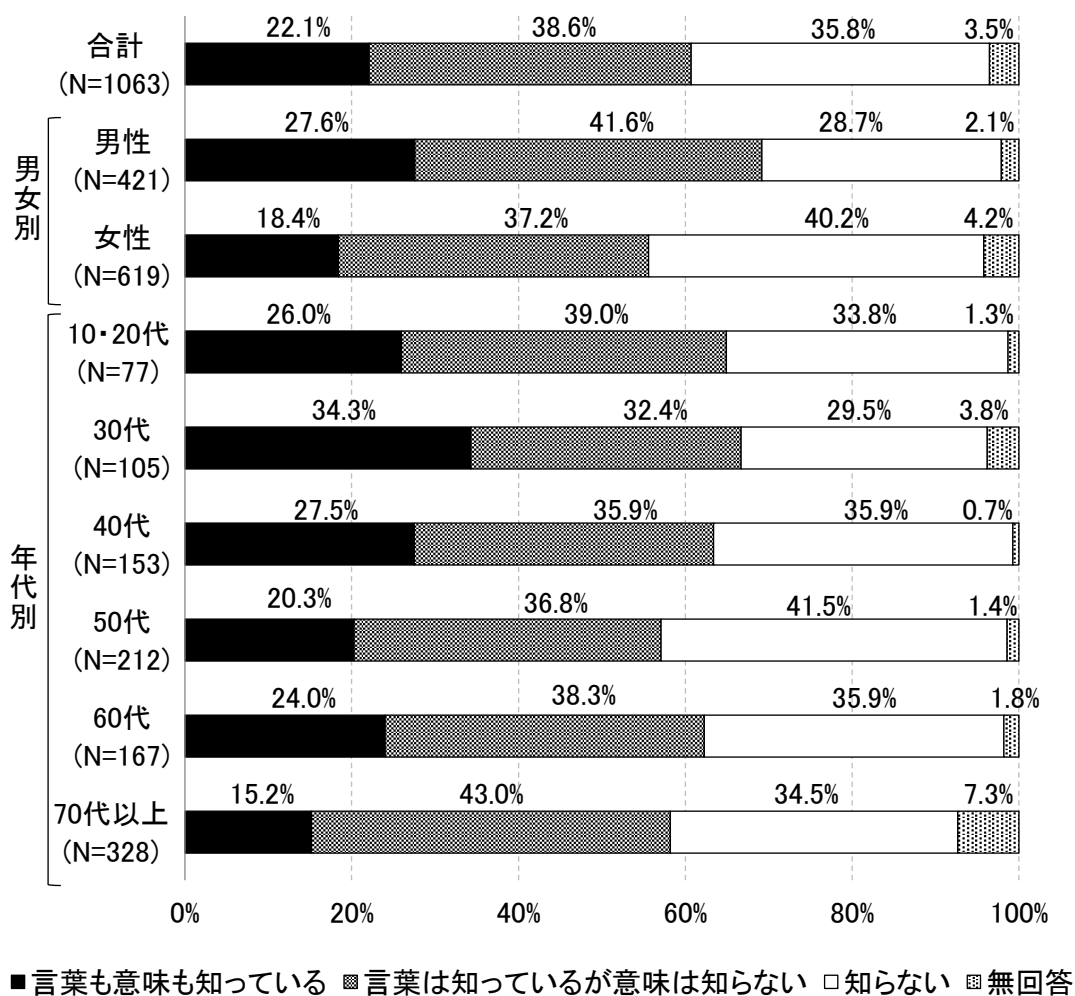


図 79 Q36 「生物多様性」という言葉とその意味を知っているか

Q37の「生物多様性」の保全に向けた取り組みをしたかに関して、「取り込んだことはない」が83.6%で最も高く、「日常生活で取り組んだ」が6.0%と続く(図80)。

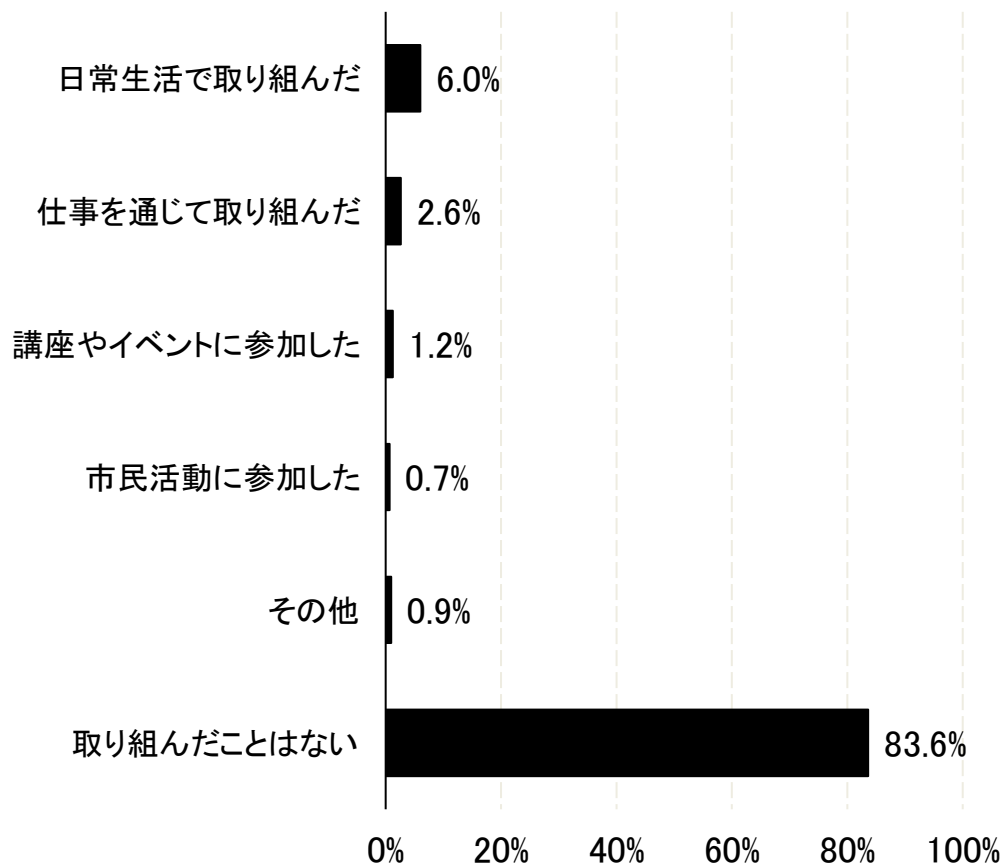


図80 Q37 「生物多様性」の保全に向けた取り組みをしたか
(複数回答・全体 N=1063)

Q37の「生物多様性」の保全に向けた取り組みをしたかに関して、男女別で見ると、「仕事を通じて取り組んだ」は男女で差があり、女性よりも男性の方が3.0ポイント高い(図81)。

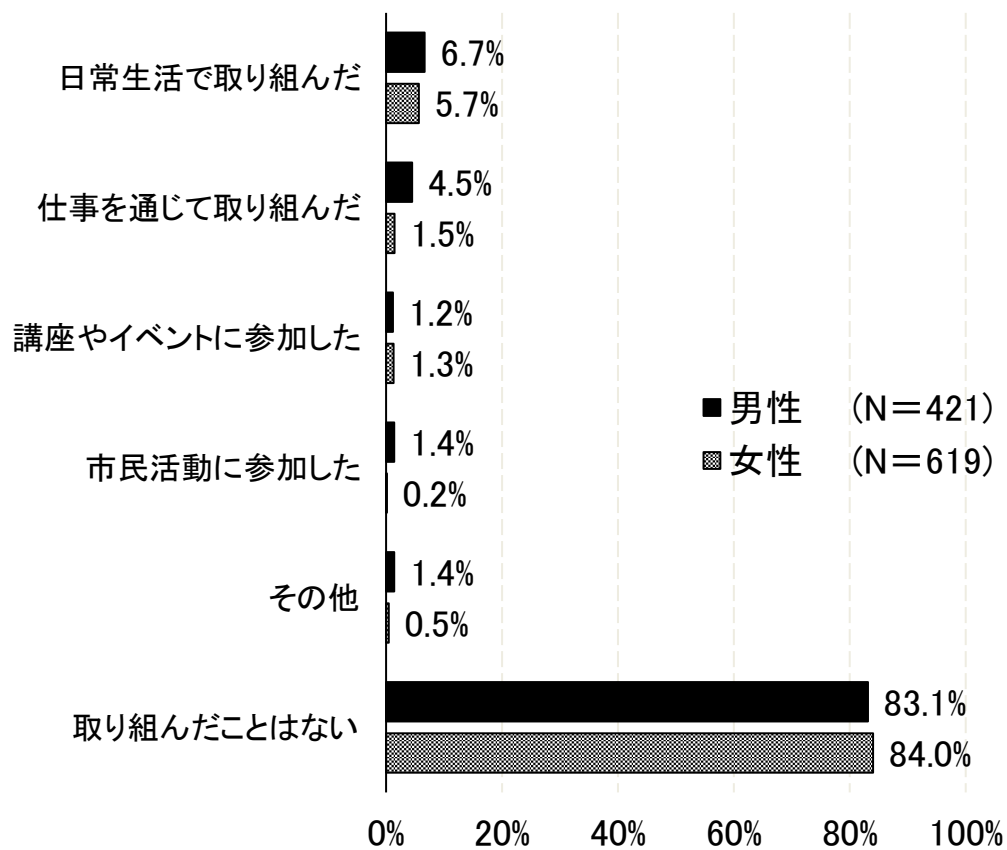


図 81 Q37 「生物多様性」の保全に向けた取り組みをしたか
(複数回答・男女別)

Q37の「生物多様性」の保全に向けた取り組みをしたかに関して、年代別で見ると、「日常生活で取り組んだ」は年代で差があり、40代が9.8%と最も高く、反対に50代は3.8%と最も低い(図82)。

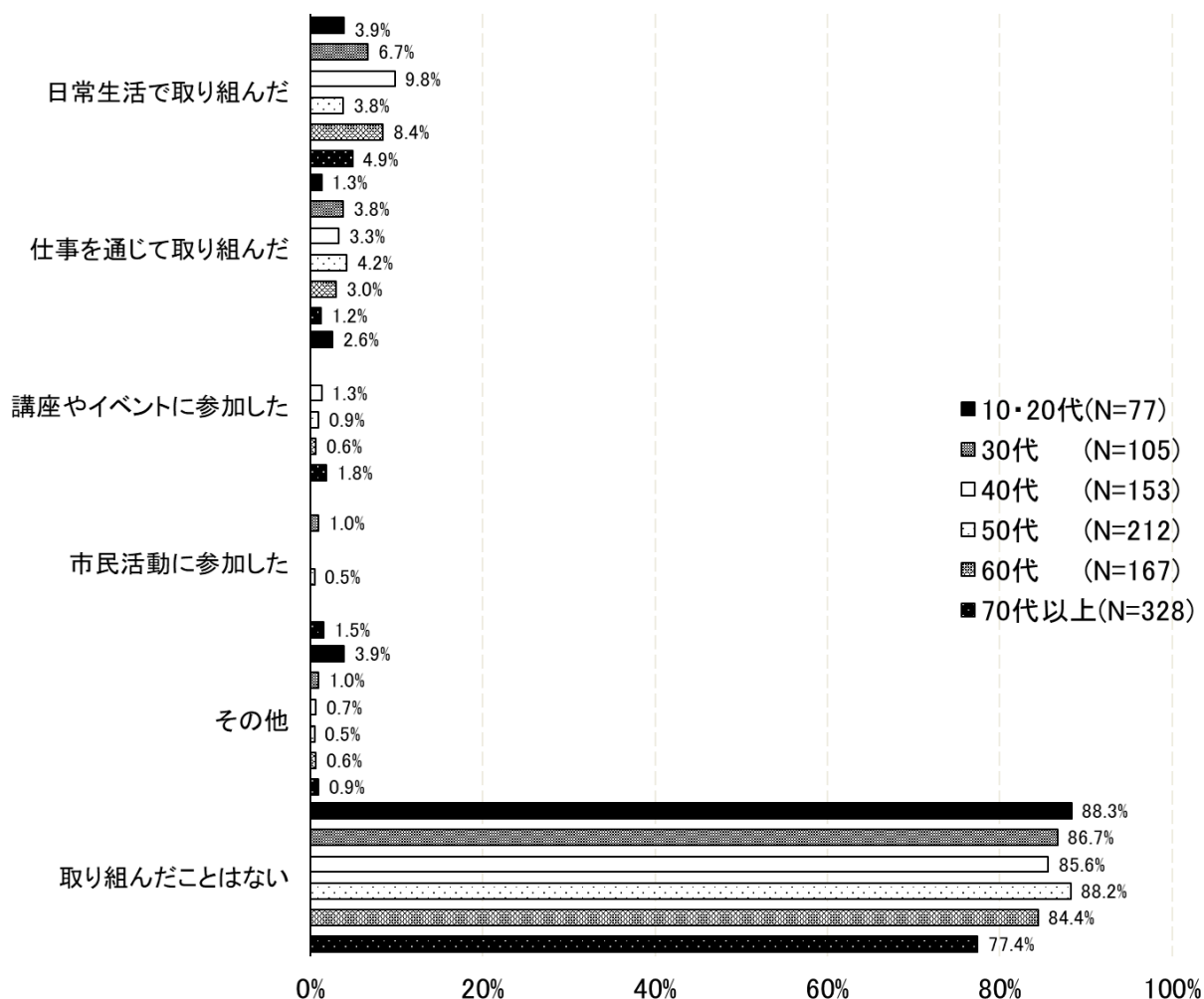


図 82 Q37 「生物多様性」の保全に向けた取り組みをしたか
(複数回答・年代別)

Q38の年間の自殺者数の認知度に関して、男女別・年代別のすべての層で「知っている」と回答した人が6割以上である。年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は50代が72.6%と最も高く、反対に10・20代が63.6%と最も低い（図83）。

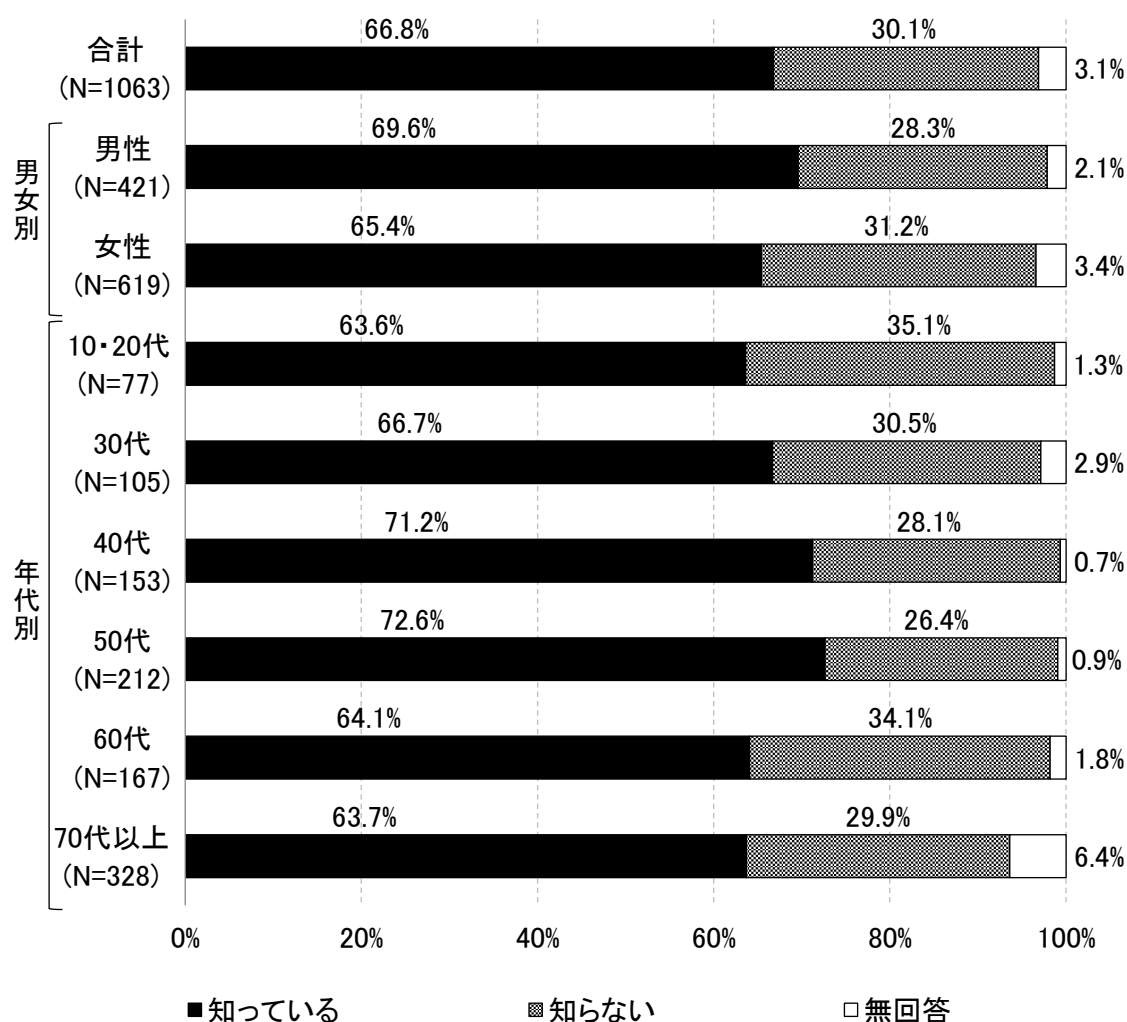


図 83 Q38 年間の自殺者数の認知度

Q39の自殺に関する相談機関の認知度に関して、男女別・年代別で見ると、70代以上を除いて、すべての層で7割以上が「知っている」と回答している。年代別で見ると、「知っている」と回答した人の割合は40代が85.6%と最も高く、反対に70代以上が63.1%と最も低い(図84)。

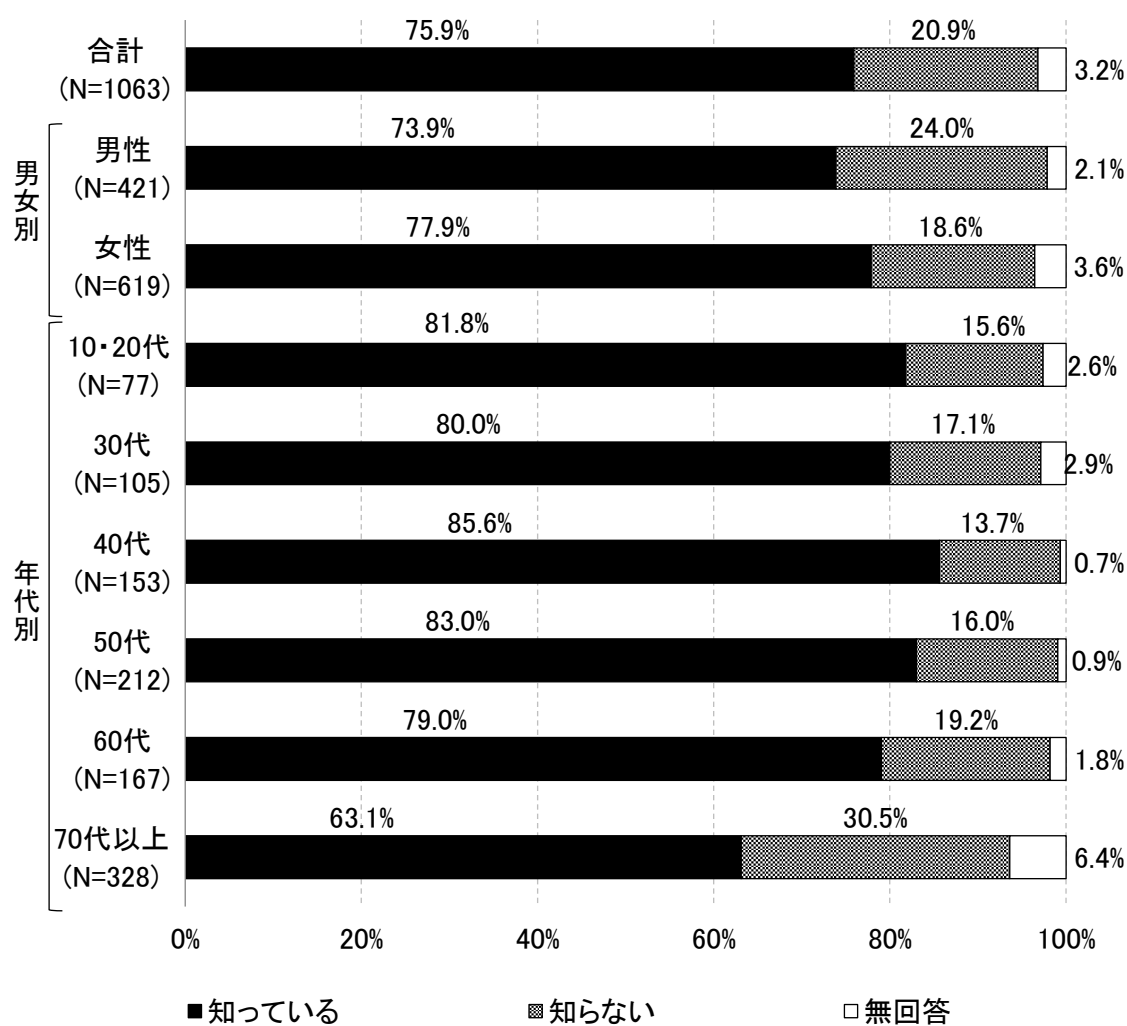


図 84 Q39 自殺に関する相談機関の認知度

Q40 の本気で自殺を考えたことがあるかに関して、男女別・年代別のすべての層で「ない」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「ない」と回答した人の割合は60代が83.8%と最も高く、反対に30代が71.4%と最も低い（図85）。

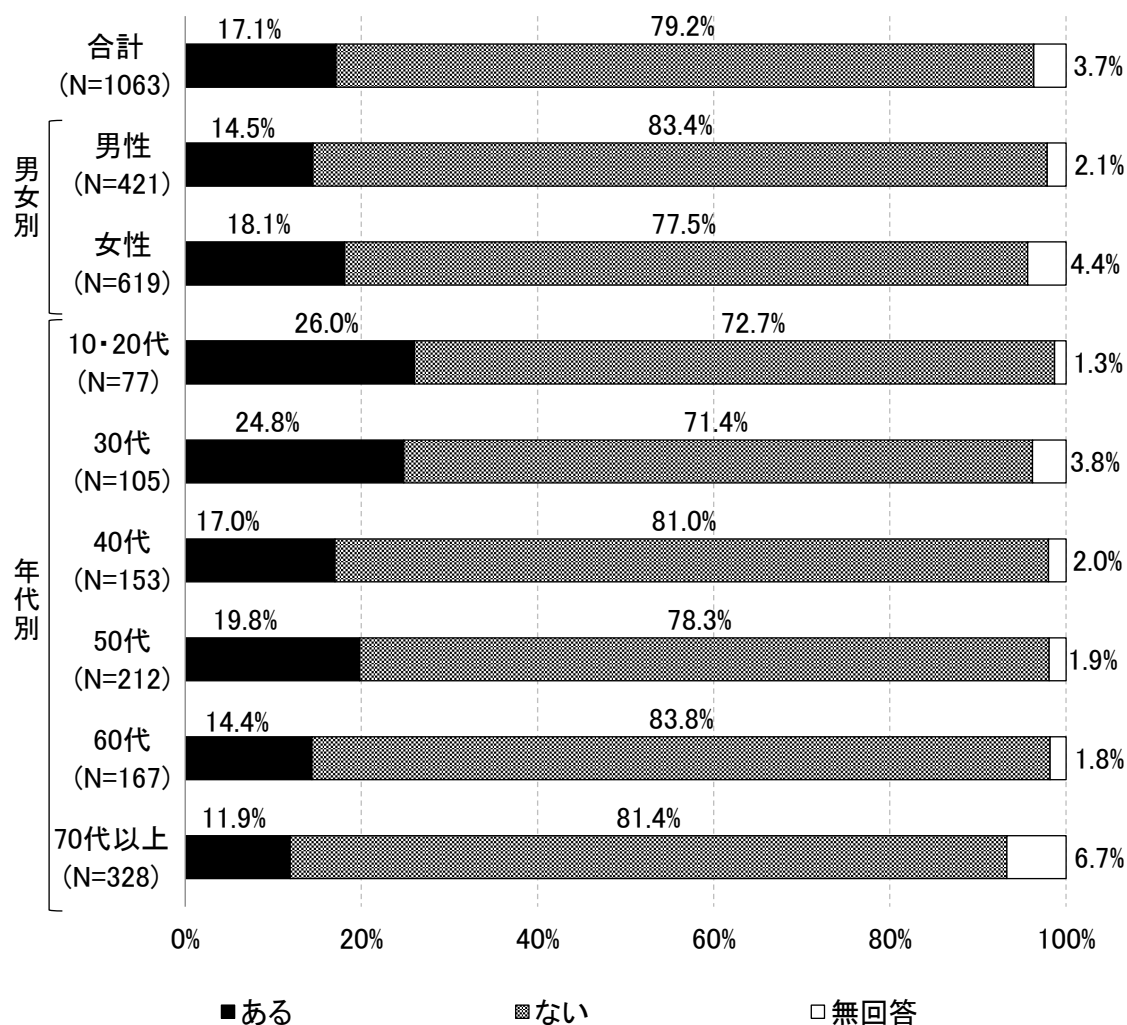


図 85 Q40 本気で自殺を考えたことがあるか

Q41 の自殺願望を聞いたときの対応に関して、「耳を傾けて聞く」が 58.3%で最も高く、「共感を示す」が 43.4%と続く（図 86）。

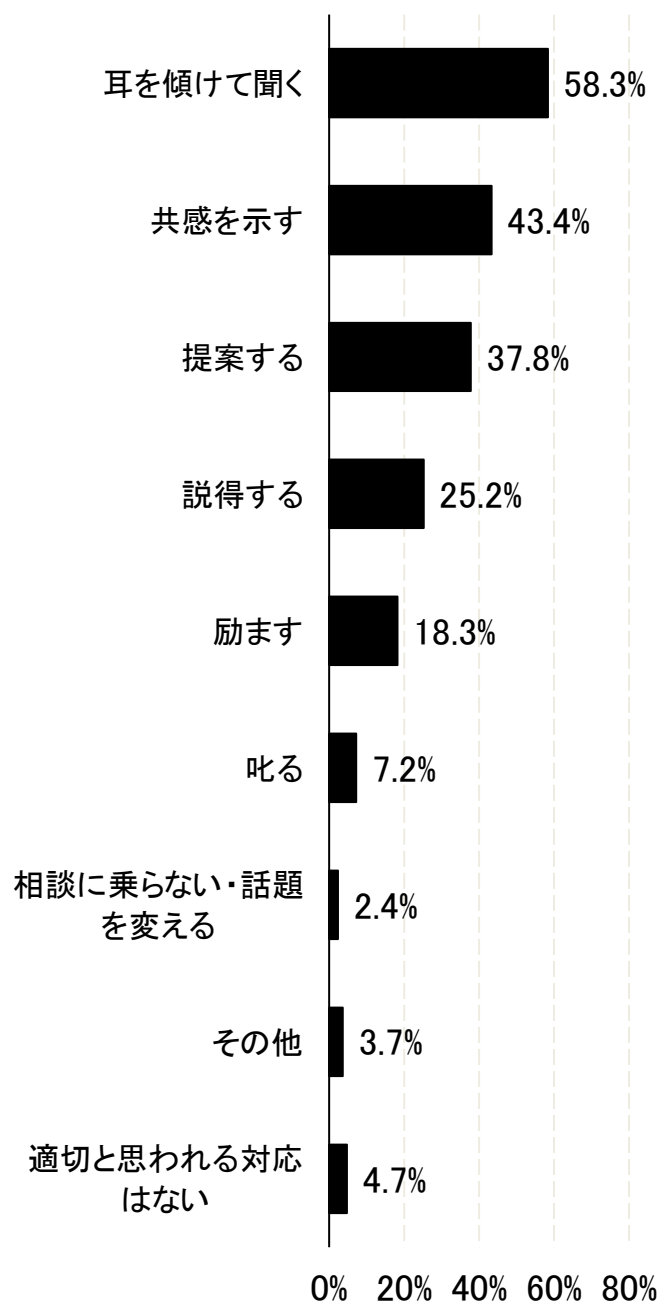


図 86 Q41 自殺願望を聞いたときの対応（複数回答・全体 N=1063）

Q41の自殺願望を聞いたときの対応に関して、男女別で見ると、「共感を示す」は男女で差があり、男性よりも女性の方が16.9ポイント高い（図87）。

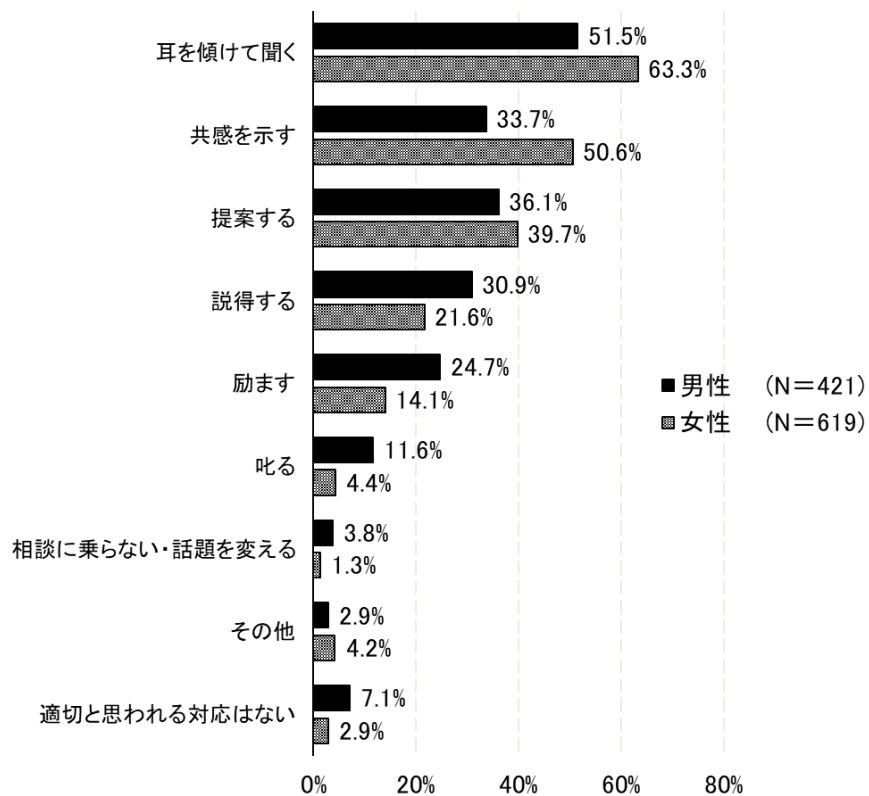


図 87 Q41 自殺願望を聞いたときの対応（複数回答・男女別）

Q41の自殺願望を聞いたときの対応に関して、年代別で見ると、「説得する」は年代で差があり、70代以上が34.5%と最も高く、反対に30代は11.4%と最も低い(図88)。

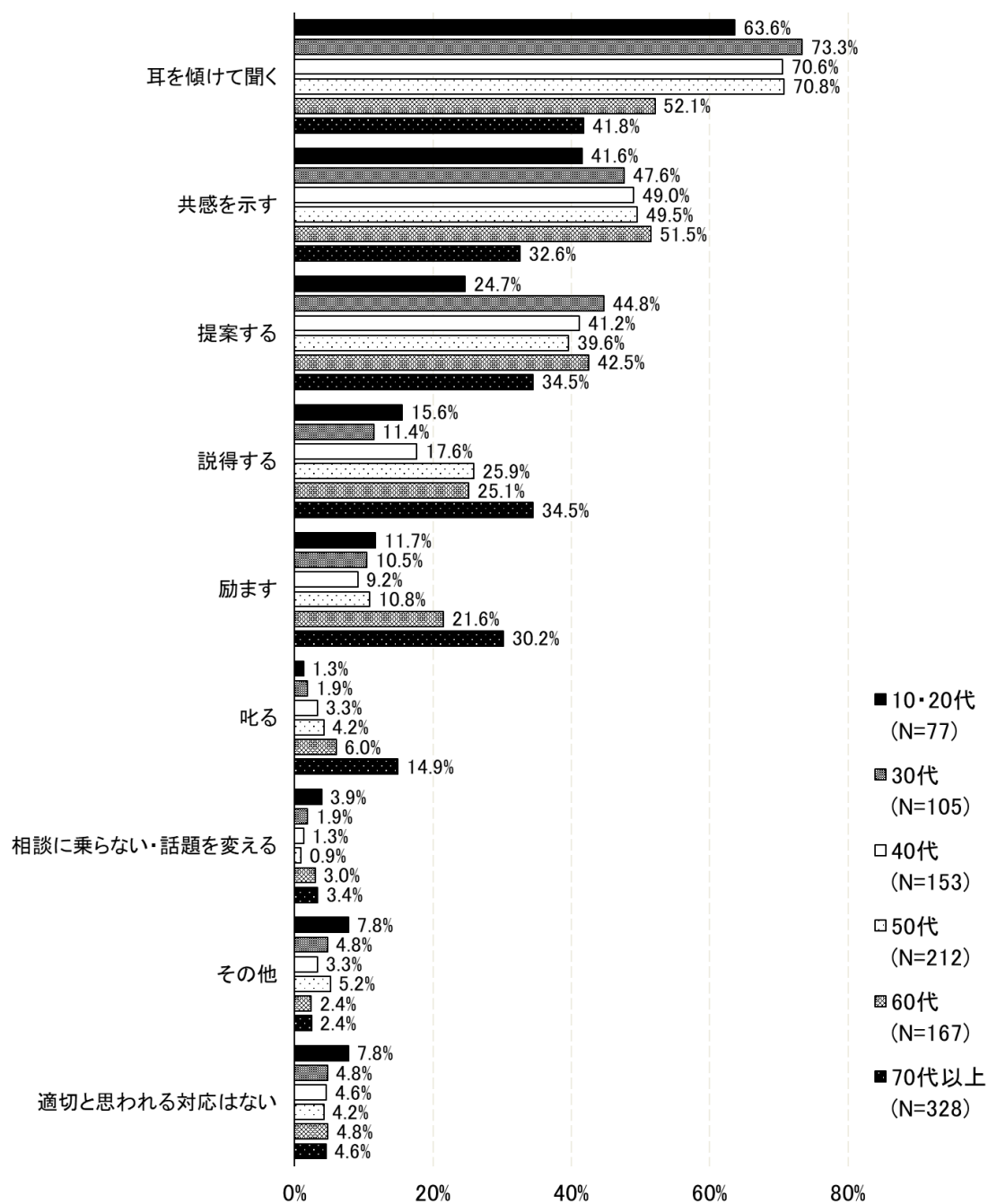


図 88 Q41 自殺願望を聞いたときの対応 (複数回答・年代別)

Q42 の今後求められる自殺対策に関して、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が 43.7%で最も高く、「子どもの自殺予防」が 40.9%と続く（図 89）。

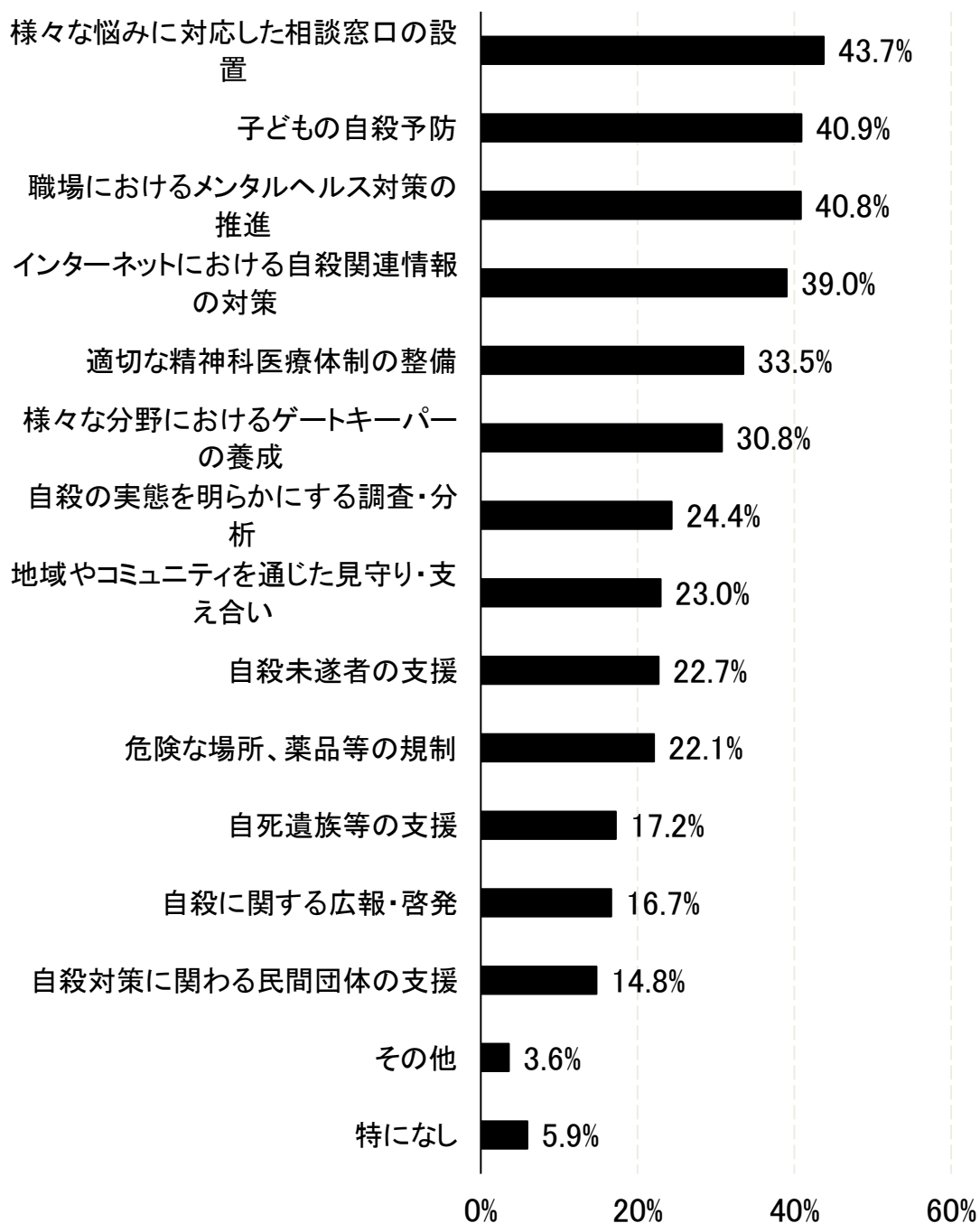


図 89 Q42 今後求められる自殺対策（複数回答・全体 N=1063）

Q42 の今後求められる自殺対策に関して、男女別で見ると、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」は男女で差があり、女性よりも男性の方が 8.4 ポイント高い（図 90）。

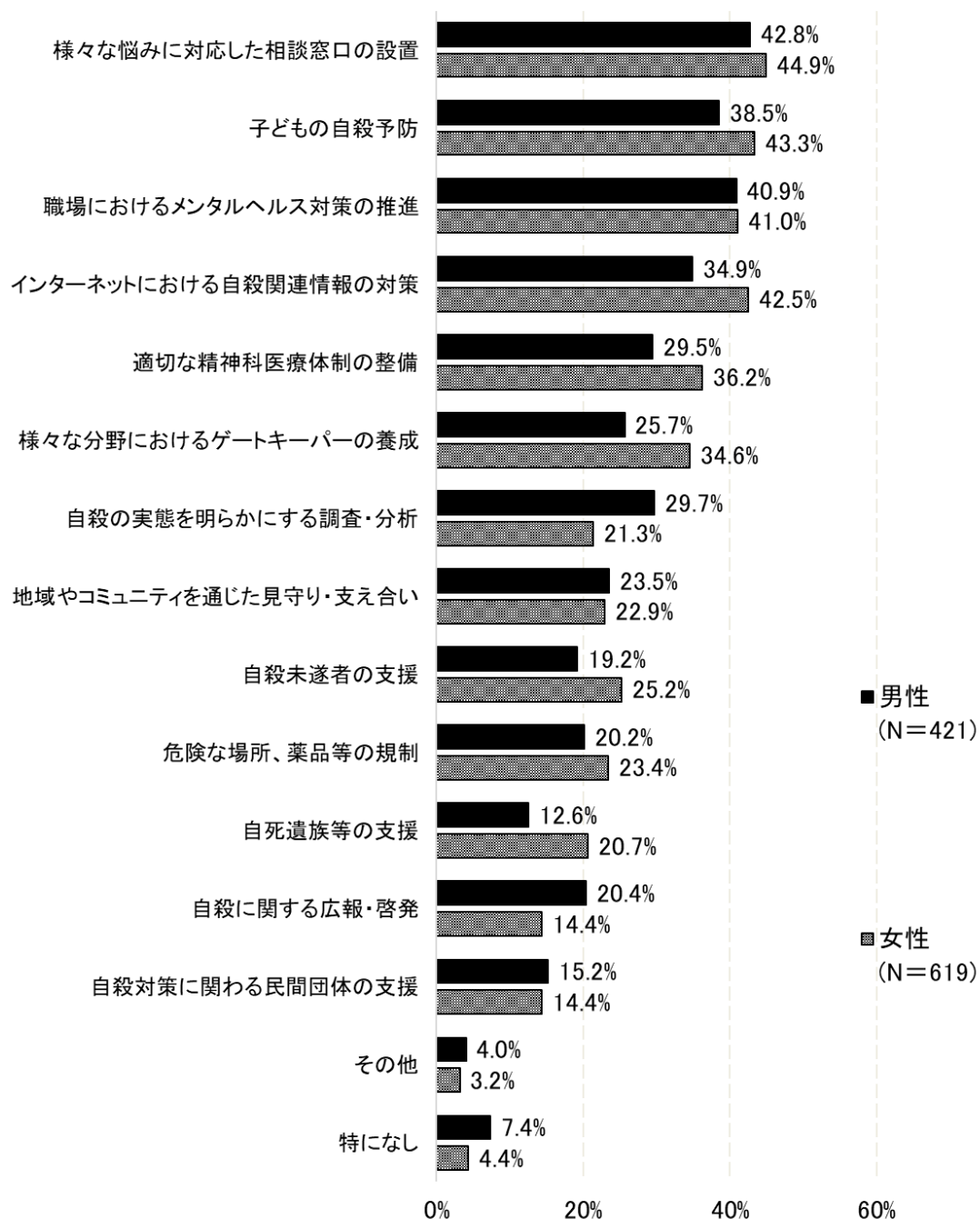


図 90 Q42 今後求められる自殺対策（複数回答・男女別）

Q42 の今後求められる自殺対策に関して、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」は年代で差があり、30代が61.0%と最も高く、70代以上は27.4%と最も低い（図91）。

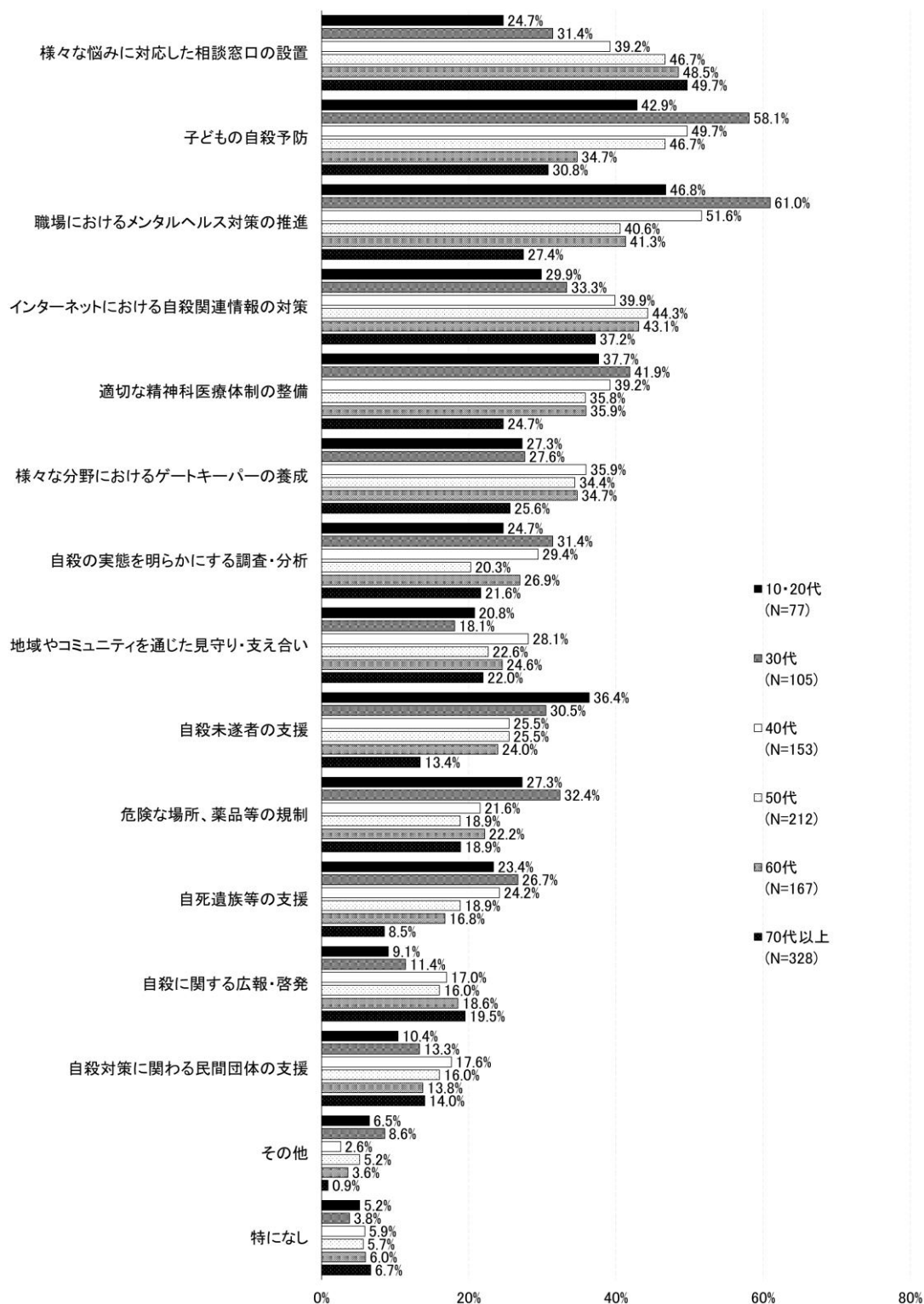


図91 Q42 今後求められる自殺対策（複数回答・年代別）

Q43 の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、「身近な人に悩みを聞いてもらう」が 63.0%で最も高く、「心の専門家に相談する」が 57.0%と続く（図 92）。

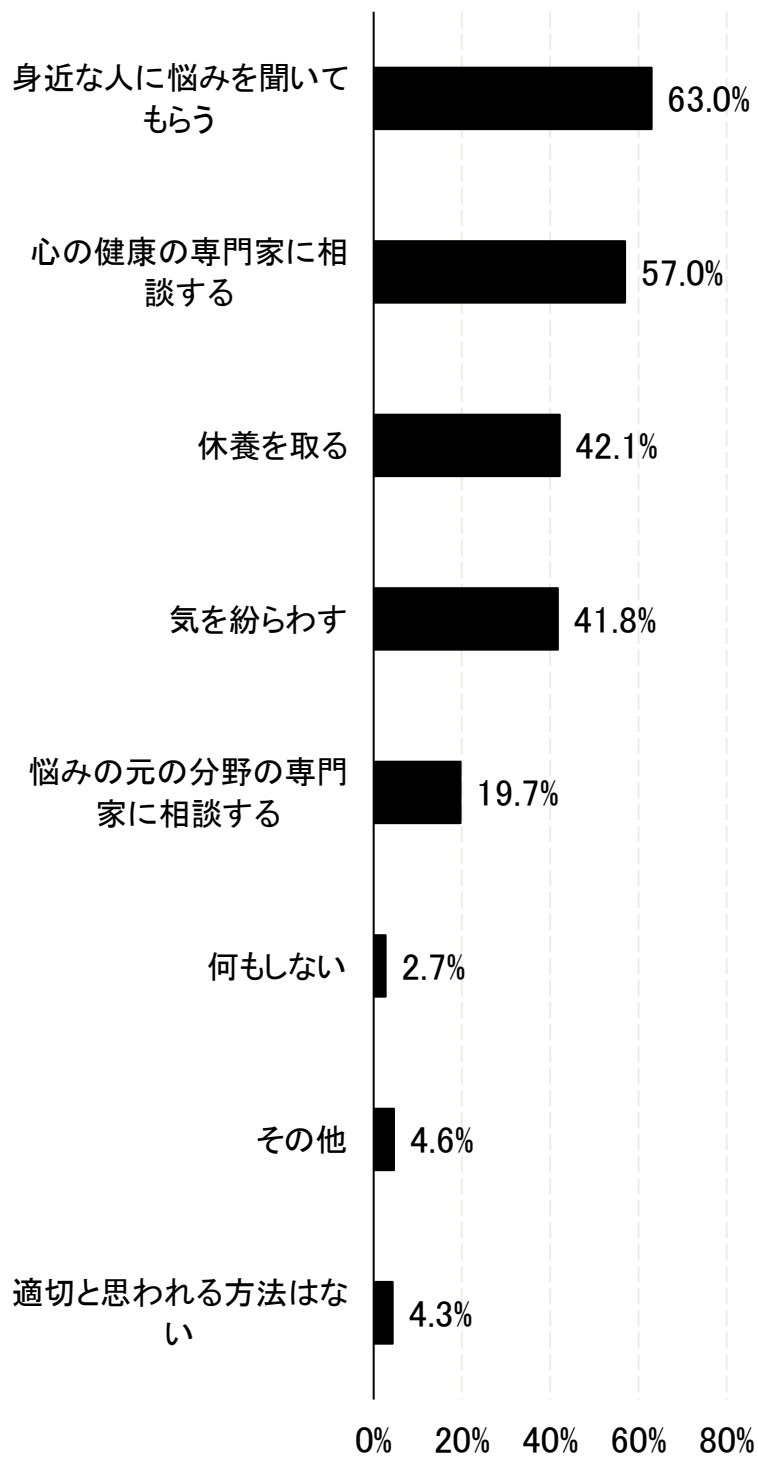


図 92 Q43 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・全体 N=1063）

Q43 の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、男女別で見ると、「心の健康の専門家に相談する」は男女で差があり、男性よりも女性の方が 5.2 ポイント高い（図 93）。

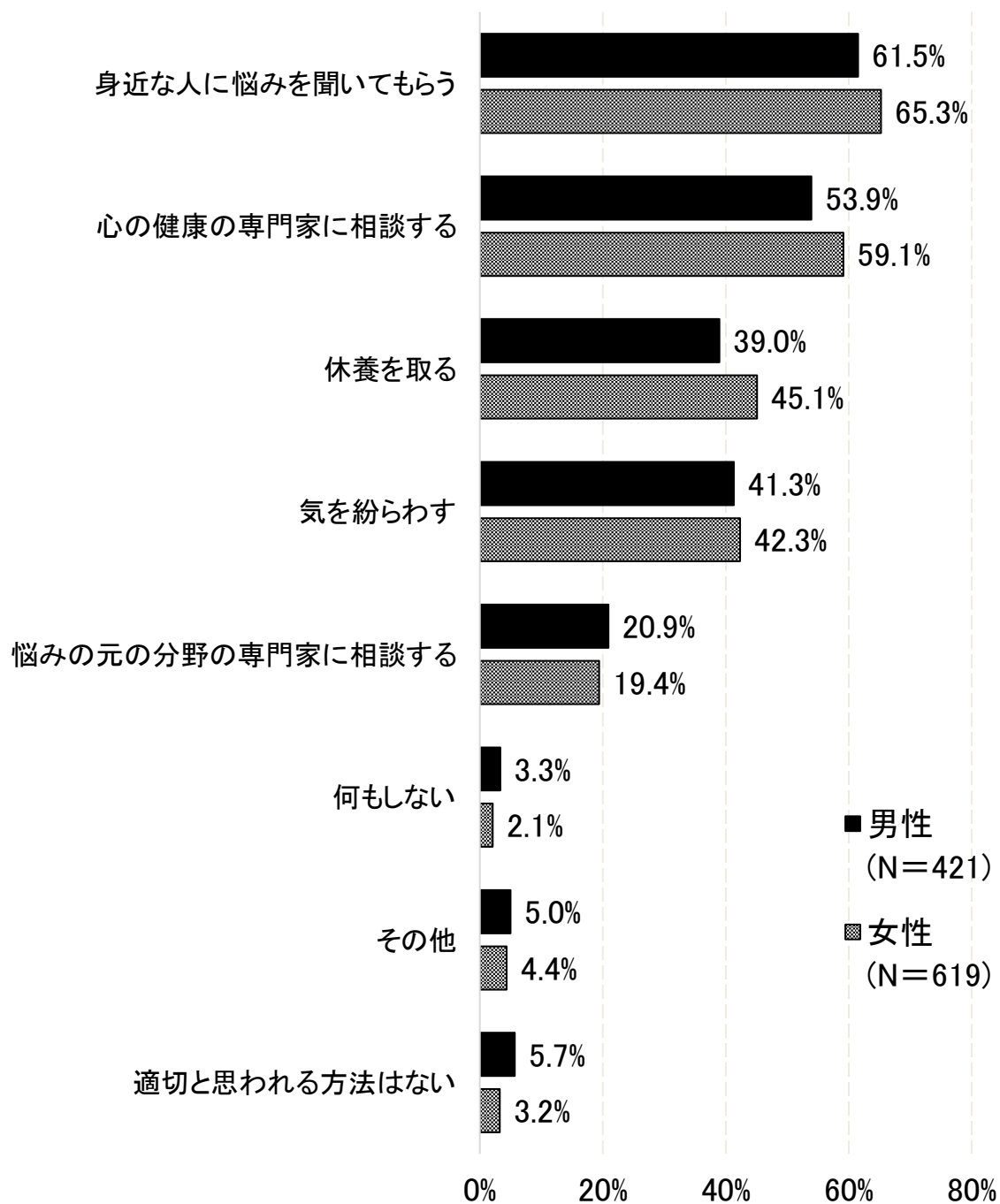


図 93 Q43 自殺したい気持ちを乗り越える方法（複数回答・男女別）

Q43の自殺したい気持ちを乗り越える方法に関して、年代別で見ると、「休養を取る」は年代で差があり、10・20代が66.2%と最も高く、反対に70代以上は25.0%と最も低い(図94)。

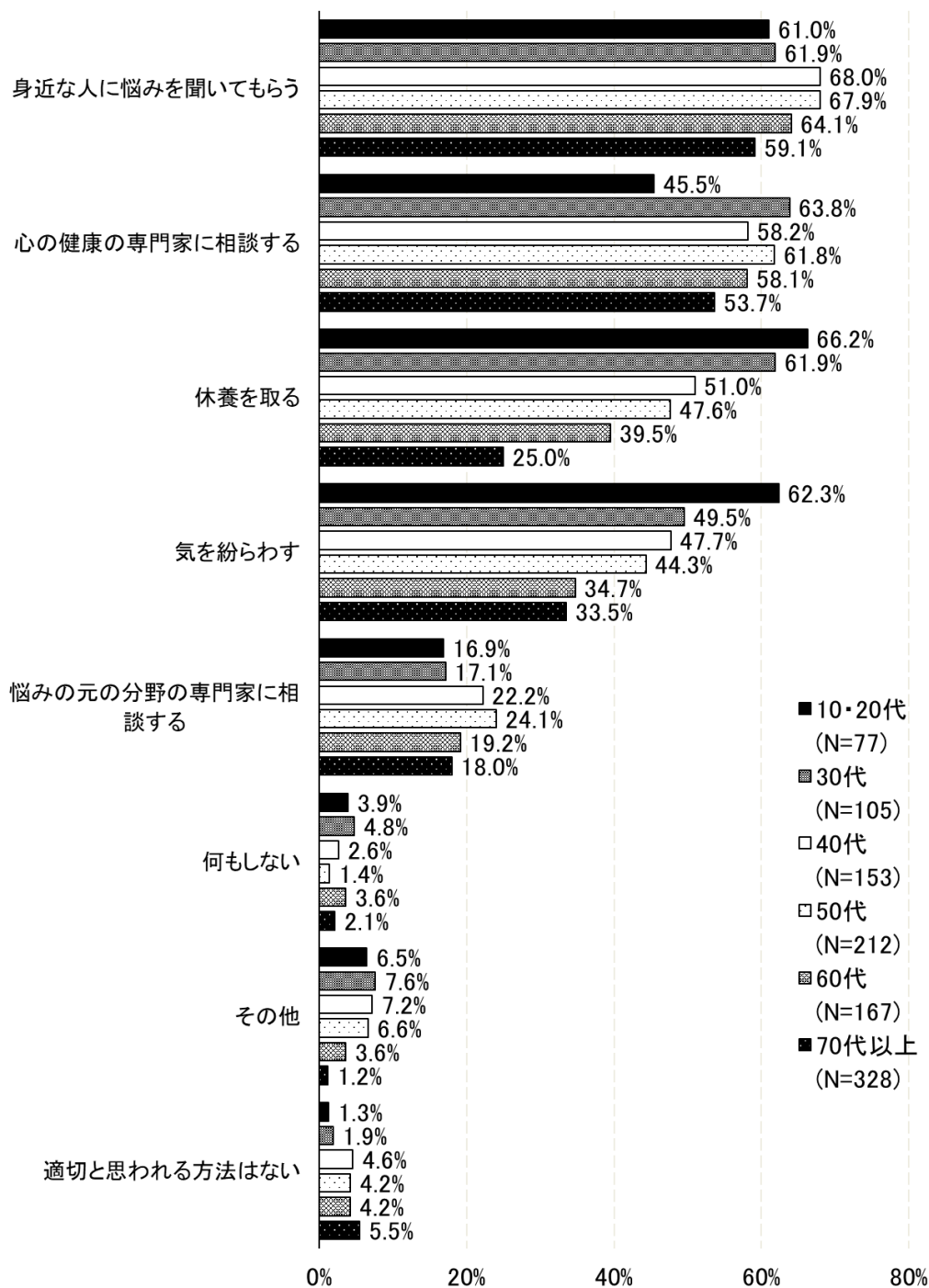


図 94 Q43 自殺したい気持ちを乗り越える方法 (複数回答・年代別)

Q44①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、「公園の整備や自然・緑の保全」が 32.3%と最も高く、「医療施設や救急医療体制の整備」が 28.1%と続く（図 95）。

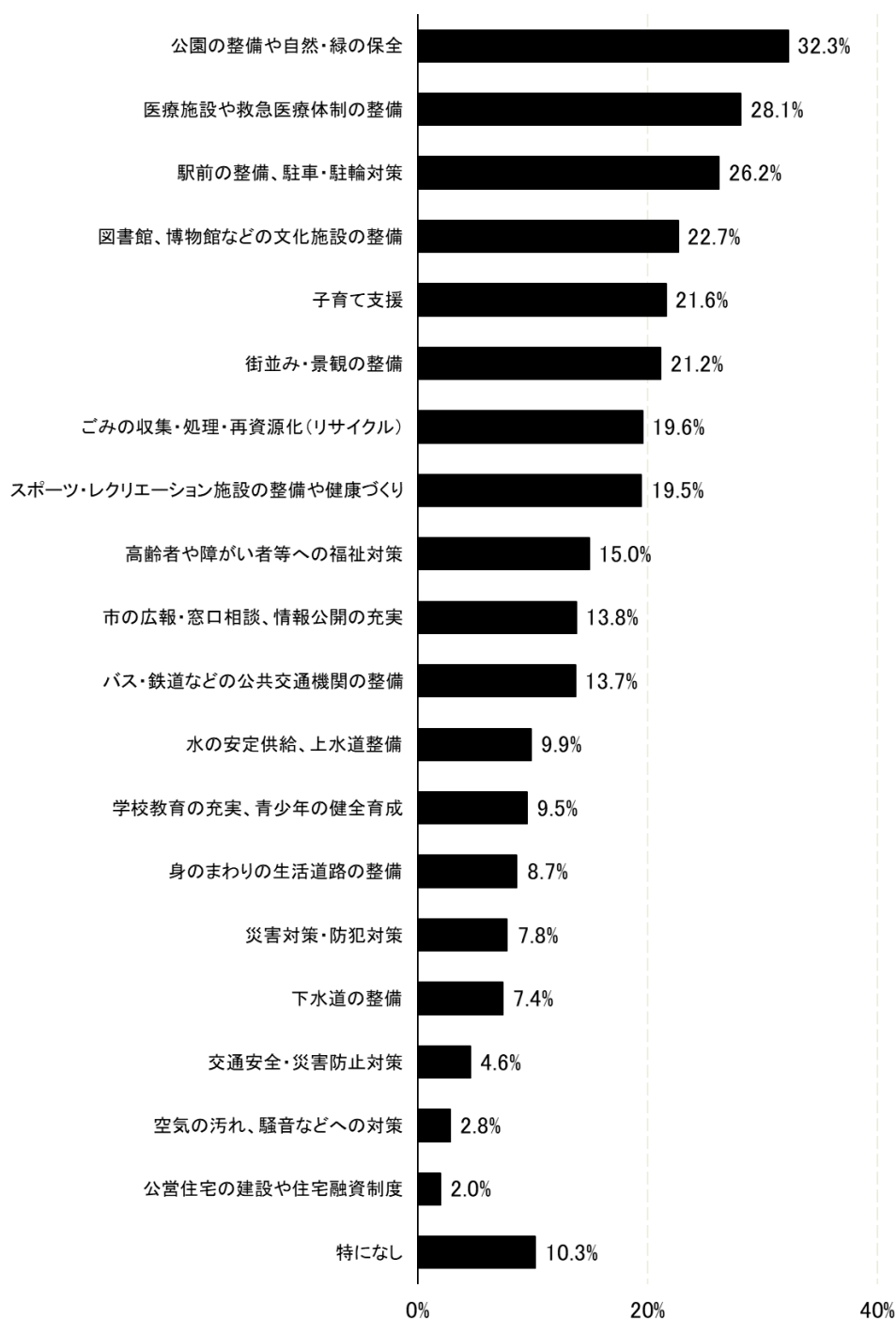


図 95 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの
(複数回答・全体 N=1063)

Q44①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、男女別で見ると、「子育て支援」では、男性よりも女性の方が4.7ポイント高い（図96）。

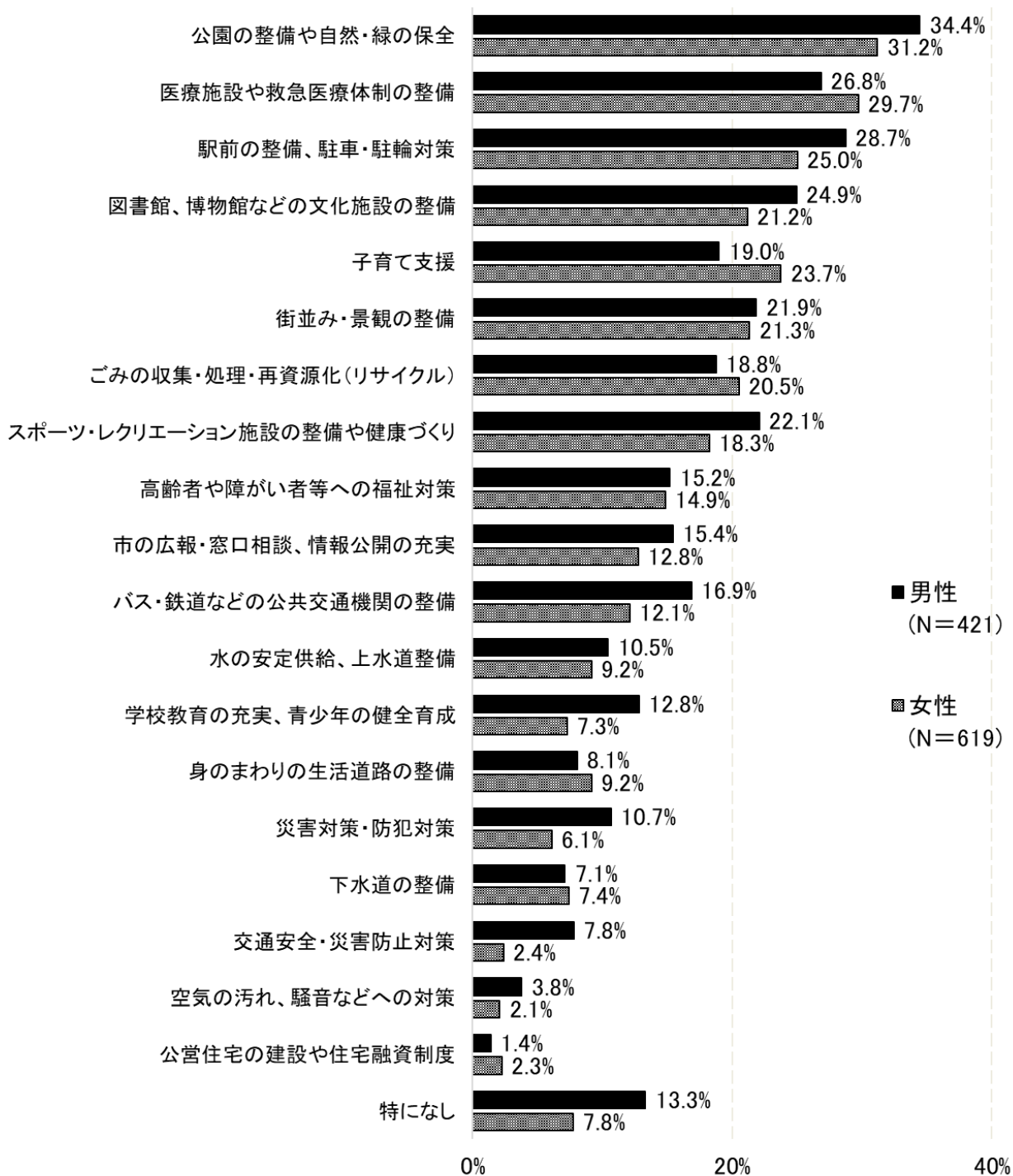


図96 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・男女別）

Q44①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、全年代で「公園の整備や自然・緑の保全」が25%を超え、60代以下では、30%を超えている（表5、図97）。

表5 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・年代別）

	公園の整備や自然・緑の保全	医療施設や救急医療体制の整備	駅前の整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	子育て支援	街並み・景観の整備	ごみの収集・処理・資源化（リサイクル）
10・20代 (N=77)	33.8	20.8	31.2	18.2	22.1	27.3	7.8
30代 (N=105)	34.3	29.5	28.6	21.0	36.2	31.4	11.4
40代 (N=153)	39.9	33.3	26.1	24.2	27.5	26.1	10.5
50代 (N=212)	33.5	26.9	25.0	17.0	26.4	26.9	15.6
60代 (N=167)	32.9	19.2	19.8	28.1	18.6	15.0	19.8
70代以上 (N=328)	26.8	32.9	29.0	24.4	13.1	14.0	32.3

	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	高齢者や障がい者等への福祉対策	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	水の安定供給、上下水道整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	身のまわりの生活道路の整備
10・20代 (N=77)	11.7	10.4	13.0	16.9	3.9	14.3	13.0
30代 (N=105)	21.9	9.5	12.4	14.3	7.6	14.3	10.5
40代 (N=153)	21.6	13.1	13.1	11.8	9.2	13.7	6.5
50代 (N=212)	14.6	6.6	11.8	8.5	6.1	8.5	9.9
60代 (N=167)	22.2	12.6	9.6	10.2	9.0	7.8	4.2
70代以上 (N=328)	22.0	25.9	18.0	19.5	15.2	6.4	9.5

	災害対策・防犯対策	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	空気の汚れ、騒音などへの対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	特になし
10・20代 (N=77)	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
30代 (N=105)	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
40代 (N=153)	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
50代 (N=212)	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
60代 (N=167)	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1
70代以上 (N=328)	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1

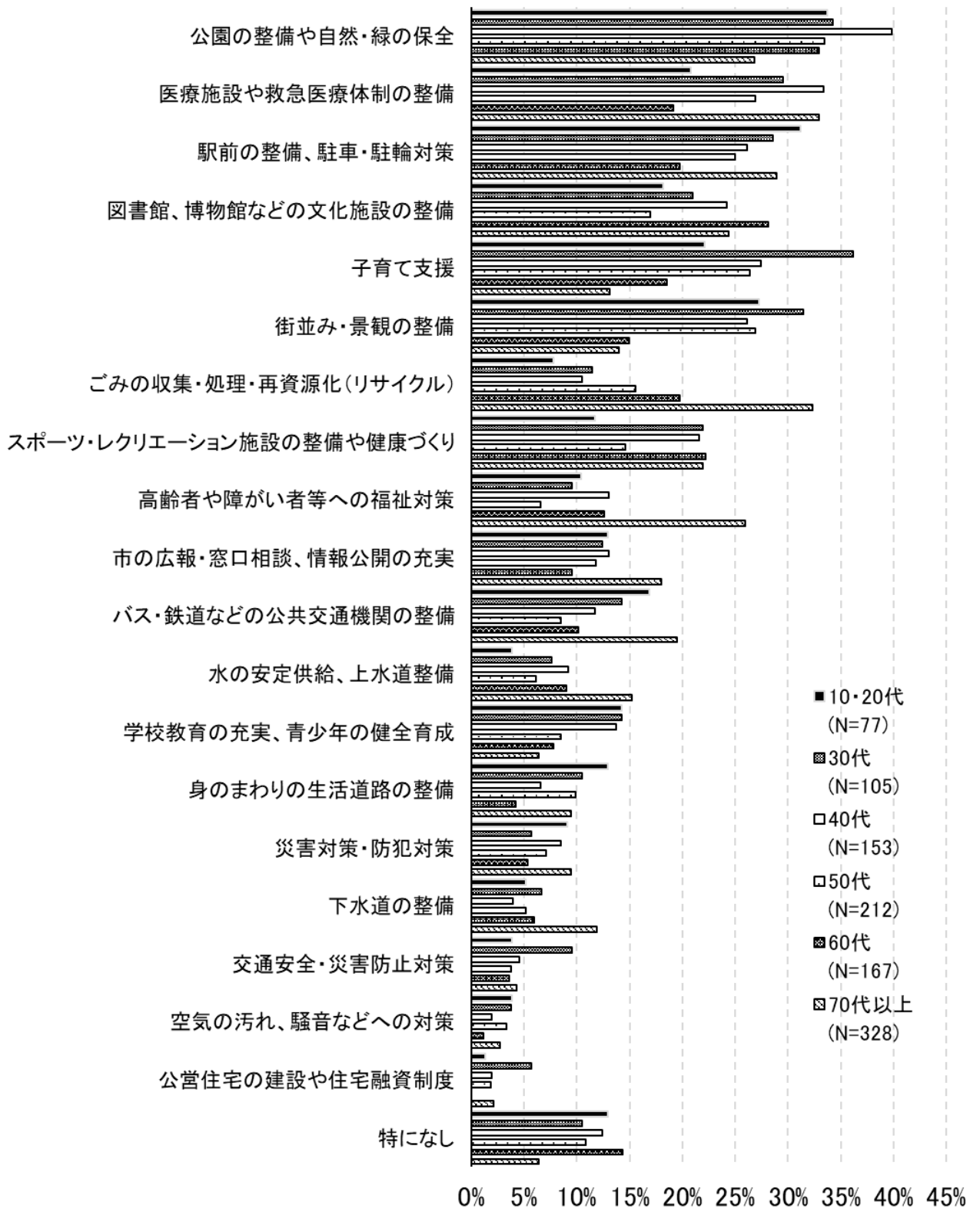


図 97 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・年代別）

Q44①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、居住地域別で見ると、「公園の整備や自然・緑の保全」及び「医療施設や救急医療体制の整備」は全地域で20%を超えている（表6、図98）。

表6 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・居住地域別）

	(%)						
	公園の整備や 自然・緑の保 全	医療施設や救 急医療体制の 整備	駅前の整備、 駐車・駐輪対 策	図書館、博物 館などの文化施 設の整備	子育て支援	街並み・景観 の整備	ごみの収集・処 理・再資源化 (リサイクル)
高槻北地区 (N=307)	33.6	33.9	33.6	25.7	25.1	24.1	18.6
高槻南地区 (N=262)	37.4	27.5	26.7	19.5	20.6	20.6	21.4
五領地区 (N=32)	50.0	25.0	21.9	18.8	28.1	21.9	25.0
高槻西地区 (N=190)	28.4	26.3	26.8	24.2	17.4	18.4	18.9
如是・富田地区 (N=193)	28.5	23.3	20.2	22.3	19.7	21.2	21.8
三箇牧地区 (N=28)	25.0	35.7	10.7	28.6	21.4	21.4	14.3

	スポーツ・レ クリエーショ ン施設の整備 や健康づくり	高齢者や障が い者等への福 祉対策	市の広報・窓 口相談、情報 公開の充実	バス・鉄道な どの公共交通機 関の整備	水の安定供 給、上水道整 備	学校教育の充 実、青少年の 健全育成	身のまわりの 生活道路の整 備
高槻北地区 (N=307)	21.2	12.7	16.0	15.3	8.5	11.7	10.1
高槻南地区 (N=262)	19.8	16.0	14.1	14.1	6.9	10.7	6.9
五領地区 (N=32)	21.9	21.9	15.6	21.9	3.1	0.0	12.5
高槻西地区 (N=190)	22.1	18.9	13.2	15.3	12.1	7.9	8.9
如是・富田地区 (N=193)	16.6	13.5	12.4	10.9	15.0	8.3	8.3
三箇牧地区 (N=28)	14.3	17.9	7.1	3.6	14.3	7.1	7.1

	災害対策・防 犯対策	下水道の整備	交通安全・災 害防止対策	空気の汚れ、 騒音などへの対 策	公営住宅の建 設や住宅融資 制度	特になし
高槻北地区 (N=307)	9.8	7.8	4.6	2.0	1.3	6.2
高槻南地区 (N=262)	5.7	5.0	4.2	3.4	2.3	12.6
五領地区 (N=32)	3.1	9.4	3.1	0.0	0.0	6.3
高槻西地区 (N=190)	9.5	7.9	4.2	3.2	2.1	12.6
如是・富田地区 (N=193)	8.8	10.4	6.7	2.1	2.1	9.8
三箇牧地区 (N=28)	7.1	0.0	3.6	7.1	3.6	10.7

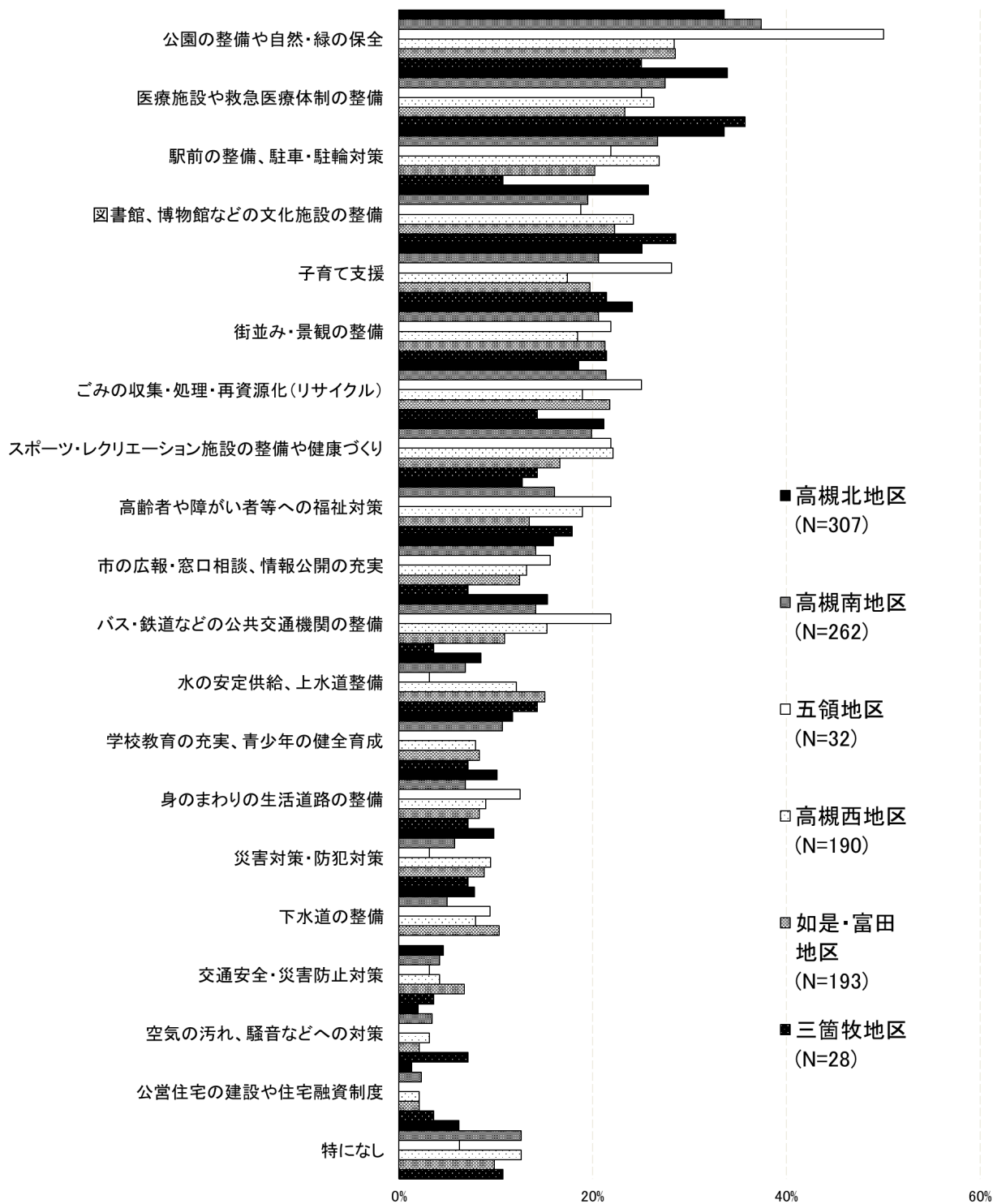


図 98 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの
(複数回答・居住地域別)

Q44①の市の仕事のうち最近良くなってきたと思うものに関して、居住年数別で見ると、「公園の整備や自然・緑の保全」は1年未満を除き20%以上であり、5年以上10年未満が39.1%と最も高い（表7、図99）。

表7 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの（複数回答・居住年数別）

	公園の整備や自然・緑の保全	医療施設や救急医療体制の整備	駅前の整備、駐車・駐輪対策	図書館、博物館などの文化施設の整備	子育て支援	街並み・景観の整備	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	(%)
1年未満 (N=21)	14.3	9.5	9.5	23.8	19.0	9.5	14.3	
1年以上3年未満 (N=31)	32.3	19.4	16.1	9.7	22.6	12.9	16.1	
3年以上5年未満 (N=13)	30.8	15.4	15.4	15.4	7.7	15.4	15.4	
5年以上10年未満 (N=69)	39.1	39.1	21.7	26.1	37.7	29.0	11.6	
10年以上20年未満 (N=126)	33.3	27.0	29.4	23.0	27.0	24.6	11.1	
20年以上30年未満 (N=184)	33.2	26.6	27.2	19.6	22.8	25.0	15.8	
30年以上40年未満 (N=173)	34.7	22.0	26.6	23.7	20.8	20.2	17.9	
40年以上50年未満 (N=190)	28.4	35.3	31.1	25.8	21.6	22.6	27.4	
50年以上 (N=242)	32.2	29.8	24.8	22.7	15.7	15.7	25.6	
	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	高齢者や障がい者等への福祉対策	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	水の安定供給、水道整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	身のまわりの生活道路の整備	
1年未満 (N=21)	9.5	4.8	9.5	0.0	4.8	4.8	0.0	
1年以上3年未満 (N=31)	9.7	6.5	19.4	12.9	6.5	9.7	9.7	
3年以上5年未満 (N=13)	7.7	7.7	15.4	30.8	7.7	0.0	0.0	
5年以上10年未満 (N=69)	29.0	11.6	18.8	14.5	10.1	11.6	10.1	
10年以上20年未満 (N=126)	15.9	11.1	11.9	12.7	6.3	8.7	9.5	
20年以上30年未満 (N=184)	16.3	9.8	10.3	8.2	4.9	12.0	8.2	
30年以上40年未満 (N=173)	23.7	17.3	13.9	13.3	8.1	8.1	9.8	
40年以上50年未満 (N=190)	20.0	18.4	15.8	15.8	13.7	11.6	7.9	
50年以上 (N=242)	21.1	20.2	13.6	18.2	14.5	7.4	9.1	
	災害対策・防犯対策	下水道の整備	交通安全・災害防止対策	空気の汚れ、騒音などへの対策	公営住宅の建設や住宅融資制度	特になし		
1年未満 (N=21)	9.5	0.0	4.8	0.0	0.0	28.6		
1年以上3年未満 (N=31)	3.2	3.2	6.5	6.5	0.0	12.9		
3年以上5年未満 (N=13)	0.0	7.7	20.5	0.0	0.0	23.1		
5年以上10年未満 (N=69)	13.0	5.8	5.8	2.9	7.2	4.3		
10年以上20年未満 (N=126)	5.6	4.0	4.0	2.4	2.4	15.1		
20年以上30年未満 (N=184)	7.6	3.3	2.7	2.2	1.6	7.1		
30年以上40年未満 (N=173)	9.8	6.4	9.2	1.2	0.6	12.7		
40年以上50年未満 (N=190)	5.8	11.6	4.2	3.2	2.1	8.4		
50年以上 (N=242)	8.3	10.7	2.9	3.3	2.1	8.3		

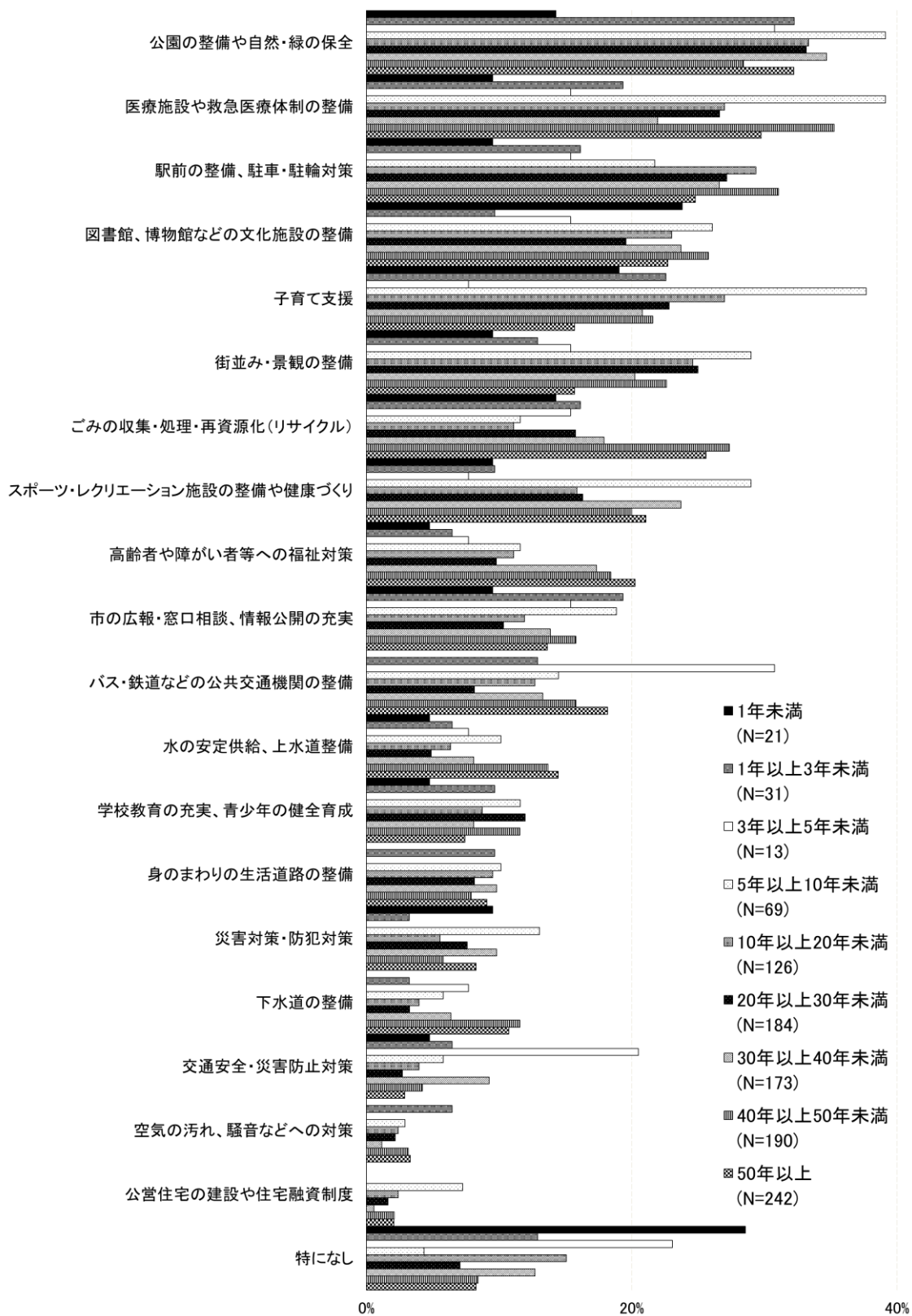


図 99 Q44① 市の仕事のうち最近良くなってきたと思うもの
(複数回答・居住年数別)

Q44②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、「高齢者や障がい者等への福祉対策」が26.7%と最も高く、「災害対策・防犯対策」が25.0%と続く（図100）。

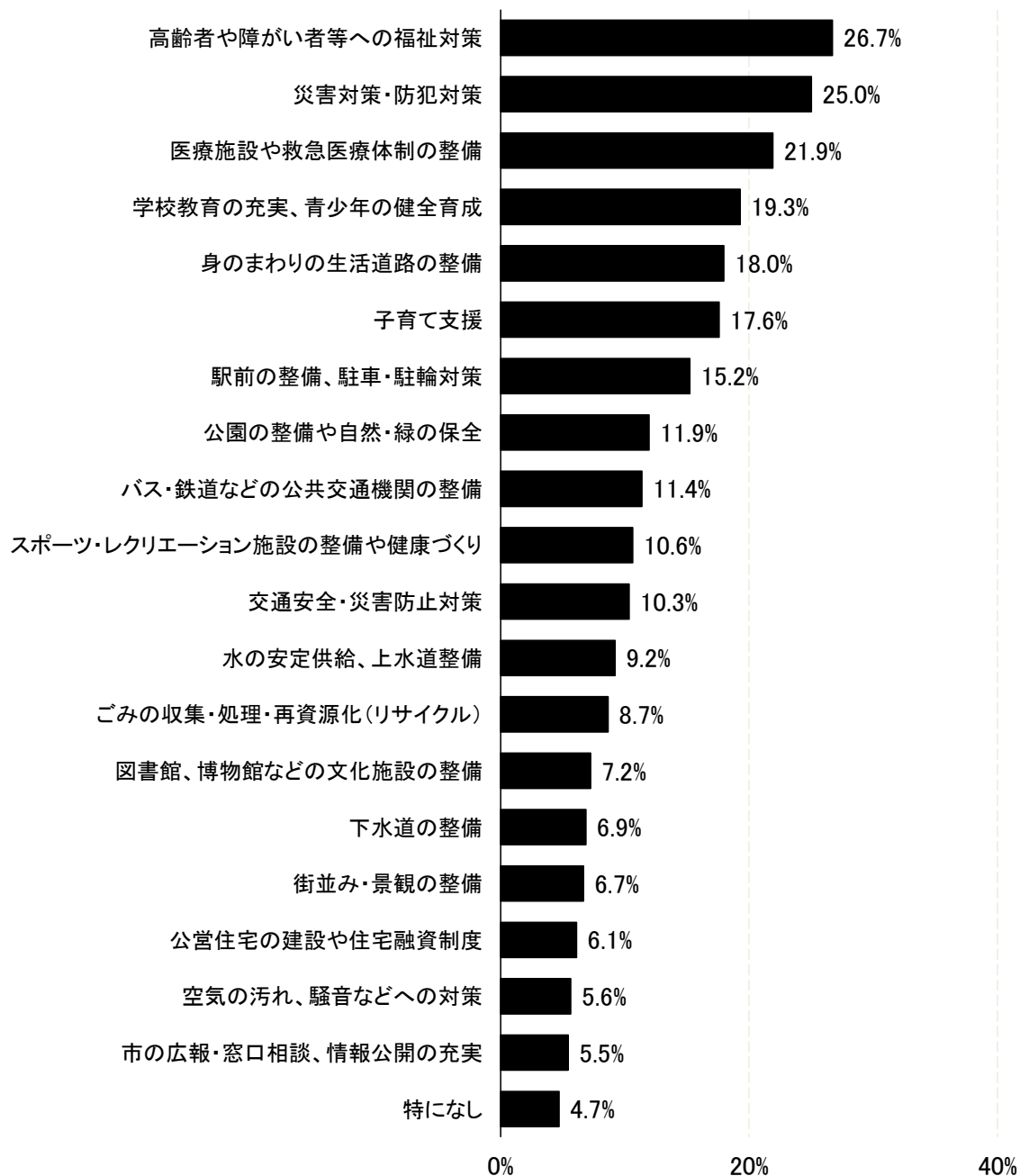


図100 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの
 (複数回答・全体 N=1063)

Q44②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、男女別で見ると、「災害対策・防犯対策」では、男性よりも女性の方が3.5ポイント高い（図 101）。

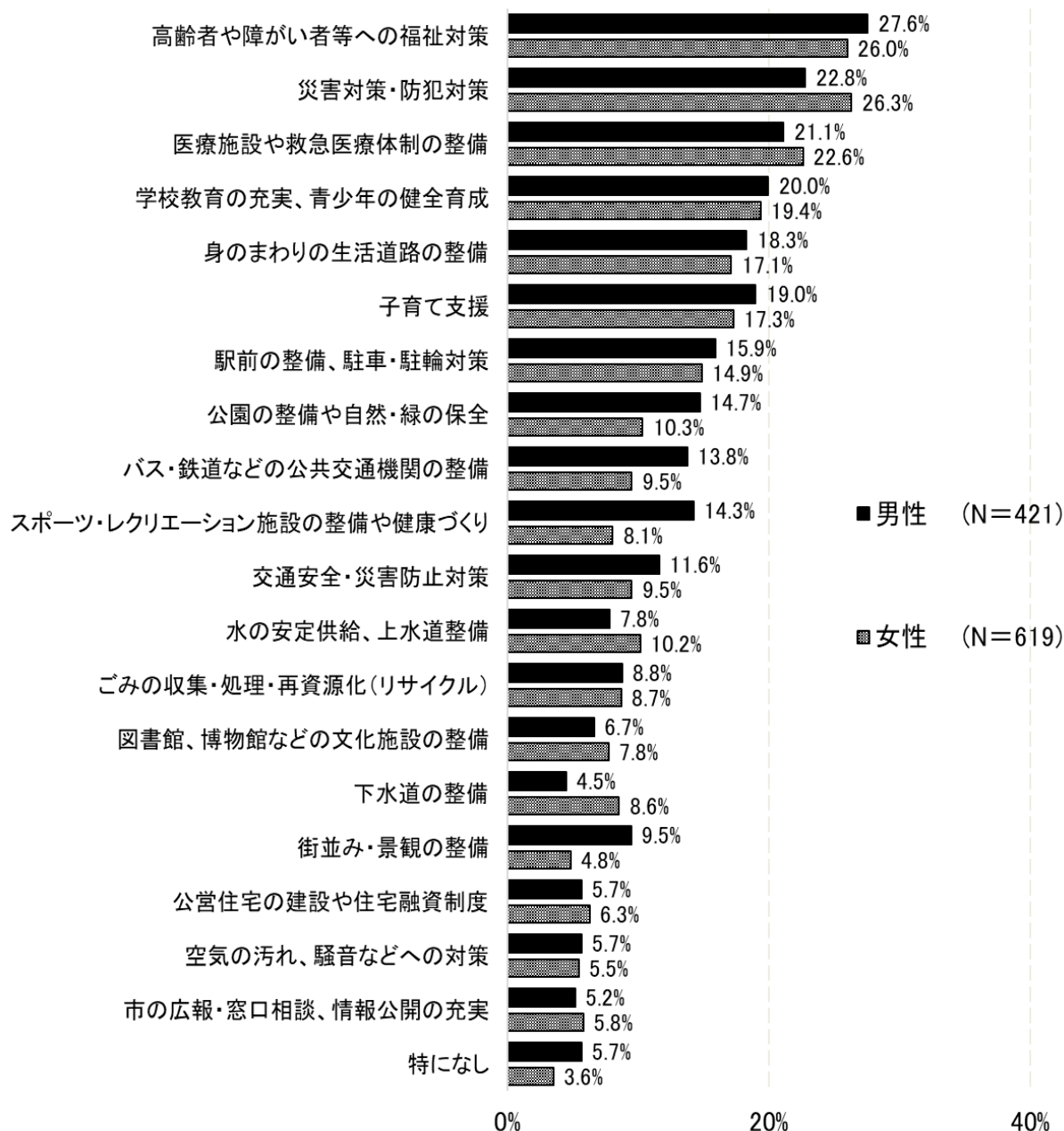


図 101 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・男女別）

Q44②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、年代別で見ると、「子育て支援」は若い世代で高く、30代は44.8%と最も高い（表8、図102）。

表8 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

	高齢者や障がい者等への福祉対策	災害対策・防犯対策	医療施設や救急医療体制の整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	身のまわりの生活道路の整備	子育て支援	駅前の整備、駐車・駐輪対策	(%)
10・20代 (N=77)	2.6	23.4	18.2	19.5	11.7	23.4	19.5	
30代 (N=105)	11.4	18.1	11.4	31.4	21.9	44.8	15.2	
40代 (N=153)	17.0	29.4	16.3	28.8	21.6	28.1	17.6	
50代 (N=212)	25.9	32.1	24.5	16.0	23.1	15.6	18.4	
60代 (N=167)	43.1	21.6	32.3	10.8	18.0	10.2	15.0	
70代以上 (N=328)	34.1	22.3	20.7	18.0	12.5	8.5	10.7	

	公園の整備や自然・緑の保全	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	交通安全・災害防止対策	水の安定供給、上水道整備	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	図書館、博物館などの文化施設の整備
10・20代 (N=77)	16.9	9.1	10.4	15.6	6.5	7.8	10.4
30代 (N=105)	16.2	12.4	9.5	17.1	8.6	4.8	10.5
40代 (N=153)	12.4	7.8	11.1	10.5	9.2	6.5	6.5
50代 (N=212)	9.9	16.0	12.3	9.0	12.3	11.3	8.0
60代 (N=167)	13.2	10.8	12.6	6.6	7.8	7.8	6.6
70代以上 (N=328)	10.7	10.7	8.5	9.8	8.8	10.4	6.1

	下水道の整備	街並み・景観の整備	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	特になし
10・20代 (N=77)	5.2	3.9	3.9	10.4	3.9	6.5
30代 (N=105)	3.8	10.5	8.6	6.7	5.7	2.9
40代 (N=153)	5.2	4.6	4.6	4.6	3.3	5.9
50代 (N=212)	9.0	8.5	6.1	6.6	2.8	2.8
60代 (N=167)	6.0	4.8	8.4	6.0	6.6	6.6
70代以上 (N=328)	8.2	6.7	5.2	3.7	8.2	4.3

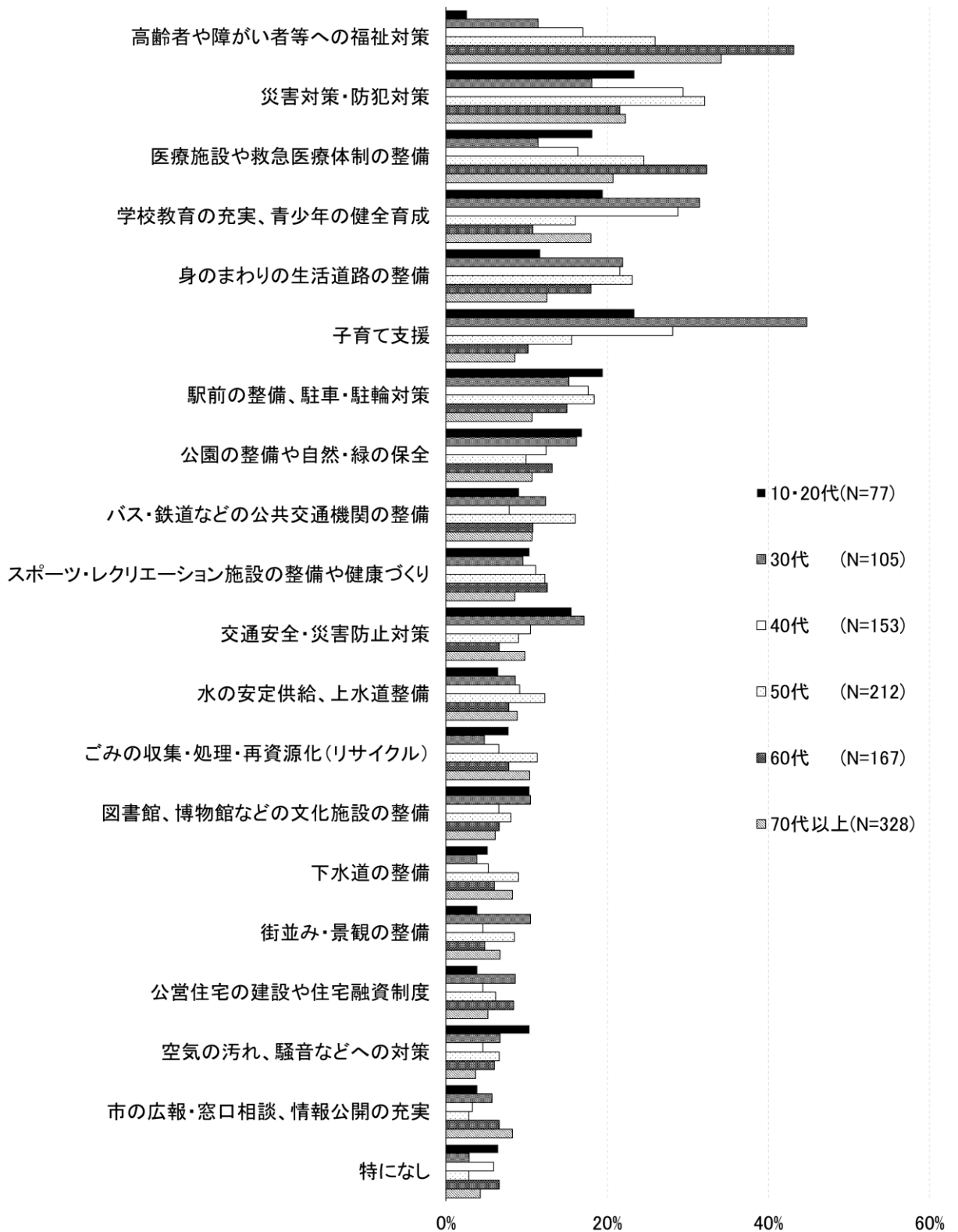


図 102 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・年代別）

Q44②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住地域別で見ると、「高齢者や障がい者等への福祉対策」及び「医療施設や救急医療体制の整備」は全地域で 20% を超えている（表 9, 図 103）。

表 9 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

	高齢者や障がい者等への福祉対策	災害対策・防犯対策	医療施設や救急医療体制の整備	学校教育の充実、青少年の健全育成	身のまわりの生活道路の整備	子育て支援	駅前の整備、駐車・駐輪対策
高槻北地区 (N=307)	29.6	27.7	21.8	21.2	14.7	20.8	12.7
高槻南地区 (N=262)	28.2	22.5	22.1	22.1	14.5	17.6	20.6
五領地区 (N=32)	25.0	12.5	21.9	15.6	12.5	12.5	6.3
高槻西地区 (N=190)	22.6	26.3	21.6	16.3	20.5	15.8	17.9
如是・富田地区 (N=193)	26.4	26.9	22.8	16.6	26.9	16.6	11.4
三箇牧地区 (N=28)	25.0	10.7	21.4	17.9	7.1	25.0	3.6

	公園の整備や自然・緑の保全	バス・鉄道などの公共交通機関の整備	スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	交通安全・災害防止対策	水の安定供給、上水道整備	ごみの収集・処理・再資源化（リサイクル）	図書館、博物館などの文化施設の整備
高槻北地区 (N=307)	14.0	8.5	13.7	10.7	7.8	8.1	9.4
高槻南地区 (N=262)	12.2	7.6	8.4	11.1	8.0	10.3	4.6
五領地区 (N=32)	6.3	28.1	12.5	15.6	6.3	21.9	12.5
高槻西地区 (N=190)	15.3	18.9	7.9	11.1	13.2	7.4	8.4
如是・富田地区 (N=193)	8.3	9.3	12.4	8.8	8.8	6.2	6.7
三箇牧地区 (N=28)	7.1	17.9	0.0	7.1	10.7	10.7	0.0

	下水道の整備	街並み・景観の整備	公営住宅の建設や住宅融資制度	空気の汚れ、騒音などへの対策	市の広報・窓口相談、情報公開の充実	特になし
高槻北地区 (N=307)	7.2	8.8	5.2	5.9	3.9	4.6
高槻南地区 (N=262)	8.4	7.6	4.6	6.9	7.3	4.2
五領地区 (N=32)	9.4	6.3	6.3	0.0	12.5	3.1
高槻西地区 (N=190)	3.7	5.8	5.3	5.8	4.7	4.7
如是・富田地区 (N=193)	6.7	3.1	8.3	4.7	6.2	3.6
三箇牧地区 (N=28)	7.1	3.6	10.7	3.6	0.0	3.6

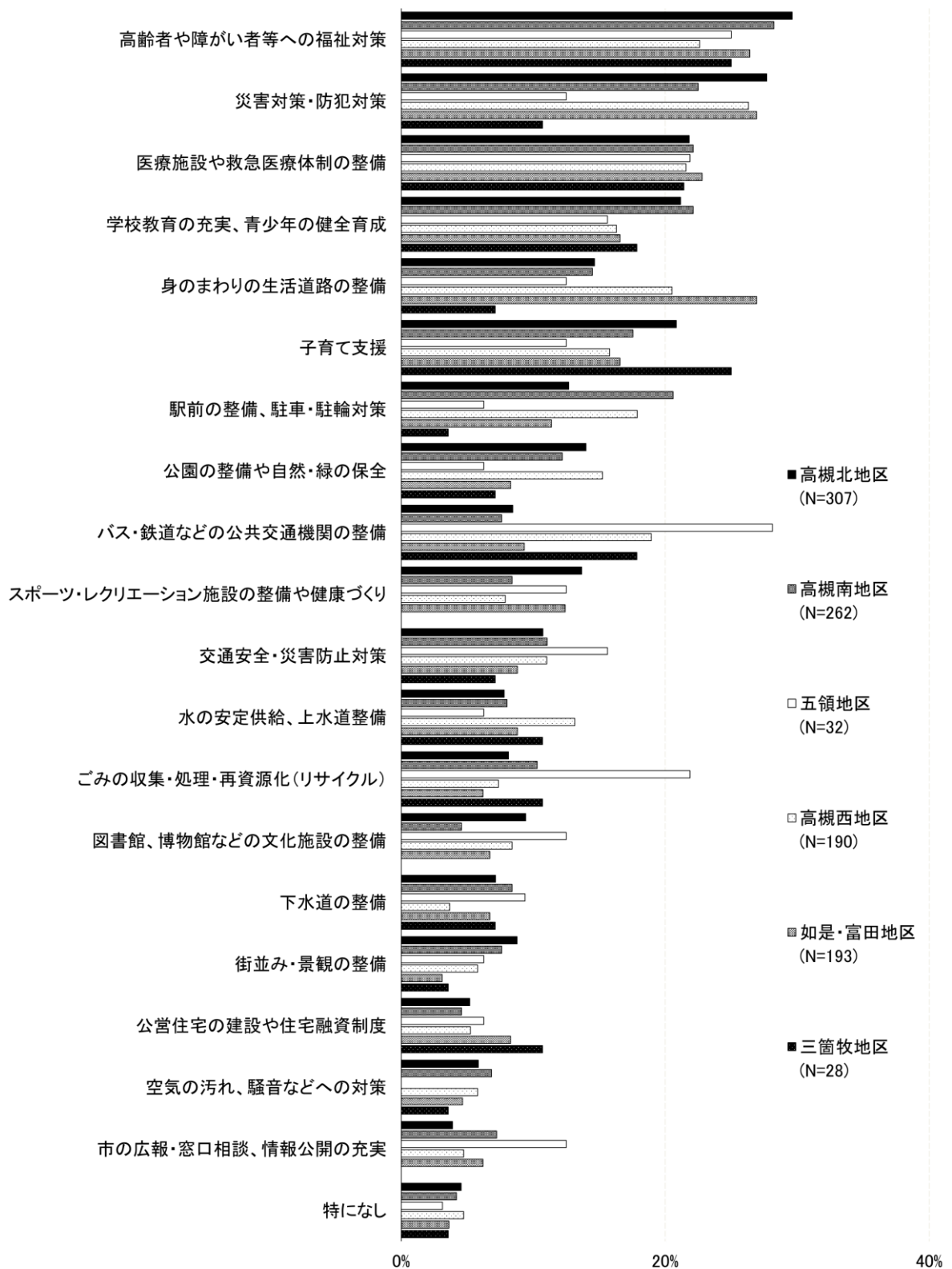


図 103 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住地域別）

Q44②の市の仕事のうち今後力を入れてほしいものに関して、居住年数別で見ると、「子育て支援」は3年以上5年未満の区分では69.2%と最も高く、1年以上から10年未満の区分では3割を超えている（表10, 図104）。

表10 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

	(%)						
	高齢者や障がい者等 への福祉対策	災害対策・防犯対策	医療施設や救急医療 体制の整備	学校教育の充実、青少 年の健全育成	身のまわりの生活 道路の整備	子育て支援	駅前の整備、駐 車・駐輪対策
1年未満 (N=21)	19.0	4.8	14.3	4.8	9.5	19.0	4.8
1年以上3年未満 (N=31)	12.9	32.3	22.6	35.5	35.5	35.5	6.5
3年以上5年未満 (N=13)	23.1	15.4	23.1	15.4	46.2	69.2	15.4
5年以上10年未満 (N=69)	14.5	15.9	14.5	31.9	20.3	33.3	15.9
10年以上20年未満 (N=126)	20.6	26.2	17.5	23.0	15.1	19.8	14.3
20年以上30年未満 (N=184)	17.9	32.1	19.6	15.8	15.8	18.5	20.7
30年以上40年未満 (N=173)	34.7	21.4	22.5	22.0	19.1	19.1	19.1
40年以上50年未満 (N=190)	31.6	26.3	24.2	17.4	21.1	13.7	13.7
50年以上 (N=242)	34.3	24.8	26.4	15.7	14.0	9.1	11.6
	公園の整備や自然・ 緑の保全	バス・鉄道などの公 共交通機関の整備	スポーツ・レクリ エーション施設の整 備や健康づくり	交通安全・災害防止対 策	水の安定供給、上 水道整備	ごみの収集・処 理・再資源化（リ サイクル）	図書館、博物館な どの文化施設の整 備
1年未満 (N=21)	9.5	4.8	14.3	9.5	14.3	0.0	4.8
1年以上3年未満 (N=31)	16.1	12.9	9.7	0.0	6.5	6.5	9.7
3年以上5年未満 (N=13)	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0
5年以上10年未満 (N=69)	13.0	8.7	11.6	18.8	11.6	5.8	15.9
10年以上20年未満 (N=126)	8.7	12.7	8.7	9.5	6.3	9.5	5.6
20年以上30年未満 (N=184)	20.1	14.1	11.4	14.7	8.7	10.3	7.6
30年以上40年未満 (N=173)	8.7	12.7	7.5	7.5	8.7	5.2	8.7
40年以上50年未満 (N=190)	10.0	14.2	11.1	11.1	10.0	10.5	3.7
50年以上 (N=242)	11.6	7.4	12.0	8.3	9.9	9.5	7.9
	下水道の整備	街並み・景観の整備	公営住宅の建設や住 宅融資制度	空気の汚れ、騒音など への対策	市の広報・窓口相 談、情報公開の充 実	特になし	
1年未満 (N=21)	4.8	0.0	9.5	0.0	0.0	28.6	
1年以上3年未満 (N=31)	3.2	9.7	0.0	12.9	0.0	3.2	
3年以上5年未満 (N=13)	7.7	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
5年以上10年未満 (N=69)	8.7	7.2	2.9	7.2	5.8	1.4	
10年以上20年未満 (N=126)	4.8	7.9	6.3	7.9	6.3	8.7	
20年以上30年未満 (N=184)	6.5	7.6	4.9	5.4	4.3	2.2	
30年以上40年未満 (N=173)	5.2	3.5	8.1	4.0	4.6	4.6	
40年以上50年未満 (N=190)	11.6	5.8	6.8	5.3	5.3	2.6	
50年以上 (N=242)	5.8	7.9	6.6	5.8	8.3	4.1	

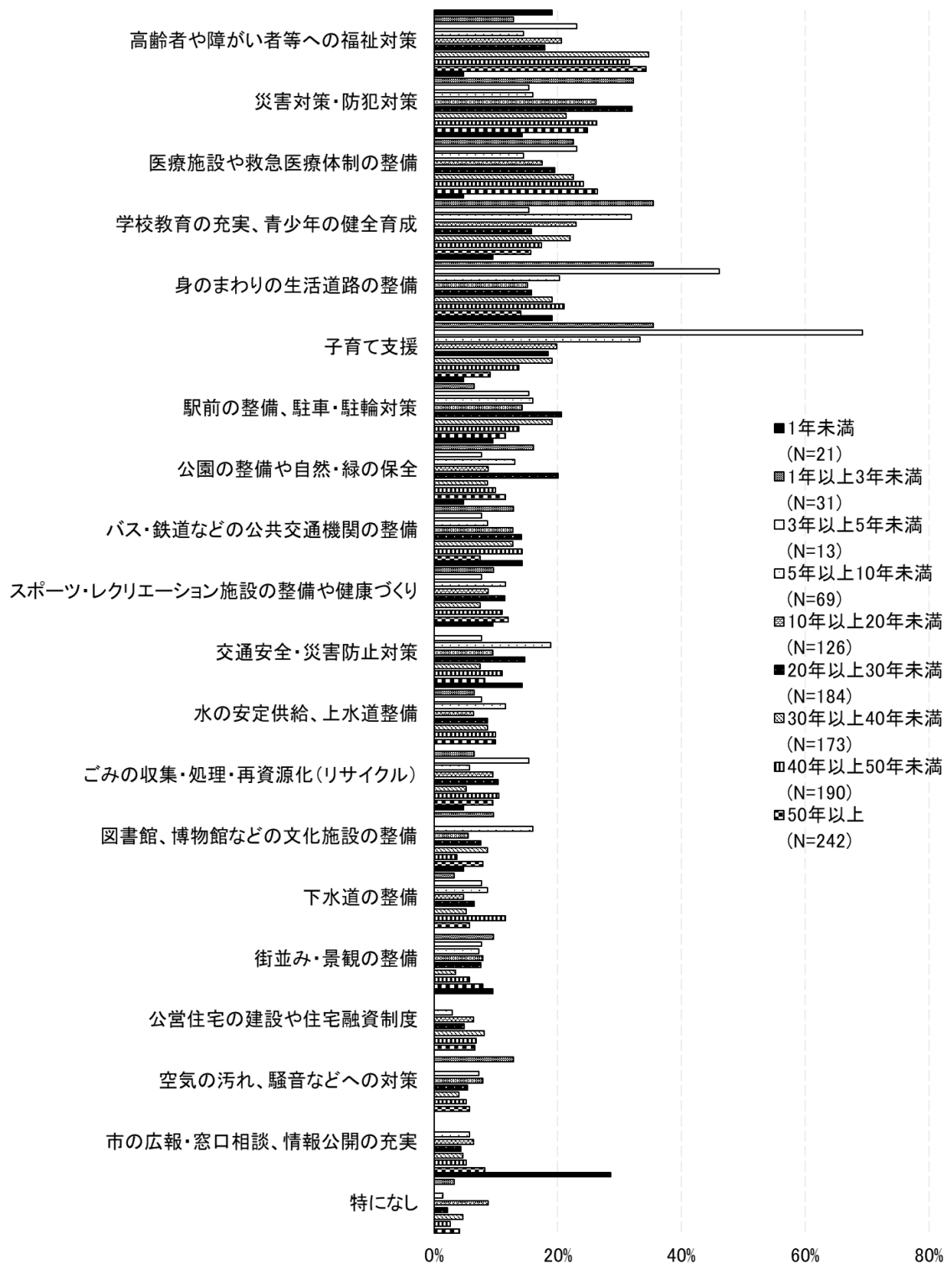


図 104 Q44② 市の仕事のうち今後力を入れてほしいもの（複数回答・居住年数別）

Q45の「高槻市みらいのための改革方針」の認知に関して、男女別・年代別のすべての層で「知らない」と回答した人が7割以上である。年代別で見ると、「名前も内容も知っている」または「名前だけ知っている」と回答した人の割合は70代以上が18.6%と最も高く、10・20代が6.5%と最も低い(図105)。

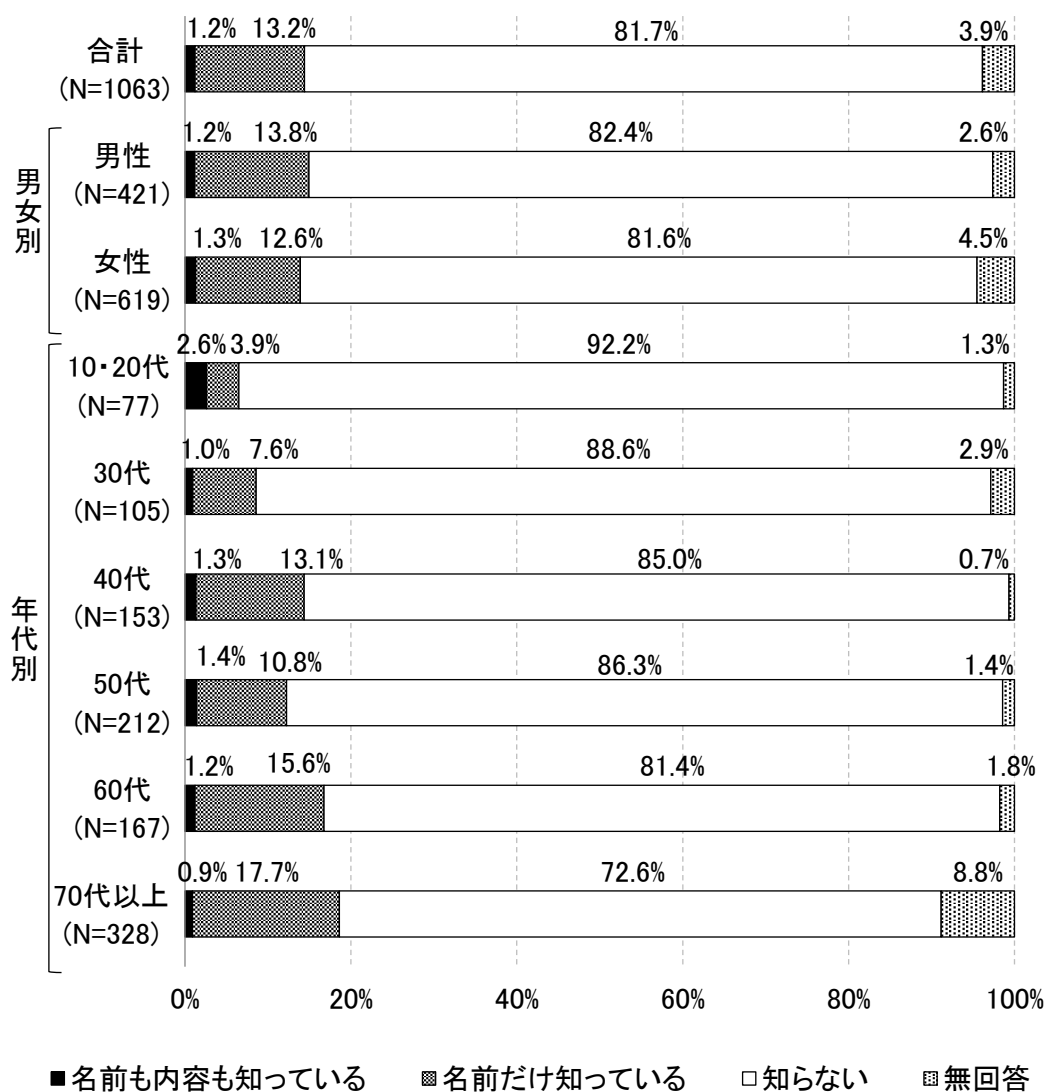


図 105 Q45 「高槻市みらいのための改革方針」の認知

Q46 の高槻市の 20 年後、30 年後を見据えて行財政改革に取り組むべきかに関して、男女別・年代別のすべての層で「感じる」または「やや感じる」と回答した人が 7 割以上である。年代別で見ると、「あまり感じない」または「感じない」と回答した人の割合は 10・20 代が 26.0%と最も高い（図 106）。

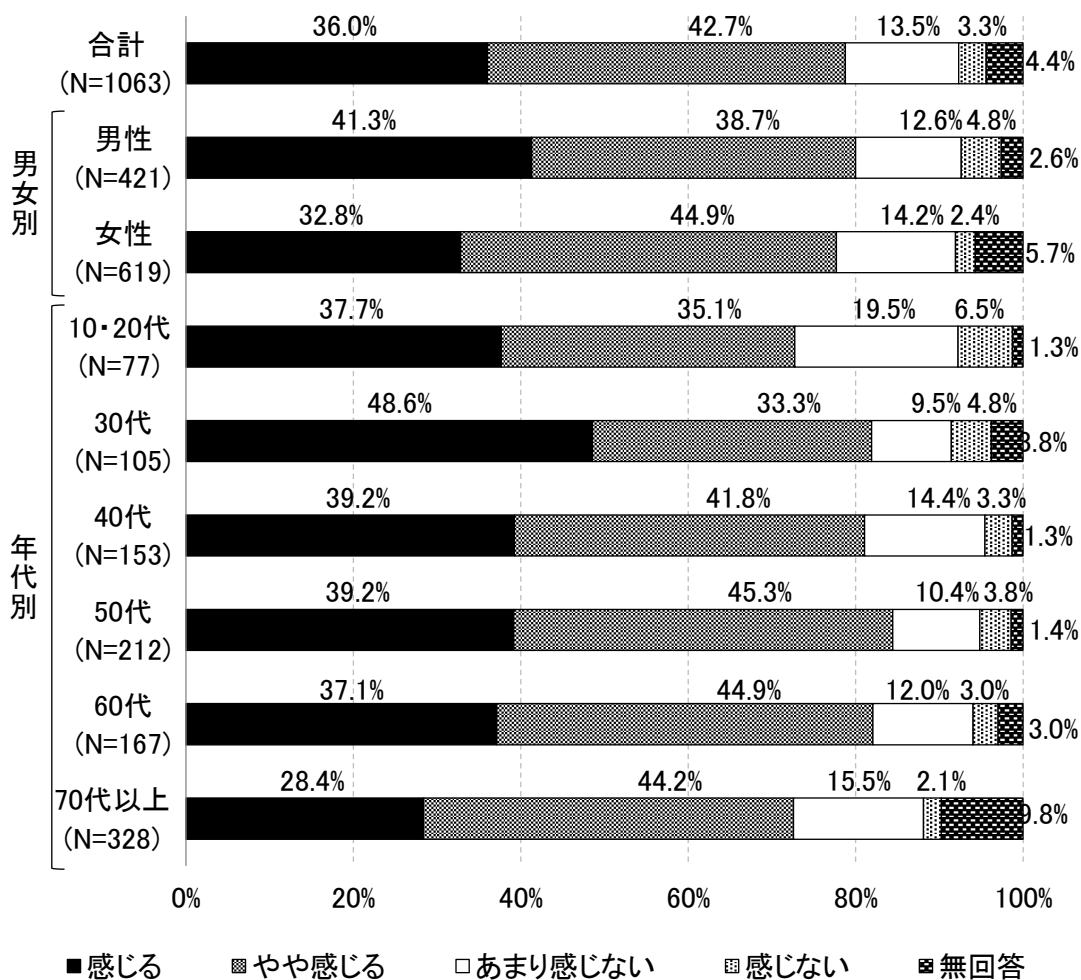


図 106 Q46 高槻市の 20 年後、30 年後を見据えて行財政改革に取り組むべきか

最後に、質問項目ごとの設問提案者と例年の質問項目との対応関係の一覧を以下に示す。

No.	質問項目	高橋市	関西大学	R06	R05	R04	R03	R02	R01	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	備考	
Q1	生活満足度			Q1	Q1	Q1	Q1	Q1	Q1										
Q2	幸福度			Q2	Q2	Q2	Q2	Q2											
Q3	高橋市に愛着を感じるか			Q15	Q3	Q3	Q3	Q3	Q3	Q3	Q3	Q3	Q6	Q8	*Q19			JGSS2002 留置票 Q41	
Q4	居住地域は暮らしやすいか			Q3	Q3	Q3	Q3	Q3	Q4	Q2	Q2	*Q2	*Q2	*Q3	*Q2	*Q2			
Q5	地域に住み続けたいか			Q4	Q4	Q4	Q4	Q4	Q5			*Q3	*Q3	*Q4	*Q3	*Q3			
Q6	地域活動に参加しているか			Q47								*Q3	*Q21	Q13	**Q21				
Q7	近所での世間話の頻度											Q4	Q6	Q9	Q5	Q1		JGSS2012 留置票B票 Q59	
Q8	近い近所付き合いの頻度								Q20										
Q9	近所の人は手助けしてくれるか																		
Q10	近所の人は強いきき手まで話しているか																		
Q11	農畜りの商店街での買い物の頻度																		
Q12	公園に行く頻度												**Q13	**Q30	Q15			SSP2015問7a	
Q13	一日の平均歩数					Q11			Q25										SSP2015問7b
Q14A	音楽を聴く時間(自宅内)																		
Q14B	音楽を聴く時間(自宅外)																		
Q15	JR高槻駅の利用			Q10	Q10														
Q16	JR高槻駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力がある都市空間と感じるか			Q11	Q11														
Q17	阪急高槻市駅の利用			Q12	Q12														
Q18	阪急高槻市駅周辺が高槻の玄関口にふさわしい風格と魅力がある都市空間と感じるか			Q13	Q13														
Q19A	交通手段満足度 徒歩					Q10A			Q8A										
Q19B	交通手段満足度 徒歩					Q10B			Q8B										
Q19C	交通手段満足度 バイク					Q10C			Q8C										
Q19D	交通手段満足度 自転車					Q10D			Q8D										
Q19E	交通手段満足度 自転車					Q10E			Q8E										
Q19F	交通手段満足度 バイク					Q10F			Q8F										
Q19G	交通手段満足度 バイク					Q10G			Q8G										
Q19H	交通手段満足度 バイク					Q10H			Q8H										
Q19I	交通手段満足度 バス					Q10I			Q8I										
Q19J	交通手段満足度 バス					Q10J			Q8J										
Q19K	交通手段満足度 バス					Q10K			Q8K										
Q19L	交通手段満足度 バス					Q10L			Q8L										
Q19M	交通手段満足度 電車					Q10M			Q8M										
Q19N	交通手段満足度 電車					Q10N			Q8N										
Q19O	交通手段満足度 自動車					Q10O			Q8O										
Q19P	交通手段満足度 自動車					Q10P			Q8P										
Q19Q	交通手段満足度 タクシー					Q10Q			Q8Q										
Q19R	交通手段満足度 その他								Q8R										

注) *印は、質問文の表現・形式が異なるため、比較する際に注意が必要である。変更の程度は、*の数に応じて、下記の通りである。

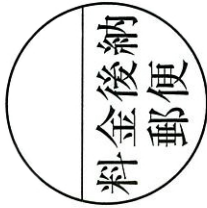
* : 分析にそのまま使用できる（「てにをは」、濁点の位置、末尾などの変更）

** : 分析には注意が必要である（選択肢の数が異なるなどの変更）

*** : 同一の変数として分析に使用するの難しい（概念範囲が異なる）

資料：
予告はがき・調査票

郵便はがき



□	□	□	□	□	□	□	□
---	---	---	---	---	---	---	---

「高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査」 ご協力をお願い

高槻市と関西大学は、高槻市民の生活ともの見方についての調査を共同で実施することになりました。調査の対象は、無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。

近日中に調査票の入った大きな茶封筒（ボールペン入り）が届きます。ご多忙中、誠に恐縮ですが、届き次第、調査票に回答をご記入の上、ご返送頂きますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年8月



市民生活環境部 市民生活相談課
〒569-0067 高槻市桃園町2-1
TEL 072-674-7130

関西大学 総合情報学部
〒569-1095 高槻市霊仙寺町2-1-1
TEL 072-690-2151

※あて所に尋ねあたらぬ場合は、高槻市へ返戻して下さい。

予告はがき

高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査

(調査実施) 高槻市・関西大学総合情報学部

高槻市と関西大学は共同で、市政と市民生活に関する調査を行っています。市は、今後の施策を検討するうえでの基礎資料とすることを目的に、大学は、高槻市民の生活ともの見方に関する研究と教育を行うことを目的に実施するもので、調査の対象は、住民基本台帳から無作為に選ばれた18歳以上の市民の方です。**封筒宛名のご本人様ご自身の回答を**、この調査票にご記入いただきますようお願いいたします。調査の回答は、調査の目的以外には、一切利用いたしませんので安心してお答えください。

調査結果につきましては、本年12月頃に速報版を、翌年3月中に最終報告書を発行し、高槻市と関西大学で閲覧できるようにいたします。できるだけ多くの方のご意見を反映した調査を目指しておりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

*ボールペンを同封しております。回答の際にご利用ください(返却の必要はありません)。

*ご回答は、とくに断りがなければ、選択肢番号を1つだけ選んでマルをつけてください。いくつでもマルをつけられたり、マルをつける個数が決められていたりするものは、指示に従ってお答えください。

*お忙しいところ誠に恐縮ですが、**9月12日(金)**までに、同封の封筒(切手貼付済み)でご返送いただきますようお願いいたします。

*この調査票と封筒には、ご住所やお名前を記入されないようお願いいたします。

(どなたがどのような回答をされたかわからないようにするためです。)

<調査に関するお問い合わせ> 高槻市 市民生活環境部 市民生活相談課 tel : 072-674-7130
関西大学 総合情報学部 tel : 072-690-2151

Q1. あなたは、現在の生活全体にどのくらい満足していますか。

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

Q2. あなたは、現在どのくらい幸せですか。

1	2	3	4	5
幸せ	やや幸せ	どちらともいえない	やや不幸せ	不幸せ

Q3. あなたは、高槻市に愛着を感じますか。それとも感じませんか。

1	2	3	4	5
感じる	やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない	感じない

Q4. あなたのお住まいの地域は、全体的に暮らしやすいと思いますか。

1	2	3	4	5
そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない

Q5. あなたは、現在お住まいの地域にどのくらい「住み続けたい」と思いますか。

1	2	3	4	5
ずっと住み続けたい	住み続けたい	まあ住み続けたい	どちらともいえない	機会があれば引っ越したい

Q6. あなたは、現在お住まいの地域で、地域活動に参加していますか。

1	2	3	4
よく参加している	ときどき参加している	ほとんど参加していない	まったく参加していない

Q 7. あなたは、近所の人とどの程度世間話をしますか。

- | | | | | |
|----------|------------|------------|------------|--------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ほぼ
毎日 | 週に
3~4回 | 週に
1~2回 | 月に
1~2回 | まったく
話さない |

Q 8. あなたは、親しい付き合いをしているご近所の方が
多いですか。少ないですか。

- | | | | |
|----|----------|-----------|-----|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 多い | やや
多い | やや
少ない | 少ない |

Q 9. あなたは、困っているとき、近所の人たちは手助け
してくれると思いますか。

- | | | | | |
|----------|------------|---------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| そう
思う | ややそう
思う | どちらとも
いえない | あまりそう
思わない | そう
思わない |

Q 10. あなたの近所の人たちは、強いきずなで結ばれて
いると思いますか。

- | | | | | |
|----------|------------|---------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| そう
思う | ややそう
思う | どちらとも
いえない | あまりそう
思わない | そう
思わない |

Q 11. あなたは、最寄りの商店街へはどの程度買い物に
行きますか。

- | | | | | |
|----------|------------------|------------------|------------------|--------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ほぼ
毎日 | 週に
2~3日
程度 | 月に
2~3日
程度 | 年に
2~3日
程度 | まったく
行かない |

Q 12. あなたは、どのくらいの頻度で、市内の公園にで
かけますか。

- | | | | | |
|----------|------------------|------------------|------------|--------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ほぼ
毎日 | 週に
3~4回
程度 | 週に
1~2日
程度 | 月に
1~2日 | 公園には
行かない |

Q 13. あなたは、1日に平均して何分くらい歩いていま
すか。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 10分未満 | 6. 50分以上60分未満 |
| 2. 10分以上20分未満 | 7. 60分以上70分未満 |
| 3. 20分以上30分未満 | 8. 70分以上100分未満 |
| 4. 30分以上40分未満 | 9. 100分以上 |
| 5. 40分以上50分未満 | |

Q 14. あなたは、普段、1日にどのくらい音楽を聴いて
いますか。自宅内で聴いている時間と、自宅外で聴いてい
る時間、それぞれについてお答えください。

A. 自宅内で音楽を聴く時間

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. まったく聴かない | 4. 30分以上1時間未満 |
| 2. 10分未満 | 5. 1時間以上2時間未満 |
| 3. 10分以上30分未満 | 6. 2時間以上 |

B. 自宅外で音楽を聴く時間

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. まったく聴かない | 4. 30分以上1時間未満 |
| 2. 10分未満 | 5. 1時間以上2時間未満 |
| 3. 10分以上30分未満 | 6. 2時間以上 |

Q 15. あなたは、普段、JR高槻駅を利用しますか。

- | | |
|---------|----------|
| 1. 利用する | 2. 利用しない |
|---------|----------|

Q 16. JR高槻駅周辺について、高槻の玄関口にふさわ
しい風格と魅力ある都市空間であると感じますか。

- | | | | |
|-----|-----------|-------------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 感じる | やや
感じる | あまり
感じない | 感じない |

Q 17. あなたは、普段、阪急高槻市駅を利用しますか。

- | | |
|---------|----------|
| 1. 利用する | 2. 利用しない |
|---------|----------|

Q 18. 阪急高槻市駅周辺について、高槻の玄関口にふさ
わしい風格と魅力ある都市空間であると感じますか。

- | | | | |
|-----|-----------|-------------|------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 感じる | やや
感じる | あまり
感じない | 感じない |

Q19. 高槻市の交通手段におけるそれぞれの現状について、あなたはどのくらい満足していますか。

A. 【徒歩】：歩道の整備の状況

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

B. 【徒歩】：バリアフリー化

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

C. 【自転車】：通行するために必要なスペース

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

D. 【自転車】：駐輪場

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

E. 【自転車】：乗っている人々のマナー

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

F. 【バイク】：通行するために必要なスペース

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

G. 【バイク】：駐車場

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

H. 【バイク】：乗っている人々のマナー

1	2	3	4	5
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満

I. 【バス】：路線・系統

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

J. 【バス】：ダイヤ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

K. 【バス】：バス停

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

L. 【バス】：乗り方の分かりやすさ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

M. 【鉄道】：駅の使いやすさ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

N. 【鉄道】：列車ダイヤ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

O. 【自動車】：道路の整備の状況

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

P. 【自動車】：駐車場

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

Q. 【タクシー】：利用しやすさ

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

R. 【その他】：駅前広場

1	2	3	4	5	6
満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	利用しない

Q20. あなたは、直前(Q19. R)の質問で「駅前広場」の満足度を回答した際、どこの「駅前」をイメージしましたか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

1. JR高槻駅
2. 阪急高槻市駅
3. JR摂津富田駅
4. 阪急富田駅
5. 阪急上牧駅
6. その他 ()
7. どの駅もイメージしていない

Q21. あなたは、高槻市の歴史遺産や施設についてご存知ですか。知っているものにマルをつけてください。

(マルはいくつでも)

- | | | |
|------------------|------------------------|-----------------|
| 1. 芥川城跡 | 12. 西国街道と芥川一里塚 | 23. 本山寺 |
| 2. 阿武山古墳 | 13. 嶋上郡衙跡附寺跡 | 24. 本照寺 |
| 3. 安満遺跡 (安満遺跡公園) | 14. 上宮天満宮 | 25. 三輪神社 |
| 4. 安満宮山古墳 | 15. 新池埴輪製作遺跡 (ハニワ工場公園) | 26. 八阪神社 |
| 5. 安岡寺 | 16. 高槻城跡 (高槻城公園) | |
| 6. 伊勢寺 | 17. 高山右近高槻天主教会堂跡 | 27. 今城塚古代歴史館 |
| 7. 今城塚古墳 | 18. 鬮鷄山古墳 | 28. しろあと歴史館 |
| 8. 磐手杜神社 | 19. 能因塚・不老水・花の井 | 29. 埋蔵文化財調査センター |
| 9. 神峯山寺 | 20. 野見神社・永井神社 | 30. 歴史民俗資料館 |
| 10. 慶瑞寺 | 21. 昼神車塚古墳 | |
| 11. 古曾部窯跡 | 22. 普門寺 | 31. どれも知らない |

↓
Q22へ

Q22. Q21でお答えになった1~26の中で、最も身近な歴史遺産には、どのくらい訪れていますか。

- | | | | | | |
|------|------|------|------|---------|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ほぼ毎日 | 週に数回 | 月に数回 | 年に数回 | 過去に1回だけ | ない |

Q23. あなたは、高槻市にある歴史館や歴史資料館に、どのくらい訪れていますか。

- | | | | | | |
|------|------|------|------|---------|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ほぼ毎日 | 週に数回 | 月に数回 | 年に数回 | 過去に1回だけ | ない |

Q24. あなたは、高槻市の歴史講座や市内の文化財の現地説明会・体験学習会などに、どのくらい参加したことがありますか。

- | | | | |
|----------|---------|-----------|-----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| よく参加している | たまに参加する | 参加したことがある | 参加したことがない |

Q25. あなたは、高槻市の文化財や歴史遺産についての情報を何から得ていますか。主なもの1つにマルをつけてください。

1. 市の広報誌
2. 市のホームページ
3. チラシ・ポスター
4. 家族や知人
5. SNS
6. 情報誌
7. その他 ()
8. とくに情報を得ていない

Q26. あなたは、この1年以内に、摂津峡・三好山周辺を訪れましたか。訪れた場合、その目的は何でしたか。該当するものをいくつでもお選びください。

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1. 花見 (桜など) | 8. 公園利用 |
| 2. 紅葉見物 | 9. キャンプ |
| 3. ハイキング | 10. 宿泊・温泉 |
| 4. 川遊び | 11. カフェ・レストラン |
| 5. 歴史散策 (芥川城跡など) | 12. その他 () |
| 6. 自然観察 (ホタルなど) | 13. 特に目的はない |
| 7. 環境活動 (ボランティアなど) | 14. 訪れていない |

Q27. あなたは、高槻市内で行われている次のようなイベントにどのくらい参加したことがありますか。

A. 高槻まつり

- | | | | |
|----------|---------|-----------|-----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| よく参加している | たまに参加する | 参加したことがある | 参加したことがない |

B. 高槻ジャズストリート

- | | | | |
|----------|---------|-----------|-----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| よく参加している | たまに参加する | 参加したことがある | 参加したことがない |

Q28. あなたの関心が高い、環境問題に関する話題は何ですか。3つ以内でマルをつけてください。

- | | | |
|---------------|----------------|-----------------|
| 1. 地球温暖化 | 8. 悪臭 | 15. 食の安全性 |
| 2. ヒートアイランド現象 | 9. 水質汚濁 | 16. 食品ロス |
| 3. 異常気象 | 10. 土壌汚染 | 17. ごみの減量、リサイクル |
| 4. 省エネルギー（節電） | 11. 生物多様性、外来生物 | 18. 不法投棄 |
| 5. 再生可能エネルギー | 12. 森林荒廃 | 19. その他() |
| 6. 大気汚染、PM2.5 | 13. 景観保全 | |
| 7. 騒音、振動 | 14. 都市緑化 | 20. いずれにも関心がない |

↓
Q29へ

Q29. 次に、現在の高槻市の環境に関するA～Dの項目について、あなたのお考えをおうかがいします。

A. 高槻市には、身近な自然環境とのふれあいがあると思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

B. 高槻市は、不法投棄やポイ捨ての少ない美しいまちだと思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

C. 高槻市には、良好な環境づくりを目指した活動が豊富にあると思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

D. 高槻市には、環境活動に関する情報や呼びかけが十分にあると思いますか。

- | | | | |
|----------|------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| そう
思う | ややそう
思う | あまりそう
思わない | そう
思わない |

Q30. 自宅周辺（徒歩圏内）でみどりを感じる場所はどこですか。3つ以内でマルをつけてください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 公園・緑地 | 9. 公園花壇 |
| 2. 河川など水辺 | 10. 学校 |
| 3. 田畑 | 11. 公民館などの公共施設 |
| 4. 神社や寺 | 12. 自宅 |
| 5. 山林 | 13. 商業施設など |
| 6. 街路樹 | 14. 駅周辺 |
| 7. 庭や生け垣など住宅地 | 15. その他() |
| 8. 集合住宅の植栽など | 16. 特にない |

Q31. あなたは、高槻市は子育て環境が整っているまちだと思いますか。

- | | | | | |
|----------|------------|---------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| そう
思う | ややそう
思う | どちらとも
いけない | あまりそう
思わない | そう
思わない |

Q32. あなたは、高槻市は教育環境が整っているまちだと思いますか。

- | | | | | |
|----------|------------|---------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| そう
思う | ややそう
思う | どちらとも
いけない | あまりそう
思わない | そう
思わない |

Q33. あなたは、高槻市には地域ブランドと呼べるような特産品や観光地があると思いますか。

- | | | | | |
|----------|------------|---------------|---------------|------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| そう
思う | ややそう
思う | どちらとも
いけない | あまりそう
思わない | そう
思わない |

Q34. あなたは、「食品ロス」が社会的に問題となっていることを知っていますか。

- | | | | |
|-------------|---------------|-------------|--------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| よく
知っている | ある程度
知っている | あまり
知らない | まったく
知らない |

Q35. 「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。 いくつでもお選びください。

1. 残さずに食べる
2. 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する
3. 冷凍保存を活用する
4. 料理を作り過ぎない
5. 日頃から冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する
6. 飲食店等で注文しすぎない
7. 期限間近による値引き商品・ポイント還元の商品を率先して選ぶ
8. 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等 食べきれぬ量を購入する
9. 残った料理を別の料理に作り替えるなど、工夫して食べる
10. 商品棚の手前に並ぶ期限の近い商品を購入する (いわゆる「てまえどり」)
11. 外食時には、小盛りメニュー等希望に沿った量で料理を提供する店舗を選ぶ
12. その他 ()
13. 取り組んでいることはない

Q36. あなたは、「生物多様性」という言葉とその意味を知っていますか。

- | | | |
|-----------------|----------------------|------|
| 1 | 2 | 3 |
| 言葉も意味も
知っている | 言葉は知っている
が意味は知らない | 知らない |

Q37. あなたは、この1年以内に「生物多様性」の保全に向けた取り組み※をしましたか。該当するものをいくつでもお選びください。

※「生物多様性」の保全に向けた取り組みとは、地球上の生物の多様さとその生育環境の多様さを維持するための活動のことです。

1. 日常生活で取り組んだ
2. 仕事を通じて取り組んだ
3. 市民活動に参加した
4. 講座やイベントに参加した
5. その他 ()
6. 取り組んだことはない

Q38. 自殺で亡くなる人の数は全国で年間約2万人となっています。あなたは毎年、このように多くの方が自殺で亡くなっていることをご存知ですか。

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

Q39. あなたは、自殺について相談できる機関があるのをご存知ですか。(例えば、保健所 ところの健康相談など)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

Q40. あなたは、これまでの人生の中で本気で自殺したいと考えたことがありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 2. ない |
|-------|-------|

Q41. あなたは、もし身近な人から「死にたい」と打ち明けられたとき、どう対応するのが良いと思いますか。適切と思われるものをいくつでもお選びください。

1. 相談に乗らない、もしくは話題を変える
2. 「死んではいけない」と説得する
3. 「つまらないことを考えるな」と叱る
4. 「がんばって生きよう」と励ます
5. 「死にたいぐらい辛いんだね」と共感を示す
6. 「医師など専門家に相談した方が良い」と提案する
7. ひたすら耳を傾けて聞く
8. その他 ()
9. 適切と思われる対応はない

Q42. 今後の自殺対策について、おうかがいします。今後、どのような自殺対策が求められるとあなたは思いますか。いくつでもお選びください。

1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析
2. 危険な場所、薬品等の規制
3. インターネットにおける自殺関連情報の対策
4. 自殺対策に関する広報・啓発
5. 適切な精神科医療体制の整備
6. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
7. 自殺対策に関わる民間団体の支援
8. 様々な分野におけるゲートキーパー※の養成
9. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置
10. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い
 11. 子どもの自殺予防
 12. 自殺未遂者の支援
 13. 自死遺族等の支援
 14. その他 ()
 15. 特になし

※「ゲートキーパー」とは、悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聴いて、必要な支援につなげ、見守る人のことです。

Q43. 自殺したいという気持ち乗り越えるには、どのような方法が適切と思われますか。適切と思われるものをいくつでもお選びください。

1. 家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらう
2. 医師やカウンセラーなど心の健康に関する専門家に相談する
3. 弁護士や司法書士、公的機関の相談員など、悩みの元となる分野の専門家に相談する
4. できるだけ休養を取るようになる
5. 趣味や仕事など他のことで気を紛らわすよう努める
6. 特に何もしない
7. その他 ()
8. 適切と思われる方法はない

Q44. 次のa～sは、市の仕事のうち、生活に関係の深いものをあげています。

以下から、①あなたが、最近良くなってきたと思うもの(マルはいくつでも)、また、②あなたが、今後力を入れてほしいもの(マルは3つまで)をそれぞれ選んでください。

② 力を入れてほしいもの (3つまで)		
① 良くなってきたもの (いくつでも)	↓	
a. 学校教育の充実、青少年の健全育成	1	1
b. 図書館、博物館などの文化施設の整備	2	2
c. スポーツ・レクリエーション施設の整備や健康づくり	3	3
d. 高齢者や障がい者等への福祉対策	4	4
e. 医療施設や救急医療体制の整備	5	5
f. 空気の汚れ、騒音などへの対策	6	6
g. 公園の整備や自然・緑の保全	7	7
h. 街並み・景観の整備	8	8
i. 駅前の整備、駐車・駐輪対策	9	9
j. ごみの収集・処理・再資源化(リサイクル)	10	10
k. 下水道の整備	11	11
l. 水の安定供給、上水道整備	12	12
m. バス・鉄道などの公共交通機関の整備	13	13
n. 身のまわりの生活道路の整備	14	14
o. 交通安全・災害防止対策	15	15
p. 公営住宅の建設や住宅融資制度	16	16
q. 市の広報・窓口相談、情報公開の充実	17	17
r. 災害対策・防犯対策	18	18
s. 子育て支援	19	19
t. 特になし	20	20

Q45. あなたは、「高槻市みらいのための改革方針」をご存知ですか。

1	2	3
名前も内容も知っている	名前だけ知っている	知らない

Q46. あなたは、高槻市が20年後、30年後を見据えて行財政改革に取り組む必要性を感じますか。

1	2	3	4
感じる	やや感じる	あまり感じる	感じない

執筆者紹介

阪口 祐介 (さかぐち ゆうすけ) 編集・はじめに・第 1 章 (関西大学総合情報学部教授)
松本 渉 (まつもと わたる) 編集・第 1 章 (関西大学総合情報学部教授)
雷 新雨 (らい しんう) 第 2 章 (関西大学ティーチング・アシスタント)

高槻市と関西大学による市民意識調査報告書

—令和 7 年度—

編集 関西大学総合情報学部、発行 高槻市・関西大学総合情報学部、発行年月 令和 8 年 3 月

※ 関連する資料として、同時期に発行された『2025 年度社会調査実習報告書—高槻市と関西大学による高槻市民郵送調査—』(関西大学総合情報学部[編集], 関西大学総合情報学部[発行]) があります。総合情報学部学生による詳細な分析も掲載されています。